垂水市埋蔵文化財発掘調査報告書(7)

農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業（中俣地区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

迫田遺跡・森田遺跡

（是井遺跡・徳村遺跡・前田遺跡）

垂水市立図書館
11043257

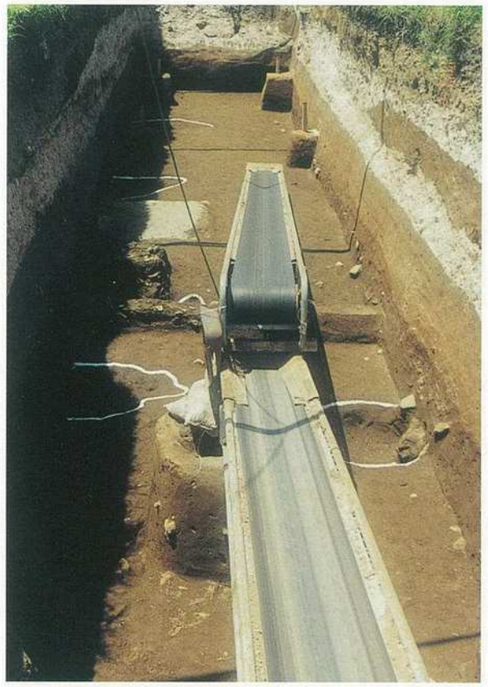
2004年3月
鹿児島県垂水市教育委員会

迫田遺跡遠景

森田遺跡遠景

土層堆積状況（６区西側壁面）

４・５区土器集中部を柱状に検出



遺構検出状況

土器集中部（４・５区）

遺物出土状況（遺物98）

鉄剣出土状況

森田遺跡近景

土層堆積状況（Ａ－６区，東側壁面）

集石（Ａ－１・２区）

土器集中部（Ｂ－８区）

Ｂ－５～７区遺物出土状況

遺物出土状況（Ｂ－９区）

作業風景

序　文

大隅半島の北西部に位置する垂水市は，眼前に鹿児島湾の美しい海岸線を望み，背後には手つかずの自然が残る高隈の山々が連なっています。このように美しい自然に育まれた本市においては，昔から多くの人々が生活を営み，文化を育んでおり，多くの有形・無形の文化財が残されています。

本報告書は，是井遺跡・迫田遺跡・徳村遺跡・前田遺跡・森田遺跡の５遺跡において，国・県の補助事業として実施された農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業中俣地区に伴う埋蔵文化財の調査を，記録としてまとめたものです。(これら５つの遺跡では，平成10年度に確認調査が実施され，平成11年度と平成14年度には全面発掘調査が実施されました。)これら５つの遺跡のうち，迫田遺跡と森田遺跡からは古墳時代の様々な遺構や遺物が発見されました。この２つの遺跡からは，大量かつ多種多様な古墳時代の土器が発見されていますが，これらは南九州の古墳時代の研究において非常に重要な資料と成り得るものです。このように重要な資料である本報告書が，市民をはじめ広く活用され，埋蔵文化財に対する関心とご理解を深めていただく一助となれば幸いです。

最後になりましたが，本書の刊行にあたり，多大なご指導・ご協力をいただきました鹿児島県教育庁文化財課，鹿児島県立埋蔵文化財センター，各研究機関，発掘調査及び整理作業協力者をはじめとする各関係各位に心から敬意を表します。

平成16年３月

垂水市教育委員会
教育長　川井田　　稔

報告書抄録

ふりがな	さこだいせき・もりたいせき（ぜいいせき・とくむらいせき・まえだいせき）
書名	迫田遺跡・森田遺跡（是井遺跡・徳村遺跡・前田遺跡）
副書名	農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業中俣地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	垂水市埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	7
編集者名	羽生文彦，宮迫佑治
編集機関	垂水市教育委員会
所在地	〒891-2125　鹿児島県垂水市旭町61-2　TEL 0994-32-0224
発行年月日	2004年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
迫田遺跡（さこだいせき）	鹿児島県（かごしまけん） 垂水市（たるみずし） 中俣（なかまた）	462144	11-112	31° 30′ 40″	130° 42′ 0″	11990517～ 19990723	350	農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業中俣地区
森田遺跡（もりたいせき）	鹿児島県（かごしまけん） 垂水市（たるみずし） 中俣（なかまた）	462144	11-109	31° 31′ 50″	130° 42′ 15″	20020917～ 20021107	780	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
迫田遺跡	包含地	古墳時代	土器溜り，土坑	成川式土器，鉄剣	
森田遺跡	包含地	古墳時代	土器溜り	成川式土器	

例言

1　本報告書は，垂水市教育委員会が平成10年度に実施した農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業（中俣地区）に伴う埋蔵文化財（是井遺跡・迫田遺跡・徳村遺跡・前田遺跡・森田遺跡）確認調査と，平成11年度及び平成14年度に実施された同遺跡の埋蔵文化財発掘調査についての調査報告書である。

2　平成10年度に実施した確認調査では，鹿児島県教育庁文化課，鹿児島県立埋蔵文化財センターの指導・助言を頂いた。平成11年度の発掘調査では，鹿児島県教育庁文化財課埋蔵文化財係主任文化財主事兼係長戸崎勝洋氏に発掘調査についての指導・助言を頂いた。また，発掘調査にあたり，鹿児島県教育庁文化課，鹿児島県立埋蔵文化財センターの指導・助言を頂いた（役職名等は全て平成11年度当時のものである）。平成14年度の全面発掘調査では，鹿児島県教育庁文化課，鹿児島県立埋蔵文化財センターの指導・助言を頂いた。平成15年度に実施された報告書作成事業では，鹿児島大学法文学部助教授本田道輝氏，同大学法文学部助手中村直子氏に出土遺物に関する指導・助言を頂いた。また，鹿児島県教育庁文化課，鹿児島県立埋蔵文化財センターの指導・助言を頂いた。（役職名等は全て平成15年度当時のものである）。

3　本書に用いたレベル数は絶対海抜高度である。

4　本書の遺物番号は通し番号を用い，図版中の番号も一致する。

5　発掘調査ならびに整理作業における出土遺構・遺物の測量・実測・製図・写真撮影等は羽生・宮迫・鵜飼・大迫・梶原が行った。

6　本書の執筆担当は以下のとおりである。

第Ⅰ章，第Ⅱ章

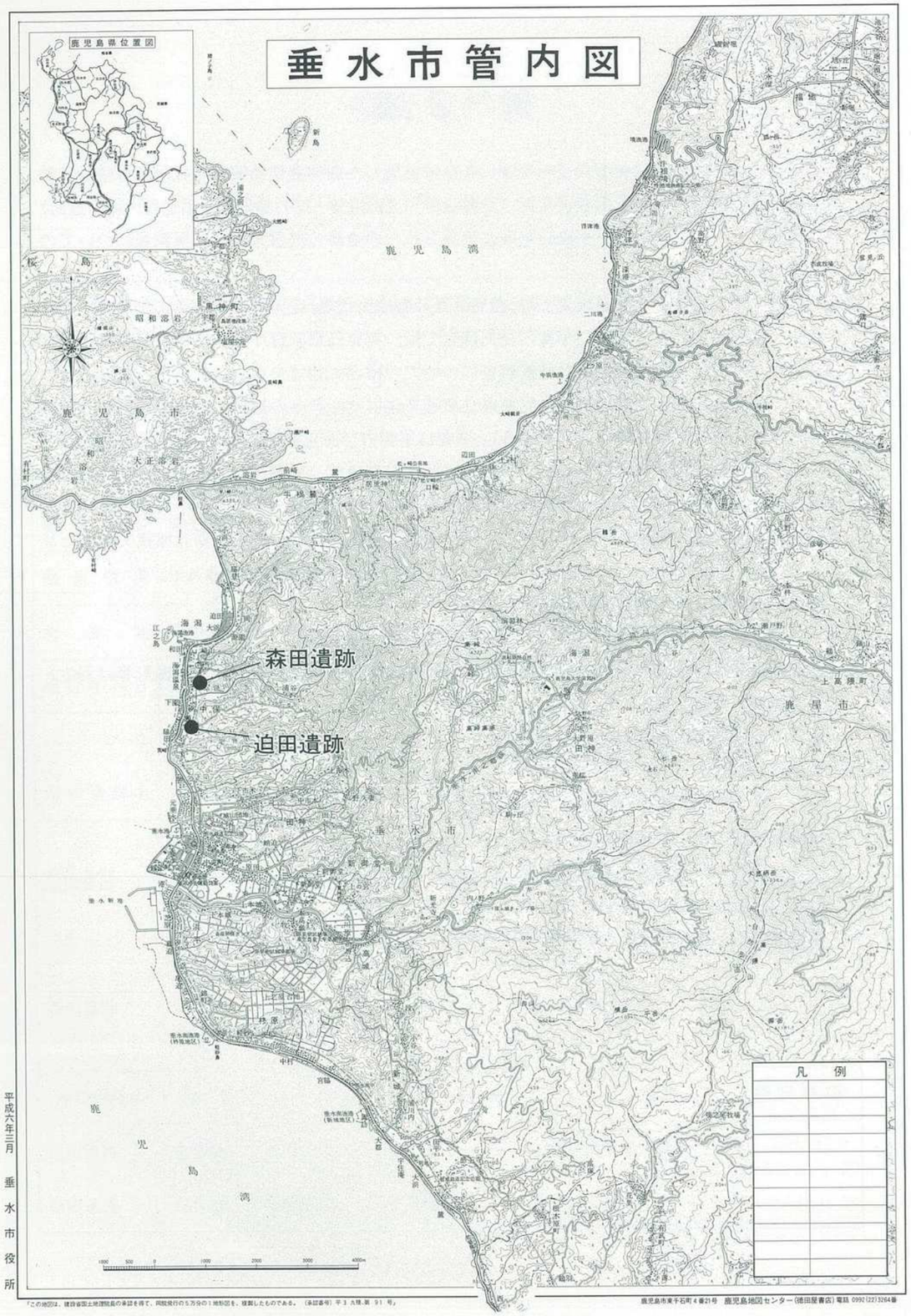
垂水市教育委員会主事補　宮迫佑治

第Ⅲ章，第Ⅳ章，第Ⅴ章，第Ⅵ章

垂水市教育委員会文化財主事　羽生文彦

7　本書の編集は羽生・宮迫が行った。

8　本遺跡の出土遺物は垂水市教育委員会が保管・展示するものである。



付図　迫田遺跡，森田遺跡の位置

本文目次

序　文
例　言
目　次
第Ⅰ章　調査の経緯 …… 1
　第1節　調査に至るまでの経緯 …… 1
　第2節　調査の組織 …… 2
　第3節　調査の経過 …… 3
第Ⅱ章　遺跡の位置と環境 …… 6
　第1節　地形概説 …… 6
　第2節　地質概説 …… 6
　第3節　歴史概説及び周辺の遺跡 …… 6
第Ⅲ章　確認調査 …… 10
　第1節　確認調査の概要 …… 10
　第2節　是井遺跡の確認調査 …… 10
　第3節　迫田遺跡の確認調査 …… 10
　第4節　徳村遺跡の確認調査 …… 10
　第5節　前田遺跡の確認調査 …… 11
　第6節　森田遺跡の確認調査 …… 11
　第7節　確認調査のまとめ …… 17
第Ⅳ章　迫田遺跡の発掘調査 …… 18
　第1節　発掘調査の概要 …… 18
　第2節　層序 …… 18
　第3節　迫田遺跡の遺構 …… 21
　第4節　包含層出土遺物 …… 23
第Ⅴ章　森田遺跡の発掘調査 …… 75
　第1節　調査の概要 …… 75
　第2節　層序 …… 75
　第3節　森田遺跡の遺構 …… 79
　第4節　包含層出土遺物 …… 80
第Ⅵ章　まとめ …… 110
　第1節　迫田遺跡 …… 110
　第2節　森田遺跡 …… 113
あとがき

挿図目次

付　図　迫田遺跡，森田遺跡の位置
第１図　垂水の地質概略 …… 7
第２図　周辺の遺跡 …… 8
第３図　分布調査で確認された遺跡 …… 12
第４図　確認調査トレンチ配置図 …… 13
第５図　確認調査各トレンチ土層堆積状況 …… 14
第６図　確認調査出土遺物実測図 …… 16
第７図　迫田遺跡グリッド設定図 …… 19
第８図　迫田遺跡土層堆積状況 …… 20
第９図　迫田遺跡Ｖ層上面の地形及び遺構配置図 …… 21
第10図　迫田遺跡検出土坑 …… 22
第11図　遺物98出土状況 …… 23
第12図　迫田遺跡遺物出土状況（平面図） …… 25
第13図　迫田遺跡包含層出土遺物実測図１（甕大類） …… 27
第14図　迫田遺跡包含層出土遺物実測図２（甕口Ａ１類） …… 27
第15図　迫田遺跡包含層出土遺物実測図３（甕口Ａ１類～甕口Ａ３類） …… 29
第16図　迫田遺跡包含層出土遺物実測図４（甕口Ａ４類～甕口Ａ６類） …… 30
第17図　迫田遺跡包含層出土遺物実測図５（甕口Ａ６類～甕口Ａ７類） …… 31
第18図　迫田遺跡包含層出土遺物実測図６（甕口Ａ７類） …… 32
第19図　迫田遺跡包含層出土遺物実測図７（甕口Ａ７類） …… 33
第20図　迫田遺跡包含層出土遺物実測図８（甕口Ａ７類） …… 34
第21図　迫田遺跡包含層出土遺物実測図９（甕口Ａ７類） …… 35
第22図　迫田遺跡包含層出土遺物実測図10（甕口Ａ７類～甕口Ａ９類） …… 36
第23図　迫田遺跡包含層出土遺物実測図11（甕口Ａ９類） …… 37
第24図　迫田遺跡包含層出土遺物実測図12（甕口Ｂ１類～甕口Ｂ３類） …… 38
第25図　迫田遺跡包含層出土遺物実測図13（甕口Ｂ３類～甕口Ｃ１類） …… 40
第26図　迫田遺跡包含層出土遺物実測図14（甕口Ｃ２類～甕胴Ａ３類） …… 41
第27図　迫田遺跡包含層出土遺物実測図15（甕胴Ｂ類～甕胴Ｃ３類） …… 43
第28図　迫田遺跡包含層出土遺物実測図16（甕胴Ｄ類～甕底Ｂ類） …… 44
第29図　迫田遺跡包含層出土遺物実測図17（甕底Ｂ類～甕底Ｃ類） …… 45
第30図　迫田遺跡包含層出土遺物実測図18（壺大類） …… 46
第31図　迫田遺跡包含層出土遺物実測図19（壺１ａ類） …… 48
第32図　迫田遺跡包含層出土遺物実測図20（壺１ａ類・壺１ｂ類） …… 49
第33図　迫田遺跡包含層出土遺物実測図21（壺２類～壺５類） …… 51
第34図　迫田遺跡包含層出土遺物実測図22（壺６類～壺８類） …… 52
第35図　迫田遺跡包含層出土遺物実測図23（壺８類～壺９ｂ類） …… 54
第36図　迫田遺跡包含層出土遺物実測図24（壺９ｃ類～壺10類） …… 55
第37図　迫田遺跡包含層出土遺物実測図25（壺10類～壺12類） …… 57
第38図　迫田遺跡包含層出土遺物実測図26（壺12類～壺13類） …… 58
第39図　迫田遺跡包含層出土遺物実測図27（高杯１類） …… 60
第40図　迫田遺跡包含層出土遺物実測図28（高杯１類～高杯２類） …… 61
第41図　迫田遺跡包含層出土遺物実測図29（高杯２類～高杯５類） …… 62
第42図　迫田遺跡包含層出土遺物実測図30（高杯６類～高杯11類） …… 64
第43図　迫田遺跡包含層出土遺物実測図31（鉢１類～鉢４ａ類） …… 66
第44図　迫田遺跡包含層出土遺物実測図32（鉢４ｂ類～鉄器） …… 68
第45図　森田遺跡グリッド設定図 …… 76
第46図　森田遺跡東側壁面土層堆積状況 …… 77
第47図　森田遺跡西側壁面土層堆積状況 …… 78
第48図　森田遺跡Ｖ層上面の地形及び遺構配置図 …… 79
第49図　Ａ－１・２区検出集石 …… 79
第50図　森田遺跡遺物出土状況（平面図） …… 81
第51図　森田遺跡包含層出土遺物実測図１（甕１類～甕４ｃ類） …… 83
第52図　森田遺跡包含層出土遺物実測図２（甕口Ａ類～甕口Ｂ３類） …… 85
第53図　森田遺跡包含層出土遺物実測図３（甕口Ｃａ１類～甕口Ｃｂ１類） …… 87
第54図　森田遺跡包含層出土遺物実測図４（甕口Ｄ１ａ類～甕口Ｄ１ｂ類） …… 89
第55図　森田遺跡包含層出土遺物実測図５（甕口Ｄ２類～甕口Ｅ１類） …… 90
第56図　森田遺跡包含層出土遺物実測図６（甕口Ｅ１類～甕口Ｅ２類） …… 92
第57図　森田遺跡包含層出土遺物実測図７（甕口Ｅ２類～甕口Ｅ３ａ類） …… 94
第58図　森田遺跡包含層出土遺物実測図８（甕口Ｅ３ａ類～甕口Ｅ４ａ類） …… 95
第59図　森田遺跡包含層出土遺物実測図９（甕口Ｅ４ａ類～甕胴類） …… 96
第60図　森田遺跡包含層出土遺物実測図10（甕底Ａ類～甕底Ｂ類） …… 97
第61図　森田遺跡包含層出土遺物実測図11（壺１類） …… 98
第62図　森田遺跡包含層出土遺物実測図12（壺２ａ類～壺３ａ類） …… 100
第63図　森田遺跡包含層出土遺物実測図13（壺３ｂ類～壺６類） …… 102
第64図　森田遺跡包含層出土遺物実測図14（高杯１ａ類～鉢５ｂ類） …… 104
第65図　森田遺跡包含層出土遺物実測図15（鉢５ｂ類～ミニチュア類） …… 106
第66図　森田遺跡包含層出土遺物実測図16（石器，軽石製品，土錘） …… 107

表　目　次

付　表　報告書抄録
第１表　周辺遺跡地名表 …… 9
第２表　確認調査各トレンチの土層 …… 15
第３表　確認調査出土遺物観察表 …… 16
第４表　確認調査トレンチ結果表 …… 17
第５表　迫田遺跡土坑一覧表 …… 21
第６表　迫田遺跡出土土器小片等点数・重量表 …… 24
第７表　迫田遺跡包含層出土遺物観察表（１） …… 71
第８表　迫田遺跡包含層出土遺物観察表（２） …… 72
第９表　迫田遺跡包含層出土遺物観察表（３） …… 73
第10表　迫田遺跡包含層出土遺物観察表（４） …… 74
第11表　迫田遺跡包含層出土遺物観察表（鉄器） …… 74
第12表　森田遺跡出土土器小片等点数・重量表 …… 80
第13表　森田遺跡包含層出土遺物観察表（１） …… 108
第14表　森田遺跡包含層出土遺物観察表（２） …… 109
第15表　森田遺跡出土石器観察表 …… 109
第16表　森田遺跡出土軽石製品観察表 …… 109
第17表　森田遺跡包含層出土遺物観察表（土製品） …… 109
第18表　迫田遺跡出土の成川式土器と，中村の提示する成川式土器分類との対応表（器種別） 111
第19表　迫田遺跡出土の成川式土器と，中村の提示する成川式土器分類との対応表（時期別） 111
第20表　森田遺跡出土の成川式土器と，中村の提示する成川式土器分類との対応表（器種別） 111
第21表　森田遺跡出土の成川式土器と，中村の提示する成川式土器分類との対応表（時期別） 111

図版目次

巻頭図版１
巻頭図版２
巻頭図版３
図版１　確認調査出土遺物 …… 115
　　迫田遺跡包含層出土遺物（１）甕口Ａ１～４類 …… 115
図版２　迫田遺跡包含層出土遺物（２）甕形土器（立面） …… 116
図版３　迫田遺跡包含層出土遺物（３）甕口Ａ５・６類 …… 117
　　迫田遺跡包含層出土遺物（４）甕口Ａ７類 …… 117
図版４　迫田遺跡包含層出土遺物（５）甕口Ａ８～Ｃ類 …… 118
　　迫田遺跡包含層出土遺物（６）甕胴類 …… 118
図版５　迫田遺跡包含層出土遺物（７）壺形土器（立面） …… 119
図版６　迫田遺跡包含層出土遺物（８）壺形土器（立面） …… 120
図版７　迫田遺跡包含層出土遺物（９）壺５・７・８類 …… 121
　　迫田遺跡包含層出土遺物（10）壺９類 …… 121
図版８　迫田遺跡包含層出土遺物（11）高杯形土器（立面） …… 122
図版９　迫田遺跡包含層出土遺物（12）鉢形土器（立面） …… 123
図版10　迫田遺跡包含層出土遺物（13）坩形土器（立面），鉄剣 …… 124
図版11　森田遺跡包含層出土遺物（１）甕形土器（立面） …… 125
図版12　森田遺跡包含層出土遺物（２）壺形土器，高杯形土器（立面） …… 126
図版13　森田遺跡包含層出土遺物（３）鉢形土器（立面） …… 127
図版14　森田遺跡包含層出土遺物（４）坩杯形土器，ミニチュア土器（立面） …… 128

第Ⅰ章　調査の経緯

第１節　調査に至るまでの経緯

鹿児島県農政部農地整備課（以下，県農政部）と垂水市耕地課（以下，市耕地課）は，垂水市中俣地区において，農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業を計画し，鹿児島県教育庁文化財課（以下，県文化財課）に事業対象区の埋蔵文化財の包蔵地照会を行った。

これを受けて，鹿児島県立埋蔵文化財センター（以下，県埋文センター）が平成８年度に埋蔵文化財分布調査を行ったところ，事業区域内に遺物散布地として，森田遺跡・前田遺跡・徳村遺跡・迫田遺跡・是井遺跡の５遺跡が所在地していることが判明した。

その結果をもとに，県文化財課と垂水市社会教育課（以下，市社会教育課）・県農政部・市耕地課の４者が，埋蔵文化財保護と事業の調整を行うために協議を行った結果，事業着手前に埋蔵文化財確認調査を実施することになった。

確認調査は平成10年10月16日から平成11年３月31日まで実施したが，その結果，森田遺跡・迫田遺跡の２遺跡が遺物包蔵地として確認され，前田遺跡・徳村遺跡・是井遺跡の３遺跡が遺物散布地として確認された。

以上の結果を受けて再度協議を行った結果，設計変更が不可能である約1,200㎡（森田遺跡・迫田遺跡）について，平成11年度に全面発掘調査を実施することになった。

発掘調査は，調査対象区域の南側に位置する迫田遺跡から開始した。(平成11年５月17日より平成11年７月23日まで行った。)しかし，調査対象区域の北側に位置する森田遺跡については，鉄道（旧 JR 大隈線）造成時の盛土が厚く堆積しており，発掘作業中の土壁崩壊などが危惧されるため，その取り扱いについて，平成11年８月９日に県文化財課，鹿屋耕地事務所，市耕地課，市社会教育課の４者で協議を行った結果，平成11年度には森田遺跡の発掘調査は実施せず，開発側が現況より約３ｍ分掘削を行う平成15年度に改めて発掘調査を実施することとなった。

その後，平成13年８月22日には県農政部，市耕地課，市社会教育課の３者で，平成14年５月24日には県農政部，県文化財課，市社会教育課の３者で，発掘調査時期等についての協議がそれぞれ行われたが，その結果，平成11年８月９日の協議で決定されたように平成15年度に発掘調査を行うのではなく，計画より１年早めて平成14年度に発掘調査を実施することになった。さらに，表土の掘削についても，計画より２ｍ深い約５ｍ分の表土を，開発側が掘削することになった。

平成14年度の森田遺跡の発掘調査は，平成14年９月17日から平成14年11月７日まで実施した。

以上のように，平成10年度に実施された確認調査から，平成11年度及び平成14年度に実施された全面発掘調査までの成果を記録保存するため，迫田遺跡・森田遺跡（是井遺跡・徳村遺跡・前田遺跡）発掘調査報告書として，平成15年度に発行することになった。

第２節　調査の組織

調査の組織は以下のとおりである。

平成10年度確認調査

事業主体	鹿児島県農政部　鹿屋耕地事務所	
調査主体	垂水市教育委員会	
調査責任者	〃	教育長　川井田　稔
調査企画者	〃	社会教育課長　西田和則
調査事務	〃	社会教育課長補佐　堀ノ内俊一
	〃	社会教育係長　戸越靖彦
調査担当者	〃	社会教育係主事　鵜飼一伸
	〃	社会教育係文化財主事　羽生文彦

平成11年度迫田遺跡発掘調査

事業主体	鹿児島県農政部　鹿屋耕地事務所	
調査主体者	垂水市教育委員会	
調査責任者	〃	教育長　川井田　稔
調査企画者	〃	社会教育課長　西田和則
調査事務	〃	社会教育課長補佐兼文化会館係長　堀之内俊一
	〃	社会教育係長　戸越靖彦
調査担当者	〃	文化会館係文化財主事　羽生文彦
	〃	文化会館係主事　大迫　均

平成14度森田遺跡発掘調査

事業主体者	鹿児島県農政部　鹿屋耕地事務所	
調査主体	垂水市教育委員会	
調査責任者	〃	教育長　川井田　稔
調査企画者	〃	社会教育課長　谷口敏徳
調査事務	〃	社会教育課文化係長　島児典生
調査担当者	〃	文化係文化財主事　羽生文彦
〃	〃	文化係主事補　梶原　剛

平成15年度報告書作成事業

事業主体	鹿児島県農政部　鹿屋耕地事務所	
作成主体者	垂水市教育委員会	
作成責任者	〃	教育長　川井田　稔
作成企画者	〃	社会教育課長　若元　明
〃	〃	社会教育課長補佐兼社会教育係長兼公民館係長　立山幸則
作成事務	〃	社会教育課文化係長　堀内昭人
作成担当者	〃	文化係文化財主事　羽生文彦
〃	〃	文化係主事補　宮迫佑治

※ここにあげた職名等は全て当時のものである。

平成11年度　確認調査作業員

上山末廣・柏木喜三郎・上園秀夫・北村宏史・黒岩　透・下川虎男・坪内克巳・西尾留吉・浜田弘光・浜田満雄・堀内健三・堀添重治・海元日路美・川崎ひろ子・神田ハル子・伊山　栄・宮迫かつよ

平成11年度　発掘調査作業員

上山末廣・上園秀夫・黒岩　透・下川虎男・立山敏光・西尾留吉・浜田満雄・堀内健三・堀添重治・加治屋みな子・上園瑞江・川崎ひろ子・川尻興智子・神田ハル子・小出光子・寺迫朋枝・駿河一枝・中馬フミ子・伊山　栄・宮迫かつよ

平成14年度　発掘調査作業員

赤塚竜一郎・岩元秀志・上山末廣・鍛冶屋正廣・上園秀夫・黒岩　透・篠原　隆・西尾留吉・浜田満雄・堀内健三・堀添重治・池田テル子・池田柳子・枝元茂子・大迫秀子・上園瑞江・神田ハル子・小出光子・寺迫美里・西尾衣久美・西尾スエ子・伊山栄・山崎辰子

平成15年度　整理作業員

池田柳子・枝元茂子・大迫秀子・神田ハル子・小出光子・寺迫美里・西尾衣久美・西尾スエ子・伊山　栄・山崎辰子

第３節　調査の経過

確認調査は，平成10年11月５日（木）から平成11年１月29日（金）まで実施した。

発掘調査当時の遺跡の現況は，鉄道（旧 JR 大隅線）線路跡地であり，鉄道造成時の盛土が厚く堆積していた。この盛土のため，発掘調査は，平成11年度と平成14年度の２回に分けて実施した。

平成11年度は，迫田遺跡の調査を実施した。調査は，平成11年５月17日から平成11年７月23日まで実施した。平成14年度は，森田遺跡の発掘調査を実施した。調査は，平成14年９月17日から平成14年11月７日まで実施した。以後，平成16年３月まで報告書作成のための整理作業を実施した。

発掘調査の経過は以下の日誌抄のとおりである。

［日誌抄］

迫田遺跡

［平成11（1999）年５月17日～平成11年７月23日］

平成11年５月17日（月）～21日（金）　発掘調査開始。調査環境の整備（作業道具の搬入，ベルトコンベア等の据え付け，看板の据え付け）を行う。
調査区内に，任意にグリッド（2.5×５ｍ）を１～７区まで設定し，掘り下げを開始する。地表面から数えて３番目の土層（Ⅲ層）までの掘り下げをほぼ完了した。遺物の出土は殆ど見られない。

平成11年５月25日（火）～５月28日（金）　地表より数えて４番目の土層（Ⅳ層）より，古墳時代の遺物の出土が見られた。特に４・６区においては，土器溜り状に大量に出土したため，グリッドの中にさらに25㎡×25㎡の小グリッドを設定して調査を行った。
隣接する協和小学校の児童による発掘体験を実施した。

平成11年５月31日（月）～６月４日（金）　１～７区においてⅣ層の掘り下げを継続。それに伴い写真撮影，平板・レベルによる出土位置の記録，取り上げを行った。

平成11年６月７日（月）～10日（木）　１～７区においてⅣ層の掘り下げを継続。それに伴い写真撮影，平板・レベルによる出土位置の記録，取り上げを行った。
４区から鉄剣の出土がられた。

平成11年６月14日（月）～18日（金）　１～３区，６～７区において，Ⅳ層の掘り下げが終了した。
４・５区の調査を行った。

平成11年６月21日（月）～25日（金）　４・５区の調査を行った。雨天による調査中止が多かった。

平成11年６月28日（月）～７月２日（金）　４・５区の調査を行った。雨天による調査中止が多かった。

平成11年７月５日（月）～12日（金）　４・５区の調査を行った。

平成11年７月12日（月）～15日（木）　４・５区の調査が終了。遺構検出作業を行い，３，５区より土坑が検出された。

平成11年７月19日（月）～23日（金）　土層堆積状況の記録，地形（コンター）の記録を行った。
遺跡の近景及び遠景の写真撮影を行った。作業道具，プレハブ等の撤去を行い，発掘調査を終了した。

森田遺跡

〔平成14年（2002）年９月17日～11月７日〕

平成14年９月17日（火）～20日（金）　発掘調査環境の整備（ベルトコンベアの設置，作業道具の運搬等）を行う。重機による掘削の後，人力による掘り下げを行った。

平成14年９月24日（火）～26日（木）　調査区内を東西で２分し（調査区東側をＡ区，西側をＢ区とした），さらに任意にグリッド（６×６ｍ）を１～21区まで任意に設定し，調査はＡ区より行うことにした。Ａ－１区より掘り下げを開始する。地表面から数えて３番目の土層（Ⅲ層）より，古墳時代の遺物が出土した。

平成14年９月30日（月）～10月４日（水）　Ａ－１～10区（Ⅳ層）の掘り下げ，写真撮影・実測及び取り上げを行った。遺物の中には完形に近いものも数点含まれる。

平成14年10月７日（月）～11日（金）　引き続きＡ－１～10区の掘り下げ，写真撮影・実測及び取り上げを行った。Ａ－１・２区より性格不明の集石が検出された。

平成14年10月15日（月）～18日（金）　引き続きＡ－１～10区の掘り下げ，写真撮影・実測及び取り上げを行った。10区以北については，遺物の出土は見られなかった。Ａ区での作業を終了し，Ｂ－５～７区のⅢ層の掘り下げを開始した。

平成14年10月21日（月）～25日（金）　引き続きＢ－１～10区のⅢ層の掘り下げ，写真撮影・実測及び取り上を行った。Ｂ－９区で，約３ｍ×５ｍの範囲から土器が集中して出土した。（土器溜り）

平成14年10月28日（月）～11月１日（金）　引き続きＢ－１～10区のⅢ層の掘り下げ，写真撮影・実測及び取り上を行った。

平成14年11月５日（火）～７日（木）　Ｂ－１～10区のⅢ層の掘り下げ，写真撮影・実測及び取り上を完了した。土層堆積状況の記録，地形（コンター）の記録を行った。遺跡の近景及び遠景の写真撮影を行った。作業道具，プレハブ等の撤去を行い，発掘調査を終了した。

平成14年度発掘調査作業員

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

第１節　地形概説

追田遺跡・森田遺跡は，垂水市街地の北東約３kmの地点に位置する（追田遺跡は北緯31°30′40″，東経130°42′00″の地点に位置し，森田遺跡は北緯31°30′50″，東経130°42′15″の地点に位置する）。ここは，垂水市の中央部であり，東は高隈連山を控え，西は鹿児島湾を経て薩摩半島を望むという立地である。

垂水市の地形は，大きく３地域に分けることができる。東方の高隈山地を中心とする山地，その麓から鹿児島湾近くまで緩傾斜をなして広がるいわゆるシラス台地，そして台地間や海岸線にある沖積平野の３つである。シラス台地は，高隈山地と接する部分が海抜約200ｍであるが，西方ほど次第に低くなり，市街地付近では高さ10数ｍの断崖を連ね海岸に望んでいる。

遺跡の位置するところは，台地と海岸線との間に存在する台地縁辺部の崩土の堆積による小微高地であり，標高は約６ｍである。

今回の発掘調査対象区は，旧JR大隅線鉄道跡地内に位置している。発掘調査以前は，鉄道造成時の盛土が厚く堆積していた。鉄道線路が取り外された後は，無舗装の農道あるいは通路として，周辺の農耕者や通行者に利用されていた。遺跡の周辺は耕作地として利用されている。

第２節　地質概説

先述の第１節で分けた山地帯は，白亜系の四万十累層群の高隈山帯（橋本，1926）に相当し，砂岩頁岩互層の高隈山層（太田・河内，1965）と牛根層（小川内・岩松，1986）の一部が第３紀中新生後期（14Ma）の高隈山花崗岩（柴田，1978）の貫入に伴い接触熱変成作用を受けホルンフェルス化している。

その山地から，浸食・運搬・堆積作用を受け扇状地状の垂水砂礫層を形成し，その上に旧期ローム層，大隅降下軽石層・妻屋火砕流堆積物・亀割坂角礫層・入戸火砕流堆積物・新期ローム層及びそれらの二次堆積物からなる，いわゆるシラス台地を構成している。

沖積層は砂や粘土，小石からなる。

第３節　歴史概説及び周辺の遺跡

垂水市史によると，「過去において考古資料となる遺跡地は少なかった。」とある。しかし近年の鹿児島県教育委員会による広域分布調査や，垂水市教育委員会が実施してきた発掘調査の結果，今回調査を行った地域周辺においても，第２図及び第１表にみられるように縄文～中世の城跡まで様々な遺跡が点在していることが分かってきた。その大部分は台地上と海岸線沿いの沖積平野に集中している。

垂水市史によると，昭和37年７月，森田遺跡に隣接する協和小学校の校地整理中，相当数の遺物が出土したことが報告されている。それによると，協和小学校校庭の東北隅より，住居址らしい遺構（時期不明。集石，鹿骨検出），貝殻，獣骨（鹿骨等数点），縄文土器（阿高式，岩崎下層式，指宿式，市来式，鐘崎式），弥生土器，土師器，須恵器，石器類（打製石斧，石鏃，黒曜石石鏃）などが出土したとある。正式な発掘調査報告書が作成されておらず，詳細については不明であり，追田遺跡・森田遺跡との関連性については論じ様もないが，追田遺跡・森田遺跡の周辺では，太古より人々の生活が営まれていたことを示唆する貴重な記録と言える。

［参考文献］

太田良平　「５万分の１地質図幅『垂水』および同説明書」 1954　地質調査所

橋本　勇　「九州南部における時代未詳層群の総括」（『九大教養地学彙報　9　13－69』）1962

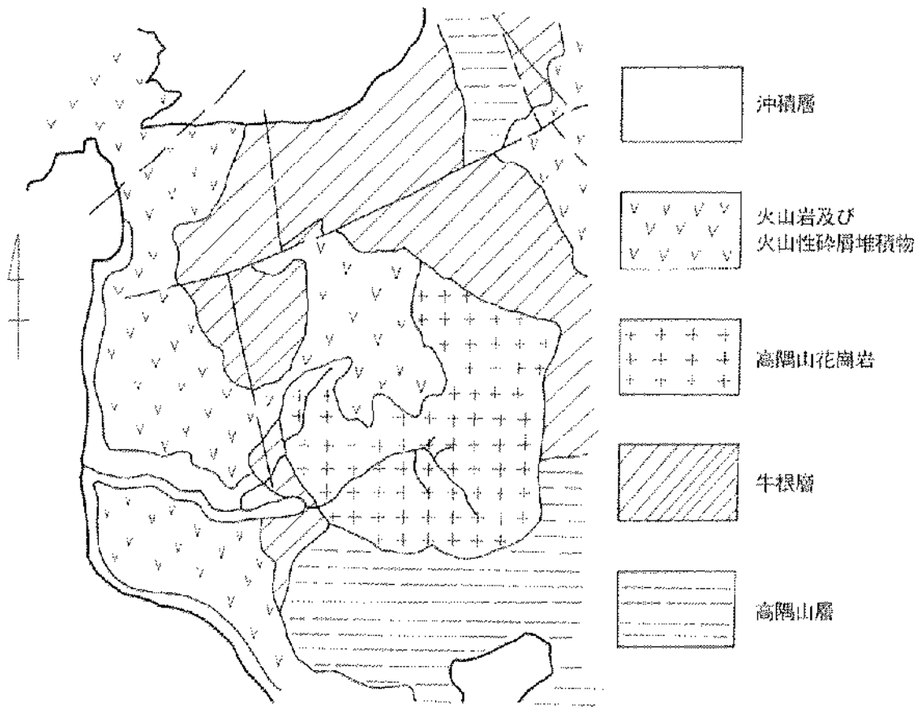
小川内良人ほか　「大隅半島四万十帯の地質構造」（『鹿大理学部紀要（地学・生物学）19』）1986

柴田　賢　「西日本外帯における第三紀花崗岩質への同時性」（『地調月報　29　551－554』）1978

KOBAYASHI et. al 「Thickness and Grain-size Distribution of the Osumi pumice Fall Deposit from the Aira Caldrera」（『Bull. Volcanol. Soc. Japan. 2　28　2　129－139』 1983）

荒巻重雄　「姶良カルデラと入戸火砕流」（『月刊　地球 Vol.5　2』）1983

垂水市教育委員会　「垂水市史　上巻」 1964



第１図　垂水の地質概略

第2図　周辺の遺跡

第1表　周辺遺跡地名表

番号	遺跡名	所在地	地形	時代	遺物等	備考
1	西ノ原	牛堀西ノ原	台地	古墳	成川式	
2	潮海中学校	潮海町潮海小学校	低地	縄文（中期） 弥生・歴史	石斧・石鏃・土師器・須恵器	潮水市史
3	森田	潮水市中根	低地	古墳	成川式	H 8農政、H10確認調査、H11全面調査
4	前田	潮水市中根	低地	古墳		H 8農政、H10確認調査
5	前田北裏	中根前田北裏	台地	古墳		
6	道通	中根道通	台地	古墳		
7	堂ノ上	中根堂ノ上	台地	弥生		
8	石原田	中根石原田	台地	古墳		
9	道田	潮水市中根	低地	古墳	鉄剣、成川式	H 8農政、H10確認調査、H11全面調査
10	鶴田原	中根鶴田原	台地	古・歴	須恵器・青磁	平成7年度確認調査
11	野元北裏	中根野元北裏	台地	古墳		
12	才塩ノ原	中根才塩ノ原	台地	古・歴	成川式・青磁	
13	堂ノ前	中根堂ノ前	台地	縄・歴	青磁	
14	脚ヶ道	中根脚ヶ道	台地	古墳		
15	上大道	潮水上大道	台地	古墳		
16	茶臼ノ上	潮水茶臼ノ上	台地	古墳		
17	林之越	田神後馬場	台地	中世		白磁・平瓶
18	長江ヶ道	潮水長江ヶ道	台地	古墳		
19	木木	潮水木木	台地	中世		
20	野久麦	野久麦トップ岡	台地	弥生	弥生式土器片	潮水市史
21	水道	浜平水道	低地	弥生	弥生式土器片	潮水市史
22	シオンモイ	浜平シオンモイ	台地	弥生	弥生式土器片	潮水市史、平成8年度確認調査
23	浜平	浜平	台地	古墳	成川式	
24	菊道城跡	浜平菊道	台地	室町・安土桃山		潮水市史
25	道頭	潮水市浜平	台地	古墳	成川式土器	H 3農政分布、H 9確認調査
26	平谷	潮水市浜平	台地	古墳	成川式土器	H 3農政分布、H 9確認調査
27	尾道城跡	浜平尾道	台地	室町・安土桃山		潮水市史
28	高尾	潮水市浜平	台地	古墳	成川式土器	H 7農政
29	小畑内	潮水市移原	台地	古墳	成川式土器	H 7農政
30	西ヶ道	新生	低地	古墳	成川式	H 6年度農政分布、平成7年度確認調査、平成8年度全面調査（遺物包含層は確認されなかった。）
31	一本杉後	潮水市移原	台地	古墳	成川式土器	H 7農政
32	勝ヶ崎	潮水市移原	台地	古墳	成川式土器	H 7農政
33	大道	潮水市移原	台地	古墳	成川式土器	H 7農政
34	移原	移原西部五反畑一円	低地	縄文 弥生	縄文式土器片・鉄高式 若崎式・指宿式・市来式 石斧・石剣・土師器片 磨製片・弥生式土器片	潮水市史
35	後ヶ崎A	移原小学校	低地	古・歴	成川式・土師器・須恵器 青磁・白磁	H 7確認調査 H 9全面調査
36	雑砂	移原雑砂	低地	弥生	弥生式土器片	潮水市史
37	移原遺跡群	移原	低地	縄・古	貝塚	
38	移原貝塚	移原移原下	低地	縄 古墳	貝塚・人骨・獣骨・魚骨 種子・礫石・磨石製品（岩偶） ・土器（指宿式・市来式・ 鍋倉式・三万田式・綱脇式・ 七加貝塚式・入佐式等） ・石器・貝器・骨角器・成川式	H 7新入住宅建設に伴う確認調査 及び農道整備に伴う確認調査 H 9、10農免農道整備事業に伴う全面調査 H12—14能率補助事業による 範囲確認調査
39	宮ノ岡	新城宮脇	低地	縄（前・晩）・ 弥・古・歴	縄文土器片、弥生土器片、成川式、陶磁器片	H11、12全面調査
40	潮畑	新城宮脇	低地	縄（晩）・古・歴	黒川式・成川式・土師器・須恵器	H 6確認調査
41	道田	新城宮田	低地	縄（中・晩）・弥・古	堂畑式、鐘崎式、曲ノ口式、成川式	H 6、7確認調査、H11全面調査
42	新御堂	新城堂平北裏	台地	弥生	弥生式土器片	潮水市史
43	本城跡	本城城附下	低地	弥生	弥生式土器片	潮水市史
44	本城跡（下之城）	本城上本城	台地	室町 安土桃山		潮水市史
45	高城跡	高城町本高城遺跡	台地	弥生	弥生式土器片	潮水市史
46	城跡	高城本高城	台地	弥生		
47	高城跡	高城小学校	台地 低地	鎌倉・南北朝 安土桃山		潮水市史
48	横宿	高城	台地	縄文（晩）・ 古・歴	黒川式、成川式、土師器、鉄剣、 鉄鏃、鐙摩滅き	H 7ゴルフ場工事中発見、H 6・7 全面調査
49	四ヶ道	成田ヶ道	台地	弥生	弥生式土器片	潮水市史
50	小谷	新城小谷	低地	古墳	成川式	H 7確認調査（遺物包含層は確認されなかった。）

第Ⅲ章　確認調査

第１節　確認調査の概要

確認調査は，分布調査の結果や地形等を考慮して，トレンチ設定を行った。具体的には，２×４ｍもしくは２×３ｍのトレンチを基本として，約30ｍ毎に28本設定して，遺物・遺構の検出及び土層の観察を行った。但し，中俣川以北の６本のトレンチ（23～28トレンチ）については，鉄道造成時の盛土が厚く，廃土の置き場を考慮して約45ｍ毎に設定して調査を行った。

第２節　是井遺跡の確認調査

平成８年度の分布調査で所在が確認された是井遺跡は，今回計画されている農道整備事業の事業区起点より南側に位置し，調査の対象外であることが確認調査開始前に判明した。よって，是井遺跡については確認調査及び全面発掘調査は実施していない。平成10年度の確認調査は，是井遺跡より北方に第１トレンチを設定し，以下北方へ第２トレンチ，第３トレンチとトレンチを設定して調査を行ったが，是井遺跡に隣接している１トレンチからは，遺構・遺物ともに検出されなかった。

第３節　迫田遺跡の確認調査

平成８年度の分布調査で所在が確認された迫田遺跡については，６トレンチ及び７トレンチを設定して調査を行った。

６トレンチからは，遺構は検出されなかったが，大量の土器片が検出された。土器片は弥生時代から古墳時代にかけて使用された，いわゆる成川式土器と思われる。土器溜り状に大量に出土したので，50cm×50cmの小グリッドを設定し，先行的に掘り下げを行ったのみで埋め戻し，詳細については全面発掘調査で調査することにした。先行グリッドから出土した遺物については，胴部片が大半であり，図化できるものがなかったので本章では割愛する。

７トレンチからは，遺構・遺物ともに検出されなかった。地形等を考慮して，分布調査で把握されているより遺跡の範囲が狭くなると判断した。

第４節　徳村遺跡の確認調査

平成８年度の分布調査で所在が確認された徳村遺跡については，11トレンチ～16トレンチを設定して調査を行った。

11トレンチと14トレンチから，遺構は検出されなかったものの，成川式土器と思われる土器片が10数点採取された。しかし，両トレンチともに出土層がＩｂ層（鉄道造成時の盛土の直下層）であること，同一土層から明らかに現代のものと思われる遺物の出土がみられること，出土点数が僅か数点でかつまばらであることなどから，遺物包蔵地ではなく，遺物散布地と判断した。遺跡は丘陵地に隣接しているため，崩土による流れ込みなどの可能性が考えられ，周辺に古墳時代の遺跡が存在することが推察される。

11トレンチ・14トレンチともに数点の遺物が採取されたが，大半は図化不能な胴部片であった。３点のみ図化可能な土器片が見られたため，記載しておく。（第６図１～３）

１は，甕形土器の口縁部～胴部片である。やや内湾する胴部に，大きく外反する口縁部を有する。内面に明瞭な稜線を有するが，外面はゆるく胴部へ移行し稜線はもたない。口唇部はくぼむ。器面調整として，内外面ともにハケメ状原体の工具による調整（いわゆるハケメ）が観察できる。２も甕形土器の口縁部～胴部片である。胴部よりゆるく外反する口縁部を有する。器面調整は，外面口縁部と胴部の境に，ハケメ状原体の工具による縦方向の擦過（いわゆるカキアゲ）が観察できるが，表面の磨耗が著しく判然としない。口縁端部は内外面ともに横方向のハケメが観察できる。３は高杯形土器の坏部～脚部である。脚部はほぼ直立し，内部は中空である。器面直立としては，脚部外面，杯部の内外面に細かい原体による研磨（いわゆるミガキ）が観察できる。

12トレンチ・13トレンチ・15トレンチ・16トレンチからは，遺構・遺物ともに検出されなかった。

第５節　前田遺跡の確認調査

平成８年度の分布調査で所在が確認された前田遺跡については，20トレンチ～22トレンチを設定して調査を行った。

21トレンチ・22トレンチからは遺構・遺物ともに検出されなかったが，20トレンチ及び20トレンチ以南の17～19トレンチから遺物が数点採取された。

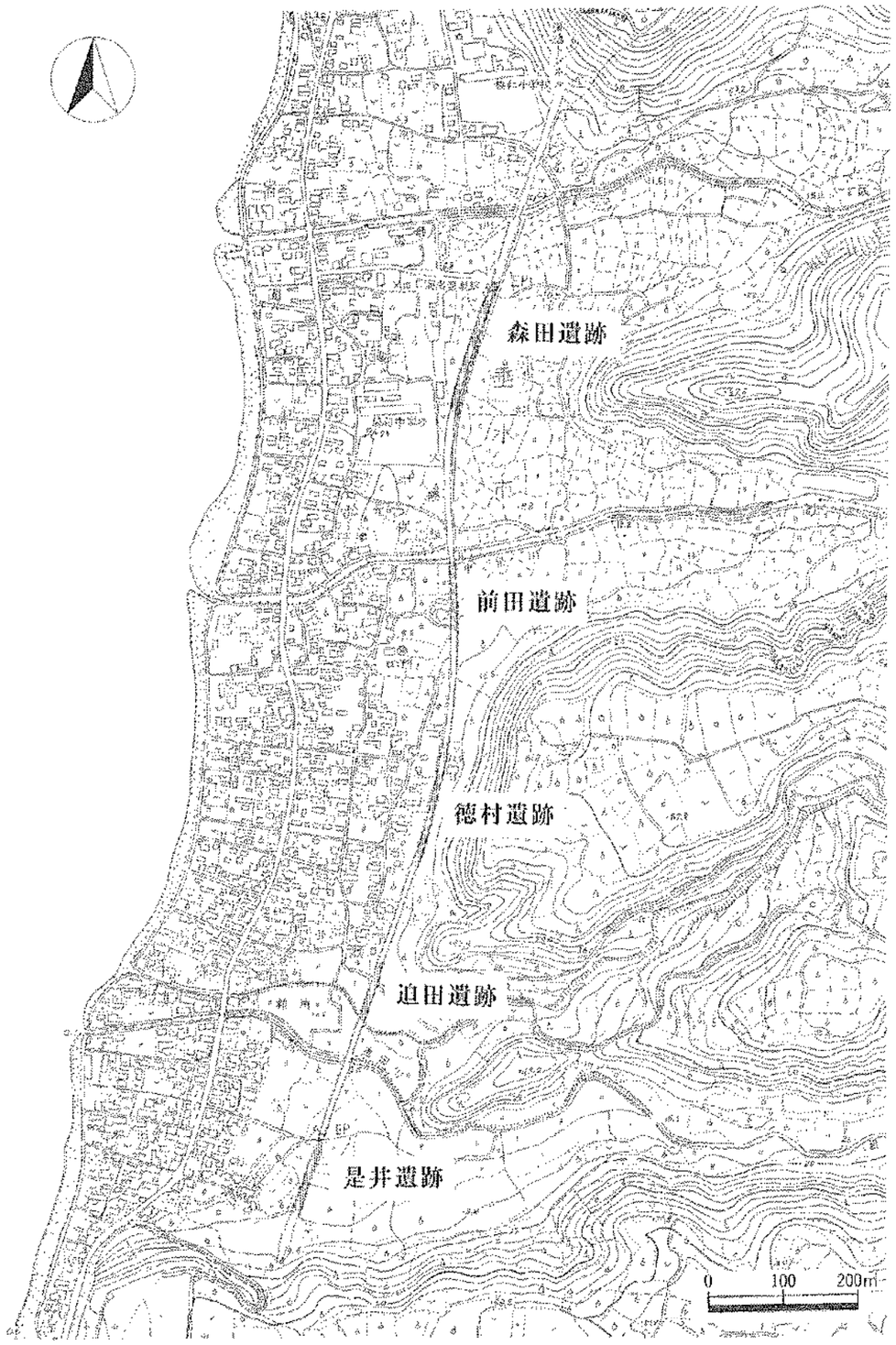
17トレンチ～20トレンチのいずれからも，遺構は検出されなかったものの，成川式土器と思われる土器片が10数点採取された。しかし，徳村遺跡と同様，両トレンチともに出土層がＩｂ層（鉄道造成時の盛土の直下層）であること，同一土層から明らかに現代のものと思われる遺物の出土がみられること，出土点数が僅か数点でかつまばらであることなどから，遺物包蔵地ではなく，遺物散布地と判断した。前田遺跡も徳村遺跡同様に，丘陵地に隣接しているため，崩土による流れ込みなどの可能性が考えられ，周辺に古墳時代の遺跡が存在することを想定させる。

17トレンチ～20トレンチからは，いずれも数点の遺物が採取されたが，大半は図化不能な胴部片であった。３点のみ図化可能な土器片が見られたため，記載しておく。（第６図４～６）

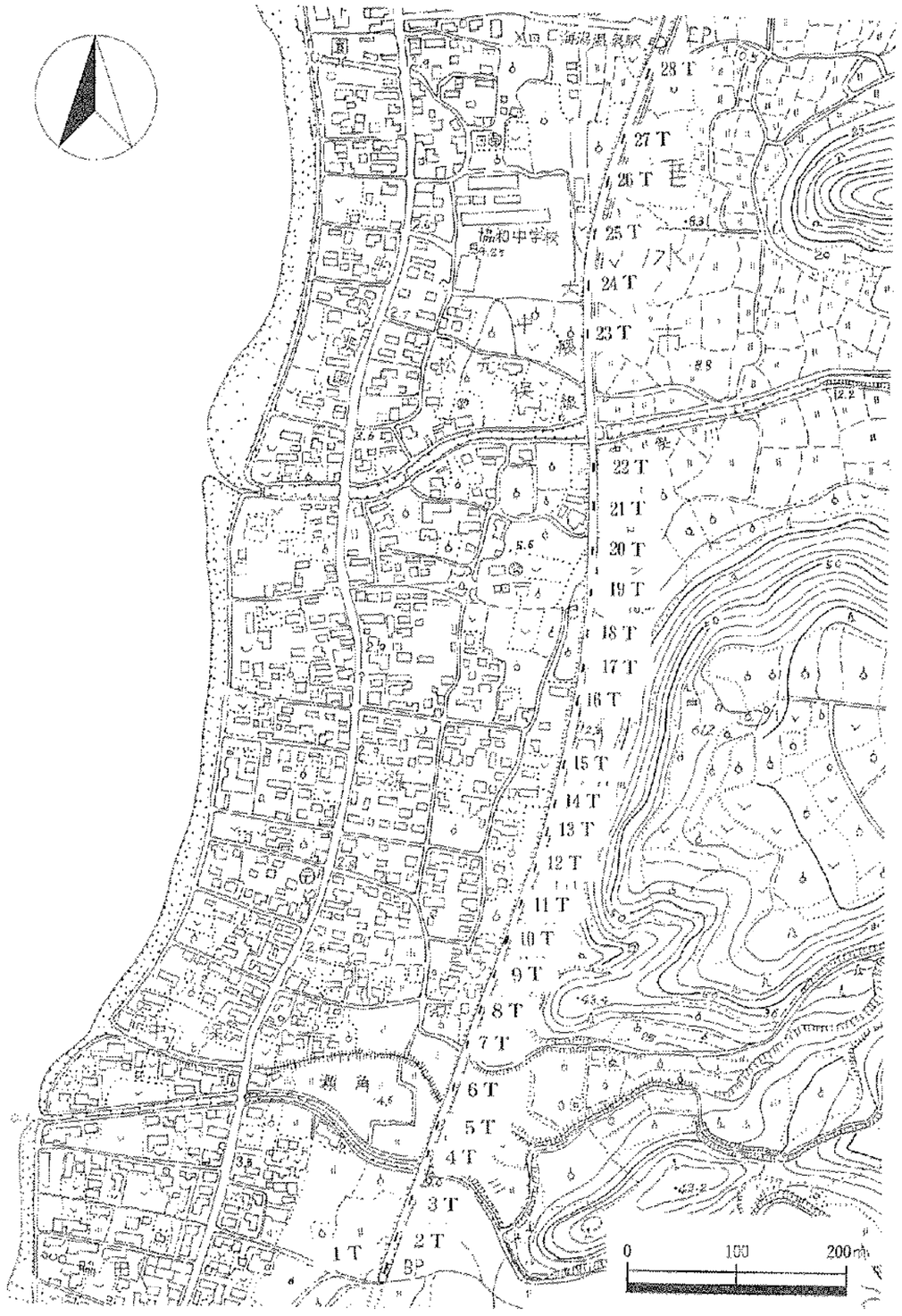
４は，甕形土器の口縁部～胴部片である。口縁部は外反する。内面に明瞭な稜線を有するが，外面はゆるく胴部へ移行し稜線はもたない。口唇部はくぼまず，先端を丸く仕上げている。器面調整として，内外面ともにハケメが観察できる。５は甕形土器の脚台である。低い脚台で，先端へ向けて直線的に下りる。脚台内部は丸く，放物線状にゆるやかにカーブを描く。表面の磨耗が著しく，器面調整は外面には観察できないが，内面にかろうじてハケメを観察できる。６は壺形土器の胴部である。幅広の突帯を有し，突帯には細い原体による沈線が数条（観察可能な部分では９条）を一組として，ハの字状に施されている。器面直立としては，外面にかろうじてハケメが観察できるが，表面が磨耗していて判然としない。

第６節　森田遺跡の確認調査

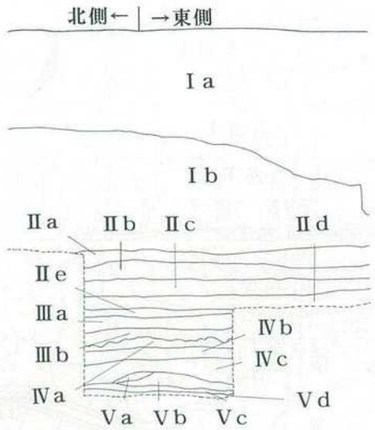
平成８年度の分布調査で所在が確認された森田遺跡については，26トレンチ～28トレンチを設定して調査を行った。



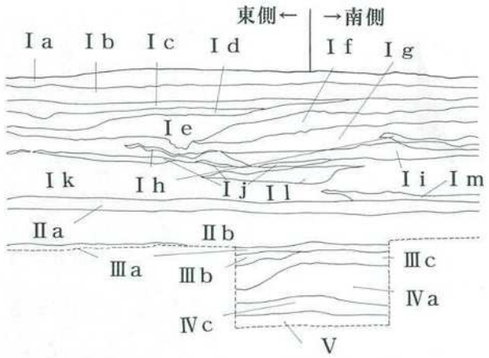
第３図　分布調査で確認された遺跡



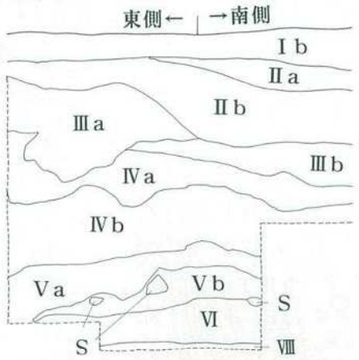
第４図　確認調査トレンチ配置図



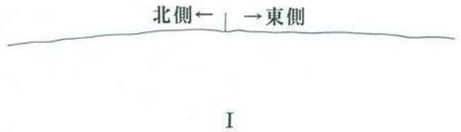
1トレンチ北側・東側壁面（是井遺跡隣接）

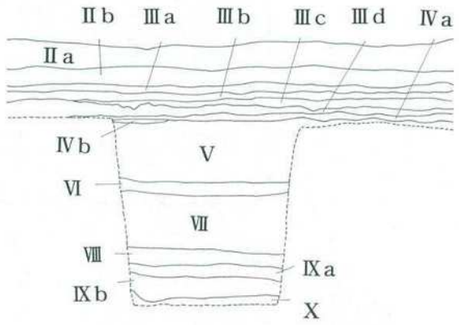


6トレンチ東側・南側壁面（迫田遺跡）

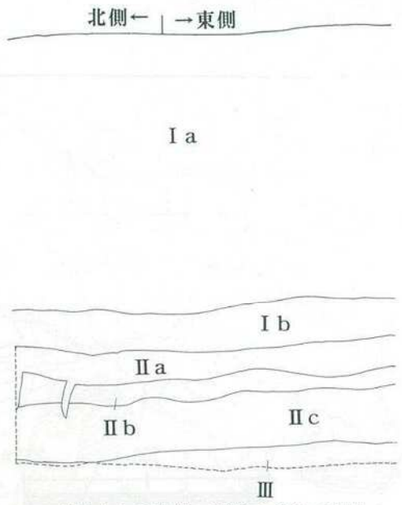


14トレンチ東側・南側壁面（徳村遺跡）





27トレンチ北側・東壁面（森田遺跡）



19トレンチ北側・東壁面（前田遺跡）

第５図　確認調査各トレンチ土層堆積状況

1トレンチ（是井遺跡隣接）

土層	色　調	砂 質	特　徴　等
Ⅰa			鉄道造成時の盛土，細分可
Ⅰb	7.5YR3/1黒褐		現代遺物混入
Ⅱa	10YR4/1褐灰	細砂	
Ⅱb	10YR4/2灰黄褐	細砂	若干粘質
Ⅱc	7.5YR5/2灰褐	細砂	若干湿
Ⅱd	10YR4/4褐	細砂	若干湿
Ⅱe	10YR5/2灰黄褐	細砂	礫含む
Ⅲa	7.5YR6/3にぶい褐	シルト質砂	湿
Ⅲb	5YR4/4にぶい赤褐	細砂	若干粘質
Ⅳa	5YR4/6赤褐	細砂	硬質
Ⅳb	7.5YR5/3にぶい褐	シルト質砂	硬質
Ⅳc	5YR4/3にぶい赤褐	シルト質砂	硬質
Ⅴa	10YR4/1褐灰	粘質シルト	
Ⅴb	7.5YR4/1褐灰	粗砂	湿，石含む
Ⅴc	7.5YR5/3にぶい褐	粘質シルト	
Ⅴd	10YR5/1褐灰	粗砂	石含む

14トレンチ（徳村遺跡）

土層	色　調	砂 質	特　徴　等
Ⅰb	7.5YR3/1黒褐		成川式，現代遺物混入
Ⅱa	10YR3/2黒褐	細砂	
Ⅱb	10YR2/3黒褐	細砂	
Ⅲ	7.5YR2/2黒褐	細砂	若干湿
Ⅳa	7.5YR4/3褐	細砂	
Ⅳb	10YR3/3暗褐	細砂	
Ⅴa	10YR4/2灰黄褐	細砂	
Ⅴb	10YR4/3褐	粗砂	礫多く含む
Ⅵ	10YR2/3黒褐	細砂	
Ⅶ	10YR4/2灰黄褐	粗砂	

19トレンチ（前田遺跡）

土層	色　調	砂 質	特　徴　等
Ⅰa			鉄道造成時の盛土，細分可
Ⅰb	7.5YR3/1黒褐		成川式，現代遺物混入
Ⅱa	10YR2/2黒褐	細砂	
Ⅱb	7.5YR4/4褐	細砂	
Ⅱc	10YR2/3黒褐	細砂	
Ⅲ	10YR2/1黒	粗砂	

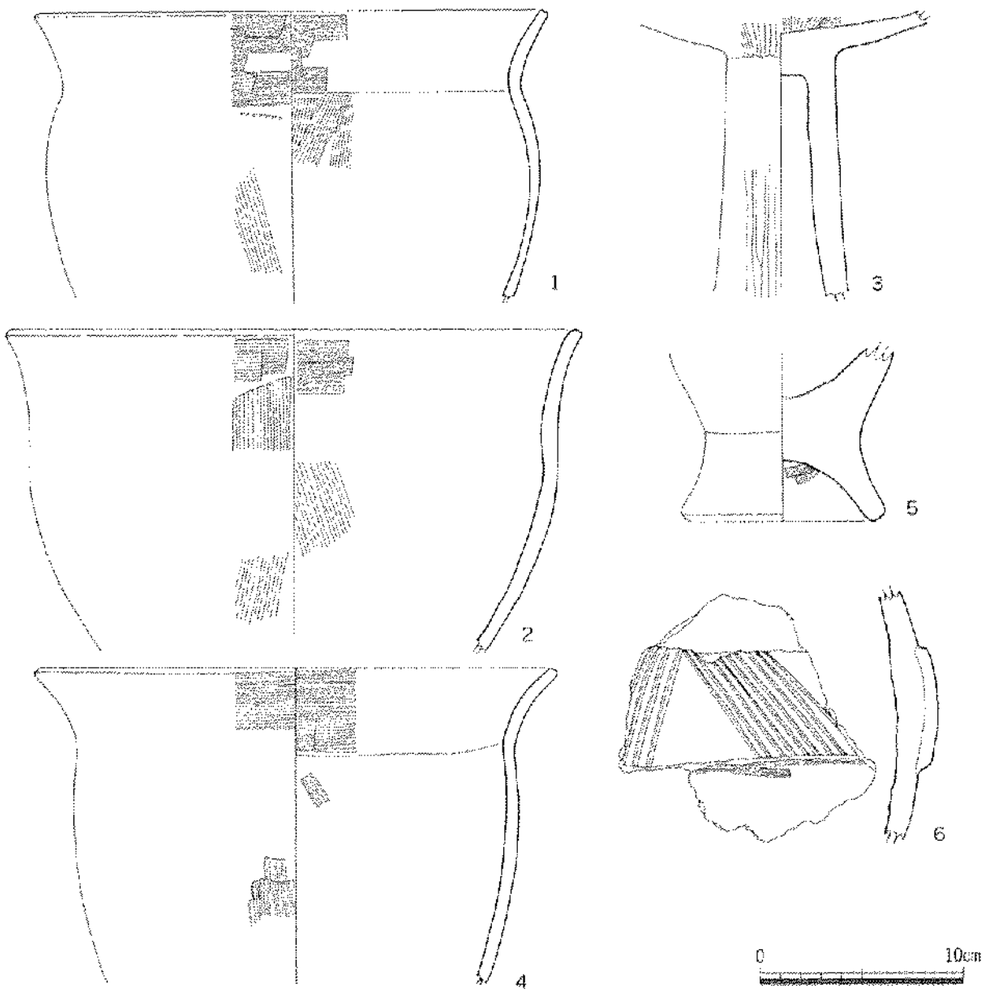
6トレンチ（迫田遺跡）

土層	色　調	砂 質	特　徴　等
Ⅰa	10YR4/1褐灰	細砂	鉄道造成時の盛土
Ⅰb	10YR3/2黒褐	細砂	鉄道造成時の盛土
Ⅰc	10YR5/4にぶい黄褐	細砂	鉄道造成時の盛土
Ⅰd	10YR6/3黄橙	細砂	鉄道造成時の盛土
Ⅰe	10YR5/3黄褐	細砂	鉄道造成時の盛土
Ⅰf	10YR5/2灰黄褐	細砂	鉄道造成時の盛土
Ⅰg	10YR7/2明褐灰	細砂	鉄道造成時の盛土
Ⅰh	10YR7/3にぶい黄褐	細砂	鉄道造成時の盛土
Ⅰi	10YR6/7灰黄褐	細砂	鉄道造成時の盛土
Ⅰj	10YR6/4にぶい黄橙	細砂	鉄道造成時の盛土
Ⅰk	7.5YR7/3橙	細砂	鉄道造成時の盛土
Ⅰl	10YR6/3黄橙	細砂	鉄道造成時の盛土
Ⅰm	10YR6/3黄橙	粗砂	鉄道造成時の盛土
Ⅱa	10YR5/2灰黄褐	細砂	若干粘質
Ⅱb	5YR4/4にぶい赤褐	細砂	若干粘質
Ⅲa	5YR3/2明赤褐	細砂	非常に硬質，薄い
Ⅲb	10YR7/1黒	細砂	成川式包含層，若干粘質
Ⅲc	10YR2/3黒褐	細砂	成川式包含層，若干粘質
Ⅳa	10YR3/3暗褐	細砂	若干粘質
Ⅳb	10YR4/3にぶい黄褐	細砂	若干粘質
Ⅴ	10YR5/4にぶい黄褐	粗砂	

27トレンチ（森田遺跡）

土層	色　調	砂 質	特　徴　等
Ⅰa			鉄道造成時の盛土，細分可
Ⅰb	7.5YR3/1黒褐		現代遺物混入
Ⅱa	10YR4/1褐灰	細砂	
Ⅱb	10YR5/1褐灰	粗砂	硬質
Ⅲa	5YR4/4にぶい赤褐	細砂	
Ⅲb	5YR5/2褐灰	細砂	
Ⅲc	5YR5/3にぶい赤褐	細砂	
Ⅲd	5YR5/4にぶい赤褐	細砂	
Ⅳa	5YR3/4暗赤褐	細砂	非常に硬質
Ⅳb	10YR5/6黄褐	細砂	非常に硬質
Ⅴ	10YR4/2灰黄褐	細砂	成川式包含層
Ⅵ	10YR5/4にぶい黄褐	粗砂	
Ⅶ	5Y4/2灰オリーブ	細砂	
Ⅷ	5Y6/3オリーブ黄	粗砂	
Ⅸa	7.5YR5/4にぶい褐	細砂	
Ⅸb	10YR5/1褐灰	細砂	粘質
Ⅹa	10YR3/2黒褐	粗砂	礫含む
Ⅹb	10YR3/1黒褐	粗砂	

第２表　確認調査各トレンチの土層



第６図　確認調査出土遺物実測図

第３表　確認調査出土遺物観察表

※胎土のＳ・Ｃ・Ｋ・Ｒ・Ｕ・Ｓはそれぞれ Ｓ＝石英，Ｃ＝長石，Ｋ＝角閃石，Ｒ＝小石，Ｕ＝雲母を指す。
※器中の径については，口縁部なら口径を，底部なら底径をさす。（大半が破片であるため，復元径である。）

遺跡番号	遺物番号	トレンチ	層	器種	部位	胎土	色調 外	色調 内	調整 外	調整 内	焼成	径	備考
6	1	11	Ⅰb	甕	口縁部	S・C・K	7.5R7/6橙	7.5YR6/4にぶい橙	ハケメ	ハケメ	良	25.4	
6	2	14	Ⅰb	甕	口縁部	S・C・K	7.5YR7/6橙	7.5YR7/6橙	ハケメ	ハケメ	良	15.8	
6	3	11	Ⅰb	高杯	脚部	S・C・K	7.5YR6/3にぶい褐	7.5YR6/4にぶい橙	ミガキ	ミガキ	良		
6	4	18	Ⅰb	甕	口縁部	S・C・K	10YR4/2灰黄褐	10YR4/2灰黄褐	ハケメ，ナデ	ハケメ，ナデ	良	15.2	
6	5	20	Ⅰb	壺	頸部	S・C・K	7.5YR5/6明褐	10YR4/6褐		ハケメ	良	9.2	
6	6	19	Ⅰb	壺	胴部	S・C・K・U	7.5YR3/4暗褐	7.5YR1.7/1黒	ハケメ		良		輪積痕帯（沈線）

26トレンチからは，遺構及び遺物は検出されなかった。27トレンチ・28トレンチからも，遺構は検出されなかったが，成川式土器片が検出された。迫田遺跡と同様，両トレンチともに50cm×50cmの小グリッドを設定し，先行的に掘り下げを行ったのみで埋め戻し，詳細については全面発掘調査で調査することにした。先行グリッドから出土した遺物については，胴部片が大半であり，図化できるものがなかったので本章では割愛する。26トレンチから遺構・遺物が検出されなかったが，地形等を考慮して，分布調査で把握されているより遺跡の範囲が狭くなると判断した。

第７節　確認調査のまとめ

平成８年度の分布調査では，是井遺跡・迫田遺跡・徳村遺跡・前田遺跡・森田遺跡の５遺跡の所在が確認されたが，是井遺跡については，確認調査開始前に調査の対象から外れることが判明したため，今回の調査では迫田遺跡・徳村遺跡・前田遺跡・森田遺跡の４遺跡が調査の対象となった。

その結果，迫田遺跡・森田遺跡で遺物包含層が確認され，徳村遺跡・前田遺跡の２遺跡は遺物散布地と判断した。迫田遺跡・森田遺跡については，確認調査の結果，分布調査で把握されていたよりも，遺跡の範囲が狭くなると判断した。

第４表　確認調査トレンチ結果表

トレンチ	遺構	遺構番号	時代	遺物	遺物の種類	時代	トレンチプラン（m）	包含層までの深さ（cm）
1	×			×			2×3	
2	×			×			2×3	
3	×			×			2×3	
4	×			×			2×4	
5	×			×			2×4	
6	×			○	成川式土器	古墳時代	2×4	212
7	×			×			2×4	
8	×			×			2×4	
9	×			×			2×4	
10	×			×			2×4	
11	×			○	成川式土器，現代遺物	古墳時代，現代	2×3	152
12	×			×			2×4	
13	×			×			2×3	
14	×			○	成川式土器，現代遺物	古墳時代，現代	2×3	244
15	×			×			2×3	
16	×			×			2×3	
17	×			×			2×4	
18	×			○	成川式土器，現代遺物	古墳時代，現代	2×4	424
19	×			○	成川式土器，現代遺物	古墳時代，現代	2×3	464
20	×			○	成川式土器，現代遺物	古墳時代，現代	2×4	459
21	×			×			2×3	
22	×			×			2×4	
23	×			×			2×4	
24	×			×			2×4	
25	×			×			2×3	
26	×			×			2×4	
27	×			○	成川式土器	古墳時代	2×4	552
28	×			○	成川式土器	古墳時代	2×3	520

※地表面から遺物包含層までの深さがこのように異なるのは，鹿道造成時の盛土の厚さに差異があることによるものである。

第Ⅳ章　迫田遺跡の発掘調査

第１節　発掘調査の概要

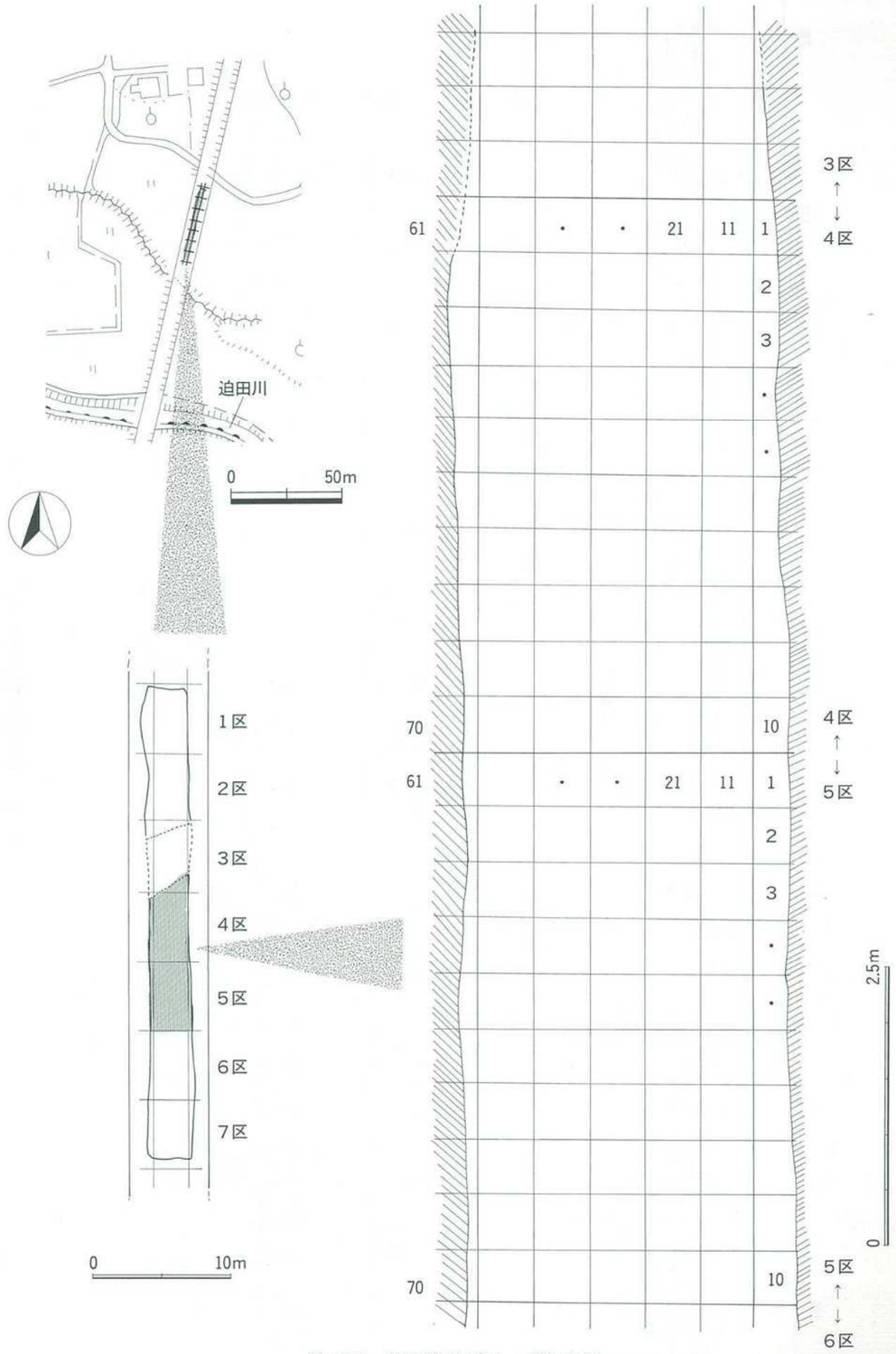
発掘調査は，平成11年度に実施した。調査期間は，平成11年５月17日より平成11年７月23日まであった。確認調査の結果，分布調査で確認された範囲より，遺跡の範囲が狭くなると判断したため，その結果に沿って調査区域を設定した。発掘調査は，調査区域内に，約2.5ｍ×５ｍのグリッドを１区から７区まで任意に設定し，重機を使用して表土を削除した後，作業員の手掘りで行った。ただし，３区には水道管が走っていたため，水道管周辺の調整は実施できなかった。

３区の一部と４・５区からは，遺物が土器溜り状に大量に出土したため，同区内に50cm×50cmの小グリッドをさらに設定し，出土した遺物はグリッドごとに一括して取り上げた。

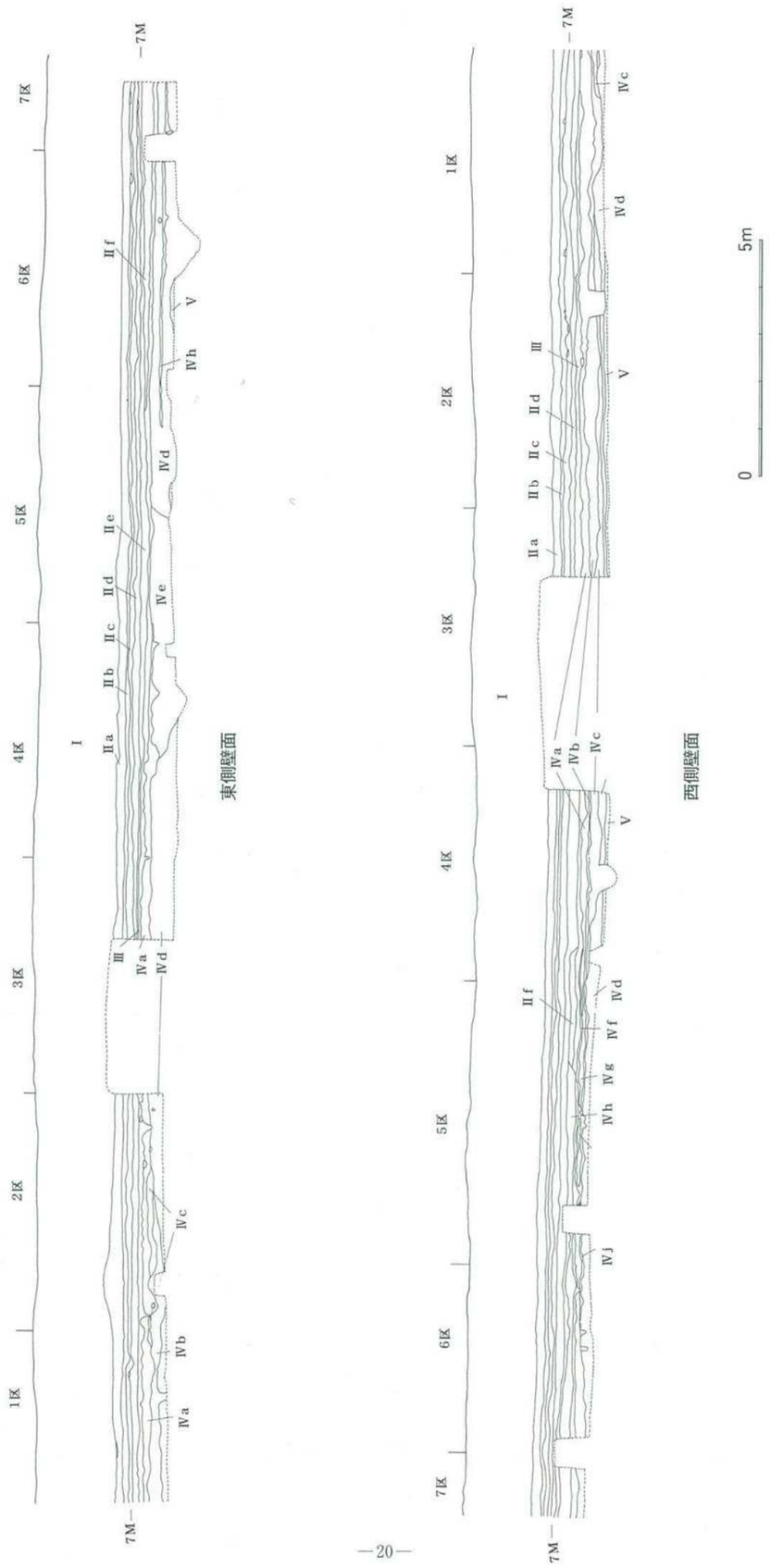
第２節　層　序

場所により若干の相違はあるが，基本的には以下のとおりである。

Ⅰ　層	鉄道（旧 JR 大隈線）造成時の盛土。シラス土を基本とし，様々な土を含む。数枚に分層が可能である。（19～22区のみ４枚に細分。）
Ⅱa 層	灰黄褐色シルト質砂層（やや粘性あり・少量の礫含む）
Ⅱb 層	暗赤褐色土層（細砂・やや粘性あり・少量の礫含む）
Ⅱc 層	灰黄褐色土層（細砂・やや粘性あり・少量の礫含む）
Ⅱd 層	暗褐色土層（細砂・やや粘性あり・少量の礫含む）
Ⅱe 層	褐色土層（細砂・やや粘性あり・少量の礫含む）
Ⅱf 層	にぶい赤褐色シルト質砂層（少量の礫含む・堆積は一部に限られる）
Ⅲ　層	暗赤褐色土層（細砂・非常に硬質・鉄分を多く含む）
Ⅳa 層	褐色シルト質砂層（細砂・やや粘性あり・しまる）
Ⅳb 層	赤褐色土層（細砂・鉄分を多量に含む）
Ⅳc 層	褐色土層（細砂・成川式土器包含層・Ⅳｄ層より新しい？）
Ⅳd 層	暗褐色土層（細砂・成川式土器包含層）
Ⅳe 層	黒褐色土層（細砂･Ⅳd 層と同時期の土層と考えられるが炭化物を多く含み成川式土器が集中して出土する。限られた範囲に堆積する。）
Ⅳf 層	暗赤褐色シルト質砂層（鉄分含む・堆積は一部に限られる）
Ⅳg 層	赤褐色シルト質砂層（やや鉄分含む・堆積は一部に限られる）
Ⅳh 層	赤灰色シルト質砂層（やや鉄分含む・堆積は一部に限られる）
Ⅳi 層	褐色シルト質砂層（やや粘性あり・堆積は一部に限られる）
Ⅳj 層	赤褐色土層（細砂・鉄分含む・堆積は一部に限られる）
Ⅴ　層	褐色土層（粗砂）



第７図　迫田遺跡グリッド設定図



第８図　迫田遺跡土層堆積状況

第３節　迫田遺跡の遺構

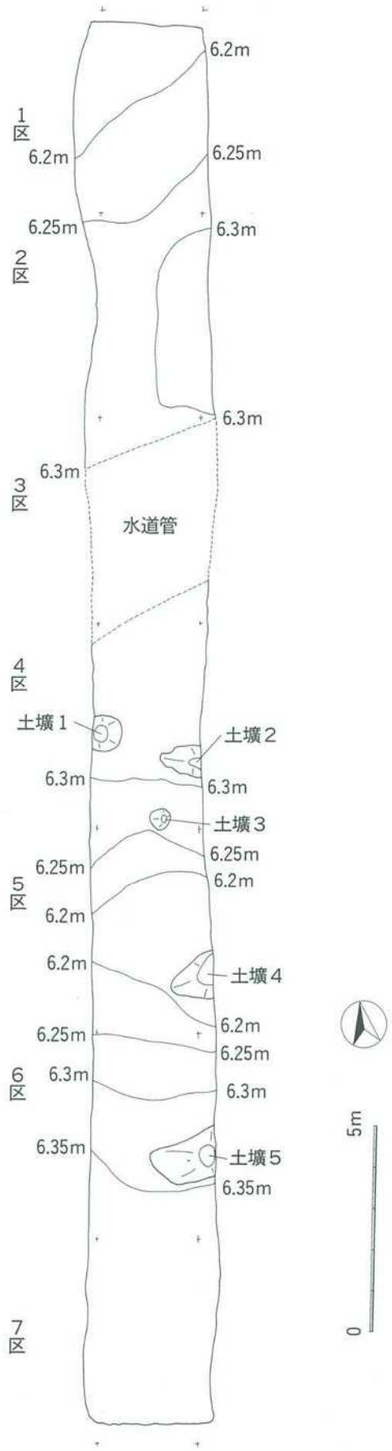
迫田遺跡からは，土坑が検出されたが，いずれも遺物を伴わず，時期や用途については判然としない。他には，確とした遺構は検出されていない。Ⅴ層上面の地形については，若干の高低差はあるもの，おおむね平坦な地形である。

土坑

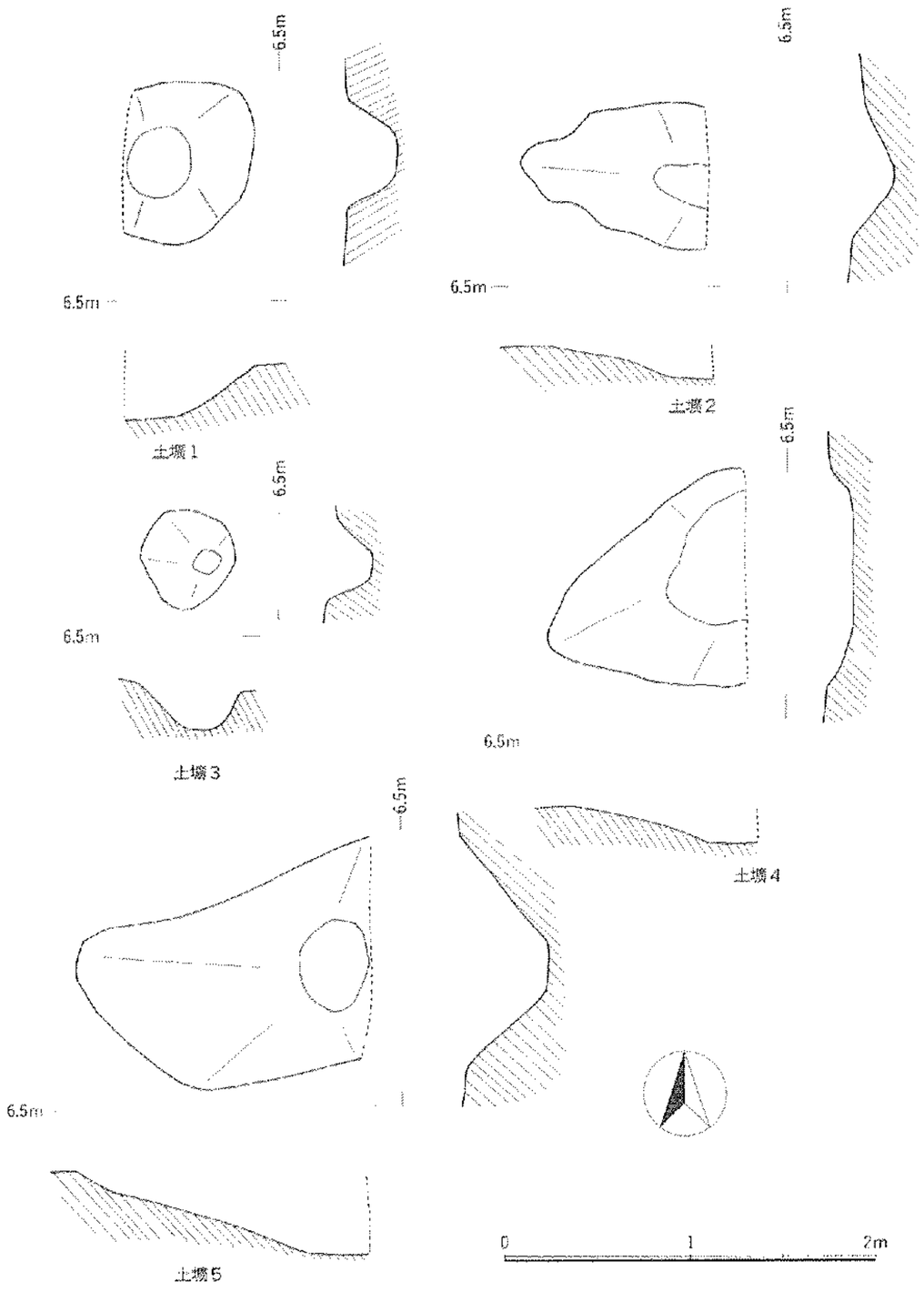
４～６区より，５つの土坑が検出された。いずれも埋土としてⅣ層が充填しているが，遺物は検出されず，時期や用途については判然としない。また，形状・配列等から何らかの意味を見出すのは困難で，詳細は不明である。

第５表　迫田遺跡土坑一覧表

名　称	区	埋　土	遺　物
土坑１	４区	Ⅳc 層	－
土坑２	４区	Ⅳe 層	
土坑３	４区	Ⅳc 層	
土坑４	５区	Ⅳd 層	－
土坑５	６区	Ⅳj 層	－
名　称	プラン	径（cm）	深さ（cm）
土坑１	円　形	70－88	24
土坑２	楕円形	80－104	24
土坑３	円　形	52－52	24
土坑４	楕円形	104－120	14
土坑５	楕円形	120－160	46



第９図　迫田遺跡Ⅴ層上面の地形及び遺構配置図



第10図　迫田遺跡検出土坑

第４節　包含層出土遺物

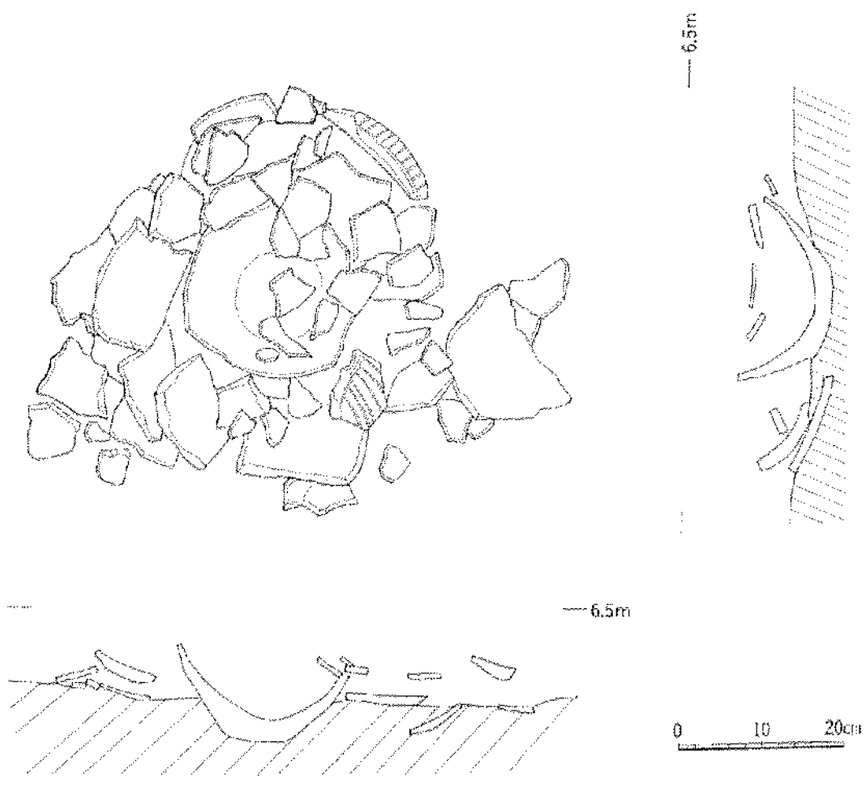
迫田遺跡からは、第２節で記したように，成川式土器の遺物包含層（Ⅳ層）が検出された。

①土器

迫田遺跡からは，Ⅳ層より成川式土器が検出された。出土量は極めて多いが，その大半は，４・５区から土器溜り状に検出された。単一土層からの出土であること，土器溜り状の出土が多いことなどから，時間的な差異に拠らず，形態や器種に主眼を置いて分類を試みた。明確な特徴が無く時代及び型式分類が困難な土器片については，土器少片として一括して取り扱い，各地区ごとに点数と重量を測定するに留めた（第６表）。

また，後述する遺物98については，比較的まとまって出土したため，出土状況図を付しておく。

その他土師器・須恵器片・陶磁器片等の出土が見られたが，小片であり，詳細は不明であった。



第11図　遺物98出土状況

第6表　迫田遺跡出土土器小片等点数・重量表

甕

地区	口縁部		口縁部（炭化物を有するもの）		胴部		胴部（炭化物を有するもの）		底部		脚部	
	点数	重さ(g)	点数	重さ(g)	点数	重さ(g)	点数	重さ(g)	点数	重さ(g)		
1					49	2,200	3	50				
2	56	1,015	2	130	1	80	18	345				
3	45	900	1	30			29	559	45	3,450	24	1,200
4	750	16,740	14	590			158	4,450	62	6,880	81	5,400
5	227	5,560	1	50	8	400	71	1,600	73	9,340	56	3,430
6	19	350			7	150	37	700	9	600	14	450
一括	49	1,120	17	650	3	270	55	1,350	44	3,350	85	2,410

壺

地区	口縁部		頸部		頸部（炭化物を有するもの）		胴部		胴部（炭化物を有するもの）		底部	
	点数	重さ(g)	点数	重さ(g)	点数	重さ(g)	点数	重さ(g)			点数	重さ(g)
1												
2			1	10	3	130			8	230		
2	17	500							14	700	21	2,500
4	99	3,260					4	156	85	3,550	25	3,120
5	8	335	7	430					22	1,040	1	70
6											1	50
一括	16	600	1	45			1	50			3	120

鉢

地区	口縁部		底部	
	点数	重さ(g)	点数	重さ(g)
1				
2				
3			2	100
4			10	335
5	9	440	17	1,260
6			3	450
一括			13	960

高坏

地区	坏部（口縁部）		坏部（口縁部以外）		脚部	
	点数	重さ(g)	点数	重さ(g)	点数	重さ(g)
1	2	30	20	380	5	170
2			8	265	4	110
3	5	390	7	445	2	680
4	2	920	48	2,300	11	510
5	23	620	15	1,070	13	360
6	1	20	2	60		
一括	1	10	6	20	8	450

壺

地区	口縁部		頸部		底部	
	点数	重さ(g)	点数	重さ(g)	点数	重さ(g)
1	5	73				
2	1	25			3	45
3	1	10				
4	1	16	1	15		
5						
6						
一括						

こしきチップ

地区	点数	重さ(g)
1		
2		
3	3	95
4		
5		
一括		

土師器

地区	口縁部		胴部		底部	
	点数	重さ(g)	点数	重さ(g)	点数	重さ(g)
1	2	20	23	400		
2	1	5	7	100		
3	4	25	4	35		
4	10	90	142	2,200		
5	7	80	52	770		
一括			31	175		

須恵器

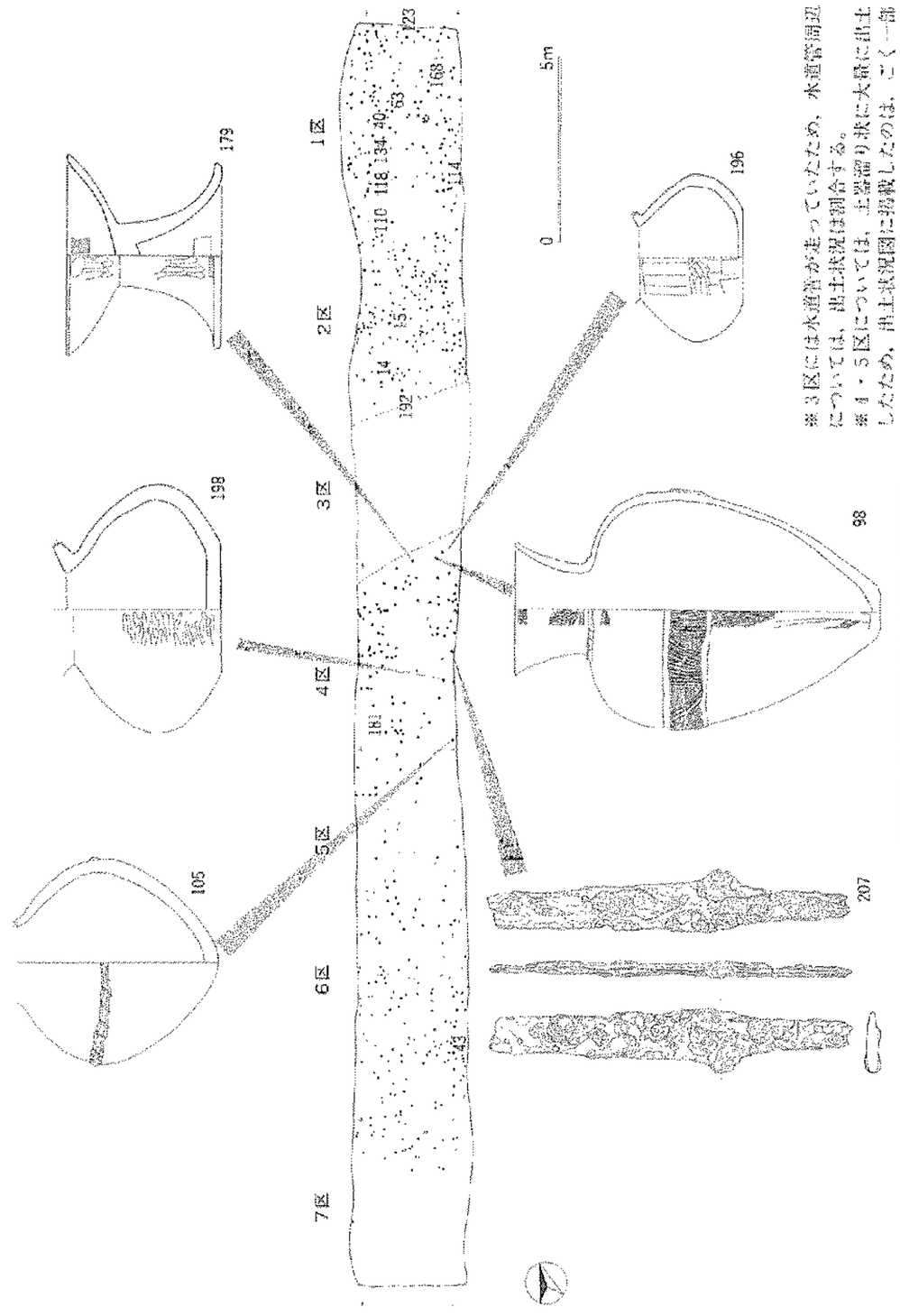
地区	口縁部		胴部		底部	
	点数	重さ(g)	点数	重さ(g)	点数	重さ(g)
1	2	1,005				
2	1	405	2	100		
3						
4			1	60		
5						
一括			2	100	3	170

陶器

地区	口縁部		胴部		底部	
	点数	重さ(g)	点数	重さ(g)	点数	重さ(g)
1						
2						
3						
4						
5						
一括	24	960	73	4,800	41	2,900

不明品

地区	口縁部		胴部		底部	
	点数	重さ(g)	点数	重さ(g)	点数	重さ(g)
1	1	10	335	5,500		
2			566	22,654		
3			871	16,250		
4			5,391	158,360		
5	20	340	2,800	80,700		
一括	1	300				



※3区には水道管が走っていたため、水道管周辺については、出土状況は別合する。
※4・5区については、上器溜り状に大量に出土したため、出土状況図に彩載したのは、ごく一部のもののみである。

第12図　迫田遺跡出土状況（平面図）

1　成川式土器（第13図１～第44図206）

成川式土器はまず器種ごとに大別し，その後特徴や残存部位等の属性により細別した。

甕形土器（第13図１～第29図94）

甕形土器は，紙面レイアウトの都合上，比較的大型になるものを甕大類，それ以外のものを甕類と大別し，それぞれ形態や属性といった特徴ごとに細別を行った。

甕大１類（第13図１）

甕形土器の中で，復元すると比較的大型になるものを甕大類とした。ただし，この分類は，土器の属性に沿った細分ではなく，紙面レイアウトを優先した細分である。

１は，肩が張る胴部と，くの字状に外反する口縁部を有する器形である。口縁部と胴部の境目には，１条の突帯を有する。この突帯は，指によるつまみ整形がなされたいわゆる格状突帯である。口縁部と胴部の境目内部には，明瞭な稜線を有する。胴部下位は先端へ向けてすぼまり，底部先端は，内面がわずかに凹む小型の脚台を有する。（この脚台は安定が非常に悪く，そのまま設置しただけでは立たせることはできない。）器面調整は，器外面にハケメ状原体の工具による調整（いわゆるハケメ）が，器内面には横方向のナデが観察できる。小型の脚台には，指による調整が観察できる。

甕大２類（第13図２）

２は，若干肩が張る胴部と，胴部よりゆるやかに移行し，長くゆるやかに外反する口縁部を有する。胴部下位はすぼまり，先端には脚台を有する。脚台は，先端へ向けて真っ直ぐ下りる形状を有し，脚台内部は，天井部がわずかに突出している。器面調整は，表面が摩耗しており明確ではないが，口縁部外面にハケメが観察できる。脚台内部には指による調整が観察できる。

甕大３類（第13図３）

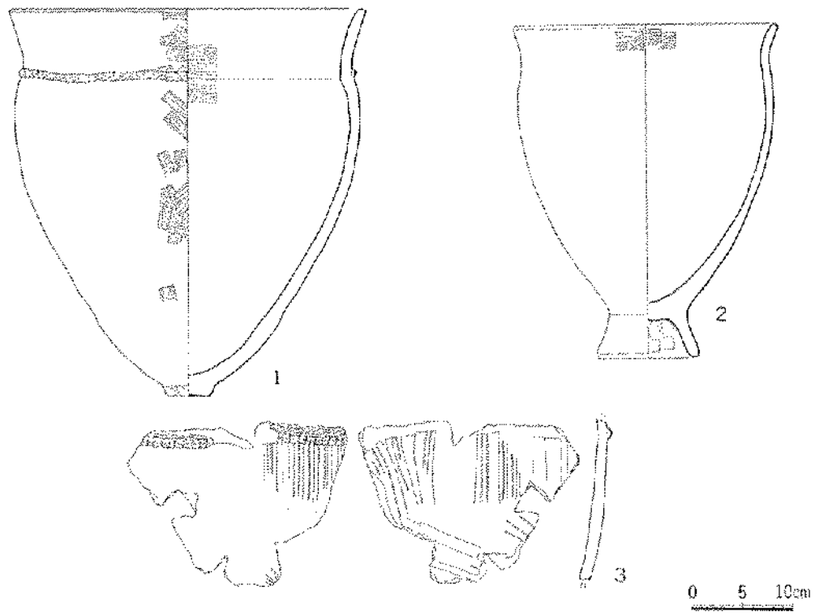
３は胴部片であり，詳細な器形は不明である。外面に１条の突帯が残存している。突帯には棒状の工具によると思われる刻目が施されている。器面調整は，器内外面ともにハケメが観察できる。

甕口Ａ１類（第14図４・５，第15図６）

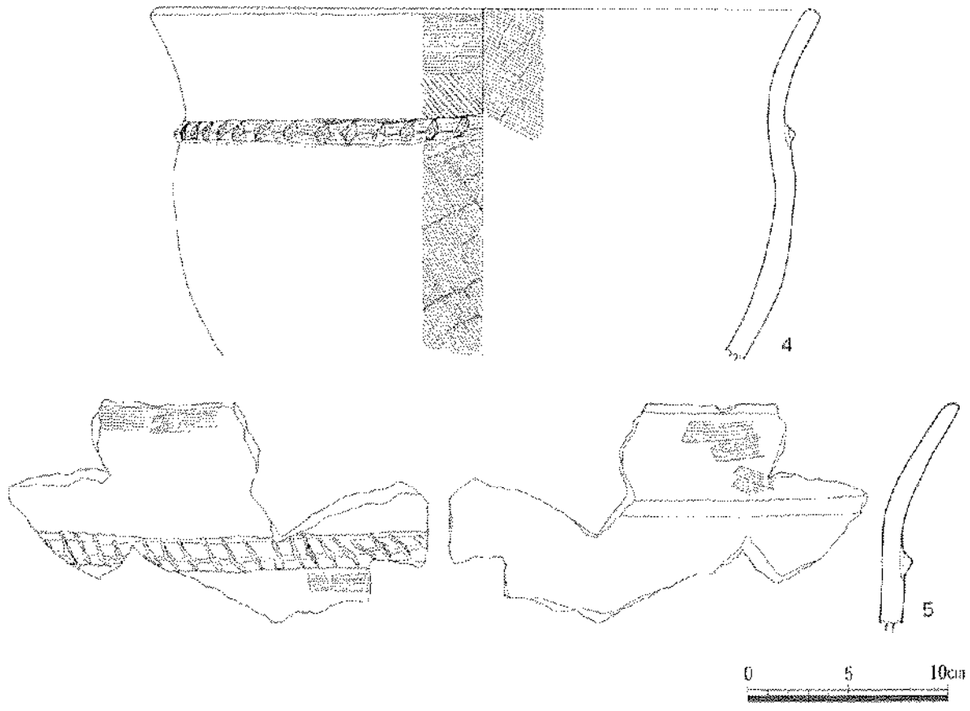
甕形土器のうち，甕大類以外のものについては，甕類として分類したが，さらに残存部位ごとに大別し，特徴ごとに細別を試みた。

甕形土器で，口縁部周辺が残存しているものを甕口類とし，さらに，口縁部が外反するものを甕口Ａ類とした。甕口Ａ１類は，口縁部と胴部の境目に１条の刻目突帯を有し，さらに，刻目の内部に繊維圧痕が観察できるものである。

４は，くの字状に外反する口縁部である。１条の刻目突帯を有するが，刻目内部には繊維圧痕が観察できる。器面調整は，突帯上部に，斜方向のハケメが，その上位に横方向のナデが観察できる。胴部には斜上方向のハケメが観察できる。器内面口縁部と胴部の境には，稜線は確認できないものの，口縁部には斜上方向のハケメが観察できる。５も外反する口縁部であるが，外反の度合いが他のものと比して強い。器外面の調整は，口縁部に横方向のハケメ・ナデが，突帯下位に横方向のハケメが観察できる。器内面の調整は，口縁部にハケメが観察できる。６は，くの字状に外反する口縁部である。１条の刻目突帯を有するが，刻目内部には繊維圧痕が観察できる。



第13図　迫田遺跡包含層出土遺物実測図１（甕大類）



第14図　迫田遺跡包含層出土遺物実測図２（甕口Ａ１類）

胎色は赤褐色を呈し，４・５とは胎土が異なると思われる。器外面の調整は，口縁部に横方向のナデが，突帯下位に斜方向のハケメが観察できる。器内面の調整は，口縁部に横方向のナデが観察できる。

甕口Ａ２類（第15図７・８）

甕口Ａ類のうち，口縁部と胴部の境目に１条の刻目突帯を有するものを甕口Ａ２類とした。

７は，若干肩が張る胴部から，くの字状に外反する口縁部へと移行する器形を有する。口縁部と胴部との境には，１条の突帯を有する。突帯には，斜方向の工具によると思われる細い刻目が施されている。内面の口縁部と胴部の境には，明瞭な稜線が観察できる。器外面の調整は，口縁端部に斜上方向ハケメと，その上位に横方向のナデが観察できる。器内面の調整は，口縁端部に横方向のハケメが観察できる。８は，先端へ向けて外反する口縁部である。口縁部と胴部との境には，１条の刻目突帯を有する。器外面の調整は，口縁部に横方向のナハケメが観察できる。器内面の調整は，口縁端部に横方向のハケメが観察できる。

甕口Ａ３類（第15図９）

甕口Ａ２類と同様，口縁部と胴部の境目に１条の刻目突帯を有するものであるが，口縁部の外反の度合いが弱く，くの字状には屈曲しないものを甕口Ａ３類とした。

９は，胴部より緩やかに外反する器形を有する。屈曲部に１条の突帯を有する。突帯には，斜方向の工具によると思われる刻目が施されている。内面の口縁部と胴部の境には，稜線が観察できる。器外面の調整は，ハケメが主体で，口縁部に横方向のナデが観察できる。器内面の調整は，口縁部に横方向のハケメが，胴部にはハケメが観察できる。

甕口Ａ４類（第16図10）

甕口Ａ２類・Ａ３類と同様，口縁部と胴部の境目に１条の刻目突帯を有するものであるが，口縁部が短く，胴部最大径が口縁部を上回るものを観察口Ａ４類とした。

10は，肩が大きく張る胴部から，くの字状に外反する短い口縁部へと移行する器形を有する。口縁部と胴部との境には，１条の突帯を有する。突帯には，斜方向の工具によると思われる刻目が施されている。内面の口縁部と胴部の境には，明瞭な稜線が観察できる。器外面の調整は，ナデ・ハケメが観察できる。器内面の調整は，口縁部に横方向のハケメが，胴部には斜方向のハケメが観察できる。

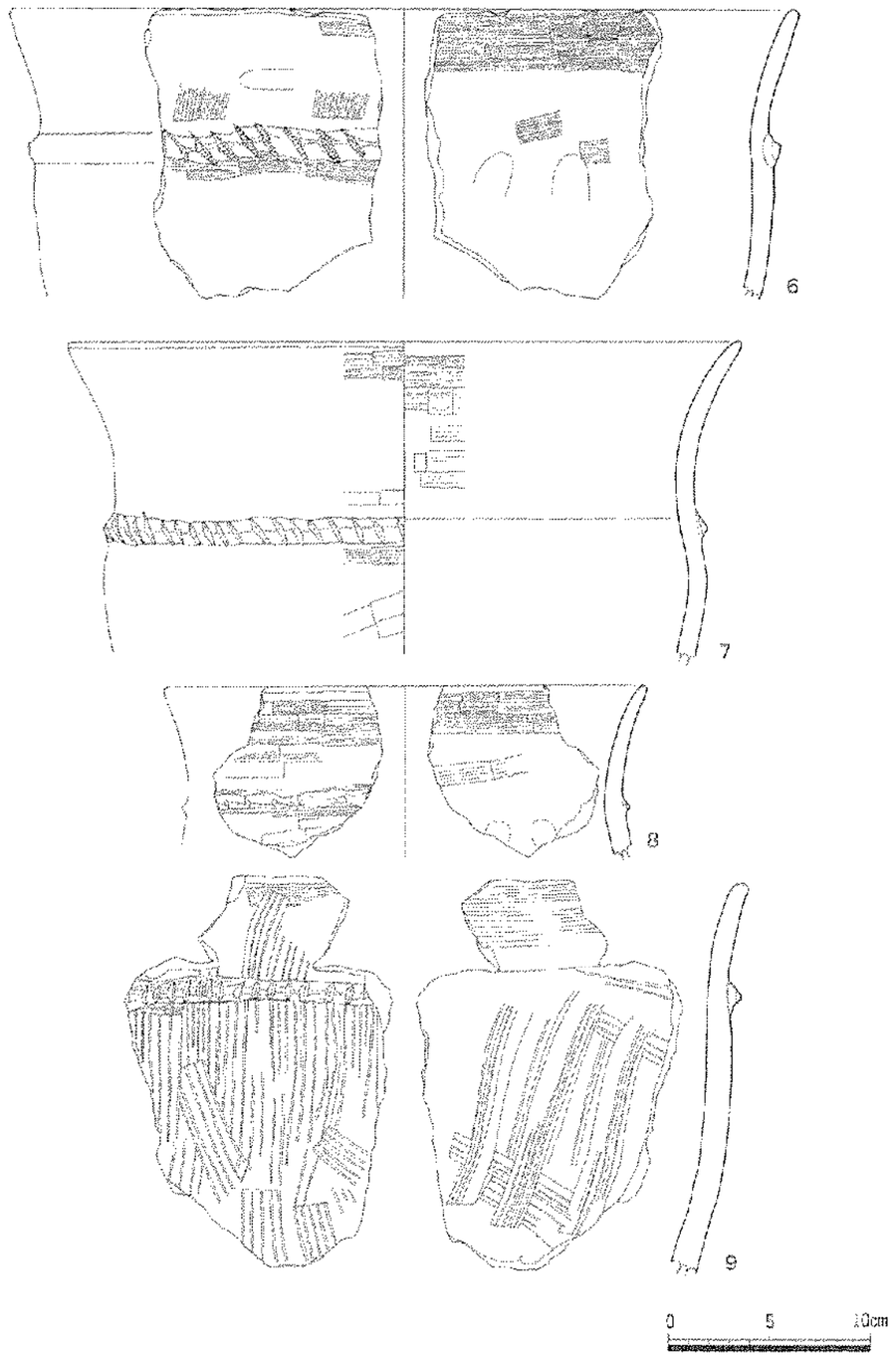
甕口Ａ５類（第16図11）

甕口Ａ類のうち，口縁部と胴部の境目に，指による調整をなされたいわゆる絡状突帯を有するものを甕口Ａ５類とした。

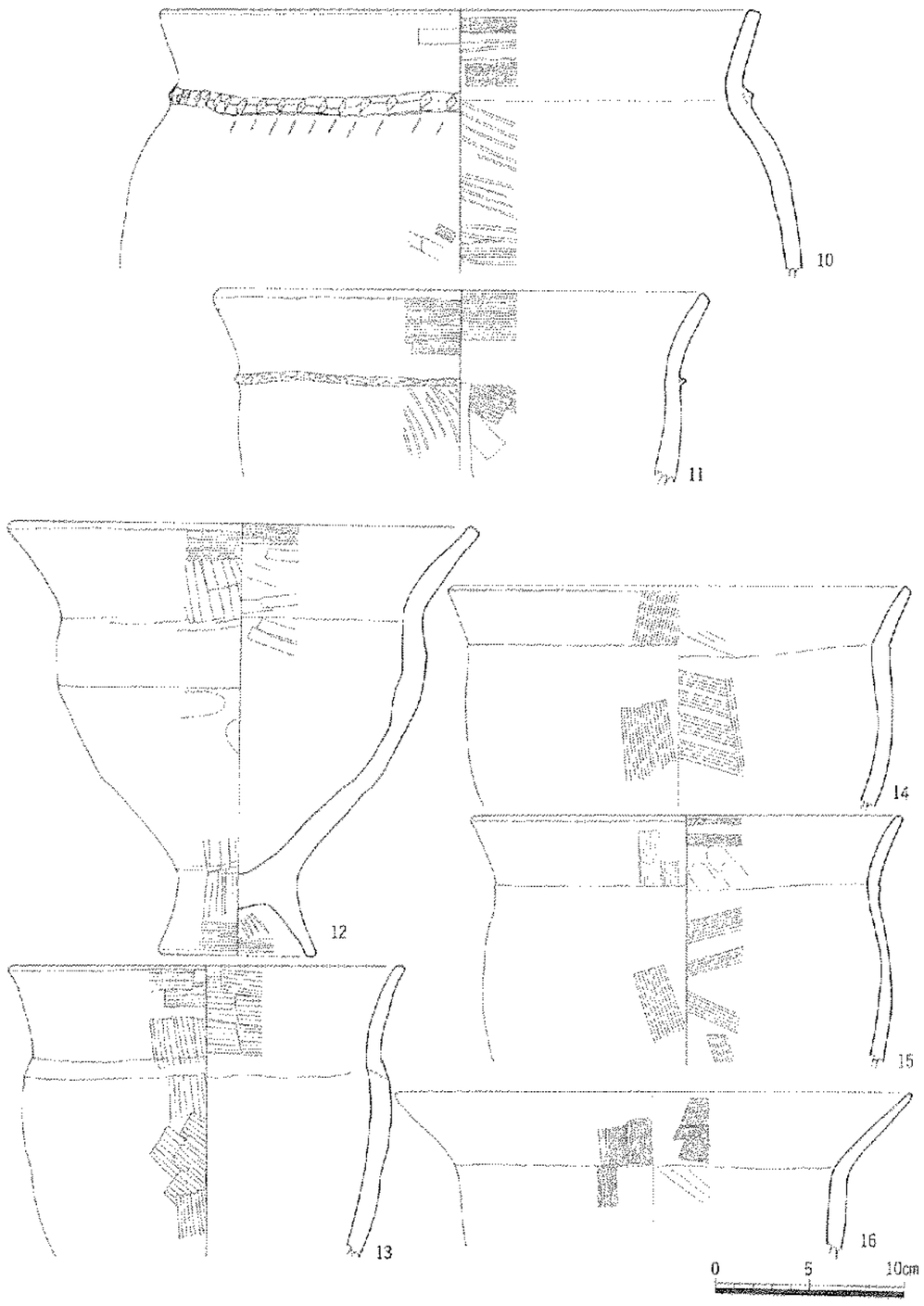
11は，大きくくの字状に外反する口縁部である。口縁部と胴部の境に絡状突帯を１条有する。器外面の調整は，口縁端部に横方向のナデ・ハケメが，突帯の下位に斜方向のハケメが観察できる。器内面の調整は，口縁部に横方向のハケメが，胴部には斜方向のハケメが観察できる。

甕口Ａ６類（第16図12～第17図18）

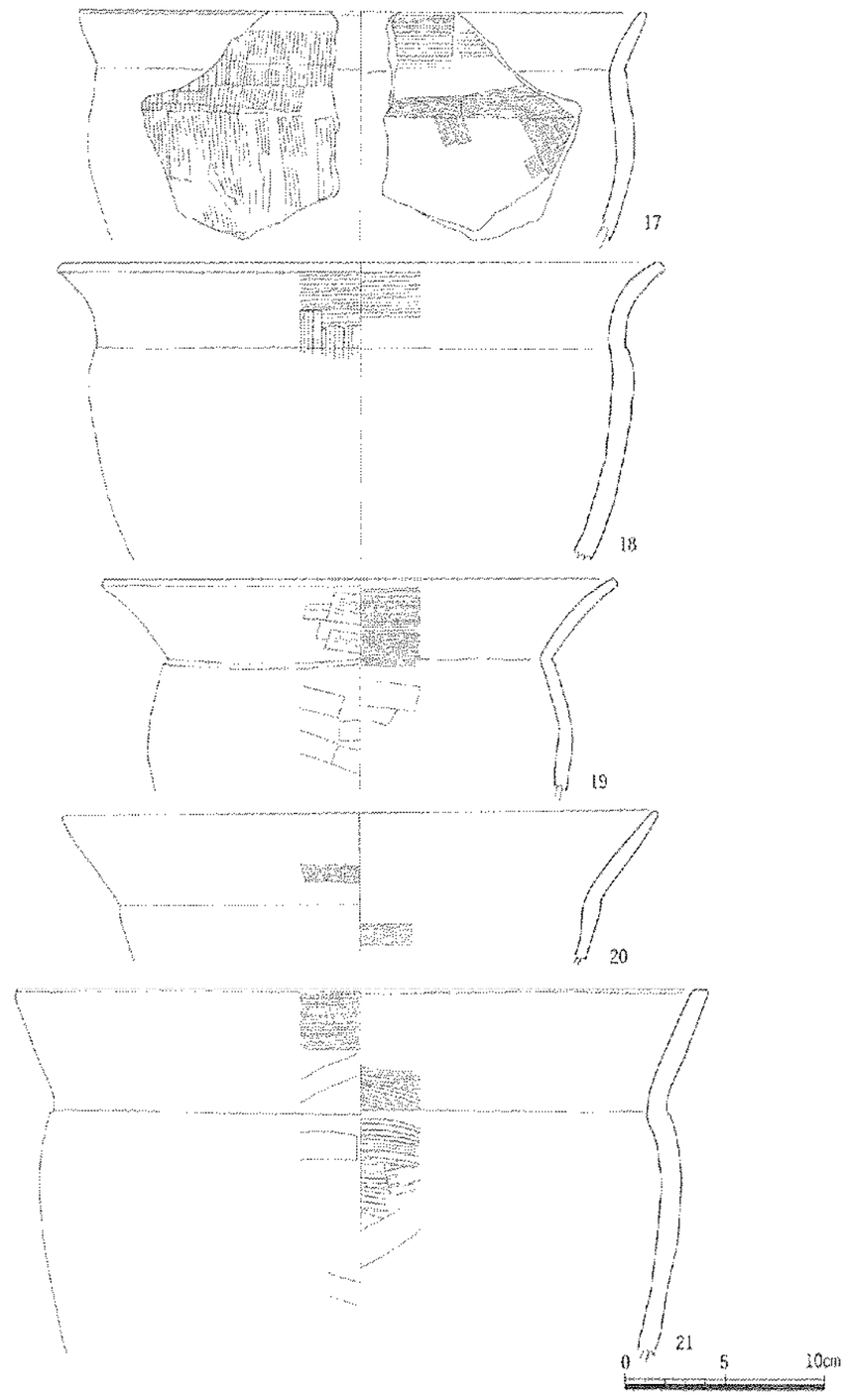
甕口Ａ類のうち，口縁部と胴部の境目に突帯を有さないもので，さらに，外面をハケメ状の工具で縦方向の擦過（いわゆるカキアゲ）を行うことによって胴部との境に段をもつものを，甕口Ａ６類とした。



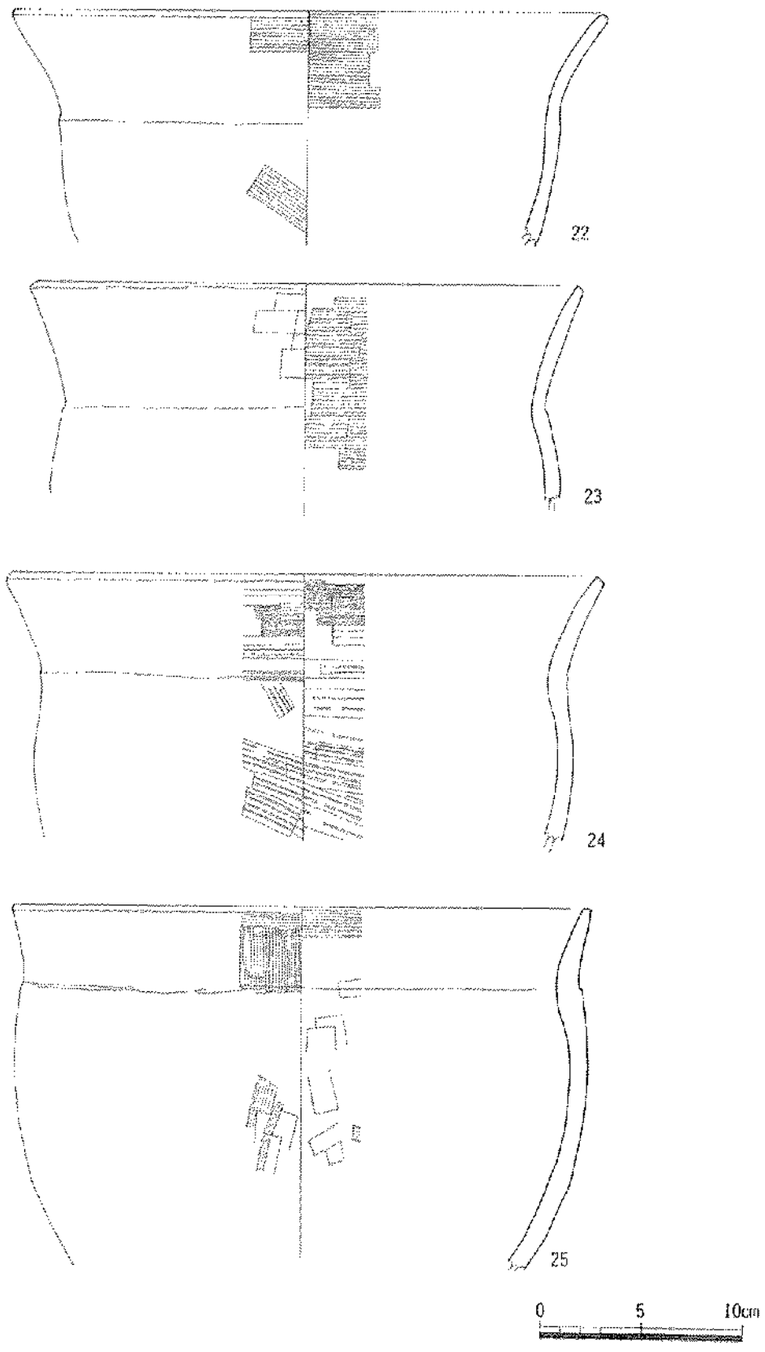
第15図　迫田遺跡包含層出土遺物実測図３（甕口Ａ１類～甕口Ａ３類）



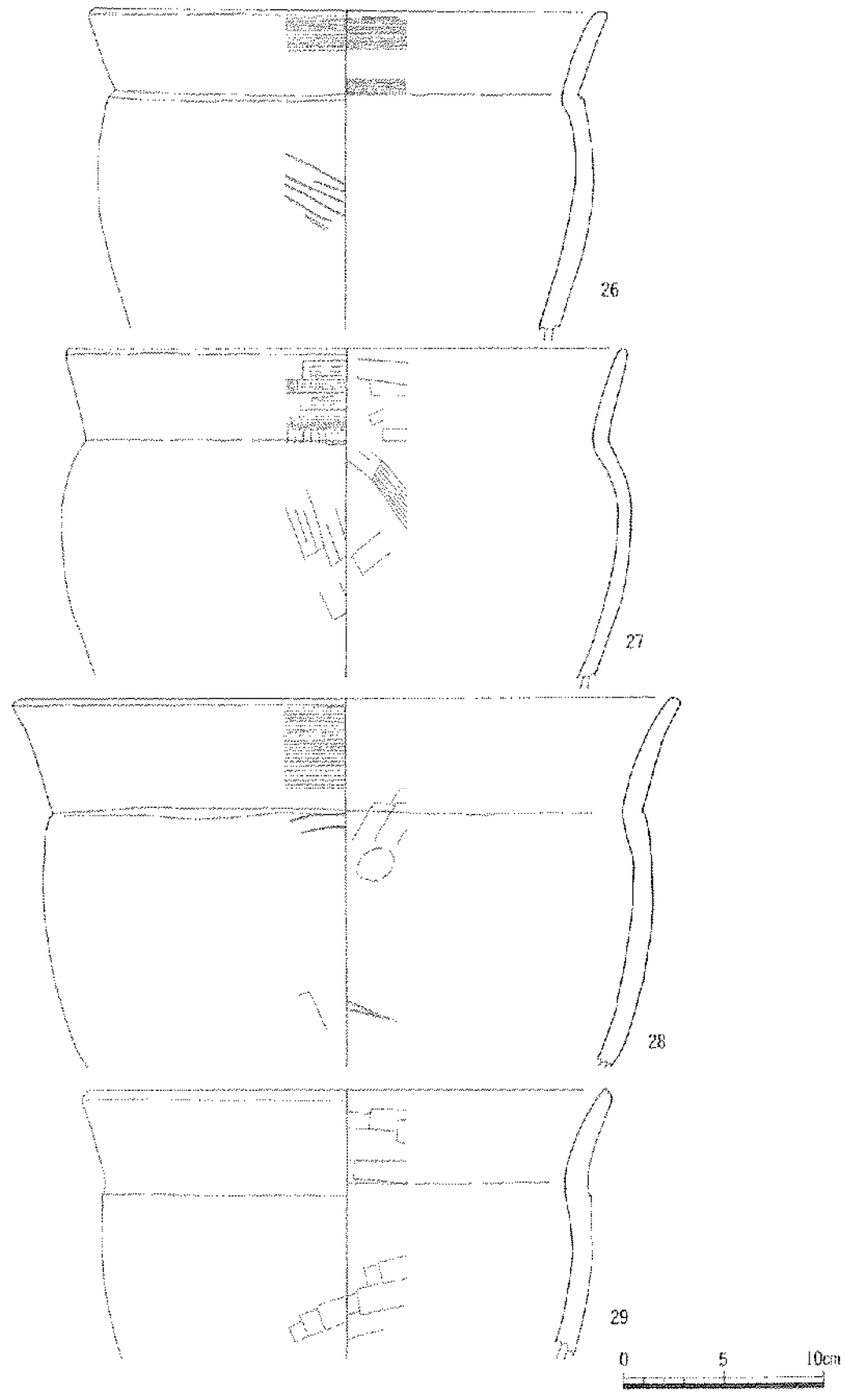
第16図　迫田遺跡包含層出土遺物実測図４（甕口Ａ４類～甕口Ａ６類）



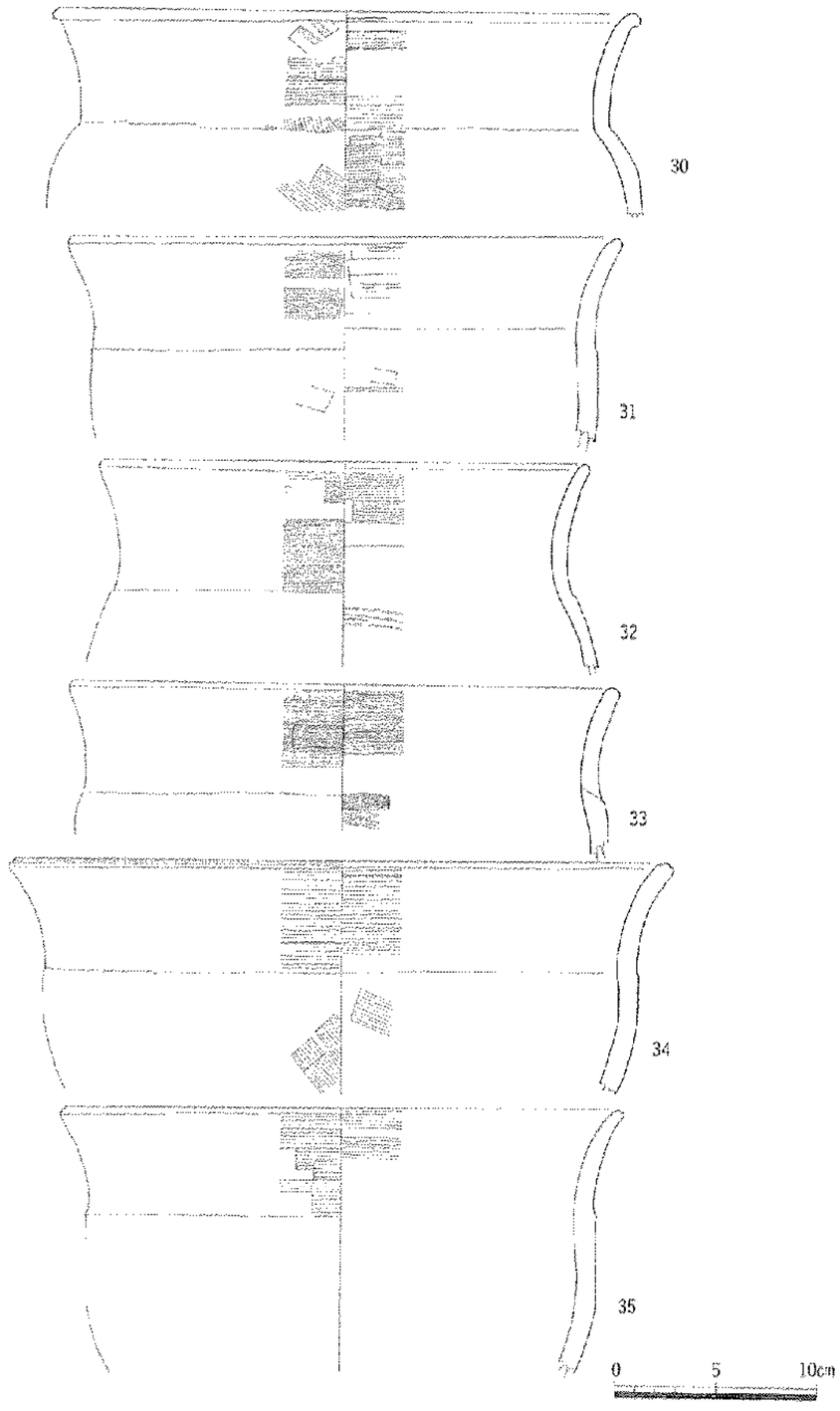
第17図　迫田遺跡包含層出土遺物実測図５（甕口Ａ６類～甕口Ａ７類）



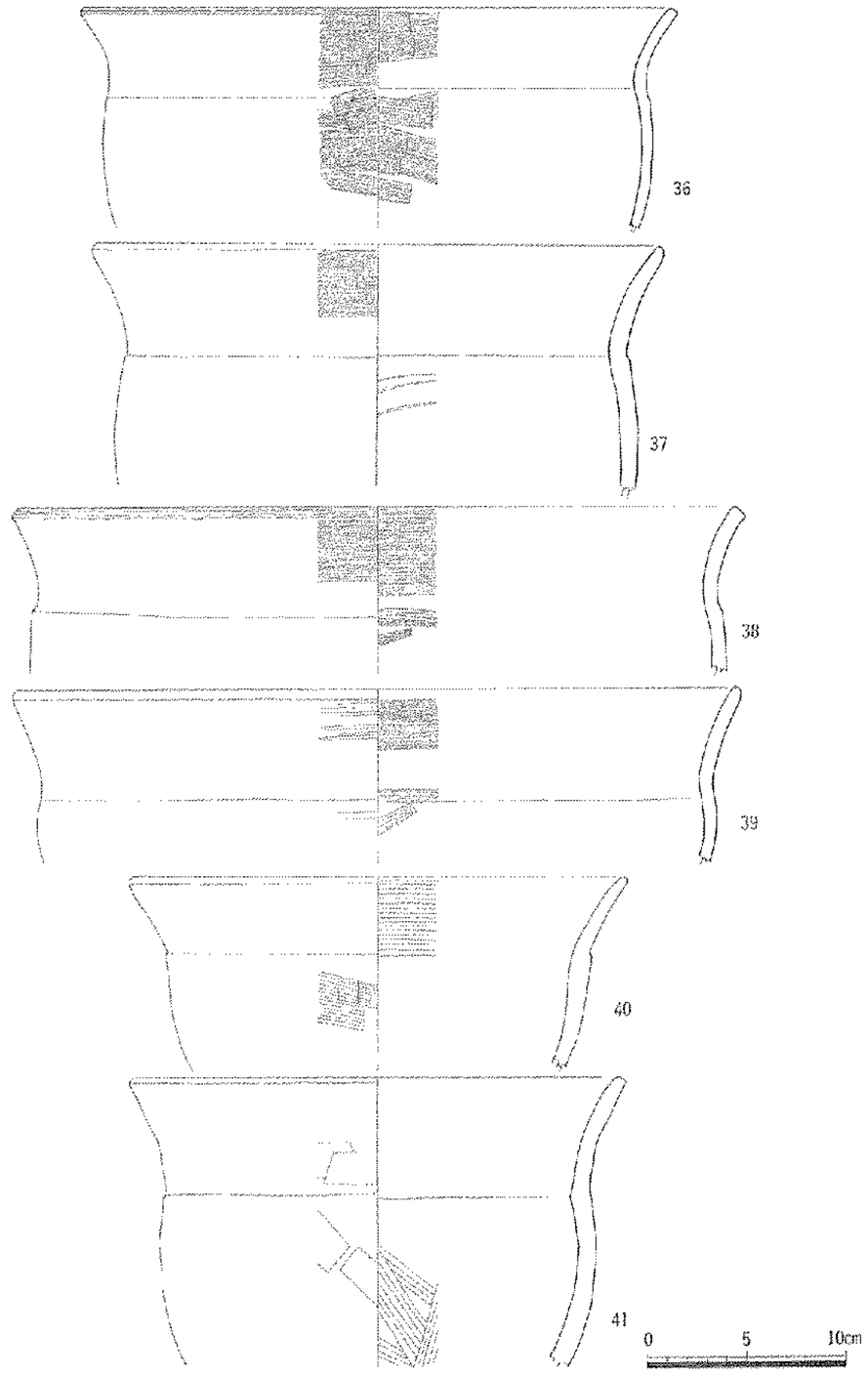
第18図　迫田遺跡包含層出土遺物実測図６（甕口Ａ７類）



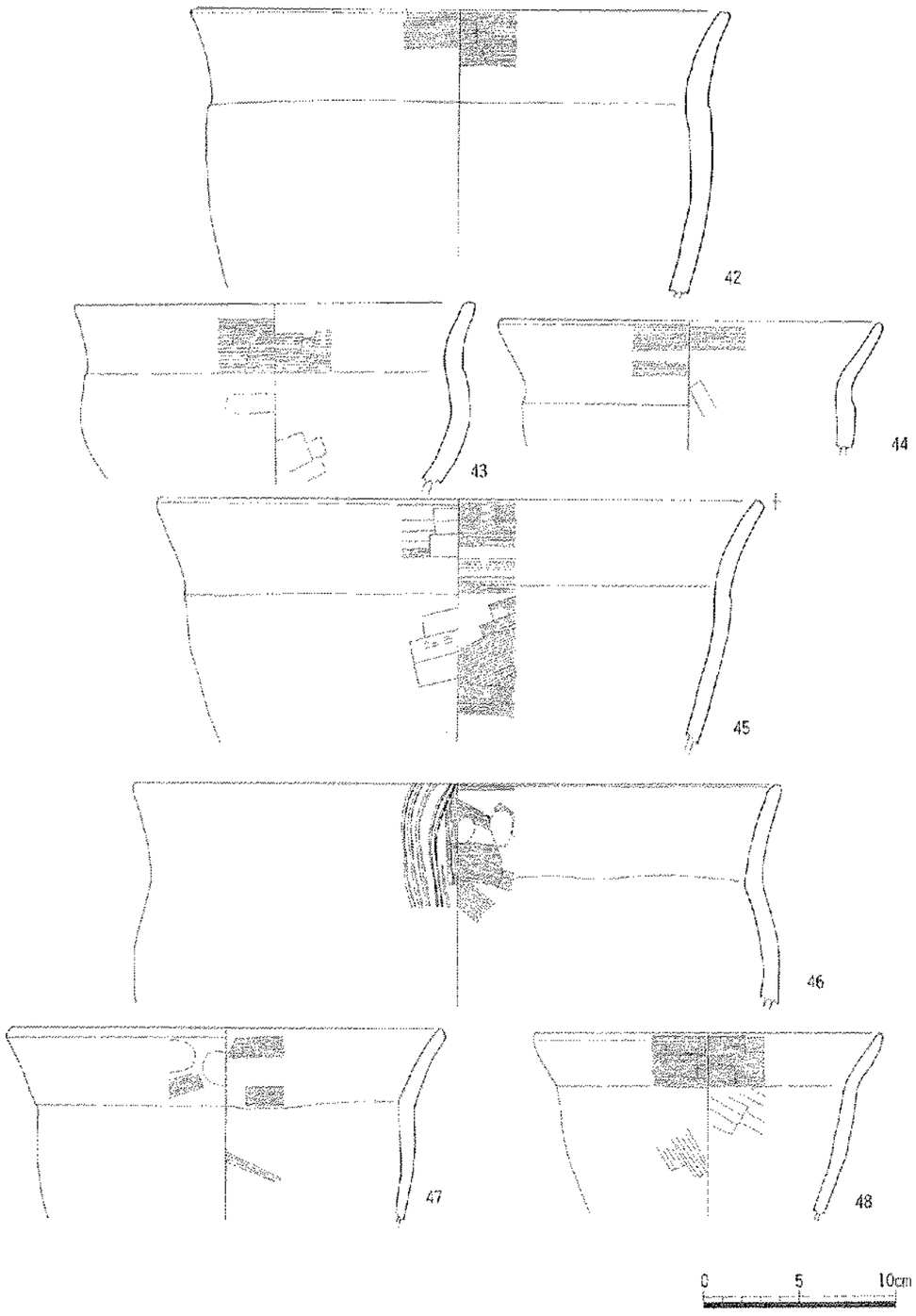
第19図　迫田遺跡包含層出土遺物実測図７（甕口Ａ７類）



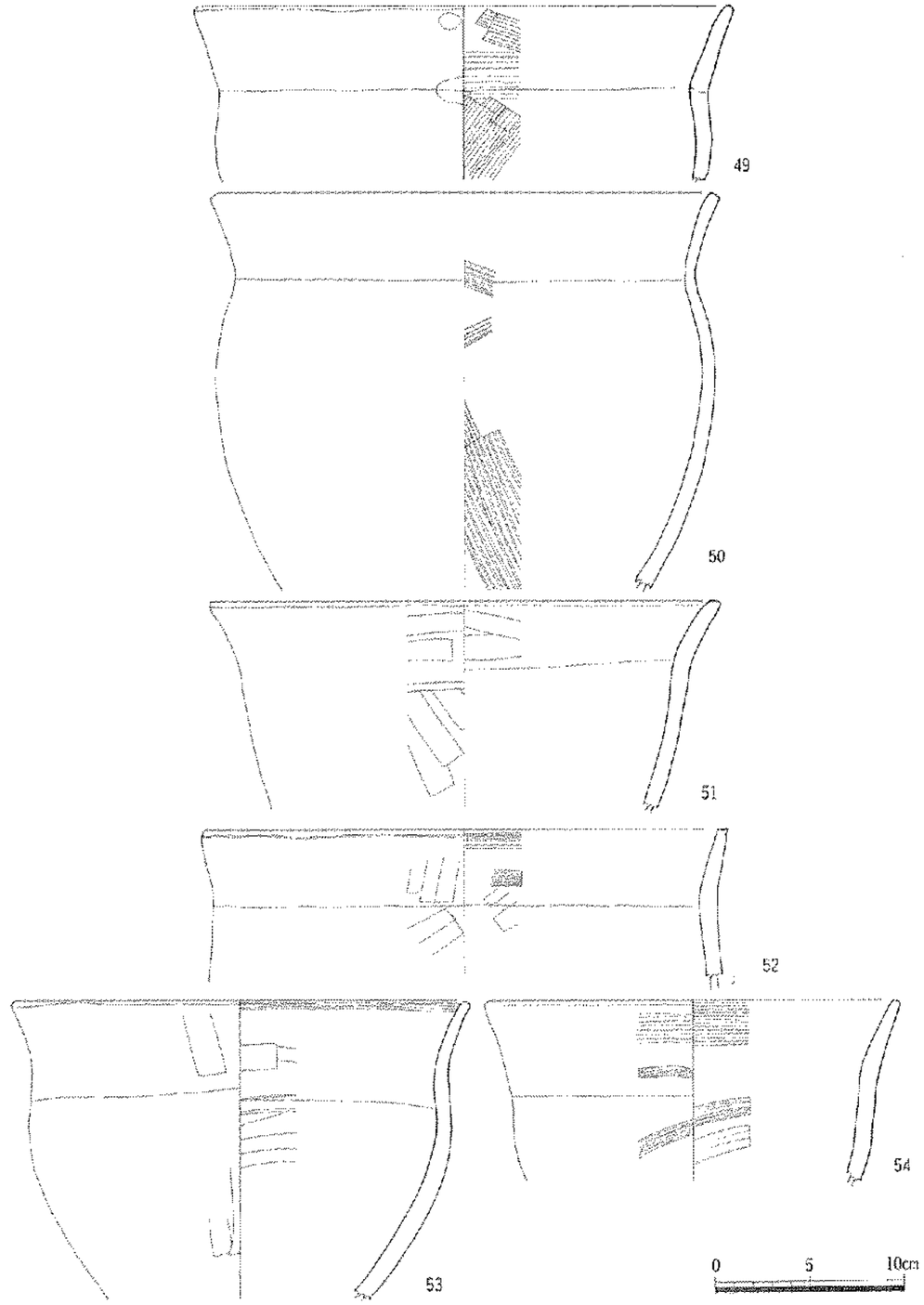
第20図　追田遺跡包含層出土遺物実測図８（甕口Ａ７類）



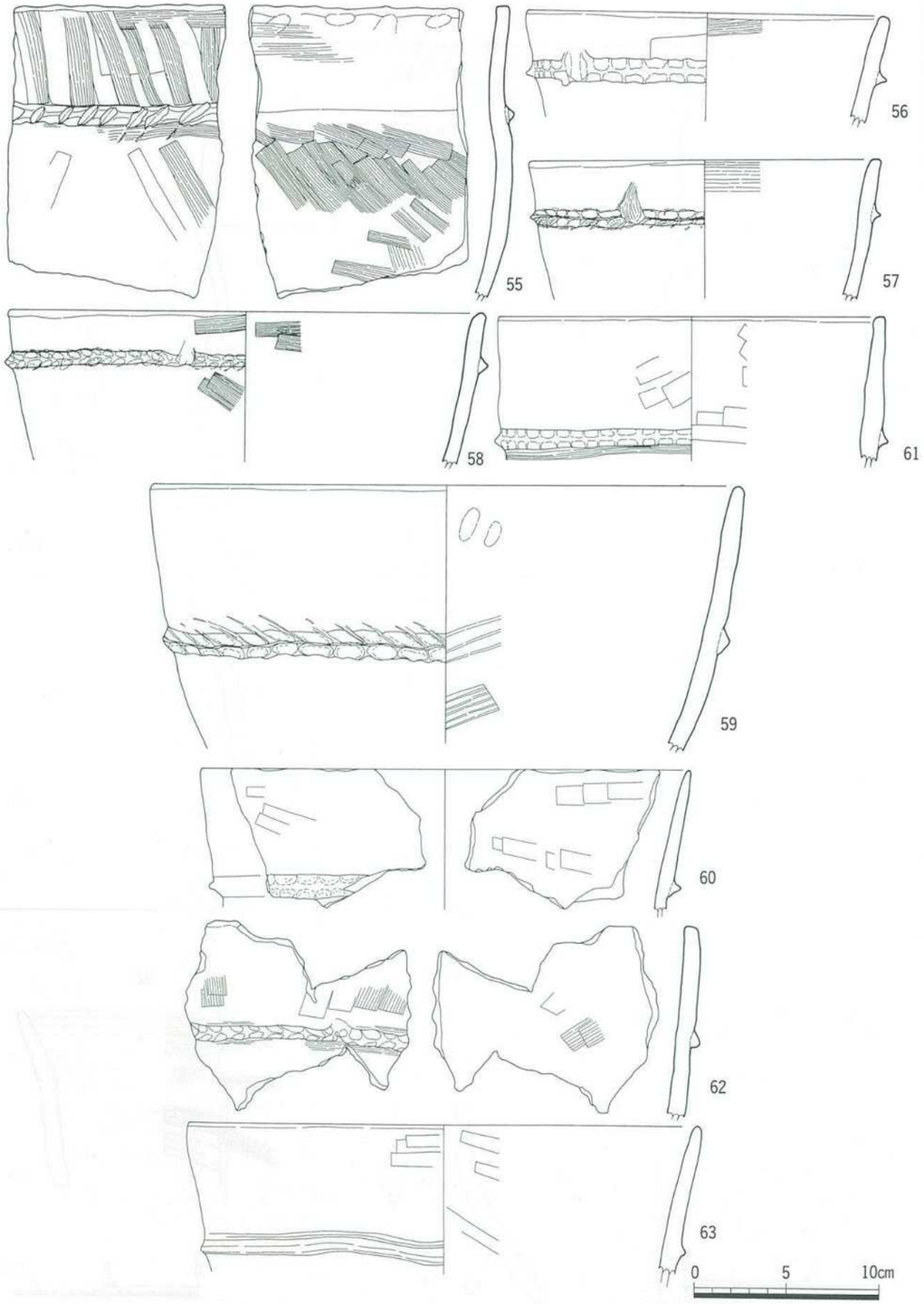
第21図　追田遺跡包含層出土遺物実測図９（甕口Ａ７類）



第22図　迫田遺跡包含層出土遺物実測図10（甕口Ａ７類～甕口Ａ９類）



第23図　迫田遺跡包含層出土遺物実測図11（甕口Ａ９類）



第24図　迫田遺跡包含層出土遺物実測図12（甕口Ｂ１類～甕口Ｂ３類）

12は，完形の小型の甕である。あまり長くない胴部と，大きく外反する口縁部を有する。器高は低く，口縁径が器高を上回る。脚台は底に向かい真っ直ぐに下りる形状で，内面天井部は若干突起する。大きくくの字状に外反する口縁部である。器面調整は，表面の磨耗が激しく判然としないが，外面口縁部にカキアゲが観察できる他，胴部に指押さえが，脚台にハケメ・ナデがそれぞれ観察できる。内面の調整は，口縁端部に横方向のナデが観察できる他，ハケメが観察できる。13～15，17・18はいずれもくの字状に外反する口縁部である。16は他のものと比して屈曲の度合いが強く，口縁部は外傾して開く。ハケメ状工具による打ち込み痕はあまり明確でない。いずれのものも，内面胴部との境に明確な稜線が観察できる。器面調整は，内外ともにナデ・ハケメが観察できるものが多い。

甕口Ａ７類（第17図19～第22図45）

甕口Ａ６類と同様，口縁部と胴部の境に段を有するが，カキアゲが明瞭に観察できなかったものを，甕口Ａ７類とした。これは，口縁部に縦方向のカキアゲを施した後，横方向にナデ消しているため，カキアゲが明瞭に観察できないと思われる。器面調整は，内外ともにナデ・ハケメが観察できるものが多い。

19～27は，胴部と口縁部の境で屈曲し，外傾する口縁部を有するものである。19・20は，胴部と口縁部の境で強く屈曲し，大きく外傾して開く。21～24は，外傾の度合いが19・20と比すると若干弱い。25～27は，肩がやや張る器形を有する。

28～45は，胴部と口縁部の境で屈曲し，口縁部が外反するものである。28～38は，大きく外反するものである。39～42は28～38と比して，外反の度合いが若干弱い。43・44は，短い口縁部が外反するものである。45は，他と比して外反の度合いが緩やかである。

甕口Ａ８類（第22図46）

甕口Ａ６類と同様，口縁部にカキアゲが観察できるが，胴部との境に段を有さないものを，甕口Ａ８類とした。

46は，口縁部にカキアゲを施し，胴部との差別化を意図していると思われるが，胴部との境に段はつかず，やや外反する口縁部へとゆるやかに移行する。一方，内面胴部との境には明瞭な稜線が施されている。外面の調整は，口縁部にカキアゲが，内面にはハケメ・指押さえ等が観察できる。

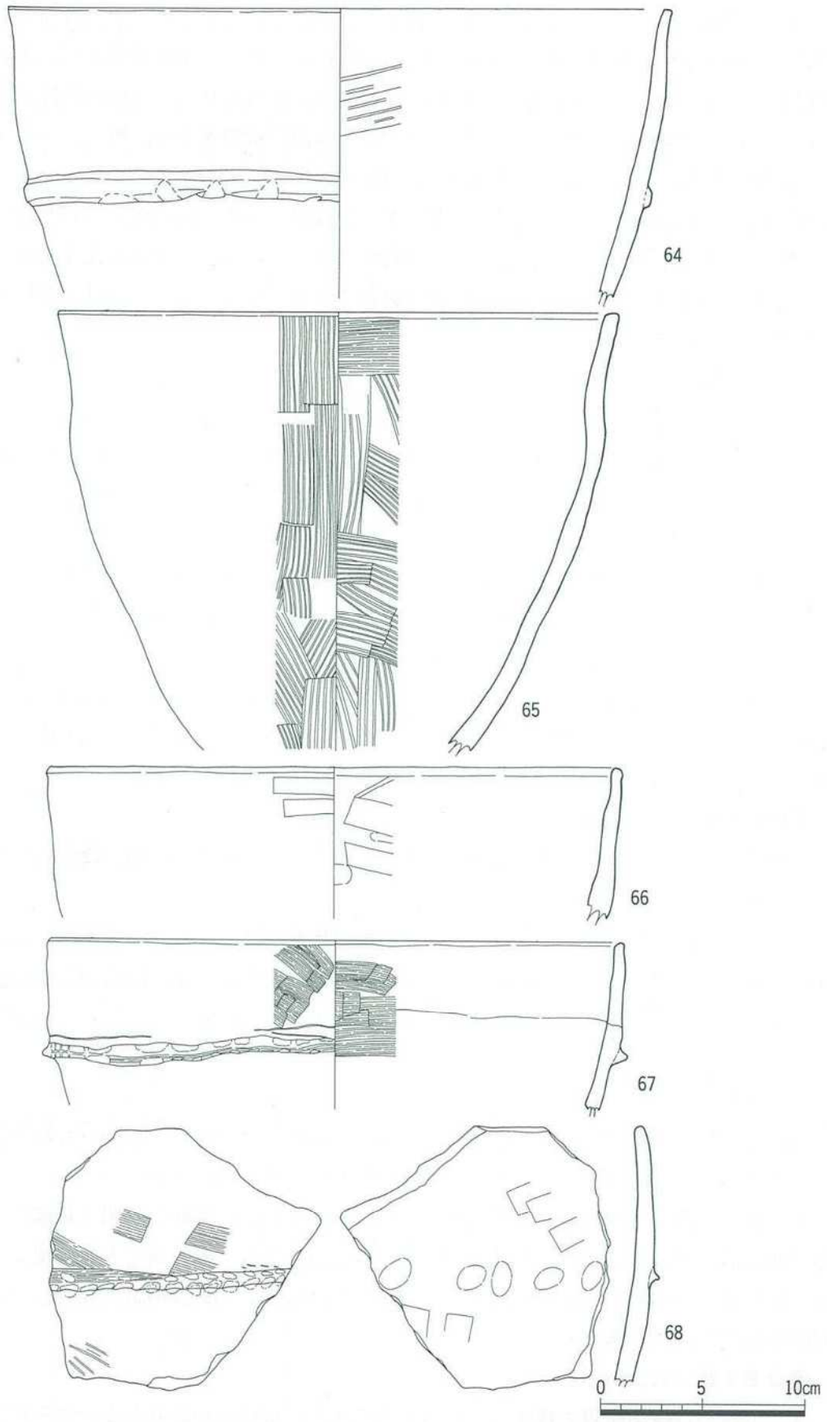
甕口Ａ９類（第22図47～第23図54）

甕口Ａ８類と同様，胴部との境に段がないが，カキアゲが観察できないものを甕口Ａ９類とした。器面調整は，内外ともにナデ・ハケメが観察できるものが多い。

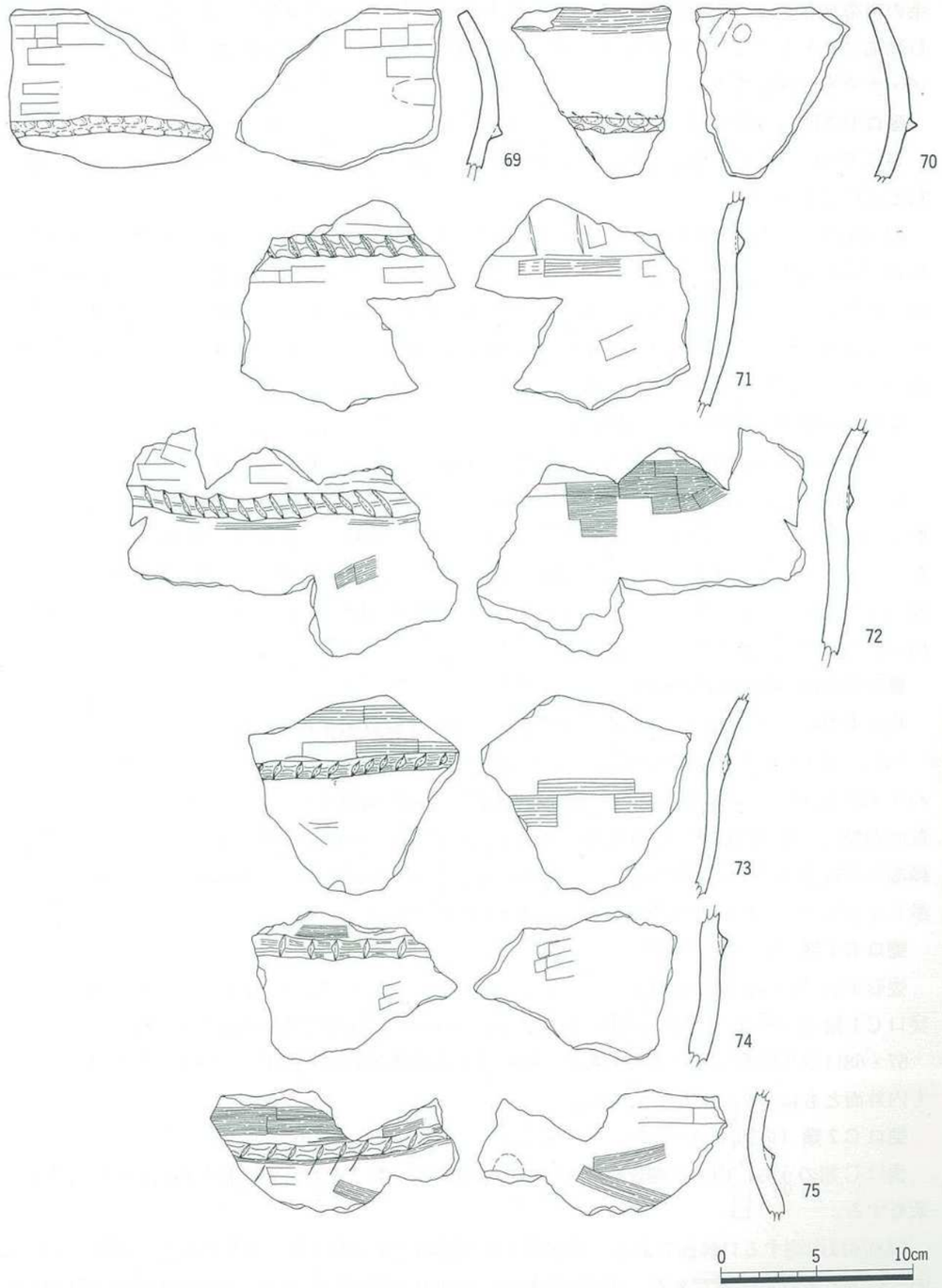
47～49は，胴部と口縁部の境で大きくくの字状に屈曲し，外傾して開く口縁部である。いずれも口径はあまり大きくない。口縁部と胴部の境屈曲部には，内外面ともに明瞭な稜線が確認できる。50～54は，口縁部が緩やかに外反するものである。47～49と同様，屈曲部には内外面ともに，明瞭な稜線が確認できる。

甕口Ｂ１類（第24図55）

甕形土器の口縁部周辺が残存しているもののうち，口縁部が直立あるいはそれに近いものを甕口Ｂ類とした。甕口Ｂ１類は，口縁部と胴部の境目に１条の刻目突帯を有するものである。



第25図　迫田遺跡包含層出土遺物実測図13（甕口B３類～甕口C１類）



第26図　迫田遺跡包含層出土遺物実測図14（甕口C２類～甕胴A３類）

55は，先端へ向けてわずかに外反するが，ほぼ真っ直ぐに立ち上がる口縁部である。外面に１条の突帯を有する。突帯には工具によると思われる斜方向の刻目が施されている。外面の調整は，口縁部にカキアゲ状の縦方向のハケメが，口縁端部に横方向のナデが観察できる。内面にはハケメ・ナデ等が観察できる。

甕口Ｂ２類（第24図56～62）

甕口Ｂ類のうち，口縁部と胴部の境目に１条の突帯をもち，さらに突帯が絡状突帯のものを甕口Ｂ２類とした。

56～58は，いずれも外面に絡状突帯を有するものであるが，突帯の一部を擦り上げ，分断している。器面調整は，内外ともにナデ・ハケメが観察できる。いずれもやや小型のものである。59・60は直立し，外傾する口縁部である。いずれも内外面ともに磨耗しており，詳細は定かではないが，ハケメが観察できる。61・62は直立する口縁部である。いずれも内外面ともに磨耗しており，詳細は定かではないが，ハケメが観察できる。

甕口Ｂ３類（第24図63・第25図64）

甕口Ｂ類のうち，口縁部と胴部の境目に，断面台形の突帯を有するものを甕口Ｂ３類とした。

63は，外傾する口縁部である。外面に断面が蒲鉾状の突帯を１条有する。器面調整は，表面の磨耗が激しく判然としないが，突帯上位に横方向のナデが観察できる他，内外面ともにハケメが観察できる。64は，胴部より直立する口縁部が，先端でわずかに外反する器形を有する。外面に断面台形の突帯を１条有する。器面調整は，内外面ともに磨耗しており，詳細は定かではないが内面にハケメが観察できる。

甕口Ｂ４類（第25図65・66）

甕口Ｂ類のうち，外面に突帯を有さず無文のものを甕口Ｂ４類とした。

65は，口縁部が直立する器形である。口縁部と胴部の境に段はないが，カキアゲ状の縦方向のハケメが施されており，胴部との差別化を意図していると思われる。口縁部先端は若干外反する。器面調整は，外面口縁部に縦方向のハケメが，胴部にハケメが観察できる。内面は，ハケメと口縁端部に横方向のナデが観察できる。66は，直立する口縁部である。器面調整は，表面の磨耗が激しく判然としないが，内外面ともにハケメが観察できる。

甕口Ｃ１類（第25図67・68）

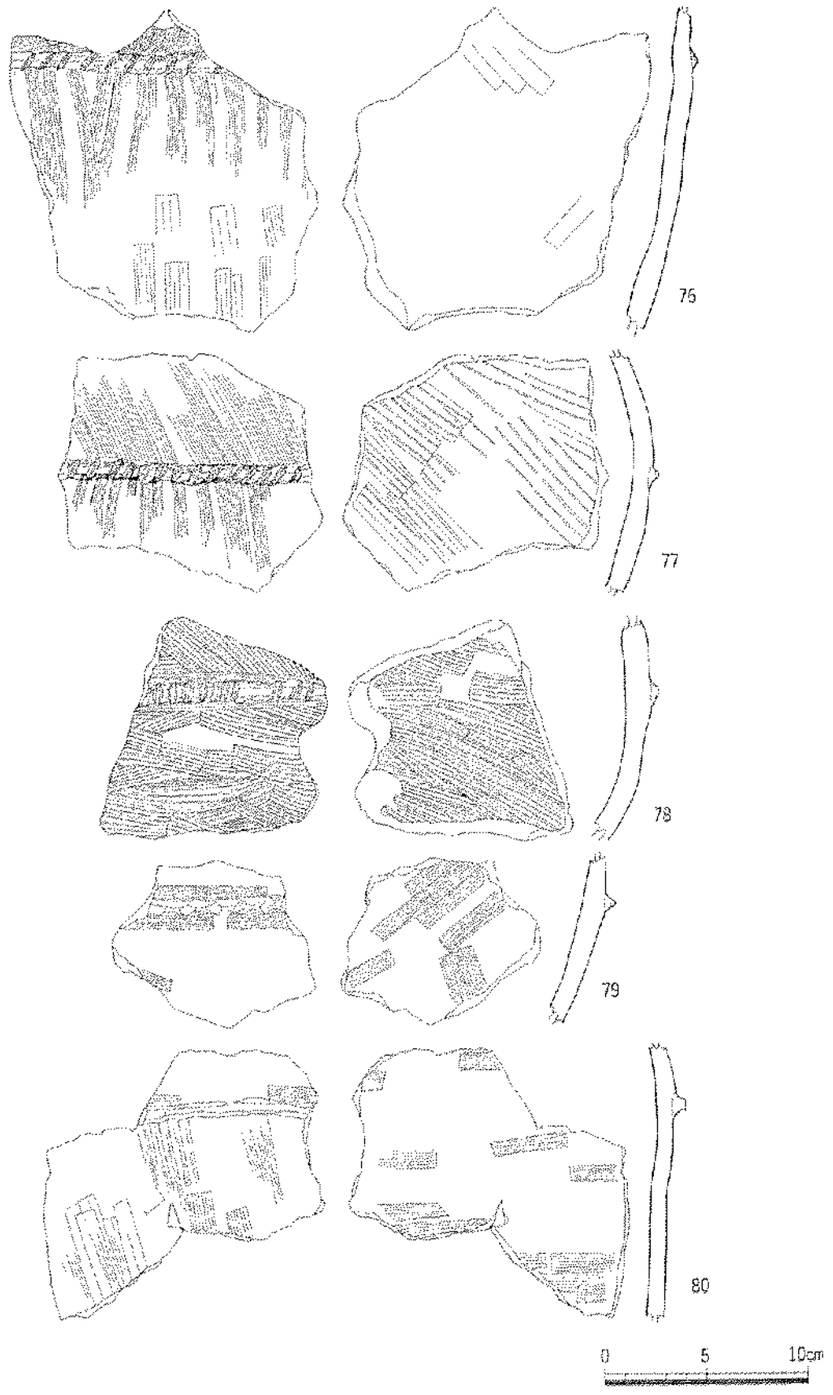
甕形土器の口縁部周辺が残存しているもののうち，口縁部が内湾するものを甕口Ｃ類とした。甕口Ｃ１類は，内湾の度合いが弱いものである。いずれも外面に絡状突帯を１条有する。

67・68はやや内湾する口縁部である。外面に１条の絡状突帯を有する。外面の調整は，いずれも内外面ともにハケメが観察できる。

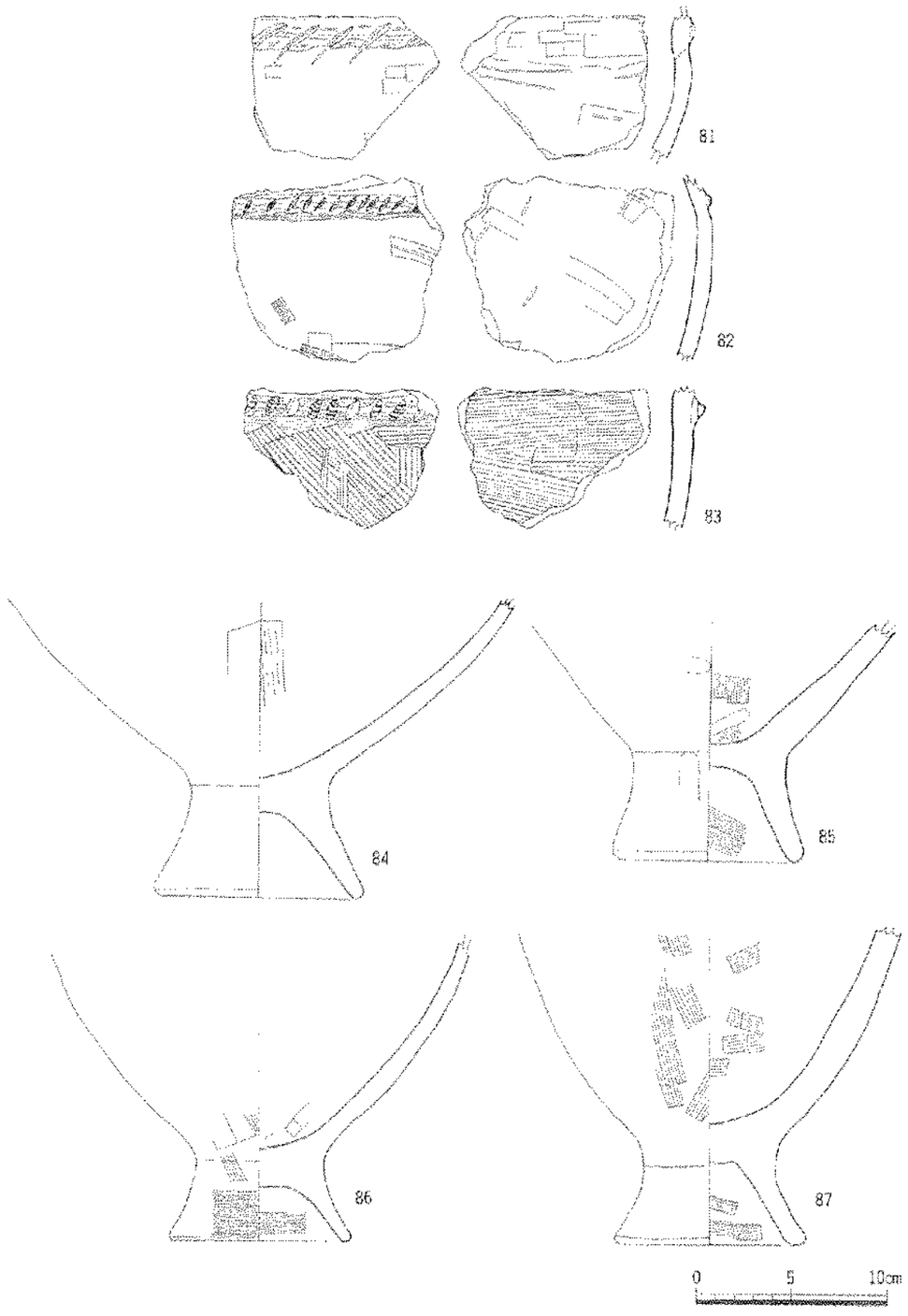
甕口Ｃ２類（第26図69・70）

甕口Ｃ類のうち，内湾の度合いが強いものを甕口Ｃ２類とした。いずれも外面に絡状突帯を１条有する。

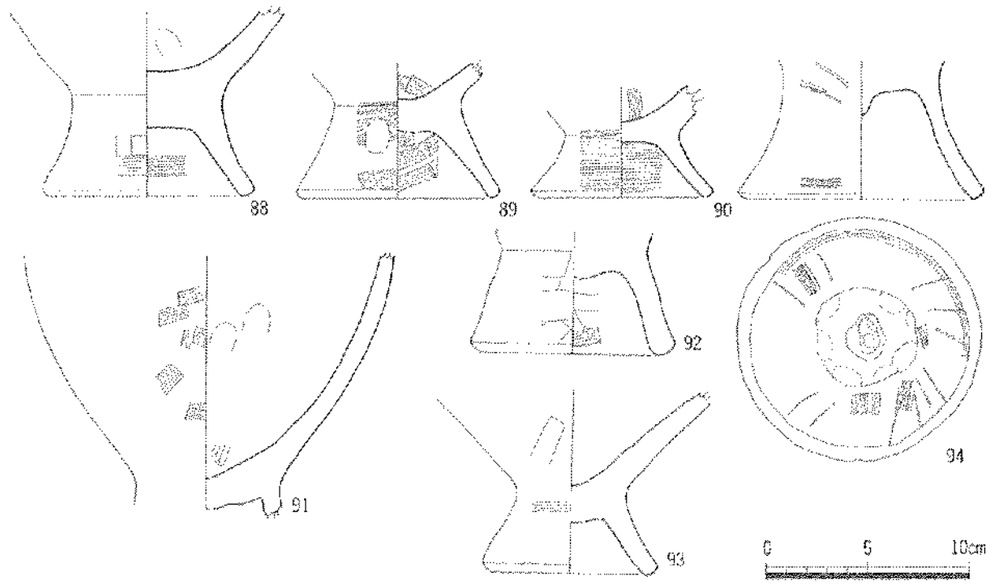
69・70は内湾する口縁部である。外面に１条の絡状突帯を有する。形状・体色等類似点があり，同一個体である可能性もある。外面の調整は，いずれも外面にハケメ，内面に指押さえ等が観察できる。



第27図　迫田遺跡包含層出土遺物実測図15（甕胴Ｂ類～甕胴Ｃ３類）



第28図　迫田遺跡包含層出土遺物実測図16（甕胴D類～甕底B類）



第29図　迫田遺跡包含層出土遺物実測図17（甕底B類～甕底C類）

甕胴Ａ１類（第26図71）

甕形土器で，胴部周辺が残存しているものを甕胴類とし，さらに，くの字状に外反する口縁部へ続く器形を有すると考えられるものを甕胴Ａ類とした。甕胴Ａ１類は，屈曲部に１条の刻目突帯を有し，さらに，刻目内に繊維圧痕が観察できるものである。

71は，くの字状に外反する口縁部へ続くと思われる胴部片である。屈曲部に１条の突帯を有するが，突帯には工具によると思われる斜方向の刻目が施されている。刻目内には繊維圧痕が観察できる。器面調整は，外面突帯の上位及び下位に横方向のナデが，内面にハケメが観察できる。

甕胴Ａ２類（第26図72～74）

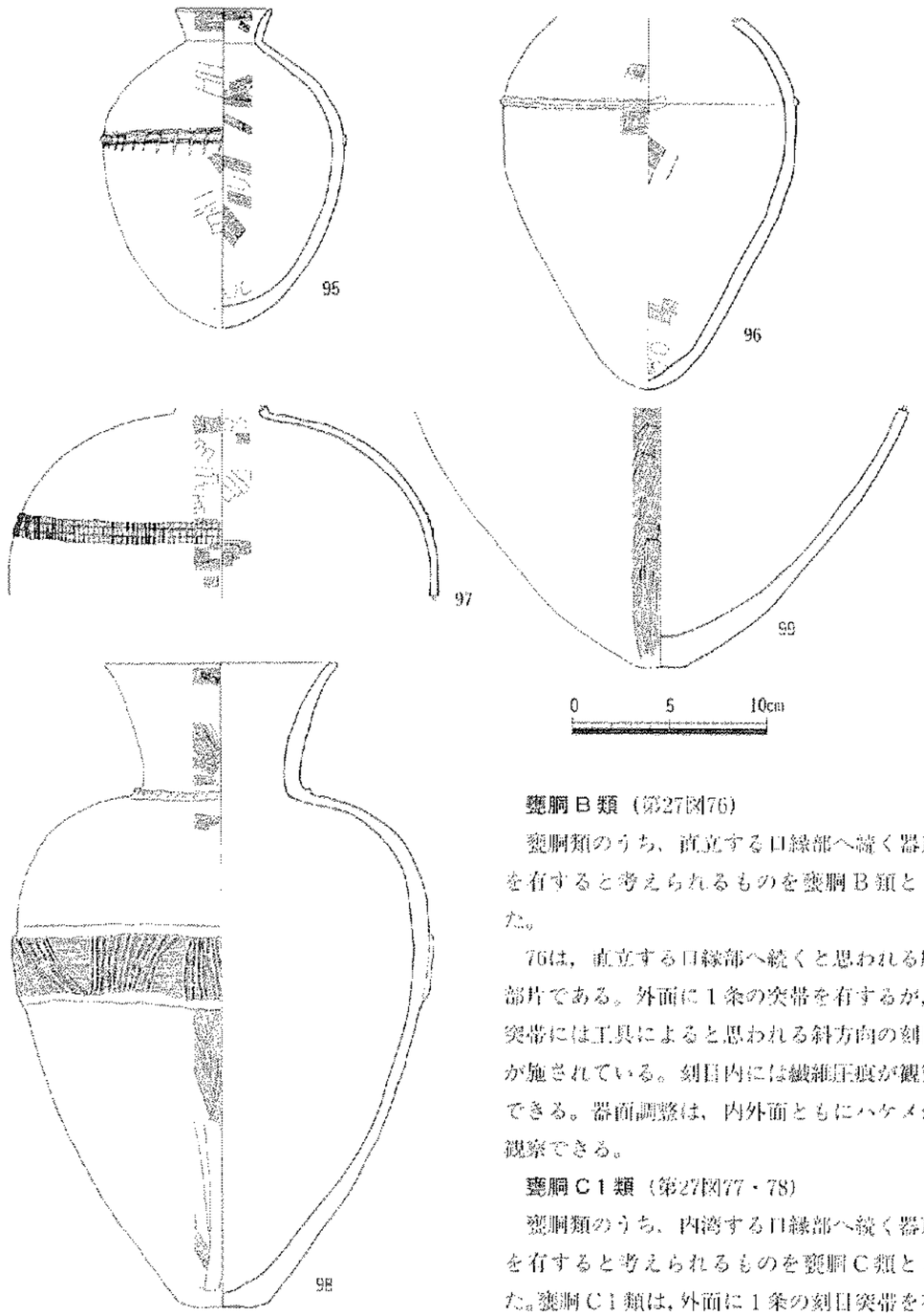
甕胴部Ａ２類は，甕胴Ａ１類と同様屈曲部に１条の刻目突帯を有するものであるが，刻目内に繊維圧痕が観察できないものである。

72～74は，いずれも外反する口縁部へ続くと思われる胴部片である。いずれも屈曲部に１条の刻目突帯を有する。器面調整は，内外面ともにハケメが観察できるものが多い。

甕胴Ａ３類（第26図75）

甕胴Ａ３類は，甕胴Ａ１類・Ａ２類と同様くの字状に外反する口縁部へ続く器形を有すると考えられるものであるが，肩部が張る器形を有するものである。

75は，外反する口縁部へ続くと思われる胴部片で，肩部が張る。屈曲部に１条の刻目突帯を有する。器面調整は，内外面ともにハケメ・ナデが観察できる。



第30図　追田遺跡包含層出土遺物実測図18（壺大類）

甕胴Ｂ類（第27図76）

甕胴類のうち、直立する口縁部へ続く器形を有すると考えられるものを甕胴Ｂ類とした。

76は，直立する口縁部へ続くと思われる胴部片である。外面に１条の突帯を有するが，突帯には工具によると思われる斜方向の刻目が施されている。刻目内には繊維圧痕が観察できる。器面調整は，内外面ともにハケメが観察できる。

甕胴Ｃ１類（第27図77・78）

甕胴類のうち、内湾する口縁部へ続く器形を有すると考えられるものを甕胴Ｃ類とした。甕胴Ｃ１類は，外面に１条の刻目突帯を有し，刻目内に繊維圧痕が観察できるものである。

77・78は，内湾する口縁部へ続くと思われる胴部片である。形状・体色等類似点があり，同一個体である可能性もある。いずれも外面に１条の突帯を有するが，突帯には工具によると思われる斜方向の刻目が施されており，刻目内には繊維圧痕が観察できる。器面調整は，内外面ともにハケメが観察できる。

甕胴Ｃ２類（第27図79）

外面に１条の刻目突帯を有するが，刻目内に繊維圧痕が観察できないものを甕胴Ｃ２類とした。

79は内湾する口縁部へ続くと思われる胴部片である。外面に１条の刻目突帯を有する。器面調整は，内外面ともにハケメが観察できる。

甕胴Ｃ３類（第27図80）

外面に１条の絡状突帯を有するものを甕胴Ｃ３類とした。

80は長胴気味の胴部から，内湾する口縁部へ続く器形を有すると思われる胴部片である。外面に１条の絡状突帯を有する。器面調整は，内外面ともにハケメが観察できる。

甕胴Ｄ類（第28図81～83）

その他の胴部片を，一括して甕胴Ｄ類として取り扱った。

81～83は，いずれも外面に１条の刻目突帯を有する胴部片である。刻目内には，繊維圧痕が観察できる。器面調整は，内外面ともにハケメが観察できるものが多い。

甕底Ａ類（第28図84・85）

甕形土器で，底部周辺・脚台が残存しているものを甕底類とした。甕底Ａ類は，内面天井部の断面形が放物線を描くものである。

84・85ともに，中空の脚台を有する。脚台は先端へむけてやや外反ぎみに開く。脚台内面の断面形は，放物線を描く。84・85ともに表面の磨耗が激しく，器面調整は判然としないが，ハケメ・指押さえ等が観察できる。

甕底Ｂ類（第28図86～第29図90）

内面天井部に平坦面をもつものを，甕底Ｂ類とした。

86～90は，いずれも中空の脚台を有する。脚台は先端へむけてやや外反ぎみに開き，脚台内面天井部に平坦面を有する。器面調整は，ハケメ・ナデ等が観察できるものが多い。

甕底Ｃ類（第29図91～94）

内面天井部に突起をもつものを，甕底Ｃ類とした。

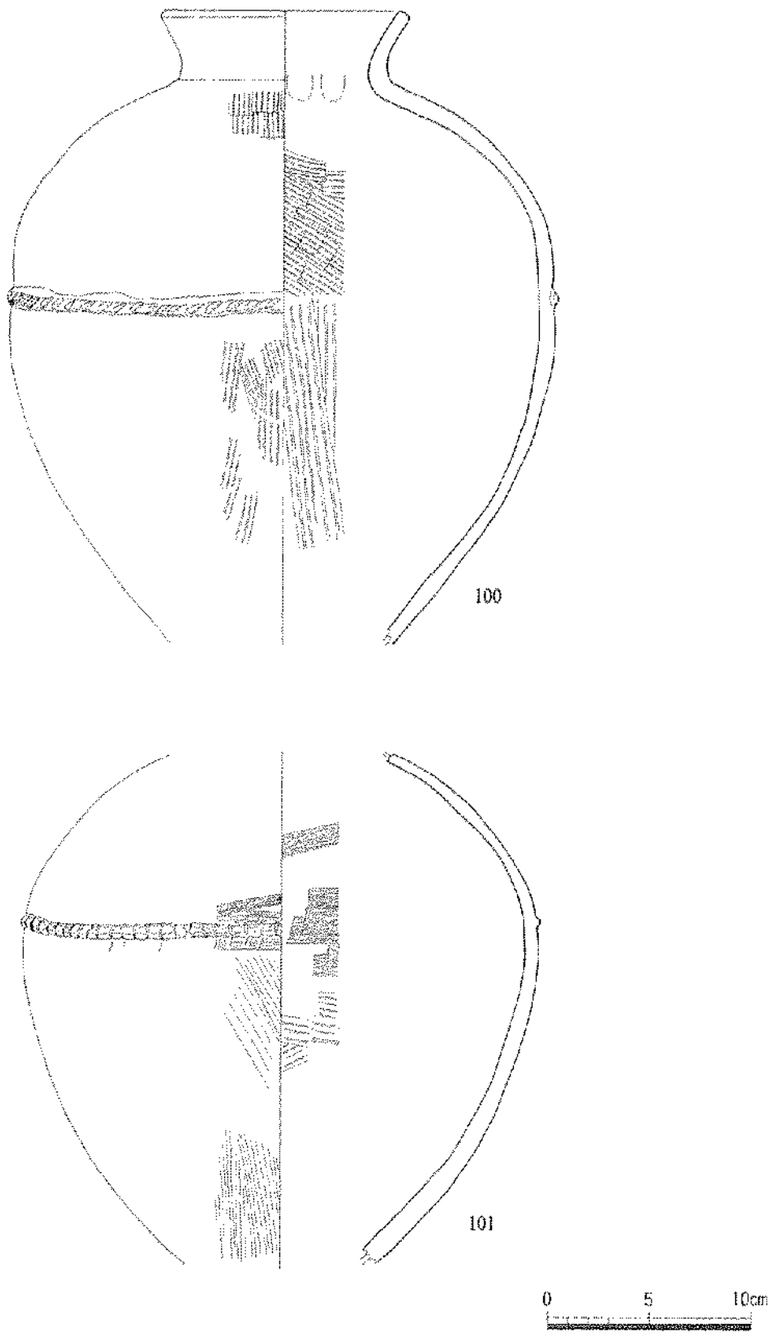
91は，胴部下位から脚台上部までが残存している。脚台内面天井部は，やや突出している。器面調整は，外面にハケメが，内面に指押さえ等が観察できる。92～94は脚台である。いずれも先端へむけて直線的に開く。92・93は，脚台内面の天井部が若干突出しいる。94は，脚台内面に突起を有する。器面調整は，ハケメ・ナデ等が観察できるものが多い。

壺形土器（第30図95～第38図151）

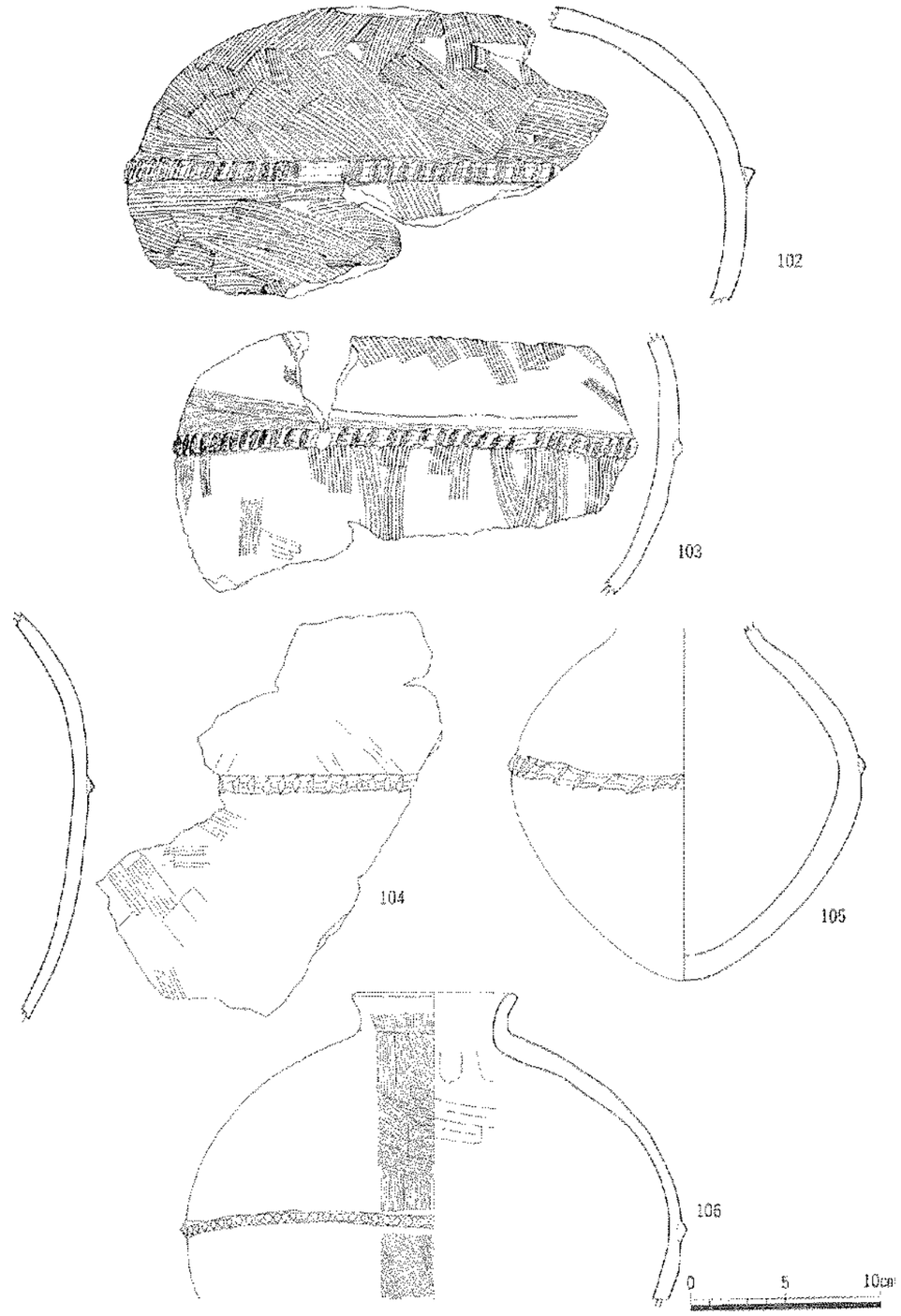
壺形土器についても，紙面レイアウトの都合上，比較的大型になるものを壺大類，それ以外のものを壺類と大別し，それぞれ形態や属性といった特徴ごとに細別を行った。

壺大１類（第30図95）

壺形土器の中で，復元すると比較的大型になるものを壺大類とした。ただし，この分類は，土



第31図　迫田遺跡包含層出土遺物実測図19（壺１a類）



第32図　迫田遺跡包含層出土遺物実測図20（壺１a類・壺１b類）

器の属性に沿った細分ではなく，紙面レイアウトを優先した細分である。

95は，胴部に１条の突帯を有する完形の壺である。口縁部は外傾して立ち上がり，先端が若干外反する。口縁部の立ち上がりに明確な稜線を有する。若干肩が張る器形を有し，胴部最大径には１条の断面が蒲鉾状の突帯が廻る。突帯には工具によると思われる斜方向の刻目が施されている。底部は尖り気味の丸底である。

器面調整は，外面口縁部に横方向のナデが，胴部にハケメが観察できる。内面口縁部に横方向のナデが，胴部にはハケメ・指押さえ等が観察できる。

壺大２類（第30図96）

96は，肩部から底部にかけて残存しているものである。肩部が張る器形を有する。胴部最大径に１条の断面台形の突帯を有する。底部は尖り気味の丸底である。器面調整は，外面にハケメが，内面にハケメ・指押さえ等が観察できる。

壺大３類（第30図97）

97は，肩部から胴部にかけて残存しているものである。肩部が張る器形を有する。胴部最大径より上位に，突帯を有する。突帯は，断面台形の突帯が３条複合したような外観を呈し，さらに，３条にまたがって縦方向の刻目が施されている。この突帯は張り出しが弱く，沈線による文様帯のような外観を呈する。器面が磨耗しているため判然とはしないが，刻目内には繊維圧痕が観察できる。器面調整は，外面にハケメが，内面にハケメ・指押さえ等が観察できる。

壺大４類（第30図98）

98は，胴部外面に幅広突帯を有する完形の壺である。口縁部は外傾して直線的に開く。頸部に１条の断面三角形の突帯を有する。突帯には丸い刻目が施されている。肩部が張る器形を有し，胴部最大径に，幅広の突帯を有する。突帯には複数の沈線からなる鋸歯文が施されている。沈線内には繊維圧痕が観察できる。底部は尖り気味で，底部先端は凸レンズ状を呈する。器面調整は，外面にハケメが観察できる。

壺大５類（第30図99）

99は，底部付近が残存しているものである。底部はやや尖り気味で，底部先端は平底である。器面調整は，外面にハケメが観察できる。

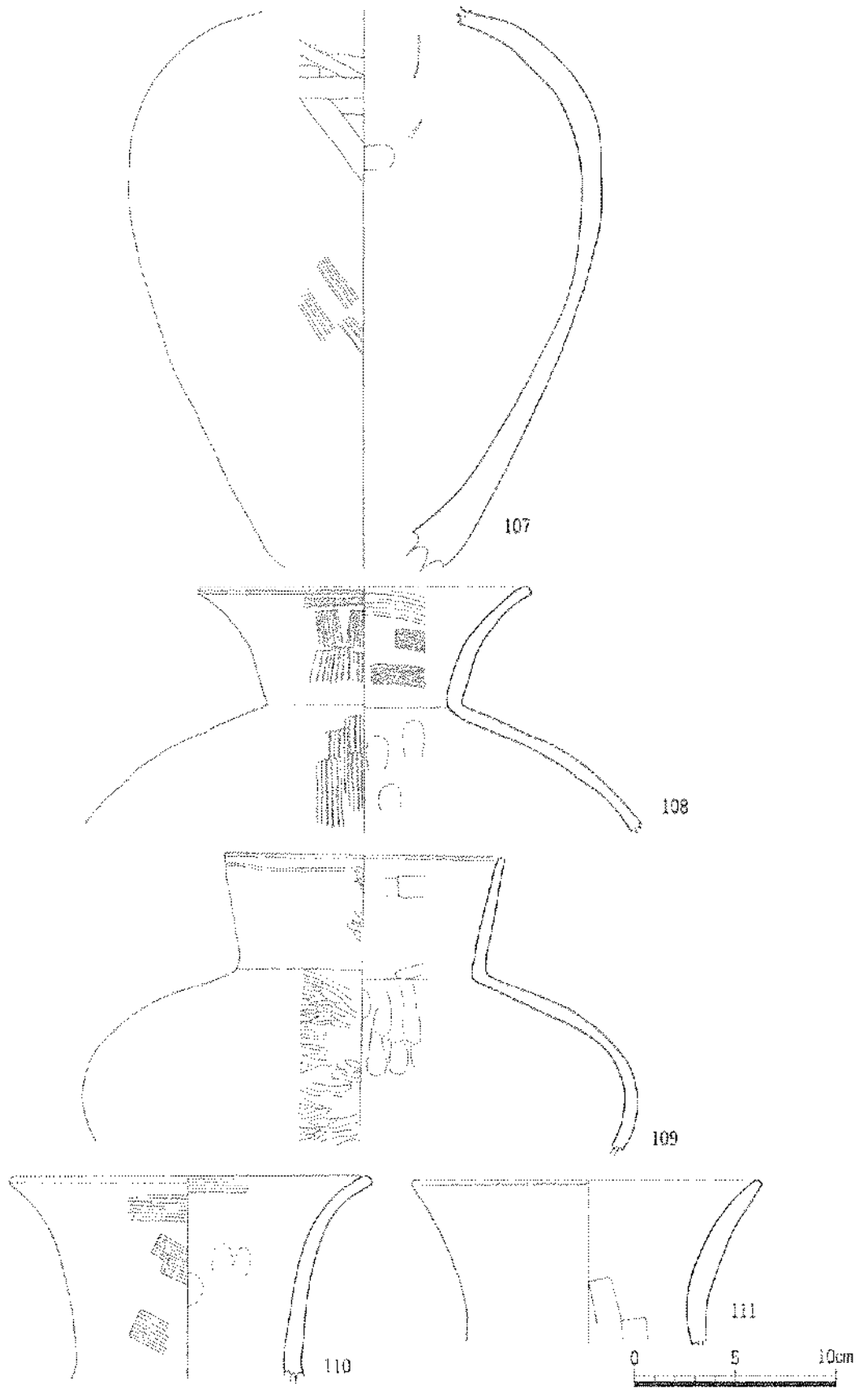
壺１ａ類（第31図100～第32図104）

壺形土器のうち，壺大類以外のものについては，壺類として分類したが，さらに形態や属性などの特徴ごとに細別を試みた。

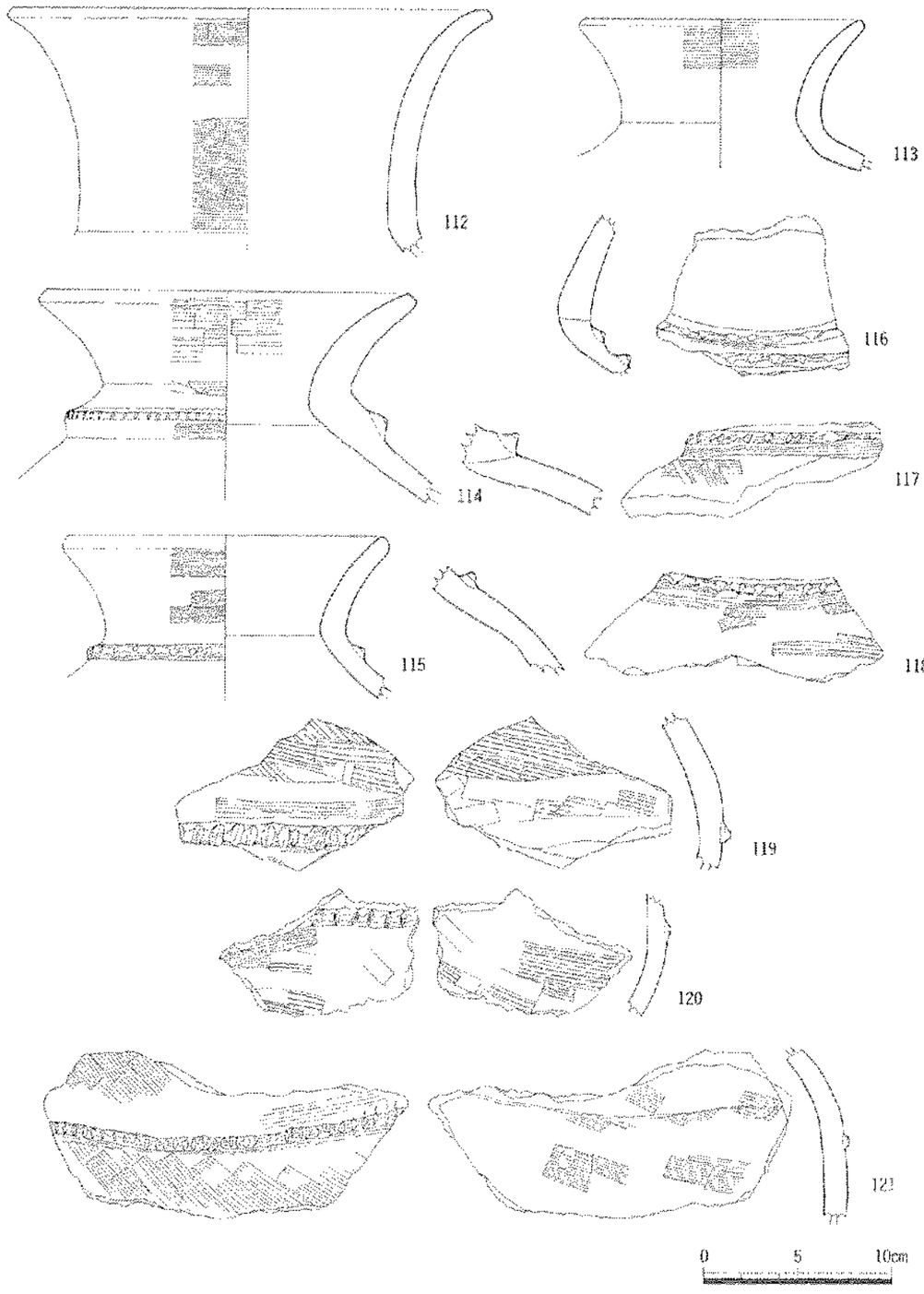
外面に１条の突帯を有するものを壺１類とした。さらに，肩部が張る器形を有するものを壺１ａ類とした。

100は，口縁部から底部付近にかけて残存しているものである。口縁部は短く，直線的に外傾して開く。口縁部の立ち上がりに明確な稜線を有する。肩部が張る器形で，胴部最大径に１条の突帯を有する。突帯には楕円形の刻目が斜方向に施されている。やや尖り気味の底部へ続くと思われる。器面調整は，外面にハケメが，内面にハケメ・指押さえ等が観察できる。

101・104は頸部から底部付近にかけて残存しているものである。いずれも肩部が張る器形で，胴部最大径に１条の突帯を有する。突帯には工具によると思われる刻目が施されている。底端部



第33図　迫田遺跡包含層出土遺物実測図21（壺２類～壺５類）



第34図　迫田遺跡包含層出土遺物実測図22（壺６類～壺８類）

は欠損しているが，やや尖り気味の底部へ続くと思われる。器面調整は，101は内外面ともにハケメが，104は外面にハケメが観察できる。

102・103は胴部片である。いずれも肩部が張る器形で，胴部最大径に１条の突帯を有する。突帯には工具によると思われる楕円形の刻目が施されており，刻目内には繊維圧痕が観察できる。器面調整は，内外面ともにハケメが観察できる。精緻な仕上げである。

壺１ｂ類（第32図105・106）

壺１ａ類と同様外面に１条の突帯を有するが，肩部が張らないものを壺１ｂ類とした。

105は，頸部から底部にかけて残存しているものである。口縁部は残存していない。壺１類とは異なり，肩部は張らず，胴部中央付近に最大径を有する。胴部最大径に，１条の突帯を有するが，突帯には工具によると思われる細い刻目が，斜方向に施されている。底部はやや尖り気味の丸底である。器面調整は，表面の磨耗が激しく判然としない。口縁部こそ欠損しているものの，他はほぼ完全な状態で出土した。

106は口縁部から胴部にかけて残存しているものである。口縁部は短く，直線的に立ち上がり，外反する。口縁部の立ち上がりに明確な稜線を有する。肩部は張らず，胴部最大径に１条の突帯を有する。突帯には工具によると思われる細い刻目が斜方向に施されている。器面調整は，外面にハケメが，内面にケズリ・指押さえ等が観察できる。

壺２類（第33図107）

107は，頸部から底部付近にかけて残存しているものである。口縁部は残存していない。壺１類と同様肩部が張る。突帯は有さない。底部が欠損しているが，割れ口が綺麗であり，故意に破損させた可能性も考えられる。胴部から底部にかけてすすが付着しており，このことと考え合わせると儀的な使用法も考えられる。器面調整は，外面にハケメが，内面にハケメ・指押さえ等が観察できる。

壺３類（第33図108）

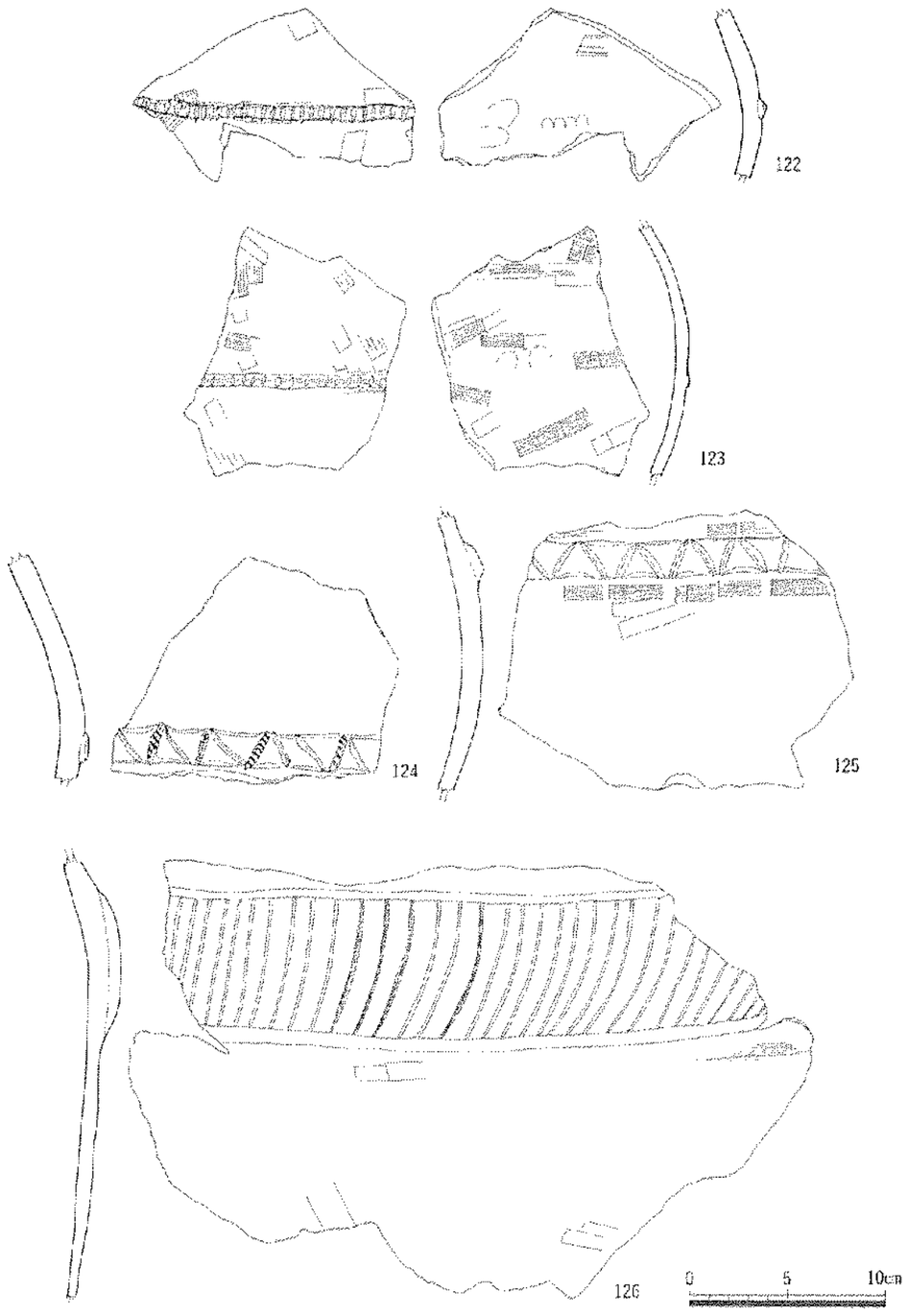
108は，口縁部から肩部にかけて残存しているものである。口縁部はくの字状に外反して，大きく開く。口唇部は僅かに窄む。口縁部の立ち上がりに明確な稜線を有する。肩部が張る器形を有すると思われる。器面調整は，口縁部外面に縦方向のハケメが，その上位に横方向のナデが施され，胴部外面にはハケメが観察できる。口縁部内面には横方向のハケメ・ナデが，胴部内面には指押さえ等が観察できる。

壺４類（第33図109）

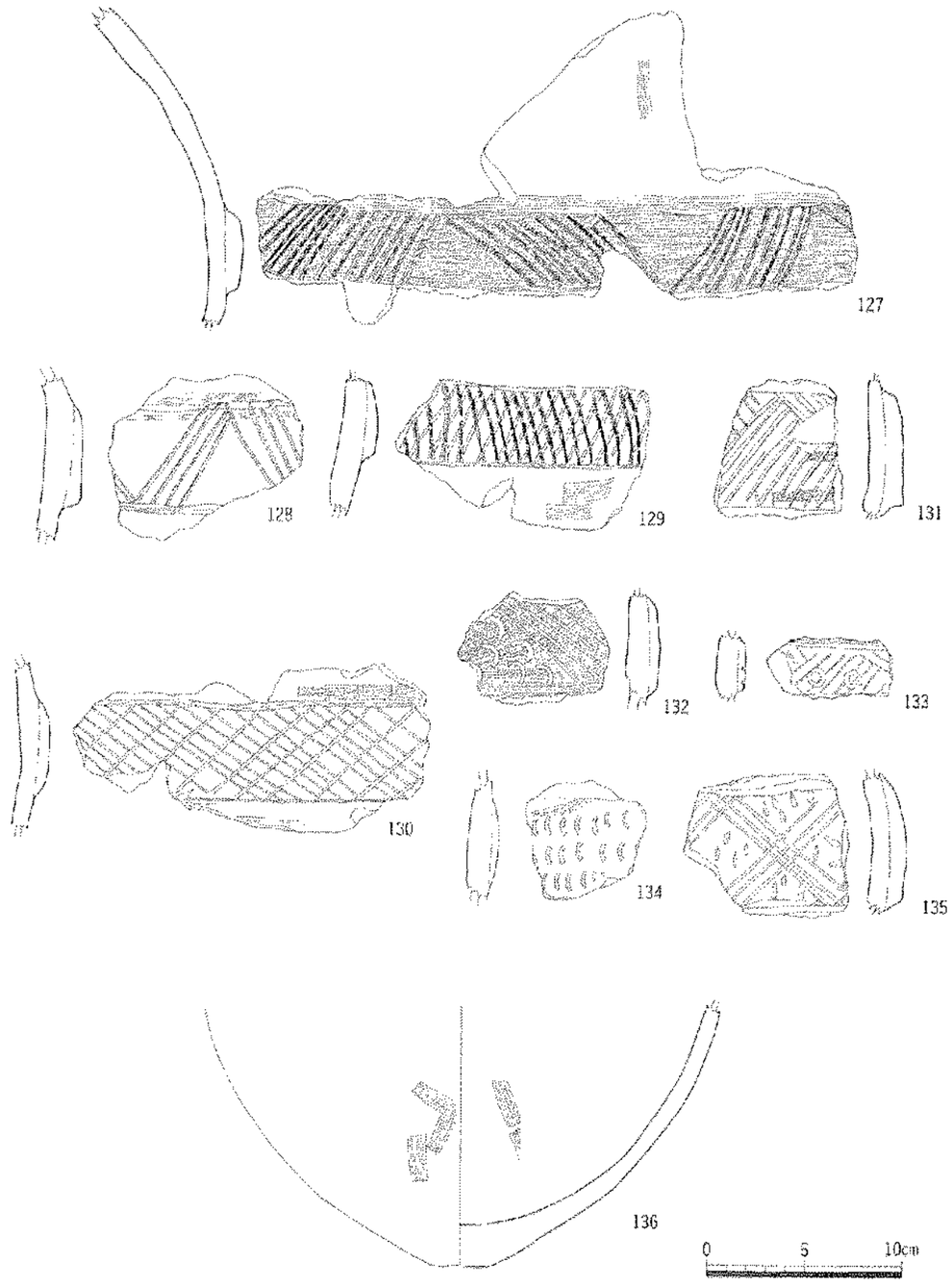
109は，口縁部から肩部にかけて残存しているものである。口縁部は若干外傾しているが，ほぼ直立して立ち上がる。口縁端近くに１条細い沈線が廻る。口縁部の立ち上がりに明確な稜線を有する。肩部が張る器形を有する。器面調整は，外面に研磨痕が，内面にハケメ・指押さえ等が観察できる。全体的に精緻なつくりである。

壺５類（第33図110・111）

口縁部付近が残存しているもののうち，頸部がほぼ直立して立ち上がり，端部で外反するものを壺５類とした。器面調整は，110は外面にハケメ・ナデ，内面にナデ・指押さえ等が観察でき，111は内面にハケメが観察できる。



第35図　迫田遺跡包含層出土遺物実測図23（壺８類～壺９b類）



第36図　迫田遺跡包含層出土遺物実測図24（壺９c類～壺10類）

壺６類（第34図112・113）

壺５類と同様，頸部がほぼ直立して立ち上がり，端部で外反する器形を有するが，壺５類より新しい時代のものと思われるものを壺６類とした。113は112と比して小型である。器面調整は，112が頸部外面に横方向のナデが観察でき，113が頸部内外面ともに横方向のナデが観察できる。

壺７類（第34図114～118）

頸部と胴部の境に，突帯を有するものを壺７類とした。

114・115は口縁部が残存している。いずれも頸部と胴部の境に，１条の断面三角形突帯を有する。114は，頸部突帯に工具によると思われる細かい刻目が，斜方向に密に施されている。口縁部は突帯部で屈曲し，直線的に開く。器面調整は，頸部内外面ともに横方向のハケメが観察でき，頸部突帯外面上位及び下位にも横方向のハケメが観察できる。115の頸部突帯は，やや磨耗しているが，刻目が施されているのが観察できる。口縁部は突帯部で屈曲し，直線的に開く。114と比して小型である。器面調整は，頸部外面に横方向のハケメが観察できる。116は頸部突帯及び頸部が残存している。頸部と胴部の境には２条の断面三角形突帯を有する。いずれの突帯にも楕円形の刻目が施されている。口縁部は突帯部で屈曲し，若干外傾して直立ぎみに立ち上がる。表面が磨耗しており，器面調整は判然としない。117・118は頸部突帯付近が残存している。口縁部は欠損しており，詳細は不明である。いずれも頸部と胴部の境に，１条の断面三角形突帯を有する。117は，頸部突帯に工具によると思われる細かい刻目が，斜方向に施されている。118は117と比して若干大きい刻目が施されている。いずれも器外面にハケメが観察できる。

壺８類（第34図119～第35図123）

胴部片のうち，外面に１条の刻目突帯を有するものを壺８類とした。

119・120は，外面に１条の刻目突帯を有するもので，刻目内には繊維圧痕が観察できる。121は，壺１ａ類と同様肩部が張る器形と思われる。器面調整は，いずれも内外面にハケメが観察できる。121～123も，外面に１条の刻目突帯を有するものであるが，刻目内には繊維圧痕が観察できない。いずれも壺１ａ類と同様，肩部が張る器形と思われる。器面調整は，いずれも外面にハケメが，内面にハケメ・指押さえ等が観察できる。

壺９ａ類（第35図124・125）

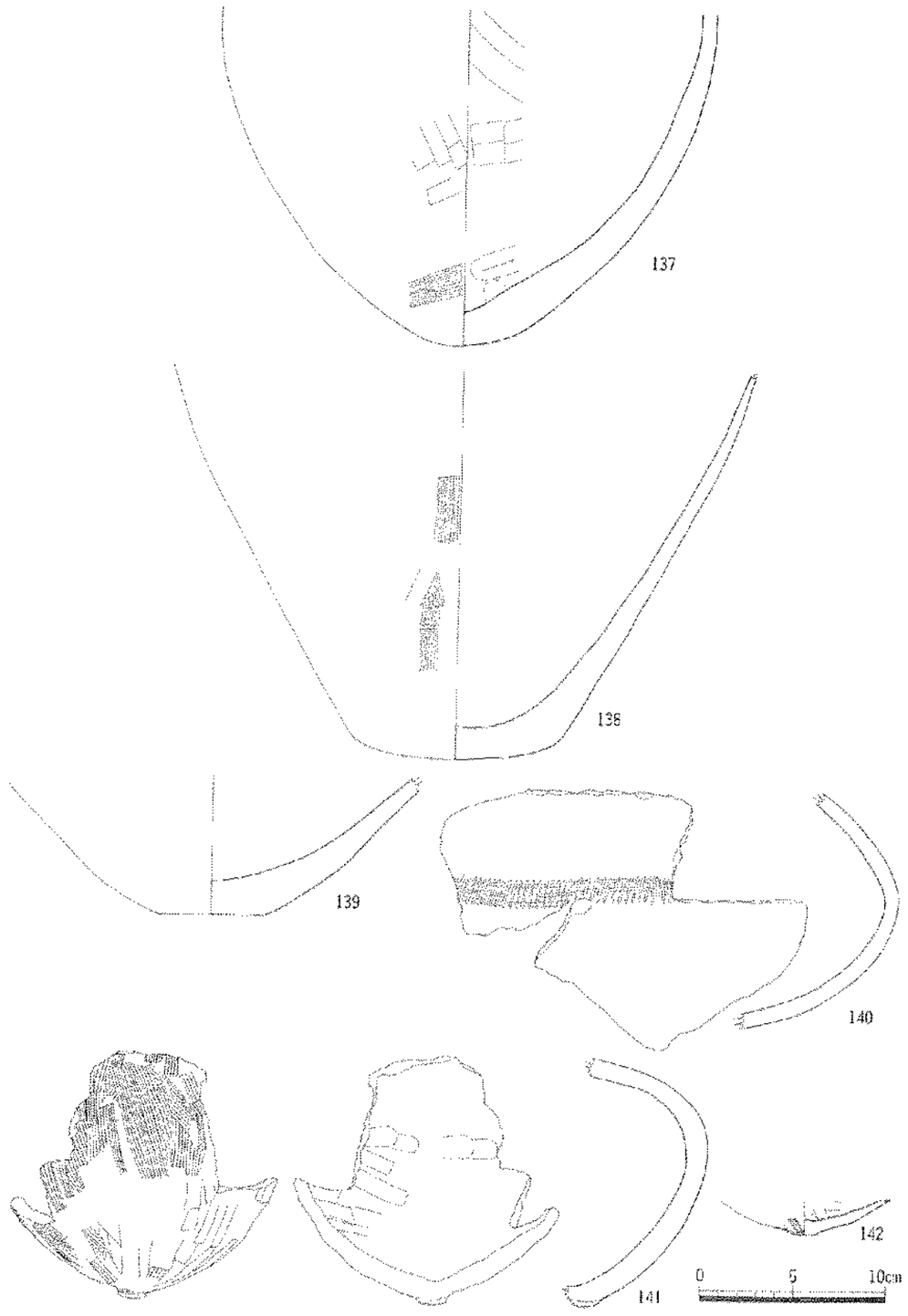
胴部片のうち，外面にいわゆる幅広突帯を有するものを壺９類とした。そのうち，幅広突帯に鋸歯文が施されているものを壺９ａ類とした。

124は，断面台形の幅広突帯に沈線による鋸歯文が施されているものであるが，鋸歯文を構成する沈線内に，繊維圧痕が観察できる。器面調整は，表面が磨耗しているために判然としない。125も，124と同様の文様を有するもので，やはり沈線内に繊維圧痕が観察できる。器面調整は，外面突帯上位及び下位に横方向のハケメが観察できる。

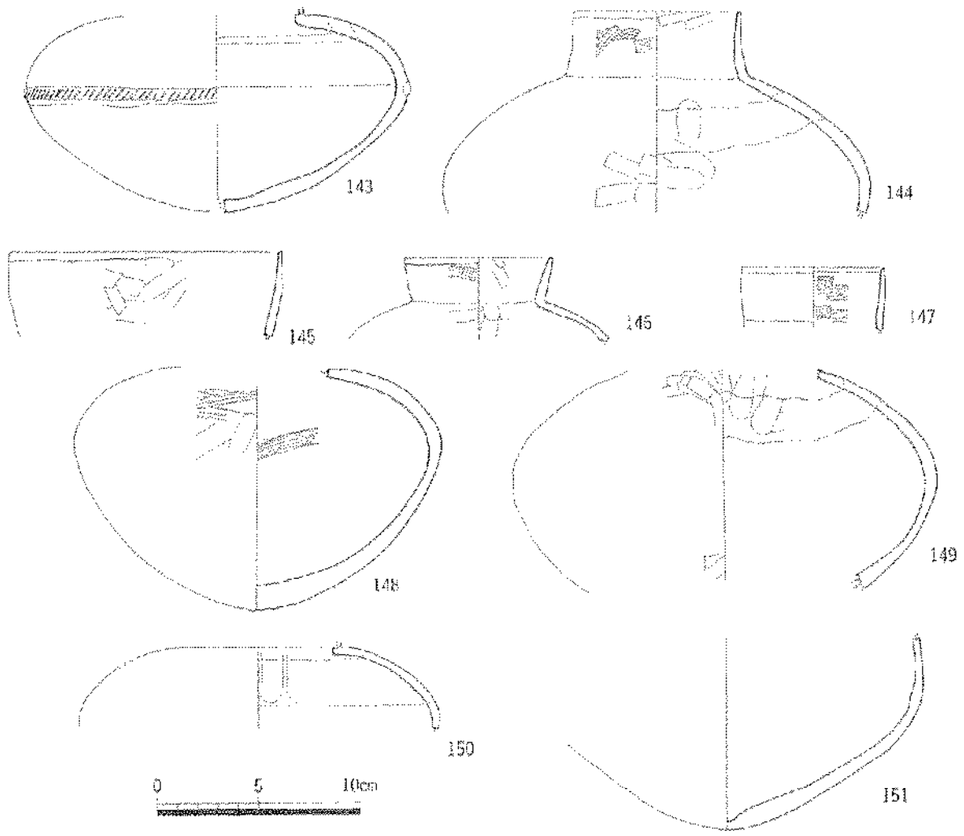
壺９ｂ類（第35図126）

幅広突帯に，並行斜線が施されているものを壺９ｂ類とした。

126は，幅広突帯に複数の沈線が並行に施されおり，沈線内には繊維圧痕が観察できる。沈線は，曲線あるいは直線に近いものなど様々なものがあり，厳密な統一性はない。器面調整は，外面にハケメが観察できる。内面は磨耗しているために判然としない。



第37図　迫田遺跡包含層出土遺物実測図25（壺10類～壺12類）



第38図　迫田遺跡包含層出土遺物実測図26（壺12類～壺13類）

壺９ｃ類（第36図127・128）

幅広突帯に，複数の並行沈線による鋸歯文が施されているものを壺９ｃ類とした。

127・128はいずれも，幅広突帯に複数の並行沈線からなる鋸歯文が施されおり，沈線内には縄線圧痕が観察できる。突帯の幅は128が若干広い。器面調整は，いずれも外面幅広突帯上位及び下位に横方向のナデが観察できる。内面はいずれも磨耗しているため判然としない。

壺９ｄ類（第36図129～131）

幅広突帯に，複数の沈線が格子状に施されているものを壺９ｄ類とした。

129・130はいずれも，幅広突帯に並行斜線を施し，その上から，別方向の並行斜線を交差させて施したもので，格子状の外観を呈するものである。129は，上位の並行斜線内にのみ縄線圧痕が観察できる。器面調整は，いずれも外面にハケメ・ナデが観察できる。131は，129・130と同様並行斜線の上に別方向の並行斜線を施しているものであるが，沈線は交差せず格子状の外観は呈さない。

壺９ｅ類（第36図132～134）

幅広突帯に，竹管文が施されているものを壺９ｅ類とした。

132は，幅広突帯に並行斜線を施し，並行斜線間に半円形の竹管文を施している。133は，並行斜線の上に別方向の並行斜線を施し（沈線は交差しない），さらにその上から円形の竹管文を施している。134の文様は，半円形の竹管文のみからなる。竹管文を複数並行に施し，３条の横位の文様が廻るような外観を呈する。

壺９ｆ類（第36図135）

幅広突帯を有するもので，その他の文様が施されているものを壺９ｆ類とした。

135は，幅広突帯に３条の並行斜線を施し，その上位に交差させて３条の並行斜線を施すことで菱形の文様を表現し，さらに，菱形の中に爪形の短沈線上を数条施しているものである。

壺10類（第36図136・第37図137）

底部付近が残存しているもので，尖り気味の丸底のものを壺10類とした。

136は，尖り気味の丸底である。底部先端部は厚く，僅かに窪む。器面調整は内外面にハケメが観察できる。137も尖り気味の丸底である。136とは異なり先端部は窪まないが，内面が窪む。器面調整は外面にハケメが，内面にハケメ・指押さえ等が観察できる。136が浅黄橙色を呈し，137は赤褐色を呈しており，胎土が異なると思われる。

壺11類（第37図138・139）

底部付近が残存しているもので，平底のものを壺11類とした。

138は，先端へ向けて細くなる底部で，広い平坦面を持つ底を有する。器面調整は外面に縦方向のハケメが観察できる。139は138と比してやや丸みを帯びた底部で，平底である。器面調整は，表面が磨耗しているために判然としない。

壺12類（第37図140～第38図143）

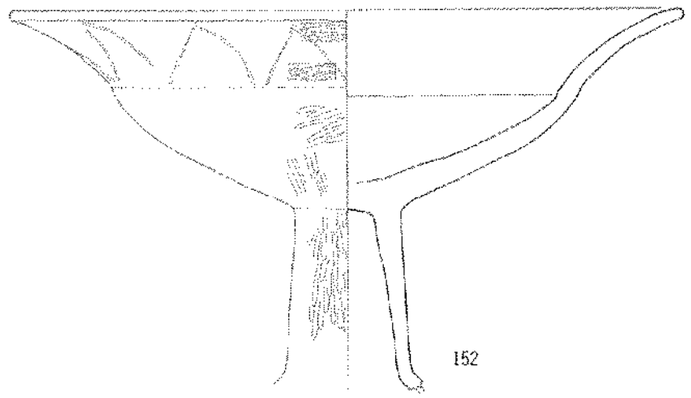
復元すると小型の壺になるものを壺12類とした。

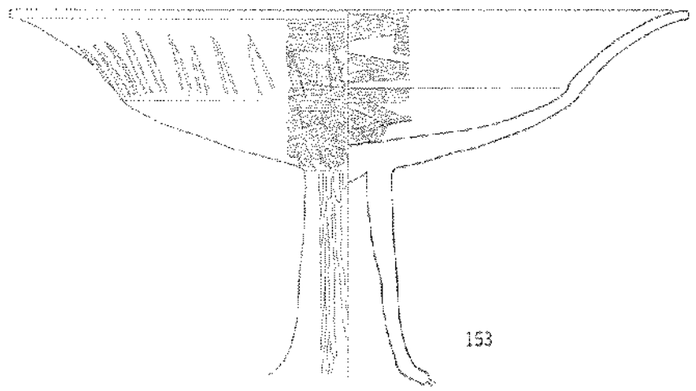
140は，胴部中ほどが大きく張り出す器形で，底部は欠損しているが丸底へ続くと思われる。高さは低く，扁平である。胴部最大径に沈線が廻る。沈線を横方向へ３本施し，その上から縦方向の短沈線を密に施すことにより，格子状の外観を呈する。器面調整は，外面が磨耗しているものの，ヘラ状の工具によると思われる研磨痕（いわゆるミガキ）が観察できる。141は，胴部中程ではなく，肩部が張り出す器形のもので，丸底の底部の先端に突起を有する。器面調整は，外面にハケメが丁寧に施されている他，内面にはハケメ・指押さえが観察できる。142は底部である。141と同様底部先端に突起を有する。141と比して器壁が薄く，小型のものと思われる。器面調整は，内外面ともにハケメが観察できる。143は，140と同様，扁平で胴部中程が大きく張り出す器形である。胴部最大径に１条の断面蒲鉾状突帯を有する。突帯には，細い刻目が密に施されている。底項部は欠損しているが丸底へ続くと思われる。器面調整は，内外面ともに磨耗しているため判然としない。

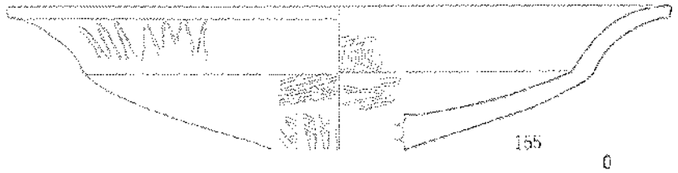
壺13類（第38図144～151）

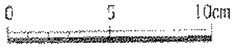
壺12類と同様小型のものであるが，迫田遺跡出土の他の壺形土器とくらべて器壁が薄く，精製のものを壺13類とした。

144は，口縁部から胴部にかけて残存している。口縁部は胴部より垂直に立ち上がる。109と同様，口縁端部より僅かに下位に，１条の沈線が廻る。（沈線の深さは深くなく，あまり明確ではな

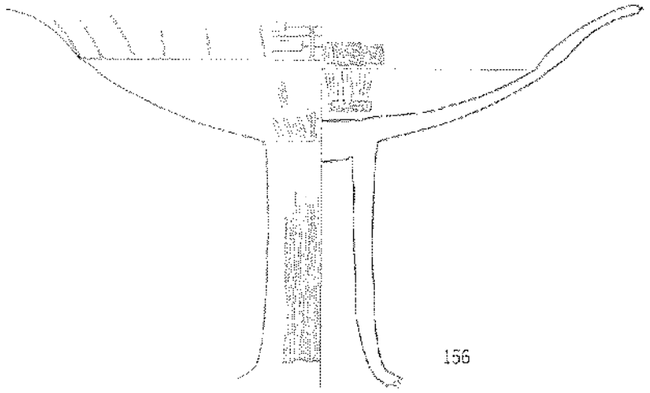


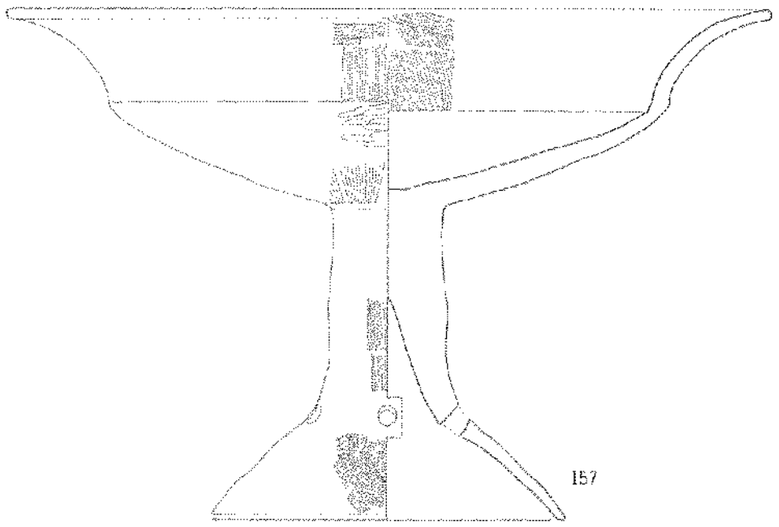


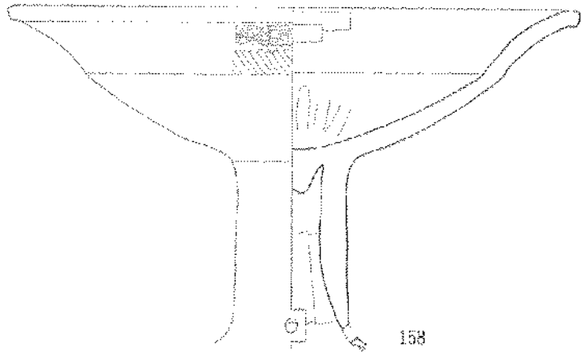


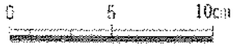


第39図　迫田遺跡包含層出土遺物実測図27（高杯１類）

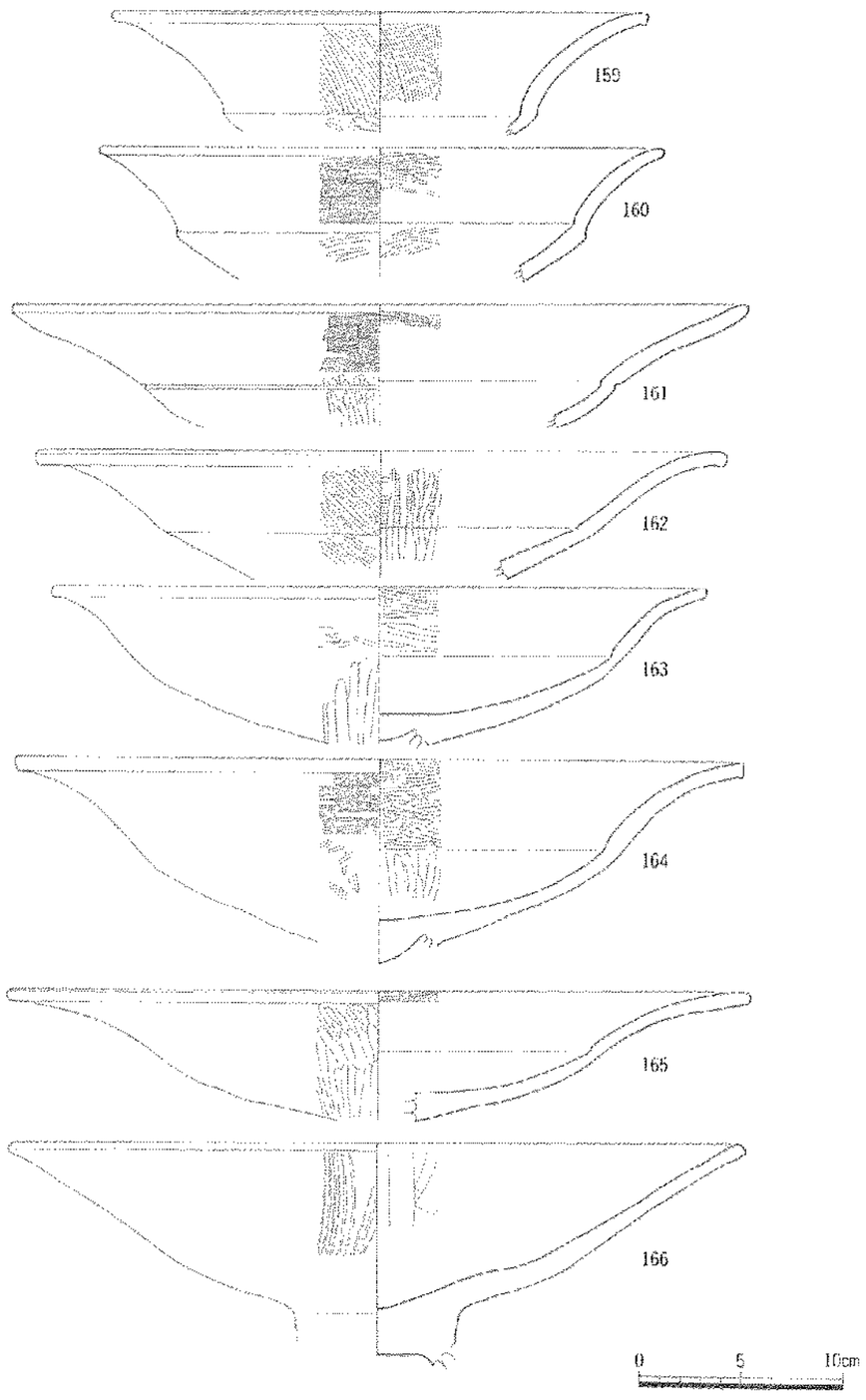








第40図　迫田遺跡包含層出土遺物実測図28（高杯１類～高杯２類）



第41図　迫田遺跡包含層出土遺物実測図29（高杯２類～高杯５類）

い。）胴部中ほどが大きく張り出す器形で，底部は欠損しているが丸底へ続くと思われる。器面調整は，表面が磨耗しているものの，外面にミガキ・ハケメが，内面に指押さえ等が観察できる。145～147は，口縁部周辺が残存している。いずれもほぼ直立する口縁部で，口縁端部より若干下位に１条の沈線を有する。145は146･147と比して若干大きい。器面調整は，いずれも図化できるほど明確ではないが外面にミガキが観察できる。145は，内外面ともにハケメが観察でき，146は内外面にハケメが観察できる。147は内面にハケメが観察できる。148～151は胴部片及び胴部以下が残存しているものである。148は，やや肩が張る器形で，丸底である。器面調整は，表面が磨耗しているものの，内外面ともにハケメが観察できる。149は，胴部中程が張り出す器形で，底部は欠損しているが丸底へ続くと思われる。胴部下部にすすが付着している。器面調整は，表面が磨耗しているものの，外面にハケメが，内面に指押さえ等が観察できる。150は肩部が残存している。器面調整は，外面は磨耗しており判然としないが，内面に指押さえが観察できる。151は底部が残存している。丸底である。調整は，磨耗が激しいため判然としない。

高杯形土器（第39図152～第42図179）

高杯形土器については，それぞれ形態や属性といった特徴ごとに細別を行った。

高杯１類（第39図152～第40図156）

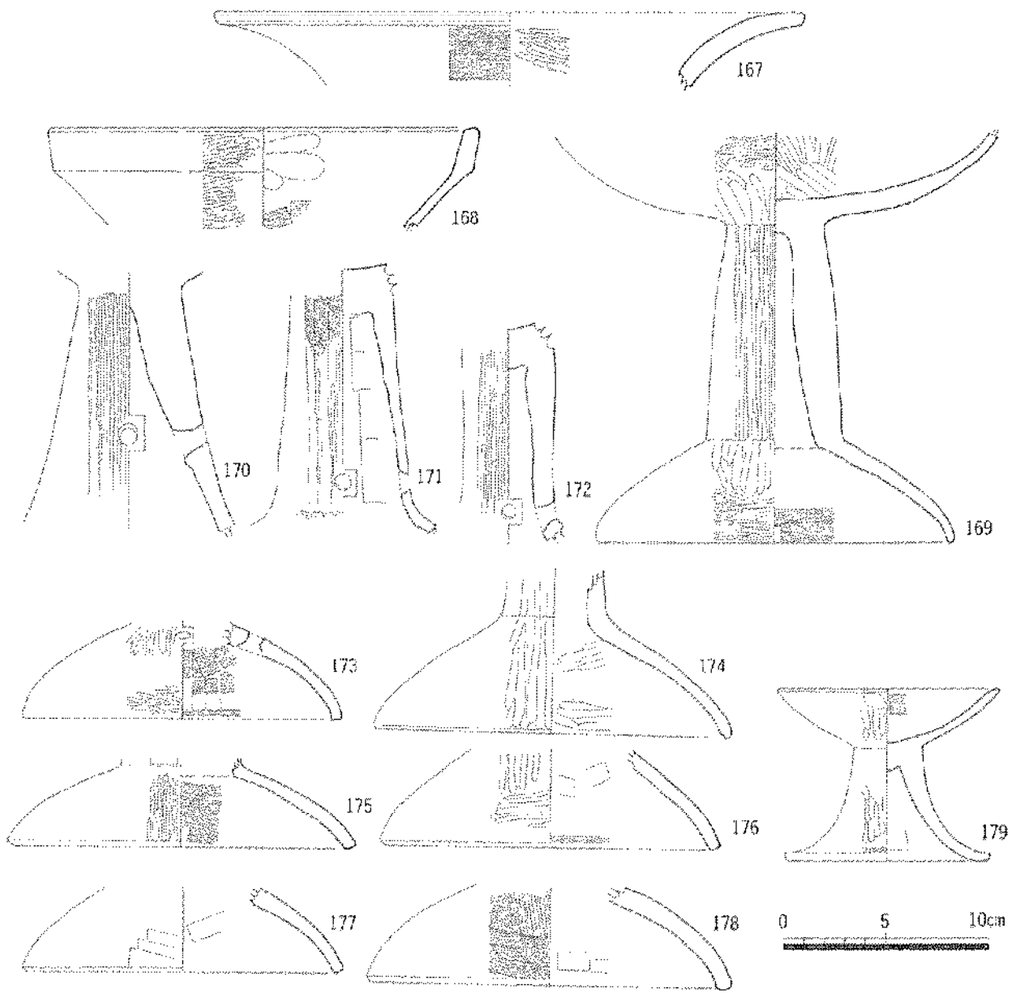
高杯形土器のうち，文様が施されていると思われるものを高杯１類とした。いずれも口縁部が大きく開く器形で，杯部中程で屈曲し，先端は外反する。外面屈曲部より上位に，ヘラ状の工具によると思われる研磨痕を櫛歯状に廻らせており，文様を表現していると思われる。

152･153は杯部及び脚台軸部が残存している。杯部中程で屈曲するが，屈曲部には段を有する。段部内面には明確な稜線を有する。152は，杯部文様帯を構成する１つの文様単位が鈍角的である。これに対し，153は，１つの文様単位が狭く，鋭角的である。器面調整は，152が杯部口縁部に横方向のハケメが，杯部下方と軸部に研磨痕（ミガキ）が観察できる。153は，杯部内外面ともにハケメが，軸部外面にミガキが観察きる。154･155は杯部が残存している。154は杯部屈曲部に段を有し，155は杯部屈曲部に明確な稜線を有する。いずれも段部内面には，明確な稜線を有する。154は，１つの文様単位が鈍角的で，152と類似している。155は１つの文様単位が鋭角的である。器面調整は，154が杯部口縁部に横方向のハケメが，杯部下方及び脚台軸部にミガキが観察でき，杯部内面にもミガキが観察できる。155は杯部内外面ともにミガキが観察できる。156は杯部下方および脚台軸部が残存している。杯部屈曲部には段を有する。段部内面には明確な稜線を有する。文様単位の間隔はやや広い。器面調整は，杯部外面に横方向のハケメ及びミガキが，脚台軸部に縦方向のナデが観察でき，杯部内面にはハケメが観察できる。

高杯２類（第40図157～第41図161）

高杯形土器のうち，杯部屈曲部に段を有するものを高杯２類とした。

157は，口縁部が大きく開く器形である。杯部中程で屈曲するが，屈曲部には段を有し，先端は外反する。段部内外面には明確な稜線を有する。段より上位に，カキアゲ状の縦方向の擦過がみられ，口縁部と杯部を明確に差別化していると思われる。脚台は湾曲して開き，断面半円形を呈する。脚台には４つの穿孔が見られる。器面調整は，杯部外面口縁部に縦方向の擦過が，杯部外面にミガキが見られ，杯部内面にハケメが見られる。脚部外面にはハケメが観察できる。158も口



第42図　迫田遺跡包含層出土遺物実測図30（高杯６類～高杯11類）

縁部が大きく開く器形である。屈曲部に段を有し、先端は外反する。段部内外面には明確な稜線を有する。脚部は欠損しているが、２つの穿孔があったことが確認できる。器面調整は、口縁内外面に横方向のハケメが、杯部外面にミガキが観察できる。159・160は口縁部片である。いずれも屈曲部に段を有し、先端は外反して開く。段部内外面には明確な稜線を有する。器面調整は、159が口縁部内外面にハケメが、杯部外面下部にミガキが観察できる。160は口縁部外面に横方向のハケメが、内面にミガキが観察でき、杯部下部には内外面ともにミガキが観察できる。161は口縁部片である。杯部中程に段を有し、段部外面は沈線状に窪む。段部内面には明瞭な稜線を有する。段より上、口縁部先端は直線的に開く。段部内面には明確な稜線を有する。器面調整は、口縁部内外面ともに横方向のハケメが、杯部下部外面にミガキが観察できる。

高杯３類（第41図162）

高杯形土器のうち、杯部屈曲部に段を有さないが、明確な稜線を有するものを高杯３類とした。162は、口縁部が大きく開く器形である。杯部中程で屈曲するが、高杯１・２類のように段を有するのではなく、屈曲部外面に明確な稜線を有する。先端は直線的に開く。段部内面にも明確な稜線を有する。器面調整は、杯部外面にミガキが、杯部内面にミガキ、ハケメが観察できる。

高杯４類（第41図163～165）

高杯形土器のうち、杯部屈曲部に段・稜線を有さず、さらに、口縁部が大きく湾曲して開くものを高杯４類とした。

163～165は杯部のみ残存している。いずれも大きく湾曲して開き、先端は外反する。高杯１・２類のように、杯部屈曲部に段を有さず、高杯３類のように屈曲部外面に稜線も有さないが、屈曲部内面には明確な稜線を有する。器面調整は、163が杯部外面にミガキが、杯部内面稜線より上位にミガキが観察できる。164は、杯部上位外面に横方向のハケメが、内面にミガキが観察でき、杯部下位内外面ともにミガキが観察できる。165は杯部外面にミガキが、内面口縁部端に横方向のハケメが観察できる。

高杯５類（第41図166）

高杯４類と同様、杯部屈曲部に段・稜線を有さず、口縁部が直線的に開くものを高杯５類とした。

166は口縁部が直線的に大きく外へ開く。器面調整は、杯部外面に縦方向のカキアゲ状擦過が、内面にハケメが観察できる。

高杯６類（第42図167）

口縁部付近が残存しているもので、先端が外反するものを高杯６類とした。

167は口縁部片である。大きく開き、先端が外反する。器面調整は、杯部外面に横方向のハケメが、杯部内面にミガキが観察できる。

高杯７類（第42図168）

口縁部付近が残存しているもので、口縁部が屈曲し、直立するものを高杯７類とした。

168は口縁部片である。口縁部が屈曲し、直立する。屈曲部外面には明確な稜線を有する。器面調整は、杯部外面にミガキが、杯部内面にハケメ・指押さえ等が観察できる。

高杯８類（第42図169）

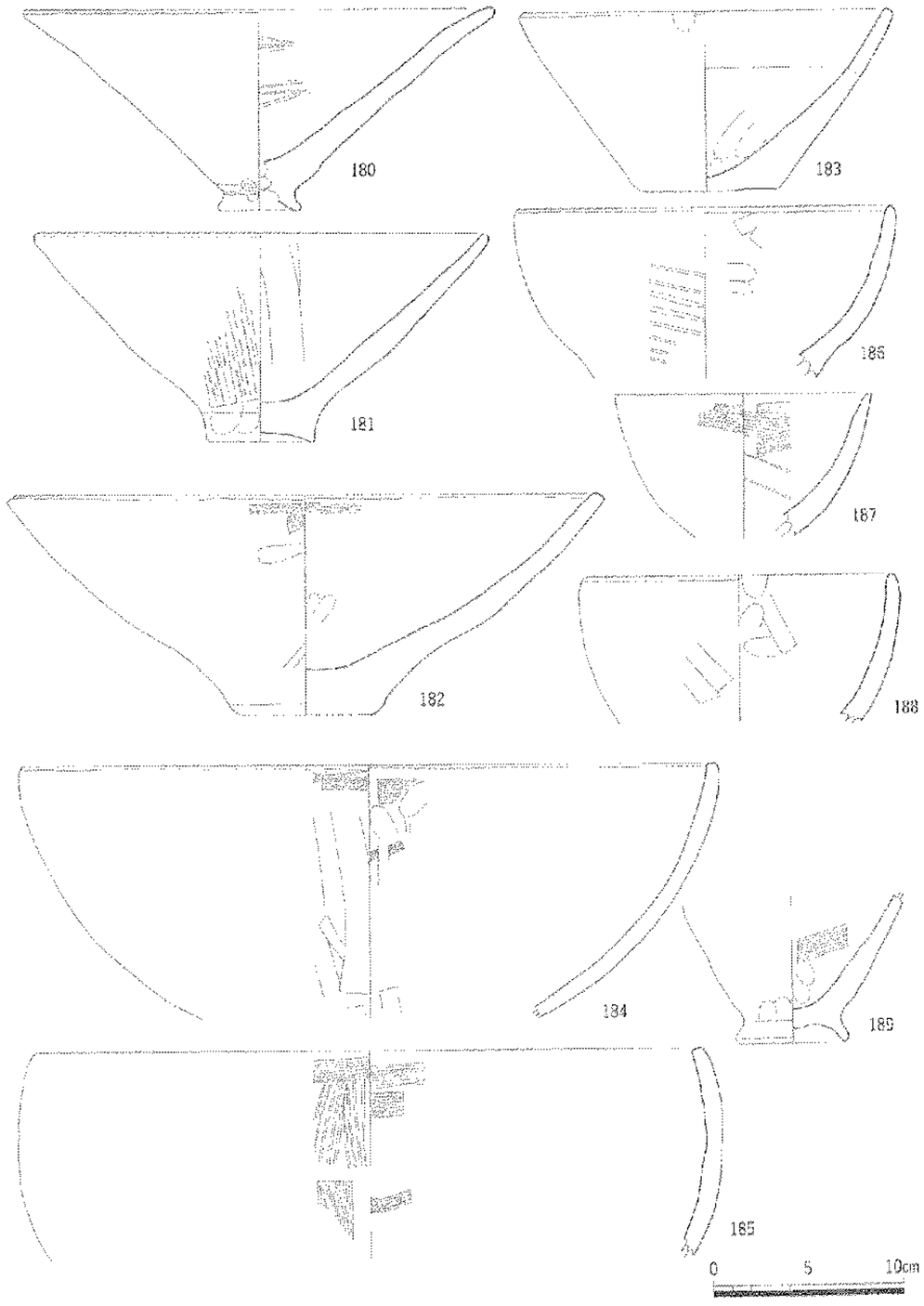
杯部下位から脚部にかけて残存しているものを高杯８類とした。

169は、杯部下位から脚部にかけて残存している。ゆるく内湾ぎみに立ち上がっている。脚部は緩やかな弧を描き、断面は半円形を呈する。脚部は欠損しているが、割れ口に穿孔らしい跡が観察できる。器面調整は、杯部内外面にミガキが、脚部にミガキが観察できる。

高杯９類（第42図170～172）

脚部の軸部が残存しているものを高杯９類とした。いずれのものも、脚部に穿孔が見られる。

170は円錐状に開くが、171・172は直立ぎみに下りる。器面調整は、170が外面にハケメが観察でき、171が内外面ともにハケメが観察でき、172が外面にミガキが観察できる。



第43図　迫田遺跡包含層出土遺物実測図31（鉢１類～鉢４a類）

高杯10類（第42図173～178）

脚部の先端が残存しているものを高杯10類とした。いずれのものも，緩やかな弧を描き，断面は半円形を呈する。

173には穿孔が見られる。器面調整は，173・175・176が外面にミガキ，内面にハケメが観察できる。174は，内外面ともにミガキが観察できる。177・178は内外面ともにハケメが観察できる。

高杯11類（第42図179）

精製で小型のものを，高杯11類とした。

179は，杯部が浅く，口縁部は内湾ぎみに立ち上がる。杯部と軸部は貫通しない。軸部は円錐状に湾曲して開く。器面調整は，杯部外面にミガキ・指押さえが，杯部内湾にハケメが観察できる他，杯部外面にハケメが観察できる。

鉢形土器（第43図180～第44図194）

鉢土器については，それぞれ形態や属性といった特徴ごとに細別を行った。

鉢１類（第43図180・181）

鉢形土器のうち，低い脚台を有し，杯部が直線的に大きく外へ開くものを鉢１類とした。

180は，杯部が大きく外傾し，直線的に外へ開く。口縁端部は僅かに外反する。口径と比して，深さはあまり深くない。器面調整は，外面にナデ・指押さえが，内面にハケメが観察できる。181は180と同様杯部が大きく外傾して開くが，口縁端部は外反せず，わずかに内湾する。口径と比して，深さはあまり深くない。器面調整は，外面にハケメ・指押さえが，内面にハケメが観察できる。

鉢２a類（第43図182）

鉢形土器のうち，脚台を有さないものを鉢２類とした。そのうち，口径が比較的大きいものを鉢２a類とした。

182は，杯部が直線的に大きく外へ開く器形である。口縁端部はゆるく内湾する。口径と比して，深さはあまり深くない。底部は平底で，若干上げ底である。器面調整は，口縁部内外面ともに横方向のナデが観察できる他，杯部外面にハケメ・指押さえが，内面に指押さえが観察できる。

鉢２b類（第43図183）

脚台を有さないもののうち，口径が比較的小さいものを鉢２b類とした。

183は，杯部が直線的に開く器形であるが，開く角度は182と比して狭く，深さもやや深い（口径と器高が同じ値）。器面調整は，内外面ともに指押さえが観察できる。

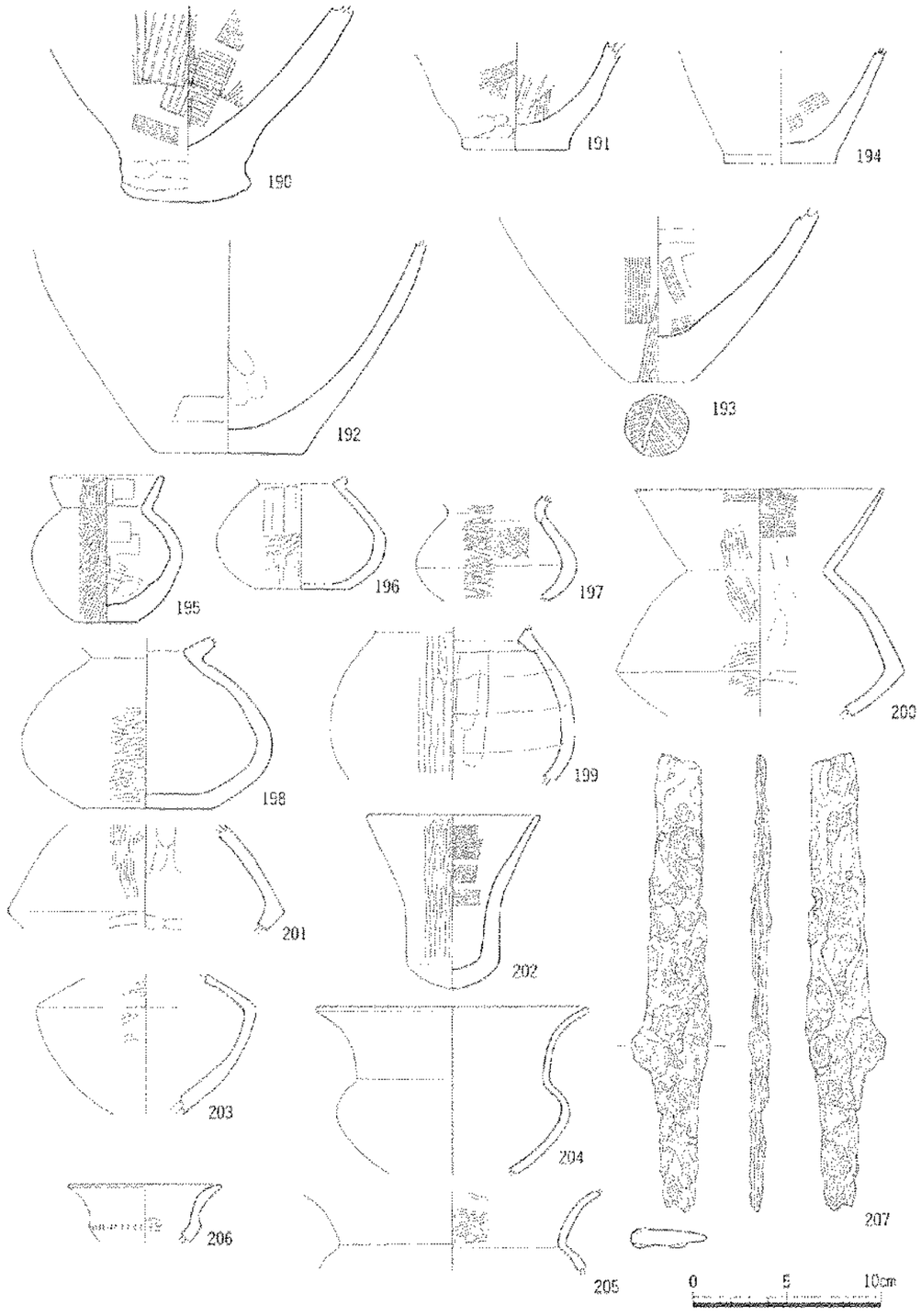
鉢３a類（第43図184・185）

鉢形土器のうち，口縁部周辺が残存しているものを鉢３類とした。そのうち，比較的大きいもの（口径が35cmを超すもの）を鉢３a類とした。

184は，口縁部が内湾ぎみに立ち上がる。器面調整は，口縁部内外面にともに横方向のナデが観察できる他，杯部外面縦方向のハケメが，内面にハケメ・指押さえが観察できる。185は，口縁部が内湾する。器面調整は，内外面ともにハケメが観察できる。

鉢３b類（第43図186）

口縁部周辺が残存しているものうち，口径が20cm前後のものを鉢３b類とした。



第44図　迫田遺跡包含層出土遺物実測図32（鉢４b類～鉄器）

186は，口縁部が内湾ぎみに立ち上がる。底部は欠損しているが，若干上げ底と思われる。器面調整は，外面に粗いハケメが，内湾にハケメ・指押さえが観察できる。

鉢３ｃ類（第43図187・188）

口縁部周辺が残存しているものうち，口径が15cm前後のものを鉢３ｃ類とした。

187は，口縁部が内湾する。器面調整は，内外面ともにハケメが観察できる。188は，口縁部が内湾ぎみに立ち上がる。器面調整は，外面にハケメ，内面にハケメ・指押さえ等が観察できる。

鉢４ａ類（第43図189）

鉢形土器のうち，底部周辺が残存しているものを鉢４類とした。そのうち，低い脚台を有するものを鉢４ａ類とした。

189は，杯部が直線的に開く。口径は大きくないと思われる。脚台は低く，内面天井部が僅かに突出する。器面調整は，杯部外面に指押さえが，内面に指押さえ・ハケメが観察できる。

鉢４ｂ類（第44図190・191）

鉢４類のうち，若干上げ底の底部を有するものを鉢４ｂ類とした。

190・191は，いずれも杯部が内湾ぎみに立ち上がる。底部は若干上げ底で，底部外面には指押さえが見られる。190は，191と比して底径が小さく，底部の上げ具合が大きい。191は，底部外面に稜線を有する。器面調整は，190・191ともに内外面にともにハケメが観察できる。

鉢４ｃ類（第44図192・193）

鉢４類のうち，平底で比較的大きいものを鉢４ｃ類とした。

192は，平底で杯部は若干内湾ぎみに立ち上がる。器面調整は，外面にハケメが観察できる他，図化出来るほど明確ではないが，研磨痕も確認できる。また，内面には指押さえが観察できる。193も平底であるが，192と比して底径が狭い。また，底面には葉圧痕が観察できる。杯部は若干内湾ぎみ立ち上がる。器面調整は，外面にともにハケメが観察できる。

鉢４ｄ類（第44図194）

鉢４類のうち，平底で比較的小さいものを鉢４ｄ類とした。

194は，平底で杯部は直線的に立ち上がる。底部外面には稜線を有する。器面調整は，外面は磨耗して判然としないが，内面にハケメが観察できる。

坩土器（第44図195～206）

坩形土器については，それぞれ形態や属性といった特徴ごとに細別を行った。

坩１ａ類（第44図195）

坩形土器のうち，比較的小型のもの（復元すると器高が10cm弱になると思われる）を坩１類とした。そのうち，球胴状の胴部を有するものを坩１ａ類とした。

195は，短い口縁部が，若干内湾ぎみに開く。胴部との境に明確な稜線を有する。胴部は球胴状で，胴部中程に最大径を有する。胴部最大径が口径を上回る。平底である。器面調整は，外面に丁寧なミガキが，内面にハケメ・指押さえ等が観察できる。

坩１ｂ類（第44図196・197）

坩１類のうち，胴部最大径が胴部中程より下位にあり，若干下膨れの胴部を有するものを坩１ｂ類とした。

196は，胴部が残存している。胴部は若干下膨れで，平底である。器面調整は，表面が磨耗しているため判然としないが，外面にハケメ・ミガキが観察できる。197は胴部片である。196と同様若干下膨れの器形を有する。口縁部と胴部の境に明確な稜線を有する他，胴部最大径にも稜線を有する。器面調整は，外面に丁寧なミガキか，内面にハケメが観察できる。

坩２ａ類（第44図198・199）

坩１類と比して，比較的大きいもの（復元すると器高が15cm前後になると思われる）を坩２類とした。そのうち，坩１ｂ類と同様胴部最大径が胴部中程より下位にあり，若干下膨れの胴部を有するものを坩２ａ類とした。

198は，胴部が残存している。胴部は若干下膨れで，平底である。口縁部と胴部の境に明確な稜線を有する。底部中心部が欠損している。人為的なものかどうかは不明であるが，割れ口からは作為的な印象を受ける。器面調整は，表面が磨耗しているが，外面にミガキが観察できる。199は胴部片である。198と同様若干下膨れの器形を有する。口縁部と胴部の境に明確な稜線を有する。器面調整は，表面が磨耗しているため判然としないが，外面にミガキが，内面に指ナデが観察できる。

坩２ｂ類（第44図200・201）

坩２類のうち，胴部屈曲部に明確な稜線を有し，肩部が若干張るものを坩２ｂ類とした。

200は，口縁部が直線的に開く。胴部は，最大径でくの字状に屈曲し，ソロバン玉状の外観を呈する。口縁部と胴部の境及び胴部屈曲部に明確な稜線を有する。器面調整は，表面が磨耗しているが，外面にミガキが，内面にハケメ・指押さえ等が観察できる。201は胴部片である。200と同様胴部屈曲部に明確な稜線を有する。器面調整は，表面が磨耗しているため判然としないが，外面にミガキが，内面に指ナデが観察できる。

坩３類（第44図202）

坩形土器のうち，細口で長頸のものを坩３類とした。

202は，長頸で，口縁部は直線的に外へ開く。胴部は浅く丸底である。器面調整は，表面が磨耗しているが，外面にミガキが，内面にハケメが観察できる。

坩４類（第44図203）

坩形土器のうち，胴部が扁平なものを坩４類とした。

203は胴部片である。肩部が張る器形である。底部は欠損しているが，胴部形状より平底へ続くと思われる。器面調整は，表面が磨耗しているが，外面にミガキが観察できる。

坩５ａ類（第44図204・205）

坩形土器のうち，広口で口径が胴部最大径を上回るものを坩５類とした。そのうち，比較的大きい（口径15cm前後）ものを坩５ａ類とした。

204は，口縁部がほぼ垂直に立ち上がり，端部で外反する。胴部は若干肩が張る器形で，欠損しているものの丸底へ続くと思われる。口径が胴部最大径を上回る。器面調整は，表面が磨耗しており，図化できるほどではないが，外面にミガキが確認できる。205は胴部片である。204と同様口径が胴部最大径を上回るものと思われるが，口縁部は直線的に開く。器面調整は，表面が磨耗しており，外面は判然としない。内面も磨耗しているが，ミガキが確認できる。

坩５ｂ類（第44図206）

坩５類のうち，比較的小さい（口径10cm弱）ものを坩５ｂ類とした。

206は，204・205と同様の器形であるが，比較的小型である。胴部屈曲部外面に，細かい刻目が廻る。器面調整は，表面が磨耗しており，図化できるほどではないが，外面にミガキが確認できる。内面にもミガキが観察できる。

②鉄器（第44図207）

迫田遺跡からは，鉄器が１点のみ発見された。器種は鉄剣である。

４区より鉄剣が１振検出されたが，土器溜り状の成川式土器の中から混在して出土されており，特に遺構等に伴う形では検出されなかった。そのため，詳細については不明である。長さ24.6cmで，幅は4.0cmである。目釘孔は見られない。

第７表　迫田遺跡包含層出土遺物観察表（１）

※粘土のＳ・Ｃ・Ｋ・Ｕ・Ｈはそれぞれ Ｓ＝石英，Ｃ＝長石，Ｋ＝角閃石，Ｕ＝雲母を指す。

掲載番号	遺物番号	名称	層位	遺構	部位	粘土	色調 外	色調 内	器形調整 外	器形調整 内	焼成	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考
13	1	5-3	Ⅳ	溝		S・C・K	5YR5/6橙	7.5YR7/6橙	ハケメ・ナデ	ナデ	良	35	38	34	外面炭化
13	2	5-3	Ⅳ	溝		S・C・K	7.5YR7/4にぶい橙	10YR7/4にぶい黄橙	ハケメ	ハケメ，指押さえ	良	25	29		
13	3	4-18	Ⅳ	溝	胴部	S・C・K	7.5YR6/6橙	7.5YR5/6橙	ハケメ	ハケメ	良				外面炭化
14	4	4-8	Ⅳ	溝	口縁部	S・C・K	7.5YR6/6橙	5YR6/6橙	ハケメ・ナデ・指押さえ	ハケメ	良	33			内面炭化，黒斑有
14	5	4-7	Ⅳ	溝	口縁部	S・C・K	5YR5/4にぶい赤褐	5YR5/4にぶい赤褐	ハケメ	ハケメ	良				外面炭化，黒斑有
15	6	5-61	Ⅳ	溝	口縁部	S・C・K	2.5YR5/8明赤褐	5YR6/6明赤褐	ナデ・ハケメ	ナデ・ハケメ	良				外面炭化，黒斑有
15	7	4-19	Ⅳ	溝	口縁部	S・C・K	7.5YR6/8明褐	7.5YR5/6明褐	ハケメ・ナデ	ハケメ	良	35			外面炭化
15	8	4-26	Ⅳ	溝	口縁部	S・C・K	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR6/4にぶい橙	ハケメ	ハケメ	良	31			外面炭化
15	9	4-18	Ⅳ	溝	口縁部	S・C・K	7.5YR6/6橙	7.5YR6/6橙	ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ	良				外面炭化
16	10	4-13	Ⅳ	溝	口縁部	S・C・K	5YR5/6明赤褐	5YR4/6赤褐	ハケメ・ナデ	ハケメ	良	32			外面炭化
16	11	5-12	Ⅳ	溝	口縁部	S・C・K	7.5YR5/2にぶい褐	7.5YR6/4にぶい橙	ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ	良	26			外面炭化
16	12	4-19	Ⅳ	溝		S・C・K	5YR7/8橙	2.5YR6/8橙	ハケメ・指押さえ	ハケメ・ナデ	良	25	33		ウキアゲ
16	13	4	Ⅳ	溝	口縁部	S・C・K	5YR5/6明赤褐	2.5YR4/6赤褐	ハケメ・指押さえ	ハケメ	良	31			ウキアゲ
16	14	2	Ⅳ	溝	口縁部	S・C・K	5YR5/2にぶい褐	5YR6/6橙	ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ・指押さえ	良	29			ウキアゲ
16	15	2	Ⅳ	溝	口縁部	S・C・K	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR6/4にぶい橙	ハケメ	ハケメ・ナデ	良	25			ウキアゲ
16	16	4-65	Ⅳ	溝	口縁部	S・C・K	10YR5/4鈍黄橙	10YR7/3にぶい黄橙	ハケメ	ハケメ	良	27			ウキアゲ
17	17	4-57	Ⅳ	溝	口縁部	S・C・K	7.5YR7/6橙	7.5YR5/4にぶい褐	ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ	良	27			ウキアゲ
17	18	5-1	Ⅳ	溝	口縁部	S・C・K	7.5YR7/4にぶい橙	10YR7/4にぶい黄橙	ハケメ	ハケメ	良	36			ウキアゲ
17	19	5-8	Ⅳ	溝	口縁部	S・C・K	2.5YR6/2灰褐	2.5YR6/2灰褐	ハケメ・ナデ	ハケメ	良	35			
17	20	5-5	Ⅳ	溝	口縁部	S・C・K	2.5YR5/3暗赤褐	2.5YR7/4浅黄橙	ハケメ・ナデ	ハケメ	良	36			
17	21	4-27	Ⅳ	溝	口縁部	S・C・K	2.5YR6/6橙	2.5YR6/6橙	ハケメ・ナデ	ハケメ	良	34			
18	22	5-1	Ⅳ	溝	口縁部	S・C・K	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR4/2灰褐	ハケメ・ナデ	ハケメ	良	36			
18	23	4-15	Ⅳ	溝	口縁部	S・C・K	7.5YR6/6橙	10YR7/4にぶい黄橙	ハケメ	ハケメ	良	37			
18	24	5-12	Ⅳ	溝	口縁部	S・C・K	5YR5/6明赤褐	7.5YR5/4にぶい褐	ハケメ・ナデ	ハケメ	良	36			
18	25	4-30	Ⅳ	溝	口縁部	S・C・K	5YR5/6明赤褐	5YR5/6明赤褐	ハケメ	ハケメ・ナデ	良	28			
19	26	4-20	Ⅳ	溝	口縁部	S・C・K・U	7.5YR5/6明褐	7.5YR6/6橙	ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ	良	25			
19	27	4-27	Ⅳ	溝	口縁部	S・C・K	7.5YR5/6明褐	5YR5/6明赤褐	ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ	良	28			
19	28	4-19	Ⅳ	溝	口縁部	S・C・K・U	2.5YR5/6明赤褐	2.5YR5/6明赤褐	ハケメ・ナデ	ハケメ・指押さえ	良	33			
19	29	5-21	Ⅳ	溝	胴部	S・C・K	10YR7/3にぶい黄橙	10YR7/3にぶい黄橙	ハケメ	ハケメ	良	36			
20	30	4-30	Ⅳ	溝	口縁部	S・C・K	10YR5/1褐灰	7.5YR6/4にぶい橙	ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ	良	29			
20	31	4-38	Ⅳ	溝	口縁部	S・C・K・U	10YR7/3にぶい黄橙	10YR7/3にぶい黄橙	ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ	良	27			
20	32	4-7	Ⅳ	溝	口縁部	S・C・K・U	10YR7/3にぶい黄橙	10YR6/2にぶい黄橙	ハケメ・ナデ	ハケメ	良	24			
20	33	4-36	Ⅳ	溝	口縁部	S・C・K	10YR7/3にぶい黄橙	10YR7/3にぶい黄橙	ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ	良	27			
20	34	4-36	Ⅳ	溝	口縁部	S・C・K	10YR7/2にぶい黄橙	10YR7/2にぶい黄橙	ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ	良	32			
20	35	5-12	Ⅳ	溝	口縁部	S・C・K・U	2.5YR5/6橙	7.5YR7/6橙	ハケメ・ナデ	ハケメ	良	26			
21	36	5-1	Ⅳ	溝	口縁部	S・C・K・U	5YR6/6橙	5YR6/6橙	ハケメ	ハケメ	良	30			
21	37	4-8	Ⅳ	溝	口縁部	S・C・K	10YR5/6黄褐	2.5YR5/6橙	ハケメ・ナデ	ハケメ	良	29			
21	38	4-9	Ⅳ	溝	口縁部	S・C・K・U	10YR6/3にぶい黄橙	7.5YR6/4にぶい橙	ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ	良	34			
21	39	4-3	Ⅳ	溝	口縁部	S・C・K	7.5YR6/3にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	ハケメ	ハケメ	良	37			
21	40	1	Ⅳ	溝	口縁部	S・C・K	5YR5/6明赤褐	7.5YR6/4にぶい橙	ハケメ・ナデ	ハケメ	良	25			

第8表　迫田遺跡包含層出土遺物観察表（2）

※胎土のS・C・K・Uはそれぞれ S=石英、C=長石、K=角閃石、U=雲母を指す。

挿図番号	遺物番号	出土区	層	土器	部位	胎土	色調 外	色調 内	器面調整 外	器面調整 内	焼成	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考
21	41	4-17	IV	甕	口縁部	S・C・U	5YR7/6橙	2.5YR5/8明赤褐	ハケメ	ハケメ	良	25			
22	42	5-21	IV	鉢	口縁部	S・C・K	7.5YR7/6にぶい橙	10YR6/4にぶい黄橙	ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ	良	28			
22	43	6	IV	甕	口縁部	S・C・K・U	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	ハケメ・指押さえ	ハケメ	良	30.4			
22	44	4	IV	甕	口縁部	S・C・K・U	2.5YR5/4にぶい赤褐	5YR6/4にぶい橙	ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ	良	26			
22	45	4-16	IV	甕	口縁部	S・C・K・U	10YR6/6黄橙	7.5YR6/4にぶい橙	ハケメ	ハケメ	良	35.6			
22	46	4-35	IV	甕	口縁部	S・C・K	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	ハケメ	ハケメ・指押さえ	良	33.2			
22	47	4	IV	甕	口縁部	S・C・K	7.5YR4/4褐	7.5YR4/4褐	ハケメ・指押さえ	ハケメ	良	29.8			
22	48	4-35	IV	甕	口縁部	S・C・K	7.5YR4/4褐	7.5YR6/2灰黄	ハケメ	ハケメ	良	19.2			
22	49	4-47	IV	甕	口縁部	S・C・K	7.5YR6/4にぶい橙	10YR6/3にぶい黄橙	指押さえ	ハケメ・ナデ	良	28.4			
23	50	4-47	IV	鉢	口縁～頸部	S・C・U	7.5YR6/4にぶい橙	10YR5/3にぶい黄褐		ハケメ	良	29.8			
23	51	5-2	IV	甕	口縁部	S・C・U	2.5YR5/6明赤褐	2.5YR5/6明赤褐	ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ	良	26.9			
23	52	4-18	IV	甕	口縁部	C・K・U	5YR4/6赤褐	5YR4/6赤褐	ハケメ	ハケメ	良	27.4			
23	53	4-29	IV	甕	頸部～肩部	S・C・K	7.5YR7/6にぶい橙	2.5YR5/6明赤褐	ナデ	ナデ	良	24.3			
23	54	4-18	IV	甕	口縁部	S・K・U	5YR6/4にぶい橙	7.5YR4/3褐	ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ	良	32			
24	55	4	IV	甕	口縁部	S・C・K	10YR6/6明黄褐	7.5YR6/4にぶい橙	ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ・指押さえ	良				刻目突帯
24	57	5-12	IV	甕	口縁部	S・C・K・U	7.5YR4/2灰褐	5YR6/4にぶい橙	ハケメ	ナデ	良	19.8			沿線突帯
24	58	4	IV	甕	口縁部	S・C・K・U	2.5YR5/6明赤褐	5YR6/6明赤褐	ナデ	ナデ	良	19.1			沿線突帯
24	56	4	IV	甕	口縁部	S・C・K・U	5YR7/6橙	5YR7/6橙	ハケメ	ハケメ・指押さえ	良	26			沿線突帯
24	59	5-12	IV	甕	口縁部	S・C・K	5YR6/6橙	5YR5/6明赤褐	ハケメ	ハケメ・ナデ	良	32.1			沿線突帯
24	60	4	IV	甕	口縁部	S・C・K	7.5YR5/6明褐	7.5YR4/2褐	ハケメ	ハケメ	良	36.4			沿線突帯
24	61	5-12	IV	甕	口縁部	S・C・K・U	7.5YR6/6橙	にぶい黄橙	ハケメ・ナデ	ハケメ	良	23			沿線突帯
24	62	4	IV	甕	口縁部	S・C・K・U	7.5YR6/4にぶい橙	5YR6/6橙	ハケメ・ナデ	ハケメ	良				沿線突帯
24	63	4	IV	甕	口縁部	S・C・K	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR4/4褐	ハケメ・ナデ	ハケメ	良	28			突帯
25	64	5-12	IV	甕	口縁部	S・C・K	10YR3/2黒褐～赤褐	7.5YR5/6明褐		ハケメ	良	25.9			突帯
25	65	4-19	IV	鉢	口縁～頸部	S・C・K・U	2.5YR5/6明赤褐	7.5YR6/4にぶい橙	ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ	良	27.8			
25	66	5-13	IV	甕	口縁部	S・C・K・U	7.5YR2/3黒褐	7.5YR6/4にぶい橙	ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ	良	25.1			
25	67	4	IV	甕	口縁部	S・U・K	7.5YR5/6橙褐	7.5YR1/6黒	ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ	良	35.4			沿線突帯
25	68	5-12	IV	甕	口縁部	S・C・K	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR5/6明褐	ハケメ	ハケメ・指押さえ	良				沿線突帯
25	69	4	IV	甕	口縁部	S・C・K・U	2.5YR5/6明赤褐	2.5YR5/6明赤褐	ハケメ	ハケメ・指押さえ	良				
25	70	5-13	IV	甕	口縁部	S・C・K・U	2.5YR5/6明赤褐	2.5YR5/6明赤褐	ハケメ	ハケメ・指押さえ	良				
25	71	4-29	IV	甕	頸部	S・C・K	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR5/6明褐	ナデ	ハケメ	良				刻目突帯
25	72	4-8	IV	甕	肩部	S・C・K	10YR5/4にぶい黄褐	7.5YR5/4にぶい褐	ハケメ	ハケメ	良				刻目突帯
25	73	5-1	IV	鉢	胴部	K・U	2.5YR5/6橙	5YR6/6橙	ハケメ	ハケメ	良				刻目突帯
25	74	4	IV	鉢	胴部	S・C・K	10YR5/2灰黄褐	10YR5/3にぶい黄褐	ハケメ	ハケメ	良				刻目突帯
26	75	5-1	IV	鉢	胴部	S・C・K・U	5YR6/6橙	5YR5/6明赤褐	ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ	良				刻目突帯
27	76	4-2	IV	鉢	胴部	S・C・K	7.5YR5/6明褐	7.5YR5/6明褐	ハケメ	ハケメ	良				細隆線状突帯
27	77	4-20	IV	鉢	胴部	S・C・K	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR5/4にぶい褐	ハケメ	ハケメ	良				細隆線状突帯
27	78	4-7	IV	鉢	胴部	S・C・K	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	ハケメ	ハケメ	良				細隆線状突帯
27	79	4-7	IV	鉢	胴部	K・U	7.5YR5/2黒褐	10YR5/2黒褐	ハケメ	ハケメ・ナデ	良				刻目突帯
27	80	4	IV	鉢	胴部	S・C・K	5YR6/6橙	7.5YR5/6明褐	ハケメ	ハケメ	良				沿線突帯
28	81	5-2	IV	鉢	胴部	S・C・K	5YR5/6明赤褐	2.5YR5/6明赤褐	ハケメ	ハケメ	良				細隆線状突帯
28	82	4	IV	鉢	胴部	S・K・U	10YR7/4にぶい黄橙	2.5YR4/1赤黒	ハケメ・ナデ	ハケメ	良				細隆線状突帯
28	83	5-1	IV	鉢	胴部	S・C・K・U	10YR6/3にぶい黄橙	5YR4/6赤褐	ハケメ	ハケメ	良				細隆線状突帯
28	84	5-1	IV	鉢	底部	K・U	7.5YR7/4にぶい橙	2.5YR1/1赤黒	ハケメ	ハケメ	良	10			
28	85	5-13	IV	甕	底部	S・C・K・U	7.5YR6/6橙黄褐	7.5YR6/6橙黄褐	ハケメ・指押さえ	ハケメ・ナデ・指押さえ	良	10			
28	86	4-29	IV	甕	底部	S・C・K	5YR6/6橙	5YR6/6橙	ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ・指押さえ	良	8.6			
28	87	4	IV	甕	底部	S・C・K・U	10YR6/4にぶい黄橙	7.5YR6/4橙	ハケメ	ハケメ	良	8.6			
28	88	4-20	IV	甕	底部	K・U	5YR6/6橙	5YR6/4にぶい黄	ナデ	指押さえ・ナデ	良	9.2			
28	89	4-17	IV	甕	底部	S・C・K・U	7.5YR7/6橙	7.5YR7/6橙	ハケメ・指押さえ	ハケメ	良	9			
28	90	5-5	IV	甕	底部	S・C・K・U	10YR6/4にぶい黄橙	5YR5/4にぶい赤褐	ナデ	ナデ	良	9	9		
28	91	4	IV	甕	底部	S・C・K	5YR5/4にぶい赤褐	5YR5/4にぶい赤褐	ハケメ	指押さえ	良				
29	92	4	IV	鉢	底部	S・C・K・U	7.5YR4/4褐	5YR6/6赤褐	ハケメ	ハケメ	良		8		
29	93	4-16	IV	甕	底部	K・U	7.5YR4/4褐	7.5YR4/4褐	ハケメ・ナデ	ナデ	良		7.1		
29	94	4	IV	鉢	底部	S・C・K・U	7.5YR6/4にぶい橙	10YR8/4にぶい黄橙	ナデ	ハケメ・ナデ・指押さえ	良		12.5		
29	95	4-2	IV	甕		S・C・K	7.5YR5/6明褐	7.5YR5/6明褐	ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ・指押さえ	良	9.4		32.5	刻目突帯
29	96	4-18	IV	甕	頸部～肩部	S・C・K	5YR4/6赤褐	5YR4/6赤褐	ハケメ	ハケメ・指押さえ	良		1		突帯

第9表　迫田遺跡包含層出土遺物観察表（3）

※胎土のS・C・K・Uはそれぞれ S=石英、C=長石、K=角閃石、U=雲母を指す。

挿図番号	遺物番号	出土区	層	土器	部位	胎土	色調 外	色調 内	器面調整 外	器面調整 内	焼成	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考
30	57	5-12	IV	壺	胴部	S・C・U	10YR6/2灰黄褐	7.5YR6/2灰褐	ハケメ	ハケメ・指押さえ	良				朝鮮系櫛描紋
30	58	1	IV	壺		S・C・U	5YR6/6橙	7.5YR7/6橙	ハケメ・ナデ		良	25	8	62	鍋広突帯
30	59	4-15	IV	壺	底部	S・C・U	7.5YR7/4にぶい橙	2.5YR6/6橙	ハケメ		良		5		
31	100	5-2	IV	壺	頸部～肩部	S・C・K・U	2.5YR5/6橙	5YR7/6橙	ハケメ	ハケメ・指押さえ	良	17.1			刻目突帯
31	101	4-4	IV	壺	頸部～肩部	S・C・K	7.5YR5/6明黄褐	10YR8/4淡黄橙	ハケメ	ハケメ	良				刻目突帯
32	102	4-15	IV	壺	頸部	S・C・K・U	5YR4/6にぶい赤褐	7.5YR6/3にぶい橙	ハケメ	ハケメ	良				刻目突帯
32	103	5-12	IV	壺	胴部	S・C・K・U	7.5YR5/4にぶい褐	10YR5/4にぶい黄褐	ハケメ	ハケメ	良				刻目突帯
32	104	4-10	IV	壺	頸部～肩部	C・K	10YR7/6明黄褐	10YR7/3にぶい黄橙	ハケメ		良				刻目突帯
32	105	3	IV	壺	頸部～肩部	S・C・K・U	10YR6/4にぶい黄橙	2.5YR5/2にぶい褐			良				刻目突帯
32	106	4-18	IV	壺	頸部～肩部	S・C・K・U	5YR6/6橙	7.5YR7/4にぶい橙	ハケメ	タテ目・指押さえ	良	8.7			刻目突帯
33	107	4-2	IV	壺	頸部～肩部	S・C・K・U	7.5YR7/3褐	5YR6/4にぶい橙	ハケメ・ナデ	ハケメ・指押さえ	良				
33	108	4-26	IV	壺	口縁部	S・C・K・U	7.5YR5/4にぶい褐	5YR6/4にぶい橙	ハケメ・ナデ	ハケメ・指押さえ	良	16.4			
33	109	4-16	IV	壺	頸部～肩部	S・C・K	5YR6/8橙	7.5YR7/6橙	ミガキ・ナデ	ナデ・指押さえ	良	13.6			沈線
33	110	2	IV	壺	口縁部	K・U	5YR7/6橙	5YR7/6橙	ハケメ・ナデ	ナデ・指押さえ	良	17.5			
33	111	4-36	IV	壺	口縁部	S・C・K・U	7.5YR6/6橙	5YR6/8橙		ハケメ	良	17.2			
34	112	5	IV	壺	口縁部	S・C・K	7.5YR5/6明褐	10YR5/6黄褐	ハケメ		良	25.8			
34	113	4-16	IV	壺	口縁部	K・U	10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙	ナデ	ナデ	良	15.3			
34	114	1	IV	壺	口縁部	S・C・K	7.5YR5/6明褐	7.5YR5/6明褐	ハケメ	ハケメ	良	30.5			刻目突帯
34	115	5-14	IV	壺	口縁部	S・C・K	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR5/6明褐	ハケメ・ナデ		良	17.4			刻目突帯
34	116	4	IV	壺	胴部	S・C・K	7.5YR7/6橙	7.5YR7/6橙	ナデ		良				刻目突帯
34	117	5-10	IV	壺	胴部	S・C・U	2.5YR5/6明赤褐	2.5YR5/6明赤褐	ハケメ		良				刻目突帯
34	118	1	IV	壺	胴部	S・C・K	5YR5/6明赤褐	5YR5/6明赤褐	ハケメ		良				刻目突帯
35	119	4-7	IV	壺	胴部	S・C・U	5YR6/6橙	7.5YR5/4にぶい褐	ハケメ	ハケメ	良				細隆線状突帯
35	120	5-12	IV	壺	胴部	K・U	5YR6/6橙	7.5YR6/4にぶい橙	ハケメ	ハケメ	良				細隆線状突帯
35	121	5-1	IV	壺	胴部	S・C・K	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR5/6明赤褐	ハケメ	ハケメ・指押さえ	良				刻目突帯
35	122	5-19	IV	壺	胴部	S・C・K	5YR6/6橙	7.5YR6/6橙	ハケメ	ハケメ・指押さえ	良				刻目突帯
35	123	4	IV	壺	胴部	S・C・K	7.5YR6/6橙	7.5YR6/4にぶい橙	ハケメ	ハケメ・指押さえ	良				刻目突帯
35	124	4	IV	壺	胴部	S・C・K	10YR6/4にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙	ハケメ		良				鍋広突帯
35	125	4	IV	壺	胴部	S・C・K	10YR6/4にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙	ハケメ		良				鍋広突帯
35	126	4	IV	壺	胴部	S・C・K	10YR7/3にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙	ハケメ		良				鍋広突帯
36	127	3	IV	壺	胴部	S・C・U	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR4/6褐	ナデ		良				鍋広突帯
36	128	1	IV	壺	胴部	C・K	10YR5/4にぶい黄褐	7.5YR5/6明褐	ナデ		良				鍋広突帯
36	129	2	IV	壺	胴部	S・C・K	10YR6/4にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙	ハケメ		良				鍋広突帯
36	130	4	IV	壺	胴部	S・C・K	10YR6/6明黄褐	10YR5/6黄褐	ナデ		良				鍋広突帯
36	131	4	IV	壺	胴部	S・C・U	7.5YR5/4にぶい褐	2.5YR6/8橙赤褐	ナデ		良				鍋広突帯
36	132	4	IV	壺	胴部	S・C・K・U	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR5/6褐	ハケメ・ナデ		良				鍋広突帯
36	133	4	IV	壺	胴部	S・C・K	10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙			良				鍋広突帯
36	134	1	IV	壺	胴部	S・C・K	10YR7/3にぶい黄橙	10YR7/2にぶい黄橙			良				鍋広突帯
36	135	4	IV	壺	胴部	S・C・U	7.5YR4/3褐灰	7.5YR4/6褐			良				鍋広突帯
36	136	4-18	IV	壺	底部	S・C・K・U	10YR8/4淡黄橙	10YR8/4淡黄橙	ハケメ	ハケメ	良		5.8		
37	137	5-33	IV	壺	底部	S・C・K	5YR4/6赤褐	7.5YR4/4褐	ハケメ	ハケメ・指押さえ	良		7		
37	138	4-14	IV	壺	底部	S・C・K・U	10YR6/2にぶい黄褐	10YR6/4にぶい黄橙	ハケメ・ナデ		良		4		
37	139	4-9	IV	壺	底部	K・U	10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/3にぶい黄橙			良		6		
37	140	4-30	IV	鉢?	胴部	S・C・K・U	5YR7/4にぶい赤褐	7.5YR6/4にぶい橙	ミガキ		良				朝日
37	141	3	IV	壺?	胴部	S・C・K・U	5YR5/6明赤褐	10YR6/2にぶい黄橙	ハケメ	ハケメ・指押さえ	良				底部穿孔突起
38	142	4-29	IV	鉢?	底部	S・C・K・U	10YR5/2にぶい黄褐	7.5YR6/4にぶい橙	ハケメ	ハケメ	良				底部穿孔突起
38	143	4-30	IV	鉢?	胴部	S・C・U	7.5YR6/8橙	10YR7/3にぶい黄橙			良				朝日突帯
38	144	5-12	IV	鉢?	頸部～肩部	S・C・K・U	10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/6明黄褐	ハケメ	ハケメ・指押さえ	良	8.7			
38	145	4-8	IV	鉢?	口縁部	S・C・K・U	7.5YR5/6橙	7.5YR5/4にぶい褐	ハケメ	ハケメ	良	11			
38	146	4-13	IV	鉢?	口縁部	S・C・U	10YR7/4にぶい黄橙	10YR5/3にぶい黄褐	ハケメ	ハケメ・指押さえ	良	7.2			
38	147	4-20	IV	鉢?	口縁部	S・C・K	10YR7/3にぶい黄橙	10YR6/3にぶい黄橙		ハケメ	良	7			
38	148	5-12	IV	鉢?	胴部	S・C・U	7.5YR7/6橙	7.5YR6/4にぶい橙	ハケメ・指押さえ	ハケメ	良		1		
38	149	5-12	IV	鉢?	胴部	S・C・U	10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/6明黄褐	ハケメ	指押さえ	良				
38	150	4-3	IV	鉢?	胴部	S・C・K	7.5YR2/2黒褐	10YR6/3にぶい黄橙		指押さえ	良				
38	151	4-29	IV	鉢?	底部	S・C・K	7.5YR6/4にぶい橙	10YR6/4にぶい黄橙			良		1		
38	152	4-20	IV	鉢?	頸部～肩部	S・C・U	2.5YR5/6明赤褐	7.5YR6/4にぶい橙	ミガキ・ハケメ		良	33.2			

第10表　迫田遺跡包含層出土遺物観察表（4）

異物土の S・C・K・U はそれぞれ S＝石英，C＝長石，K＝角閃石，U＝雲母を指す。

遺構番号	遺物番号	出土区	層	器種	部位	胎土	色調 外	色調 内	器面調整 外	器面調整 内	残存	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	備考
39	153	4-10	Ⅳ	高杯	底部・脚部	S・C	5YR4/2灰褐・赤彩	5YR5/4にぶい赤褐	ハケメ・ミガキ	ハケメ	良	25.1			
39	154	5-2	Ⅳ	高杯	杯部	S・C・K・U	10YR5/3黄褐	2.5YR5/6明赤褐	ハケメ・ミガキ	ミガキ	良	21.4			
39	155	4-20	Ⅳ	高杯	杯部	S・C・K	10YR5/3にぶい黄褐	7.5YR5/2にぶい褐	ミガキ	ミガキ・ハケメ	良	22.3			
40	156	4-18	Ⅳ	高杯	杯部・脚部	S・C・K	5YR7/6橙	7.5YR5/4にぶい褐	ハケメ・ミガキ	ハケメ	良				
40	157	5-6	Ⅳ	高杯		S・K	5YR5/3にぶい赤褐	5YR5/1褐灰	ハケメ・ミガキ	ハケメ	良	27.4		25	細線穿孔
40	158	4	Ⅳ	高杯	脚部・脚部	S・C・K	5YR6/6橙	5YR5/6橙	ハケメ・ミガキ	ハケメ・ミガキ	良	28			細線穿孔
41	159	5-12	Ⅳ	高杯	杯部	S・C・K	10YR7/3にぶい黄橙	10YR8/3浅黄橙	ハケメ・ミガキ	ハケメ	良	26.1			
41	160	5-21	Ⅳ	高杯	杯部	S・C・K・U	5YR7/6橙	5YR7/6橙	ハケメ・ミガキ	ミガキ	良	28			
41	161	5-12	Ⅳ	高杯	杯部	S・C・K	10YR7/3にぶい黄橙	10YR7/3にぶい黄橙	ハケメ	ハケメ・ミガキ	良	22.8			
41	162	5-13	Ⅳ	高杯	杯部	S・C・K	2YR6/4にぶい橙	10YR8/2灰黄褐	ミガキ	ミガキ・ハケメ	良	31			
41	163	5-2	Ⅳ	高杯	杯部	S・C・K	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR7/4にぶい橙	ミガキ	ミガキ	良	32			
41	164	4-28	Ⅳ	高杯	杯部	S・C・K・U	5YR7/3にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	ミガキ・ハケメ	ミガキ	良	25.6			
41	165	4-15	Ⅳ	高杯	杯部	S・C・K	10YR7/2にぶい黄橙	10YR8/2灰白	ミガキ	ハケメ・ミガキ	良	26.6			
41	166	4-16	Ⅳ	鉢	口縁部・脚部	S・C・K・U	10YR5/6黄褐	10YR5/4黄褐	ハケメ・ナデ	ハケメ	良	26.4			
42	167	4-26	Ⅳ	高杯	口縁部	S・C・K	7.5YR7/4にぶい橙	7.5YR7/4にぶい橙	ハケメ	ミガキ	良	29			
42	168	1	Ⅳ	高杯	杯部	S・C・K・U	5YR6/6橙	7.5YR6/6橙	ミガキ	ハケメ・指押さえ	良	31.2			
42	169	4-30	Ⅳ	高杯	底部・脚部	S・C・K・U	2.5YR5/8明赤褐	2.5YR6/6橙	ミガキ	ミガキ・ハケメ	良				
42	170	4	Ⅳ	高杯	脚部	S・C・K・U	7.5YR6/6橙	7.5YR6/4にぶい橙	ハケメ		良				
42	171	4-4	Ⅳ	高杯	脚部	S・C・K	10YR6/3にぶい黄橙	10YR6/3にぶい黄橙	ハケメ・ミガキ・ナデ	ナデ	良				
42	172	4-6	Ⅳ	高杯	脚部	S・C・K	10YR6/2灰黄褐	10YR6/2灰黄褐	ミガキ	ハケメ	良		7.9		
42	173	4-17	Ⅳ	高杯	脚部	S・C・K	5YR6/6橙	7.5YR7/4にぶい橙	ミガキ	ハケメ	良		7.9		
42	174	4-17	Ⅳ	高杯	脚部	S・C・E	10YR8/3浅黄橙	10YR8/2浅黄橙	ミガキ	ミガキ	良		17.6		
42	175	5-1	Ⅳ	高杯	脚部	S・C・K	5YR5/6明赤褐	7.5YR5/3にぶい褐	ミガキ・ハケメ	ハケメ	良		17.2		
42	176	4-5	Ⅳ	高杯	脚部	S・C・K	5YR5/6明赤褐	7.5YR5/3にぶい褐	ミガキ	ハケメ・ナデ	良		16.8		
42	177	5-1	Ⅳ	高杯	脚部	S・C・K	10YR7/3にぶい黄橙	10YR6/3にぶい黄橙	ハケメ	ハケメ	良		15.8		
42	178	4-18	Ⅳ	高杯	脚部	S・C・K	10YR6/3にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙	ハケメ	ハケメ	良		17.8		
42	179	3	Ⅳ	鉢		S・C・K	7.5YR7/6黄橙	2.5YR7/6黄橙	ハケメ・ミガキ・指押さえ	ハケメ	良	16.5		14.3	
43	180	4	Ⅳ	鉢		S・C・E・C	2.5YR5/6明赤褐	7.5YR6/4にぶい橙	ハケメ	ナデ・指押さえ	良	25		19.7	
43	181	4	Ⅳ	鉢		S・C・K・U	5YR7/4にぶい橙	5YR7/4にぶい橙	ハケメ・指押さえ	ハケメ	良	23		11	
43	182	4-9	Ⅳ	鉢		S・C・K・U	7.5YR7/3黄橙	2.5YR5/6明赤褐	ハケメ・指押さえ	指押さえ・ナデ	良	32		11.6	
43	183	4	Ⅳ	鉢		S・C・K	7.5YR4/1褐灰	10YR7/3にぶい黄橙	指押さえ	指押さえ	良	19.9		19.8	
43	184	4-7	Ⅳ	鉢	口縁部	S・C・K・U	2.5YR5/6明赤褐	2.5YR5/6明赤褐	ハケメ	ハケメ・指押さえ	良	36.4			
43	185	4-17	Ⅳ	鉢	口縁部	S・C・K・U	2.5YR5/6明赤褐	2.5YR5/6明赤褐	ハケメ	ハケメ	良	29.7			
43	186	4	Ⅳ	鉢	口縁部	S・C・K・U	5YR5/8明赤褐	7.5YR4/6褐	ハケメ	ハケメ・指押さえ	良	29.3			
43	187	4	Ⅳ	鉢	口縁部	S・C・K	7.5YR5/6明赤褐	5YR5/6明赤褐	ハケメ	ハケメ	良	15.6			
43	188	4	Ⅳ	鉢	口縁部	S・C・K・U	5YR5/6明赤褐	5YR6/3橙	ハケメ	ハケメ・指押さえ	良	16.1			
43	189	4	Ⅳ	鉢	底部・脚部	S・C・K・U	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	指押さえ	指押さえ・ハケメ	良				
44	190	4-26	Ⅳ	鉢	底部	S・C・K・U	5YR5/4にぶい赤褐	7.5YR6/4にぶい橙	ハケメ・指押さえ	ハケメ	良	7			
44	191	4-30	Ⅳ	鉢	底部	S・C・K・U	2.5YR7/6明赤褐	7.5YR5/3明褐	ハケメ・指押さえ	ハケメ	良	5.4			
44	192	5-17	Ⅳ	鉢	底部	K・U	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR5/4にぶい褐	ハケメ・ミガキ	指押さえ	良	8			
44	193	5-3	Ⅳ	鉢	底部	S・C・K・U	10YR5/6黄褐	10YR5/6黄褐	ハケメ	ハケメ	良	8.2			底面に網目痕
44	194	4-24	Ⅳ	鉢	底部	K・U	5YR5/4にぶい赤褐	5YR5/6明赤褐		ハケメ	良	6			
44	195	4-1	Ⅳ	壷		C・K	2.5YR5/6明赤褐	5YR5/6橙	ミガキ	ハケメ・指押さえ	良	8.2 3.4	7.8		
44	196	4	Ⅳ	壷	頸部	S・C・K	10YR8/4浅黄橙	10YR8/4浅黄橙	ミガキ・ハケメ		良	9			
44	197	4	Ⅳ	壷	口縁部	S・C・K	10YR6/3にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙	ミガキ	ハケメ	良				
44	198	4	Ⅳ	壷	頸部	S・C・K	10YR6/6明黄褐	7.5YR8/6黄橙	ミガキ		良	7			
44	199	4-22	Ⅳ	壷	頸部	S・C・K	10YR8/3浅黄橙	10YR7/3にぶい黄橙	ミガキ	指ナデ	良				
44	200	4-16	Ⅳ	壷	頸部・肩部	S・C・K	5YR7/6橙	10YR7/4にぶい黄橙	ミガキ・ナデ	ハケメ・指押さえ	良	10.4			
44	201	4-16	Ⅳ	壷	頸部	S・C・K・U	10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙	ミガキ・ハケメ	指押さえ	良				
44	202	4-28	Ⅳ	壷		C・K	5YR6/4にぶい橙	5YR7/4にぶい橙	ミガキ	ハケメ	良	9.1 4.8	9.3		
44	203	5-6	Ⅳ	壷	頸部	S・C・K	10YR6/4にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙	ミガキ		良				
44	204	5-4	Ⅳ	壷	口縁部・頸部	S・C・K	2.5YR5/6明赤褐	7.5YR8/4浅黄橙	ミガキ		良	14.8			
44	205	5-11	Ⅳ	壷	頸部	S・C・K	7.5YR7/3にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙		ミガキ	良				
44	206	1	Ⅳ	壷	口縁部・頸部	S・C・K	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	ミガキ	ミガキ	良	8.2			朝日

第11表　迫田遺跡包含層出土遺物観察表（鉄器）

遺構番号	遺物番号	実測番号	取上番号	区	層	器種	部位	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
44	207			4	Ⅳ	釘		鉄	24.6	1	1.2	130	会

第Ⅴ章　森田遺跡の発掘調査

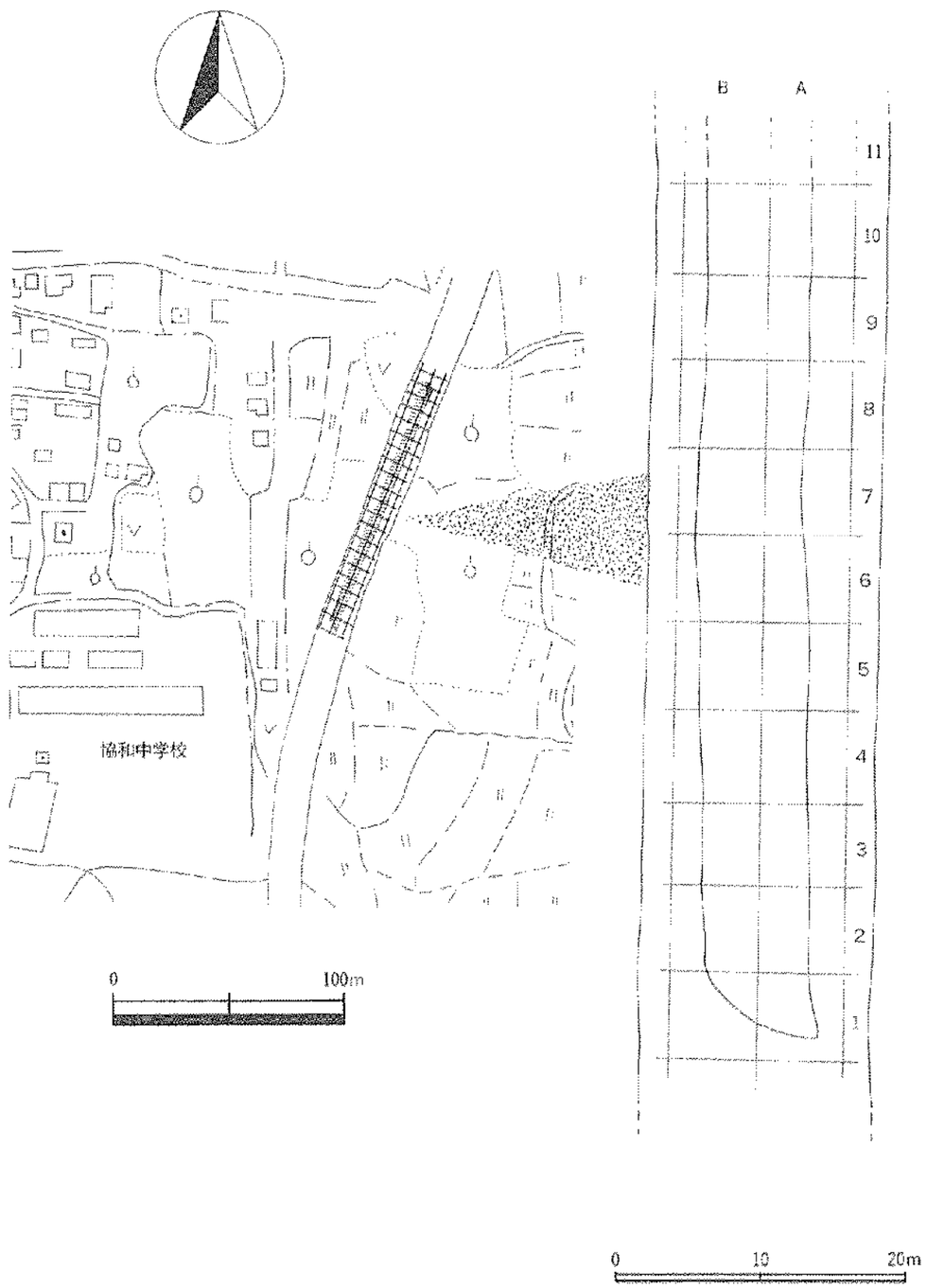
第１節　調査の概要

森田遺跡の発掘調査は，平成14年９月17日から平成14年11月７日までの期間実施した。グリッドの設定は，調査対象区域内を東西に２分し（調査区域の東方をＡ区，西方をＢ区とした），それぞれ６ｍ×６ｍのグリッドを１区から21区まで任意に設定し，重機を使用して表土を削除した後，作業員の手掘りで行った。（76頁第45図参照）。11区以北については，遺構・遺物等の出土が見られなかったため，本章では割愛する。

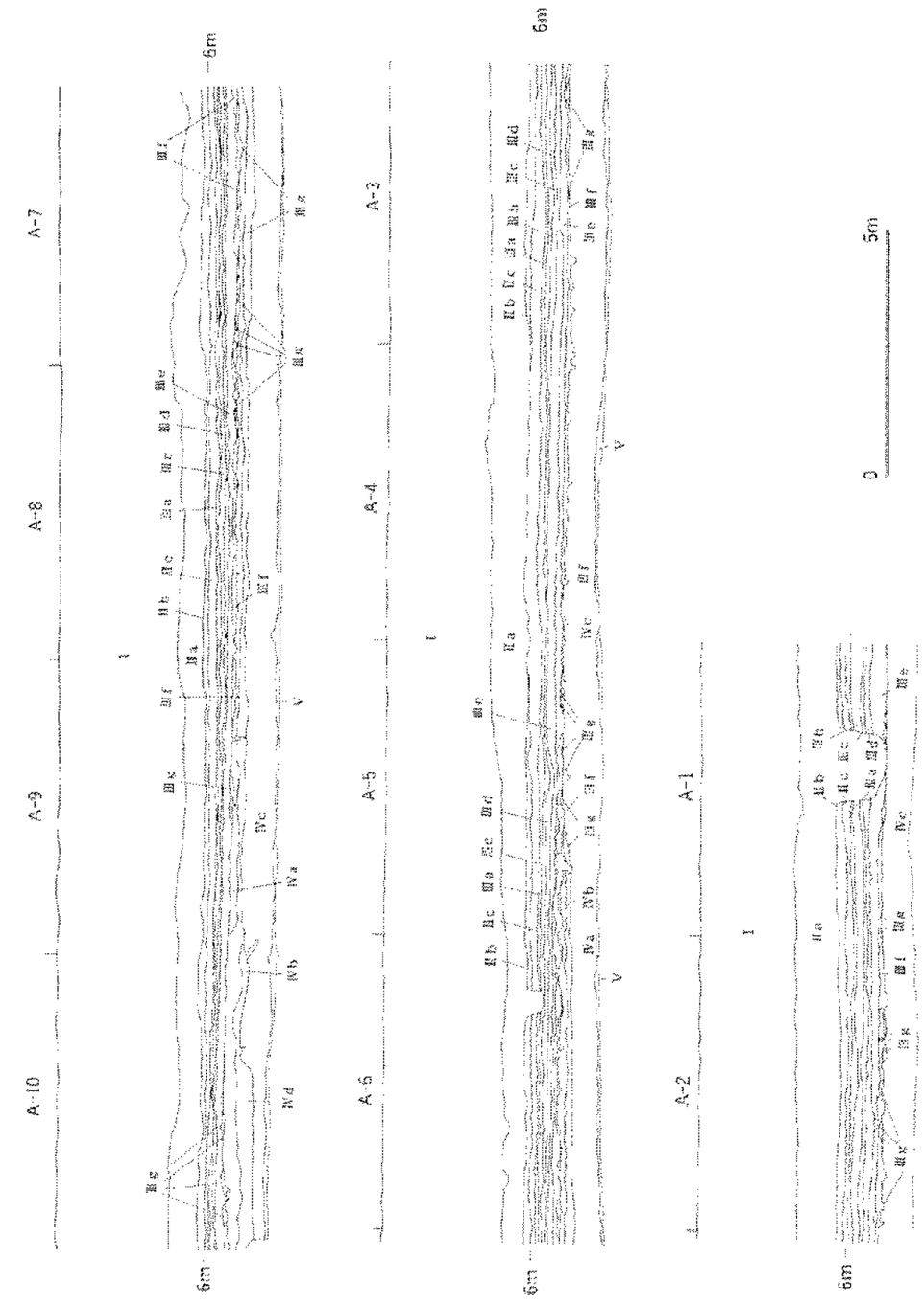
第２節　層　序

場所により若干の相違はあるが，基本的には以下のとおりである。

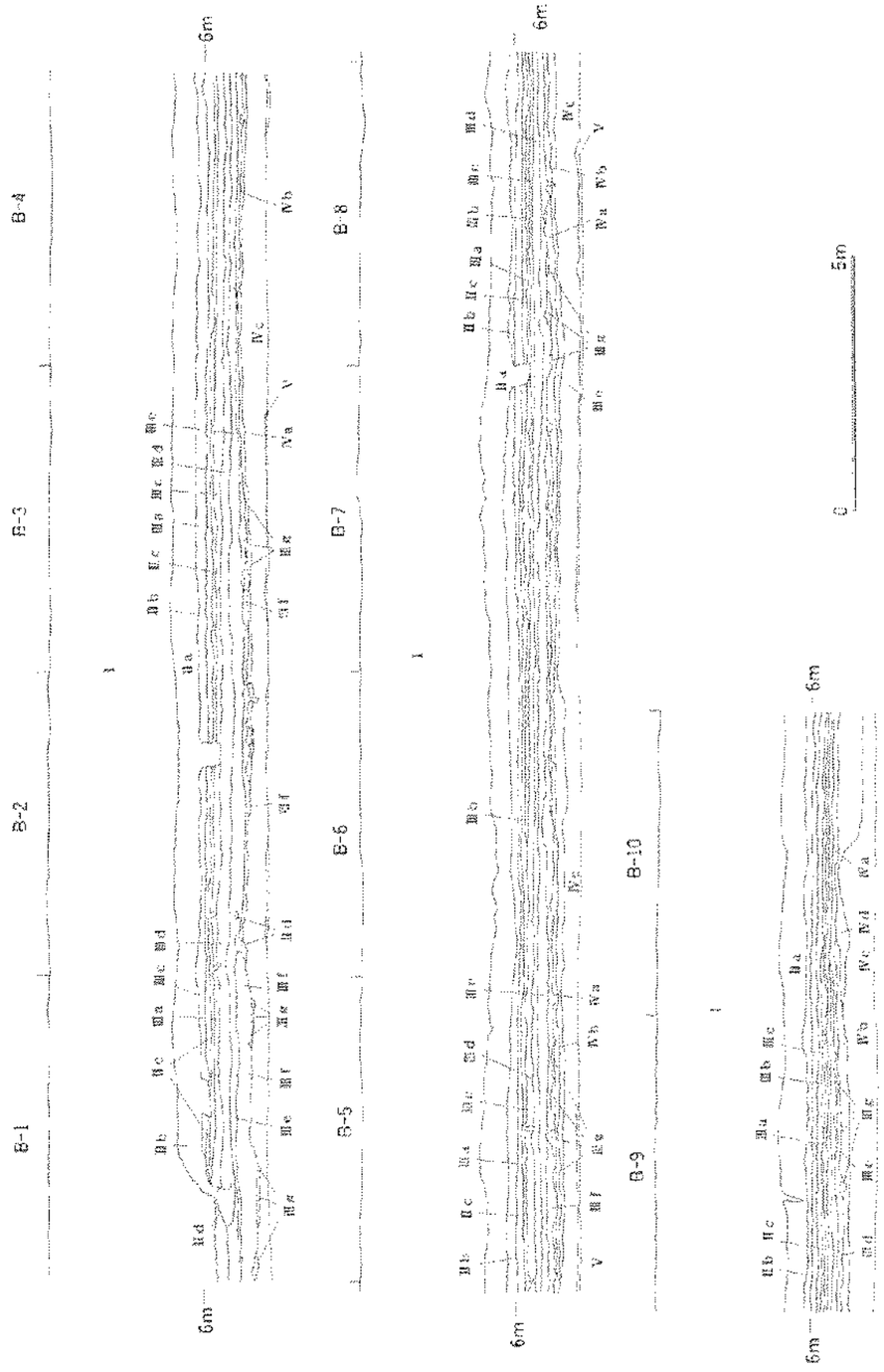
Ⅰ　層			表層，鉄道造成時の盛土
Ⅱa 層	黒褐（7.5YR3/1）	細砂	
Ⅱb 層	褐灰（7.5YR4/1）	粗砂	堆積は一部に限られる。
Ⅱc 層	灰黄褐（10YR5/2）	粗砂	
Ⅱd 層	明黄褐（10YR7/6）	粗砂	堆積は一部に限られる。
Ⅲa 層	赤褐（2.5YR4/6）	細砂	軽石若干含む，非常に硬質
Ⅲb 層	灰黄褐（10YR5/2）	細砂	軽石若干含む，非常に硬質，堆積は一部に限られる。
Ⅲc 層	赤褐（5YR4/6）	細砂	軽石僅かに含む，非常に硬質
Ⅲd 層	灰黄褐（10YR5/2）	細砂	軽石僅かに含む，非常に硬質
Ⅲe 層	灰黄褐（10YR6/2）	細砂	硬質
Ⅲf 層	にぶい赤褐（5YR5/4）	細砂	硬質，堆積は一部に限られる。
Ⅲg 層	明黄褐（10YR6/6）	細砂	堆積は一部に限られる。
Ⅳa 層	にぶい赤褐（5YR4/3）	粗砂	硬質，遺物（成用式）包含層
Ⅳb 層	褐（7.5YR4/4）	細砂	遺物（成用式）包含層
Ⅳc 層	黒褐（7.5YR3/2）	細砂	遺物（成用式）包含層
Ⅴ　層	黄褐（10YR5/6）	細砂	礫混入



第45図　森田遺跡グリッド設定図



第46図　森田遺跡東側壁面土層堆積状況



第47図　森田遺跡西側壁面土層堆積状況

第３節　森田遺跡の遺構

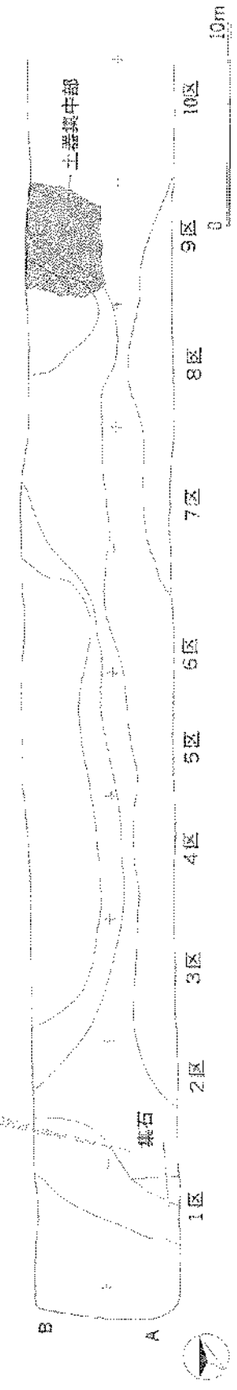
森田遺跡からは，明確な遺構は検出されなかった。ただ，Ａ－１・２区より用途不明の集石が検出された。また，Ｂ－９区からは，遺物が土器溜り状に大量に出土した。いずれもⅣ層からの出土であった。

集石は，10cm大の石数約510個からなる。個々の石には熱を受けた跡がみられず，調理等の用途には使用されなかったと考えられるが，詳細は不明である。

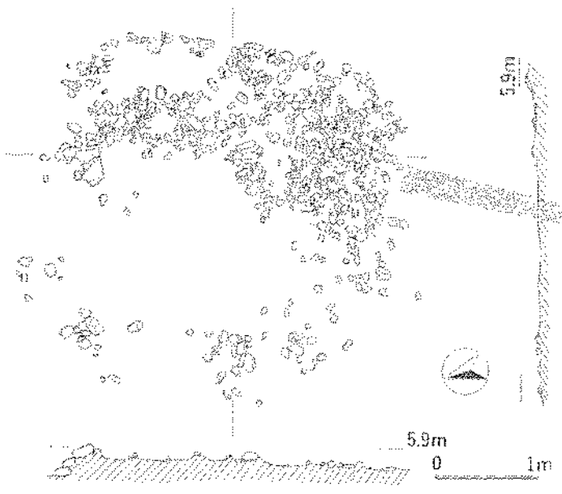
また，明確な遺構ではないが，Ｂ－９区からは土器溜り状に遺物が集中して大量に出土した。出土した土器は，Ⅳ層出土のる。面積約20㎡，厚さ約26cmの範囲から，数百点にも及ぶ土器片が出土したが，その中には完形に近いものも含まれる。

明確な遺構でがないため，出土した遺物については，他の包含層出土の遺物と併せて次節で記述する。

遺物包含層であるⅣ層下のⅤ層からは，特に遺構は検出されなかった。Ⅴ層上面の地形については，若干の高低差はあるものの，おおむね平坦な地形であった。



第48図　森田遺跡Ⅴ層上面の地形及び遺構配置図



第49図　Ａ－１・２区検出集石

第４節　包含層出土遺物

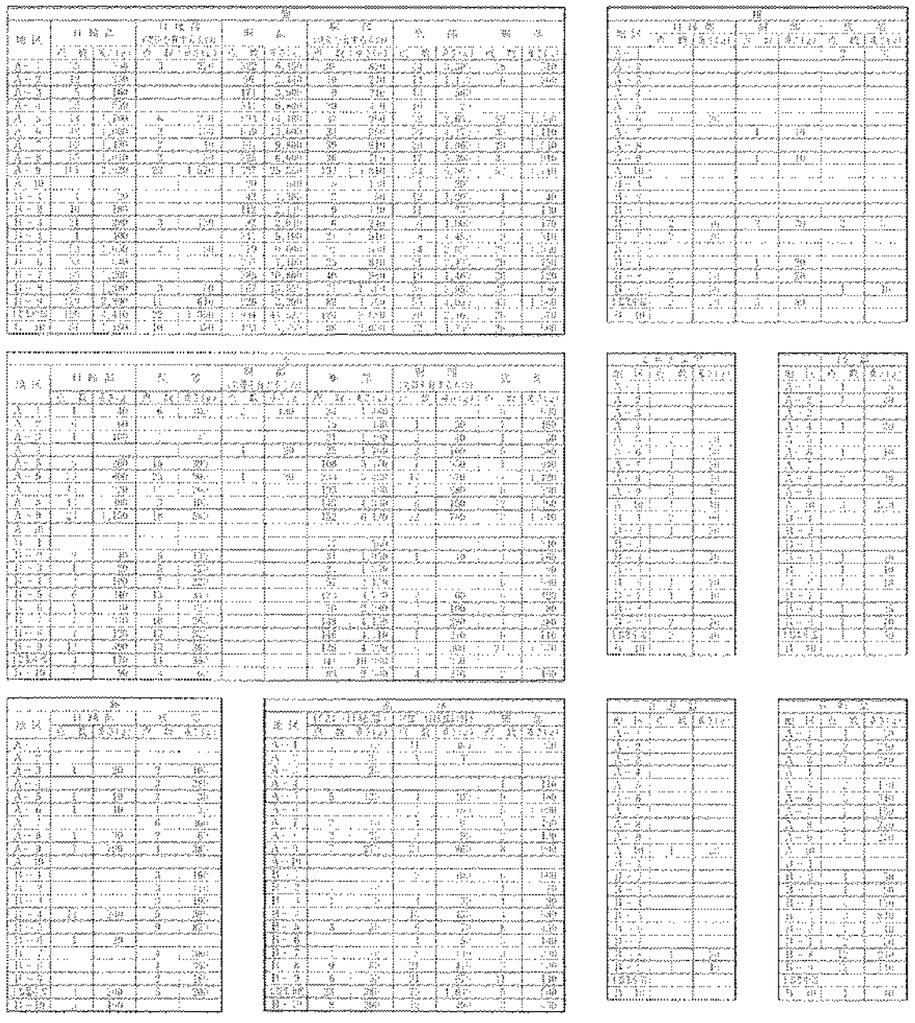
森田遺跡からは，第２節で記したように，成川式土器の遺物包含層（Ⅳ層）が検出された。

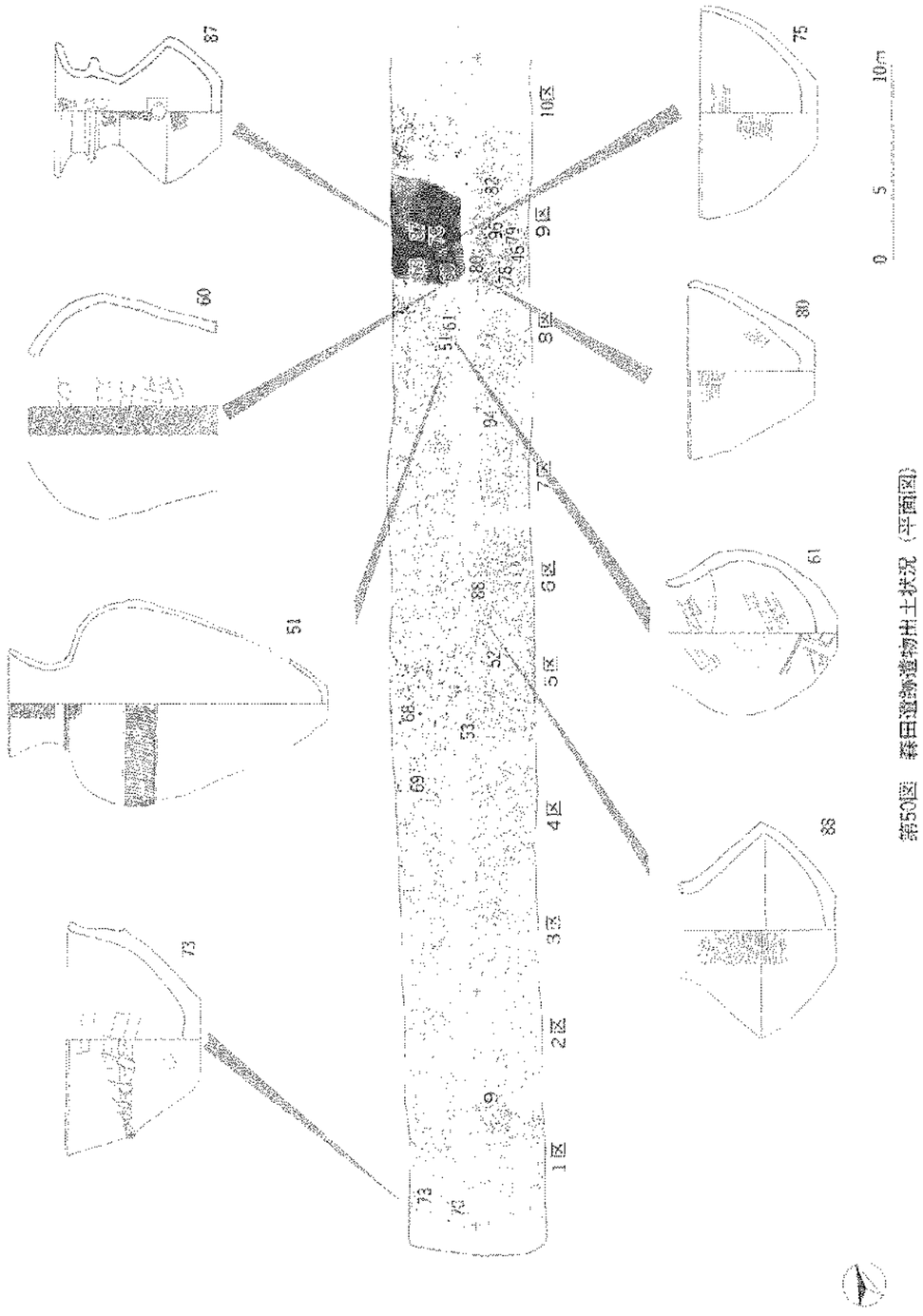
①土器

迫田遺跡からは，Ⅳ層より成川式土器が検出された。遺物の出土量は極めて多かったものの，胴部片が多く，図化可能なものは少なかった。B－９区からは，遺物が土器溜り状に集中して出土したが，中には完形のものもあり，図化した遺物はここから出土したものが大半を占める。単一土層からの出土であることから，時間的な差異に拠らず，形態や器種に主眼を置いて分類を試みた。明確な特徴が無く時代及び型式分類が困難な土器片については，土器少片として一括して取り扱い，各地区ごとに点数と重量を測定するに留めた（第12表）。

その他土師器・須恵器片・陶磁器片等の出土が見られたが，小片であり，詳細は不明であった。

第12表　森田遺跡出土土器小片等点数・重量表





第50図　森田遺跡遺物出土状況（平面図）

1　成川式土器（第51図１～第65図98）

成川式土器はまず器種ごとに大別し，その後特徴や残存部位等の属性により細別した。

甕形土器（第51図１～第60図50）

甕形土器は，完形のものと小片を大別し，それぞれ形態や属性といった特徴ごとに細別を行った。

甕１類（第51図１）

甕類の中で，ゆるやかに外反する口縁部へと移行する器形を有するものを甕１類とした。

１は，口縁部へ向けて開く胴部からゆるやかに外反する口縁部へと移行する器形を有する。口縁部と胴部との境目には１条の断面三角形の突帯を有する。突帯に刻目が施されておらず，指によるつまみ整形がなされたもの（いわゆる絡状突帯。以下絡状突帯と記述。）である。胴部下位はすぼまり，先端にはやや低い脚台を有する。脚台は，先端へ向け外反して開き，脚台内部は放物線を描く。器面調整は，外面にハケメ，脚台に指押さえ等が観察でき，内面にハケメ，指押さえ等が観察できる。

甕２ａ類（第51図２）

甕類のうち，口縁部が外傾して，胴部より直線的に立ち上がる器形を有するものを，甕２類とした。そのうち，胴部に１状の刻目突帯を有するものを甕２ａ類とした。

２は，外傾して開く口縁部を有する。口縁部と胴部の境目に，１条の断面三角形の突帯を有する。この突帯には，工具によると思われる刻目が施されている。胴部下位は先端へ向けてすぼまり，やや低い脚台を有する。脚台は，先端に向けて若干外反して開き，内面天井部に広い平坦面を有する。器面調整は，器外面にハケメ状原体の工具による調整（いわゆるハケメ。以下ハケメと記述。）及びナデ等が，器内面にはハケメ・ナデ等が観察できる。

甕２ｂ１類（第51図３）

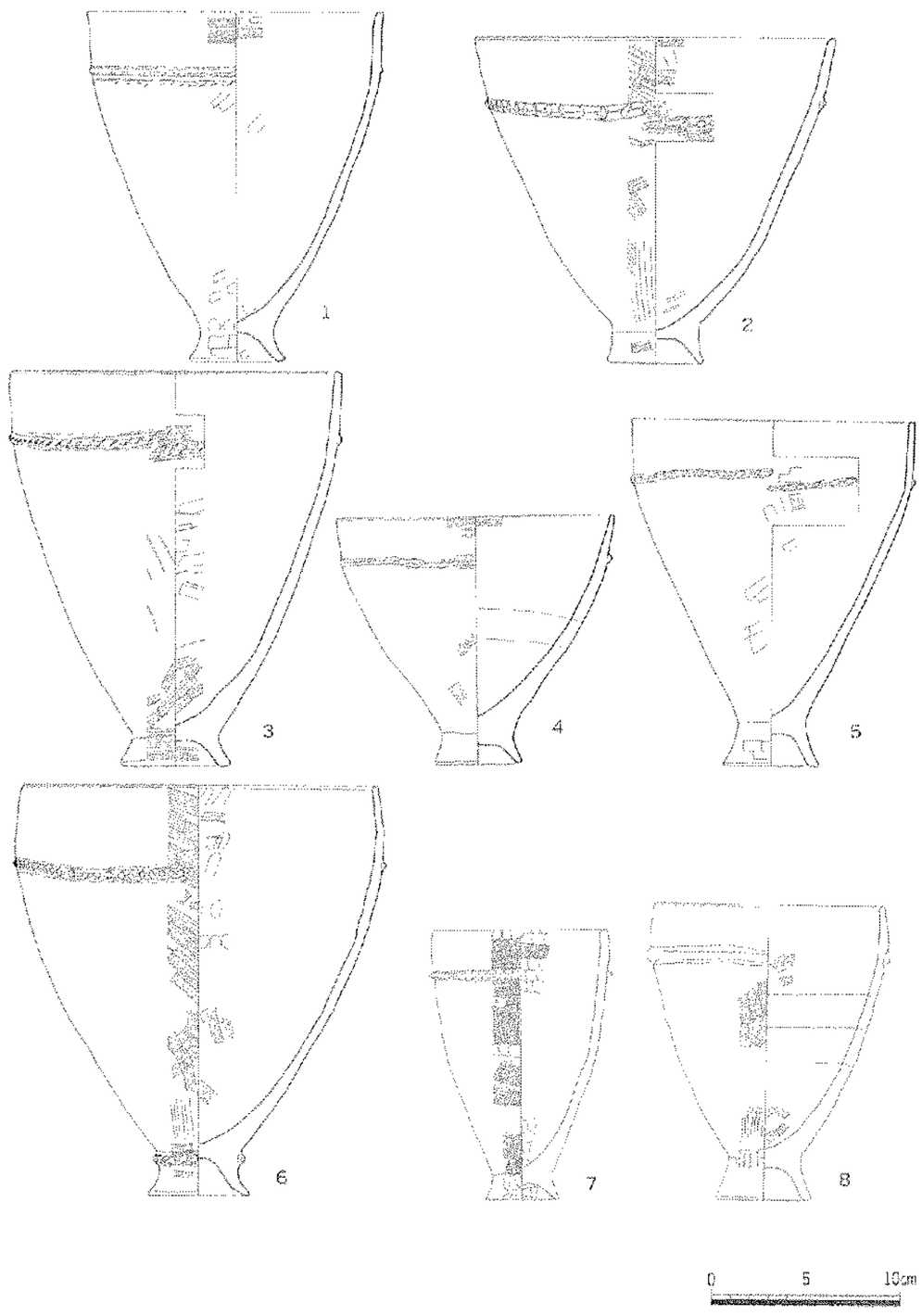
甕２類のうち，口縁部が胴部より真っ直ぐに立ち上がる器形を有するが，２ａ類と比して口縁部が若干内湾ぎみに立ち上がるものを，甕２ｂ１類とした。

３は，２と同様口縁部が真っ直ぐに立ち上がる器形であるが，２と比して若干内湾ぎみに立ち上がる口縁部を有する。口縁部と胴部との境目に１条の断面台形の突帯を有し，突帯には斜方向のやや細い刻目が施されている。胴部下位はすぼまり，先端にはやや低い脚台を有する。脚台は，先端へ向けて直線的に開き，脚台内部が僅かに突出する。器面調整は，内外面ともにハケメ・ナデ等が観察できる。

甕２ｂ２類（第51図４）

甕２ｂ類のうち，胴部に１条の絡状突帯を有するものを甕２ｂ２類とした。

４は，胴部より真っ直ぐに外傾して立ち上がる口縁部へと移行する器形を有する。口縁部の立ち上がりは若干内湾ぎみである。胴部には１条の断面三角形の突帯を有するが，突帯は指による調整がなされた絡状突帯である。胴部下位は，底部に向けてすぼまり，底部端には低い脚台を有する。脚台は先端へ向け直線的に開き，脚台内部に広い平坦面を有する。器面調整は，表面が磨耗しており明確ではないが，外面にハケメ・ナデが，内面にハケメ等が観察できる。



第51図　森田遺跡包含層出土遺物実測図１（甕１類～甕４c類）

甕３類（第51図５）

甕類の中で，胴部で僅かに屈曲して直立する口縁部を有するものを甕３類とした。

５は，口縁部へ向けて開く胴部から直立する口縁部へと移行する器形を有する。口縁部と胴部との境目でやや屈曲するが，屈曲部には１条の断面三角形の突帯を有する。突帯には楕円形の刻目が施されている。胴部下位はすぼまり，先端にはやや低い脚台を有する。脚台は，先端へ向け若干外反ぎみに開き，脚台内部に広い平坦面を有する。器面調整は，表面が磨耗しており明確ではないが，内外面ともにハケメが観察できる。

甕４ａ類（第51図６）

甕類の中で，内湾する口縁部を有するものを甕４類とした。そのうち，胴部に１条の刻目突帯を有するものを甕４ａ類とした。

６は，口縁部へ向けて開く胴部から内湾する口縁部へと移行する器形を有する。口縁部と胴部との境目に１条の断面三角形の突帯を有し，突帯には菱形状の刻目が密に施されている。胴部下位はすぼまり，先端にはやや低い脚台を有する。底部と脚台との境目に１条の断面三角形の突帯を有する。突帯には楕円形の刻目が密に施されている。脚台は，先端へ向けて外反して開き，脚台内部にやや狭い平坦面を有する。器面調整は，外面にハケメ・ナデ等が，内面にハケメ・指押さえ等が観察できる。

甕４ｂ類（第51図７）

甕４類の中で，胴部に１条の絡状突帯を有するものを甕４ｂ類とした。

７は，胴部より直立ぎみの口縁部へと移行する器形を有する。口縁部端は内湾する。胴部には１条の断面台形の突帯を有するが，突帯は指による調整がなされた絡状突帯である。口径は器高と比して小さく，胴部はやや長胴である。低い脚台を有する。脚台は，先端へ向けて直線的に開き，脚台内部に突起を有する。器形調整は，外面にハケメ・指押さえ・ケズリ等が，内面に指押さえ・ハケメ等が観察できる。脚台は内外面ともに指押さえが観察できる。

甕４ｃ類（第51図８）

甕４類の中で，胴部に１条の断面台形の突帯を有するものを甕４ｃ類とした。

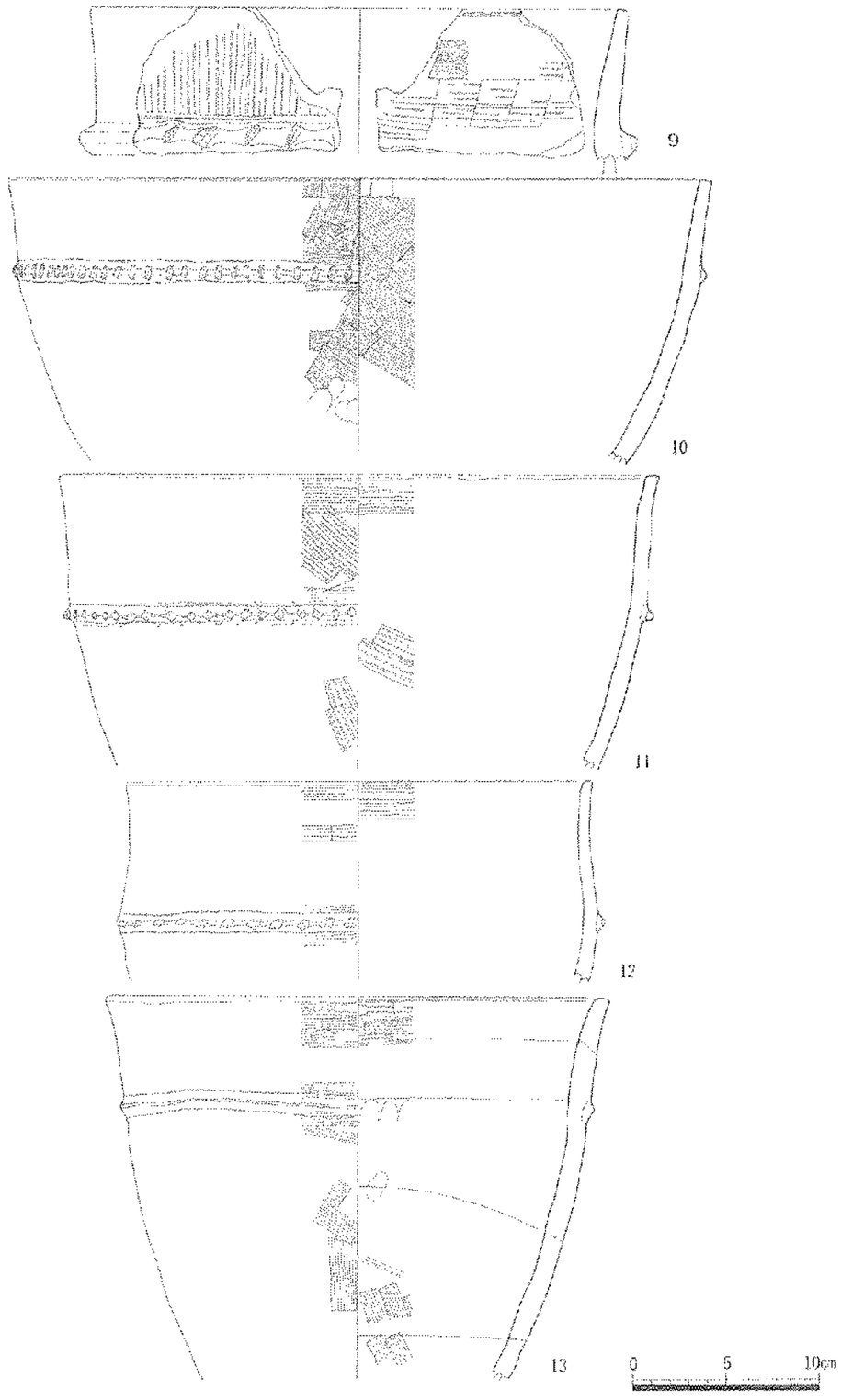
８は，胴部より内湾する口縁部へと移行する器形を有する。胴部最大径に１条の断面台形の突帯を有する。先端へ向かってすぼまる胴部と，脚台を有する。脚台は，先端へ向けて直線的に開き，脚台内部が僅かに突出する。器形調整は，外面にハケメ・ミガキ・指ナデ等が，内面にハケメ等が観察できる。

甕口Ａ類（第52図９）

甕形土器のうち，小片については，残存部位ごとに大別し，特徴ごとに細別を試みた。

甕形土器で，口縁部周辺が残存しているものを甕口類とした。さらに，口縁部が外反するものを甕口Ａ類とした。

９は，外反する口縁部である。胴部に１条の断面台形の突帯を有する。突帯には，楕円形のやや大きめの刻目が，斜方向に施されているが，刻目内部には繊維圧痕が観察できる。器面調整は，口縁部外面に縦方向の擦過（いわゆるカキアゲ。以下カキアゲと記述。）が観察できる。内面には横方向のハケメが観察できる。



第52図　森田遺跡包含層出土遺物実測図２（甕口Ａ類～甕口Ｂ３類）

甕口Ｂ１類（第52図10）

甕口類のうち，口縁部が胴部よりゆるやかに外反する器形を有するものを甕口Ｂ類とした。さらに，胴部に１条の刻目突帯を有し，刻目内部に繊維圧痕が観察できるものを甕口Ｂ１類とした。

10は，胴部よりゆるやかに外反する口縁部を有する。口縁部と胴部の境目に，１条の断面台形の突帯を有する。突帯には縦長の楕円形の刻目が施されており，刻目内部には繊維圧痕が観察できる。器面調整は，外面にハケメ・ナデ・指押さえ等が，内部にはハケメが観察できる。

甕口Ｂ２類（第52図11・12）

甕口Ｂ類のうち，口縁部と胴部の境目に１条の刻目突帯を有するものを甕口Ｂ２類とした。

11は，胴部よりゆるやかに外反する口縁部を有する。口縁部と胴部の境目に，１条の断面台形の突帯を有する。突帯には菱形の刻目が密に施されている。器面調整は，口縁部内外面に横方向のハケメが観察できる他，器内外面にハケメが観察できる。12も，11同様胴部よりゆるやかに外反する口縁部を有する。口縁部と胴部の境目に，１条の断面三角形の突帯を有する。突帯には楕円形の刻目が密に施されている。器面調整は，内外面ともにハケメが観察できる。

甕口Ｂ３類（第52図13）

甕口Ｂ類のうち，口縁部と胴部の境目に１条の突帯を有するものを甕口Ｂ３類とした。

13は，胴部よりゆるく外反する口縁部を有する。口縁部と胴部の境目に，１条の断面三角形の突帯を有する。器外面の調整は，口縁部内外面に横方向のハケメが観察できる他，外面にハケメが，内面にハケメ・指押さえ等が観察できる。

甕口Ca１類（第53図14～16）

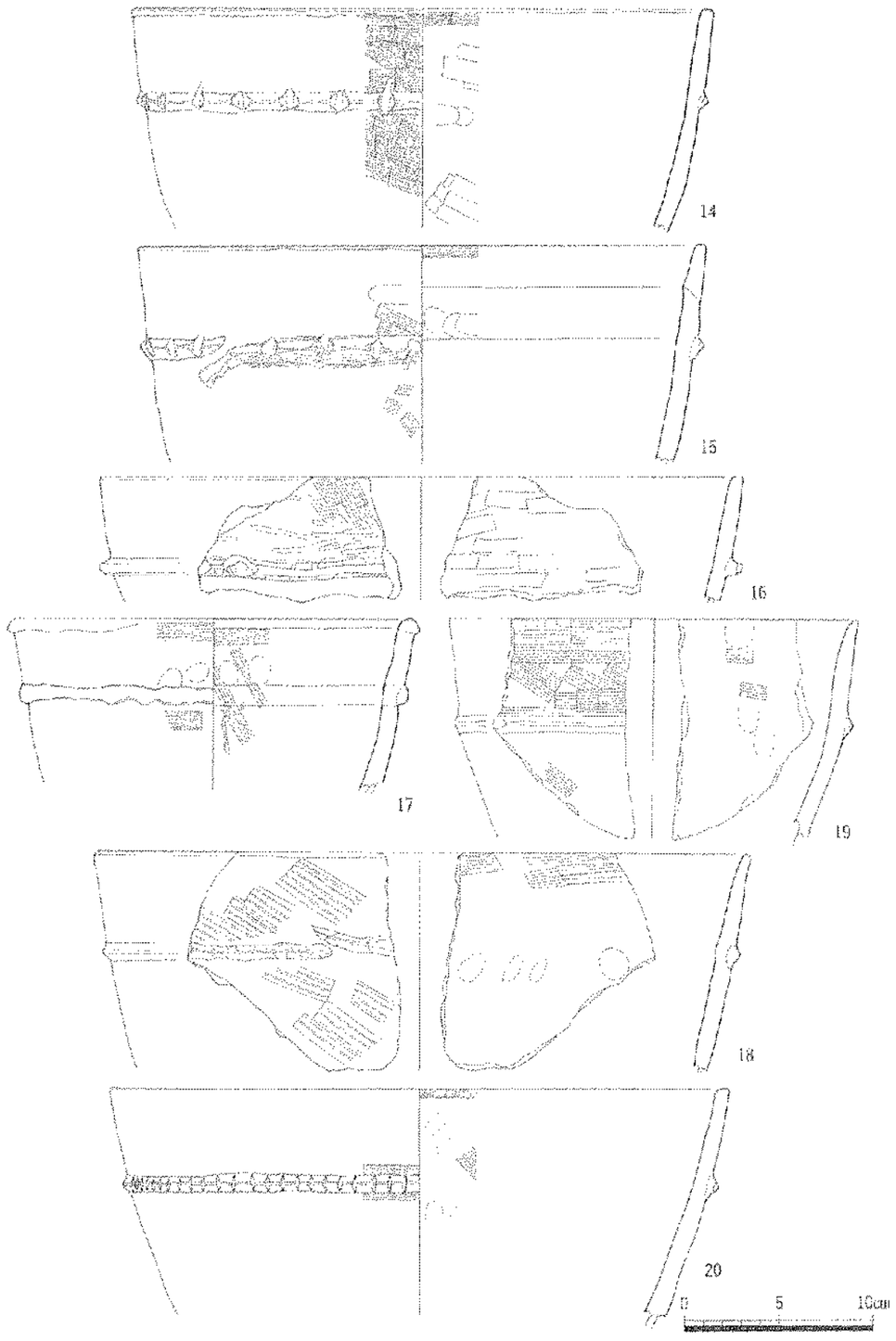
甕口類のうち，胴部より真っ直ぐに立ち上がる口縁部を有するものを甕口Ｃ類とした。さらに，口縁部の立ち上がりが比較的直線的なものを甕口Ca類，若干内湾ぎみに立ち上がるものを甕口Cb類とした。甕口Ca１類は，胴部に１条の刻目突帯を有するものである。

14は，外傾して真っ直ぐに立ち上がる口縁部を有する。胴部に１条の断面三角形の突帯を有する。突帯には扁平でやや大きめの菱形の刻目が，比較的広い間隔で施されている。刻目は一部潰れて，突帯を分断する格好になっている。口縁端端外面は肥厚している。器面調整は，外面にハケメが，内面にハケメ・指押さえ等が観察できる。15も，外傾して真っ直ぐに立ち上がる口縁部である。胴部に１条の断面三角形の突帯を有する。突帯には菱形・楕円形の刻目が，比較的広い間隔で施されている。刻目は一部潰れている。器面調整は，内外面ともにハケメ・指押さえ等が観察できる。16は，外傾して立ち上がる口縁部である。胴部に１条の断面台形の突帯を有する。突帯は絡状突帯であるが，一部に楕円形の刻目が施されている。器面調整は，外面にハケメが観察できる他，ヘラ状工具による研磨痕（いわゆるミガキ。以下，ミガキと記述。）が観察できる。内面にはハケメ等が観察できる。

甕口Ca２類（第53図17）

甕口Ca類のうち，胴部に１条の断面台形の突帯を有するものを甕口Ca２類とした。

17は，胴部より外傾して真っ直ぐに立ち上がる口縁部を有する。胴部には１条の断面台形の突帯を有する。口縁部端外面は肥厚している。器面調整は，内外面ともにハケメ・指押さえ等が観察できる。



第53図　森田遺跡包含層出土遺物実測図３（甕口Ca１類～甕口Cb１類）

甕口 Ca 3 類（第53図18・19）

甕口 Ca 類のうち，胴部に１条の断面三角形の突帯を有するものを甕口 Ca 3 類とした。

18は，胴部より外傾して真っ直ぐに立ち上がる口縁部を有する。胴部には１条の断面三角形の突帯を有する。突帯は絡状突帯である。器面調整は，外面にハケメが，内面にハケメ・指押さえ等が観察できる。19は，胴部より外傾して真っ直ぐに立ち上がる口縁部を有する。胴部には１条の断面三角形の突帯を有するが，絡状突帯ではない。器面調整は，外面にハケメが，内面にハケメ・指押さえ等が観察できる。

甕口 Cb 類（第53図20）

甕口 C 類のうち，口縁部の立ち上がりが若干内湾ぎみであるものを甕口 Cb 類とした。

20は，胴部より真っ直ぐに外傾して立ち上がる口縁部へと移行する器形を有するが，口縁部の立ち上がりは若干内湾ぎみである。胴部には１条の断面三角形の絡状突帯を有する。突帯には楕円形の刻目が，密に施されている。器面調整は，表面が摩耗しており明確ではないが，外面にナデが，内面にハケメ・指押さえ等が観察できる。

甕口 D 1 a 類（第54図21～23）

甕口類のうち，口縁部が胴部で若干屈曲して，直立する器形を有するものを甕口 D 類とした。さらに，屈曲部に１条の刻目突帯を有するものを甕口 D 1 a 類とした。

21は，胴部で若干屈曲し，直立する口縁部を有する。胴部には１条の断面三角形の突帯を有する。突帯には菱形の刻目が密に施されている。器面調整は，外面にハケメが，内面にハケメ・指押さえ等が観察できる。22も，胴部で若干屈曲し，直立する口縁部を有する。胴部には１条の断面三角形の突帯を有する。突帯には斜方向の刻目が密に施されている。器面調整は，内外面ともにハケメ等が観察できる。23も21・22と同様の器形である。胴部に１条の断面三角形の突帯を有する。突帯には楕円状の刻目が，斜方向に比較的間隔が広く施されている。器面調整は，外面にハケメが，内面にハケメ・指押さえ等が観察できる。

甕口 D 1 b 類（第54図24）

甕口 D 1 a 類と同様，直立する口縁部を有するが，突帯から口縁端までの間隔が短いものを甕口 D 1 b 類とした。

24は，直立する短い口縁部を有する。胴部には断面台形の突帯を１条有する。突帯には細い工具によると思われる刻目が，斜方向に密に施されている。胴部下位から底部にかけて残存していないが，筒状の胴部を有すると推定される。器面調整は，外面にハケメ・ナデが，内面に指押さえ等が観察できる。

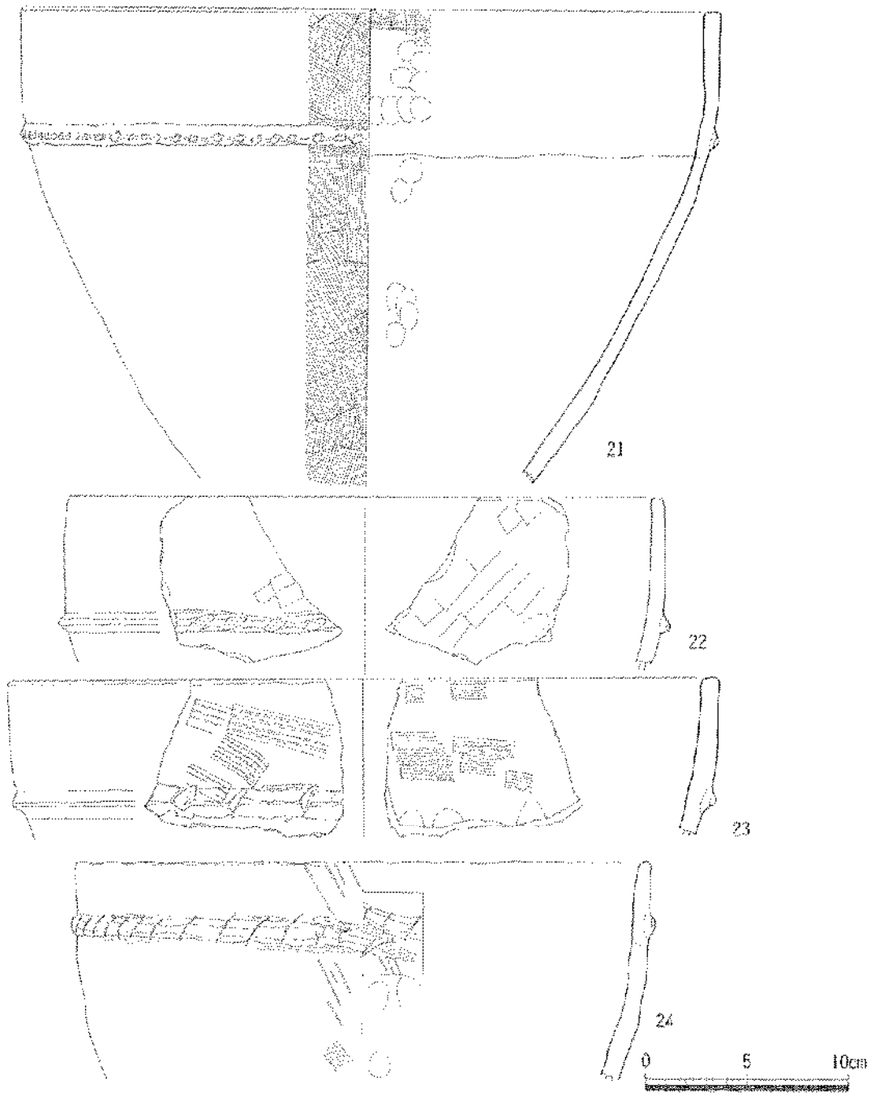
甕口 D 2 類（第55図25）

甕口 D 類のうち，屈曲部に１条の絡状突帯を有するものを甕口 D 2 類とした。

25は，胴部で若干屈曲し，直立する口縁部を有する。口縁端はわずかに外反する。胴部には１条の断面三角形の突帯を有する。突帯は絡状突帯である。器面調整は，表面が摩耗しており明確ではないが，外面にハケメが，内面にハケメ・指押さえ等が観察できる。

甕口 D 3 類（第55図26・27）

甕口 D 類のうち，屈曲部に１条の断面台形の突帯を有するものを甕口 D 3 類とした。

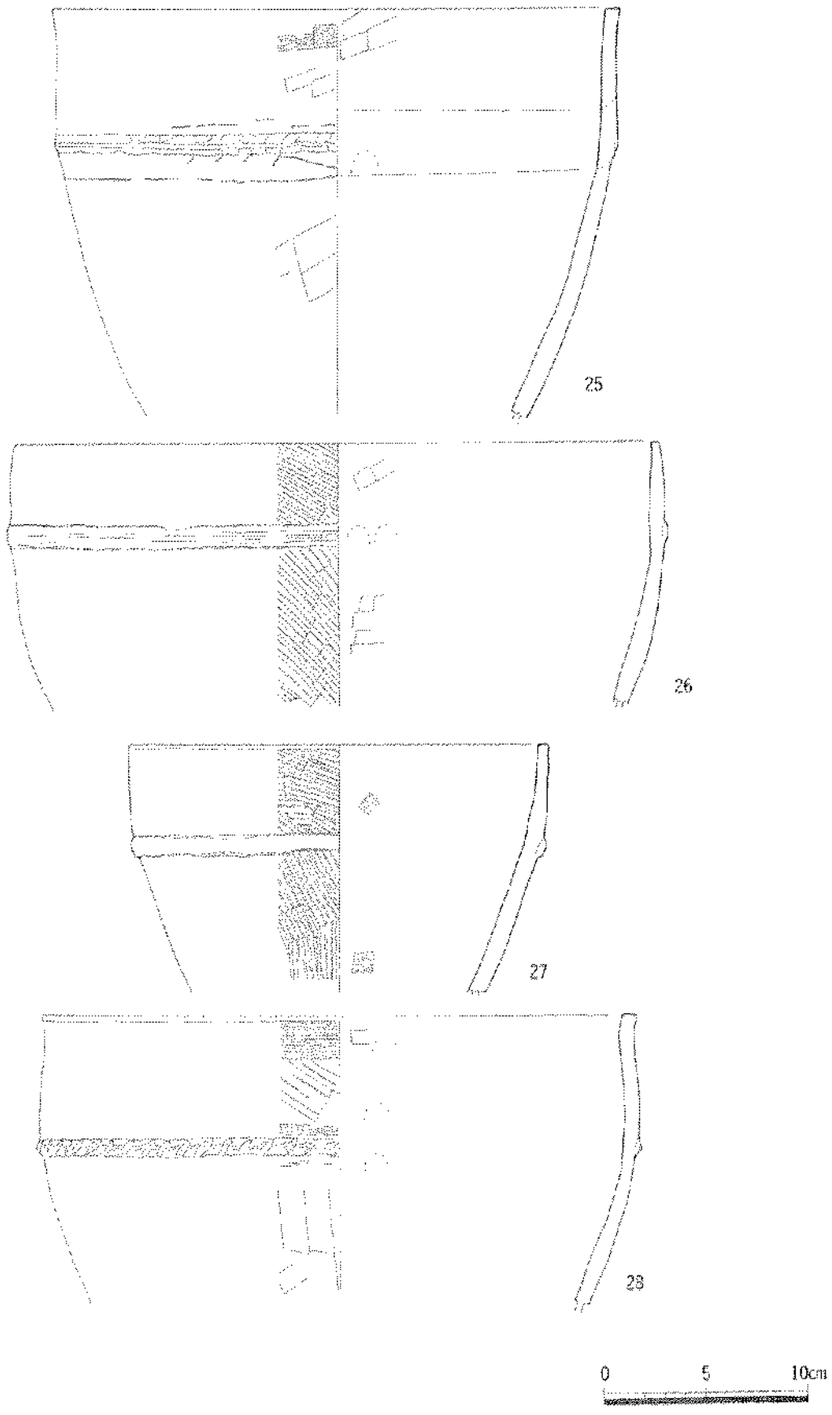


第54図　森田遺跡包含層出土遺物実測図４（甕口D１a類～甕口D１b類）

26は，胴部で若干屈曲し，直立する口縁部を有する。胴部には１条の断面台形の突帯を有する。器面調整は，外面に明確なハケメが，内面にハケメ・指押さえ等が観察できる。27も26と同様，胴部で若干屈曲し，直立する口縁部を有する。26と比して口径が小さく，器高も低いと想像される。胴部には１条の断面台形の突帯を有する。器面調整は，外面に明確なハケメが，内面にハケメ・指押さえ等が観察できる。

甕口 E 1 類（第55図28，第56図29）

甕口類のうち，口縁部が内湾するものを甕口 E 類とした。さらに，胴部に１条の刻目突帯を有し，刻目内部に繊維圧痕が観察できるものを甕口 E 1 類とした。



第55図　森田遺跡包含層出土遺物実測図５（甕口Ｄ２類～甕口Ｅ１類）

28は，胴部で屈曲し，内湾する口縁部を有する。口縁端は若干外反する。屈曲部に１条の断面三角形の突帯を有する。突帯には楕円形の刻目が，斜方向に密に施されており，刻目の内部には繊維圧痕が観察できる。器面調整は，外面にハケメ・ナデが，内面にハケメ・指押さえ等が観察できる。29は，内湾する口縁部を有する。胴部最大径に１条の断面三角形の突帯を有する。突帯には丸みを帯びた菱形状の刻目が施されており，刻目内部には繊維圧痕が観察できる。器面調整は，外面にハケメが，内面にハケメ・指押さえ等が観察できる。

甕口Ｅ２類（第56図30～32，第57図33～35）

甕口Ｅ類のうち，胴部に１条の刻目突帯を有するものを甕口Ｅ２類とした。

30は内湾する口縁部を有する。胴部最大径に１条の断面三角形の突帯を有する。突帯には細い刻目が，斜方向に密に施されている。底部付近が残存していないが，底部は割口が綺麗であり，故意に破損させたものである可能性がある（祭的な使用法？）。器面調整は，表面が磨耗しており明確ではないが，外面にハケメが観察できる。31も，内湾する口縁部を有するが，口縁部端は若干外反する。胴部最大径に１条の断面台形の突帯を有する。突帯には横長の楕円形の刻目が密に施されている。器面調整は外面にハケメ・ナデが，内面にハケメ等が観察できる。32～35は，内湾する口縁部付近が残存しているものである。いずれも胴部最大径に，１条の断面台形の突帯を有する。突帯には，32は楕円の刻目が斜方向に密に，33は円形の刻目がやや間隔が広く，34は縦長の楕円形の刻目が密に，35は細い刻目が斜方向に，それぞれ施されている。器面調整は，内外面ともにハケメが観察できるものが多い。

甕口Ｅ３ａ類（第57図36・37，第58図38）

甕口Ｅ類のうち，胴部に１条の絡状突帯を有するものを甕口Ｅ３類とした。

36は甕口Ｄ類と類似した器形，すなわち胴部で若干屈曲し，直立ぎみに立ち上がる器形を有するが，口縁部端が内湾する。胴部屈曲部に１条の断面台形の突帯を有するが，突帯は指による調整がなされた絡状突帯である。器形調整は，内外面ともにハケメ・指ナデ等が観察できる。37は，内湾する口縁部を有するが，口縁部端は若干外反する。突帯は胴部最大径より僅かに上位にある。突帯は断面三角形ぎみで，指による調整がなされた絡状突帯である。器形調整は，外面にハケメが，内面に指押さえ・ハケメ等が観察できる。38は36・37と比して内湾の度合いが強い。36と同様，胴部で若干屈曲するが，屈曲部に１条の断面台形の絡状突帯を有する。器形調整は，内外面ともにハケメ・指ナデ等が観察できる。

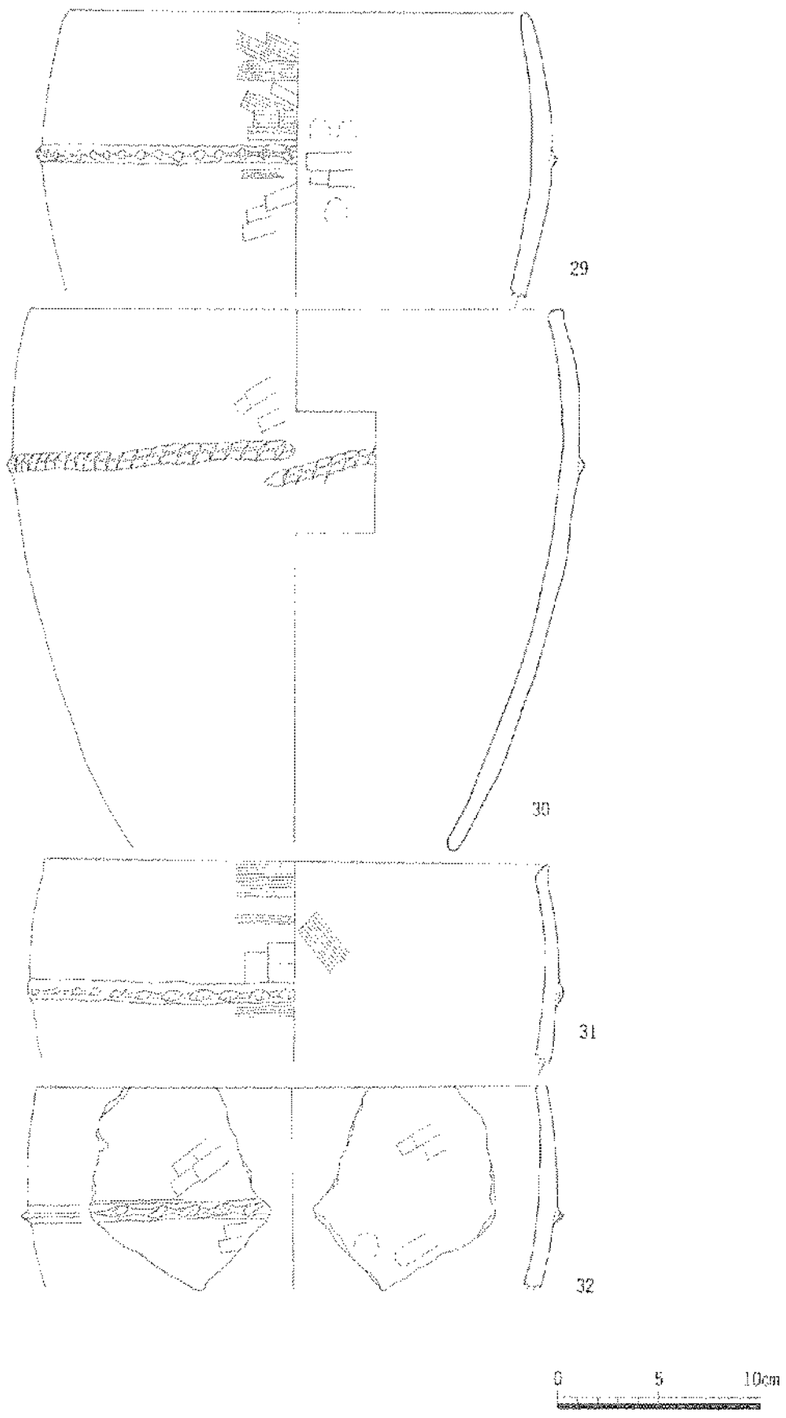
甕口Ｅ３ｂ類（第58図39・40）

甕口Ｅ３類のうち，突帯の上位に最大径があるものを甕口Ｅ３ｂ類とした。

39は，内湾する口縁部を有する。胴部に１条の断面台形の絡状突帯を有する。器形調整は，外面にハケメ・指押さえ・ケズリ等が，内面に指押さえ・ハケメ等が観察できる。40も内湾する口縁部を有するが，39と比して口縁部は短い。胴部下位から底部付近にかけて残存していないが，残存部位より胴部は長胴で筒状であったと想像される。器形調整は，外面にハケメ・指押さえ・ケズリ等が，内面に指押さえ・ハケメ等が観察できる。

甕口Ｅ４ａ類（第58図41，第59図42・43）

甕口Ｅ類のうち，胴部に１条の断面台形の突帯を有するものを甕口Ｅ４類とした。



第56図　森田遺跡包含層出土遺物実測図６（甕口Ｅ１類～甕口Ｅ２類）

41は内湾する口縁部を有する。胴部最大径に１条の断面台形の突帯を有する。突帯から口縁部端までの間隔が若干広い。器形調整は，外面に指押さえ等が，内面にハケメ等が観察できる。42も内湾する口縁部を有する。胴部最大径に１条の断面台形の突帯を有する。器形調整は，内外面ともにハケメ・指押さえ等が観察できる。43も内湾する口縁部を有する。胴部最大径に１条の断面台形の突帯を有する。突帯から口縁部端までの間隔が若干狭い。器形調整は，外面にハケメ・ナデ等が，内面に指押さえ等が観察できる。

甕口Ｅ４ｂ類（第59図44）

甕口Ｅ４類のうち，突帯の上位に最大径があるものを甕口Ｅ４ｂ類とした。

44は，内湾する口縁部を有する。胴部に１条の断面台形の突帯を有するが，突帯より上位に最大径がある。器形調整は，内外面ともにハケメ等が観察できる。

甕胴Ａ類（第59図45・46）

甕形土器で，胴部周辺が残存しているものを甕胴類とした。

45は，胴部で若干屈曲し，直立ぎみに立ち上がる口縁部へと移行する器形を有する。胴部屈曲部に１条の断面三角形の突帯を有する。突帯には，縦長の楕円形の刻目が密に施されており，さらに，刻目内に繊維圧痕が観察できる。器形調整は，外面にハケメ・ナデ等が，内面にハケメ・指押さえ・指ナデ等が観察できる。46は小片であり，傾き・突帯の観察より甕としたが，壺類に分類される可能性もある。外面に３条の断面台形の突帯を有する。いずれの突帯にも，いびつな菱形の刻目が密に施されており，刻目内には繊維圧痕が観察できる。器形調整は，外面にミガキが，内面にハケメ等が観察できる。

甕底Ａ類（第60図47～49）

甕形土器で，底部周辺・脚台が残存しているものを甕底類とした。甕底Ａ類は，内面天井部に広い平坦面をもつものである。

47・48は胴部下位から脚台上部までが残存しており，中空の脚台を有する。

脚台は先端へむけてやや外反ぎみに開き，脚台内面天井部に平坦面を有する。器面調整は，いずれも内外面にハケメ・指押さえ等が観察できる。49は47・48と比して低脚で小型のものである。脚台の形状は，先端へむけてやや外反ぎみに開き，脚台内面天井部に平坦面を有する。器形調整は，外面にハケメ・指ナデが，内面に指ナデ・指押さえ等が観察できる。

甕底Ｂ類（第60図50）

内面天井部に突起をもつものを，甕底Ｂ類とした。

50は，胴部下位から脚台上部までが残存しており，中空の低い脚台を有する。脚台は直線的に開き，内面天井部は，やや突出している。器面調整は，外面にハケメ・指押さえが，内面にハケメ等が観察できる。

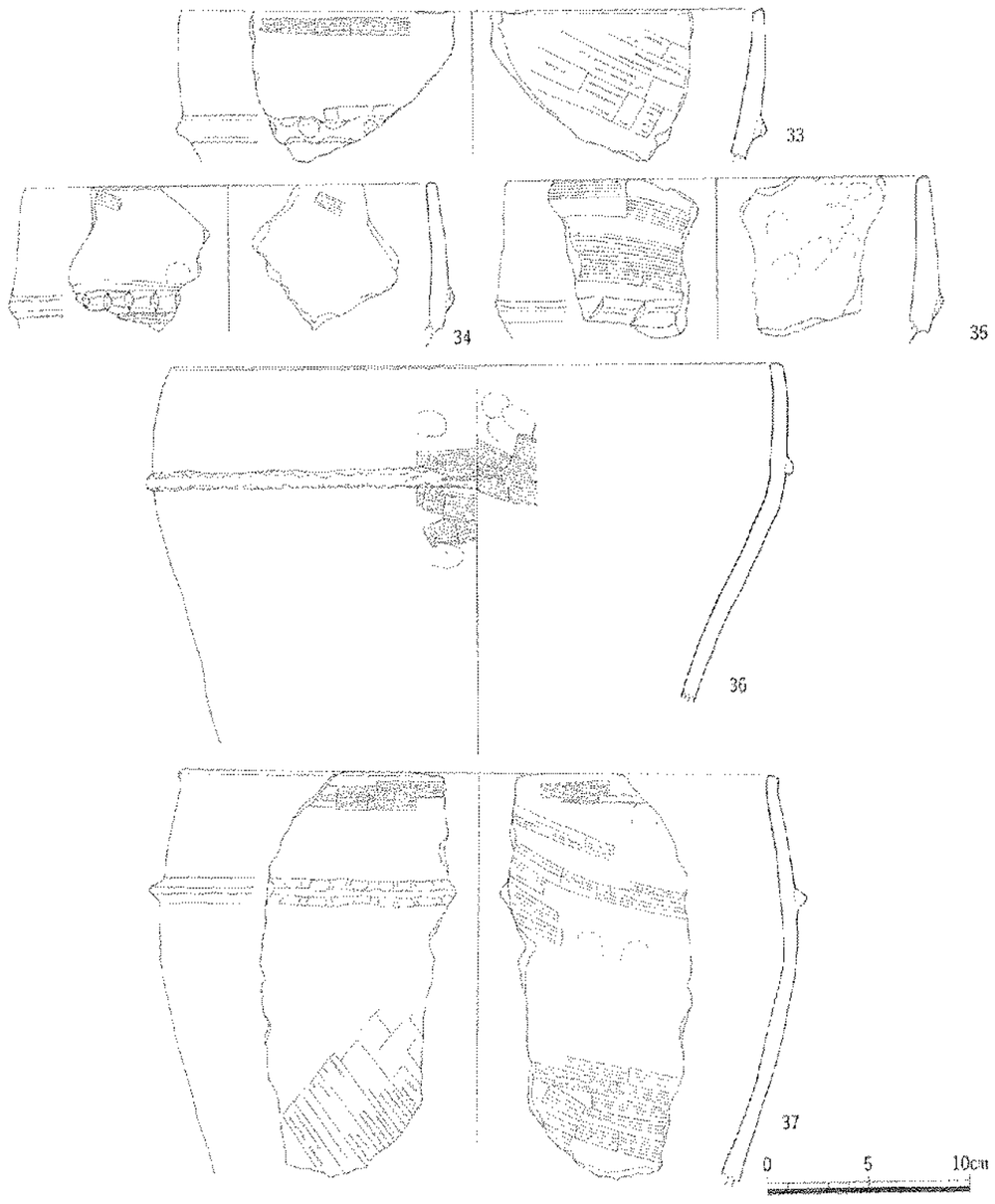
壺形土器（第61図51～第63図63）

壺形土器については，それぞれ形態や属性といった特徴ごとに細別を行った。

壺１類（第61図51～53）

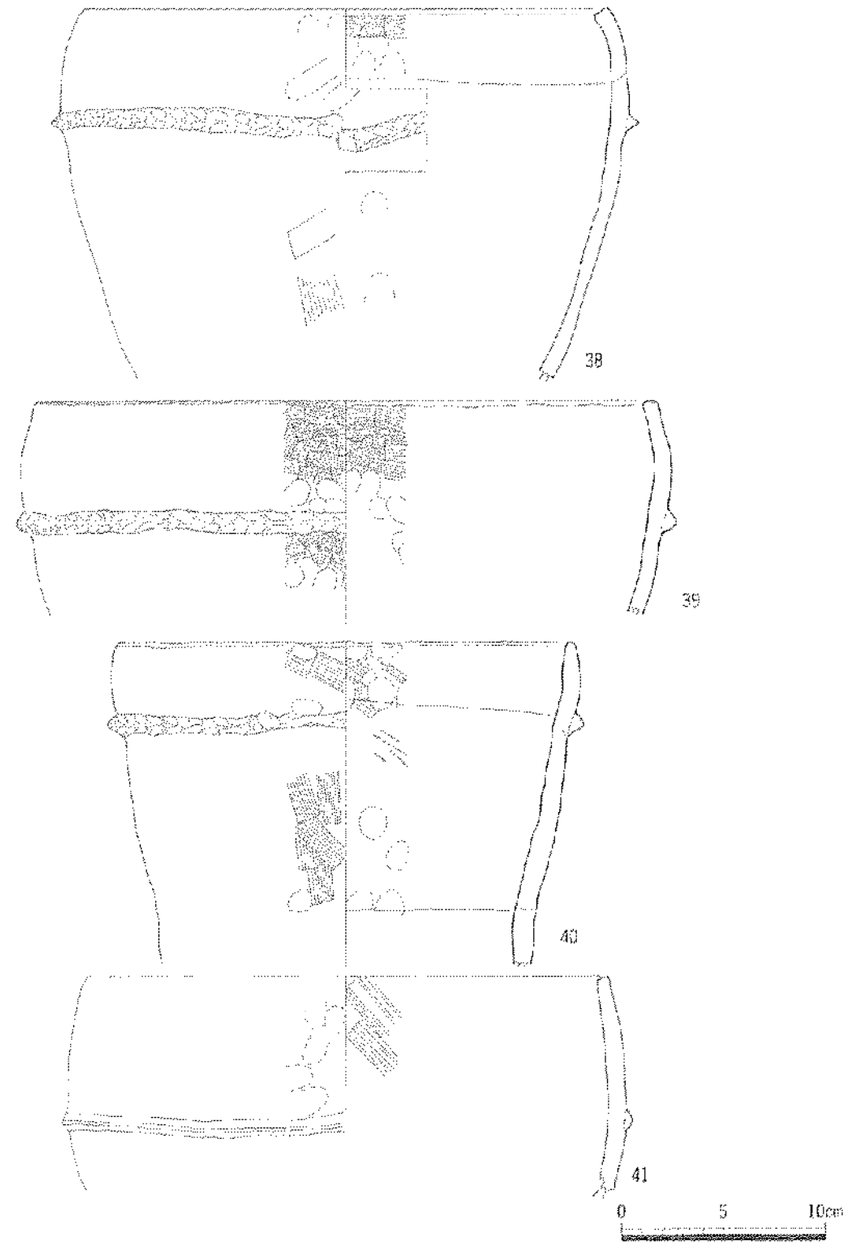
壺形土器のうち，器高が高く大型で，胴部に幅広の突帯を有するものを壺１類とした。

51は，復元すると大型の壺になると考えられるものである。胴部中程が欠損しているが，遺物



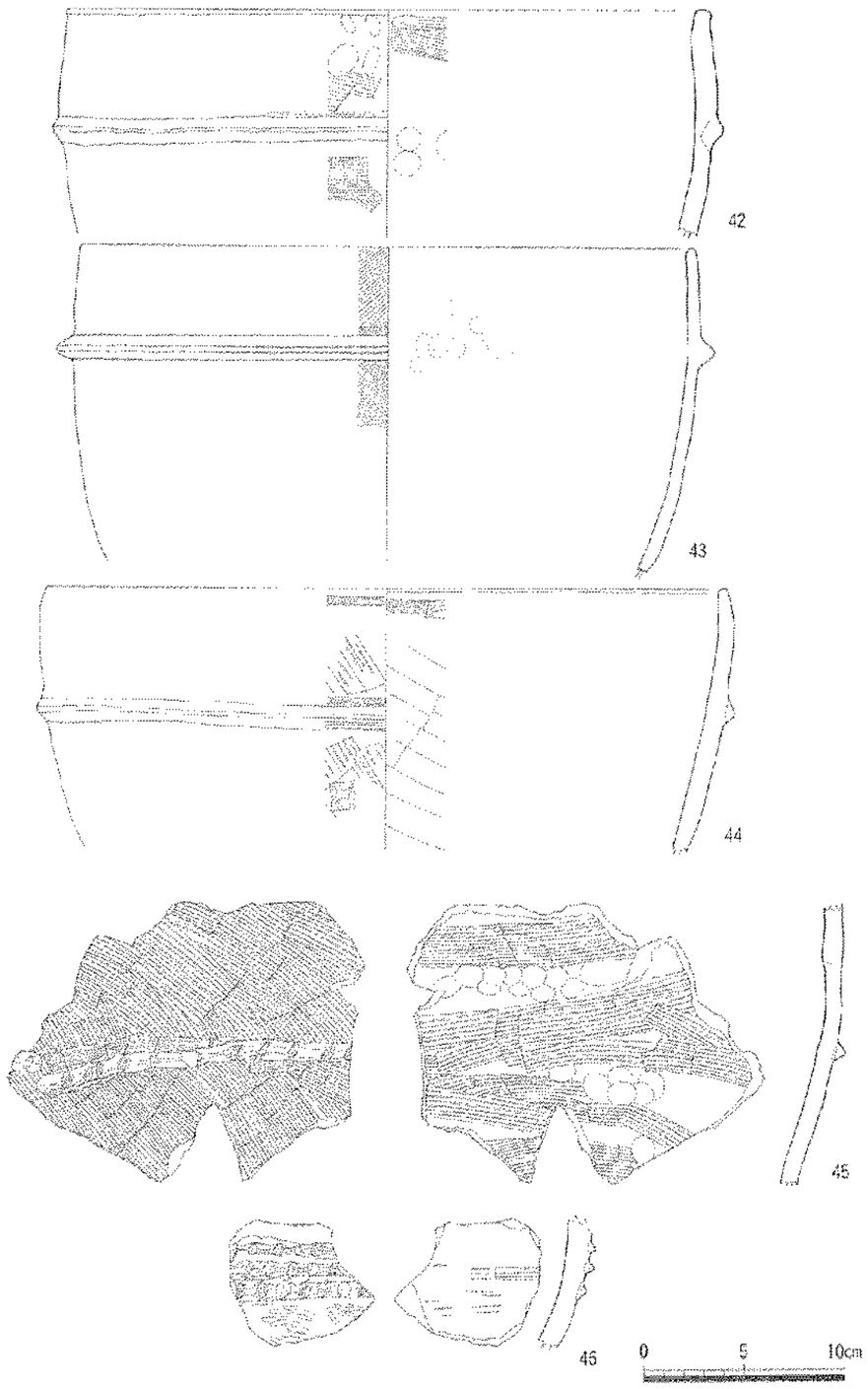
第57図　森田遺跡包含層出土遺物実測図７（甕口Ｅ２類～甕口Ｅ３ａ類）

片が同一地点よりまとまって出土していること，胎土・色調・器厚等から同一個体と考えられる。頸部は内湾して立ち上がり，端部へ向け直線的に開く。頸部と胴部との境目に１条の断面台形の突帯を有する。突帯には横長の楕円形の刻目が密に施されている。肩が張り，胴部最大径に１条の幅広の突帯を有する。突帯には，若干太目で湾曲した沈線が，斜め方向に，平行かつ密に施き

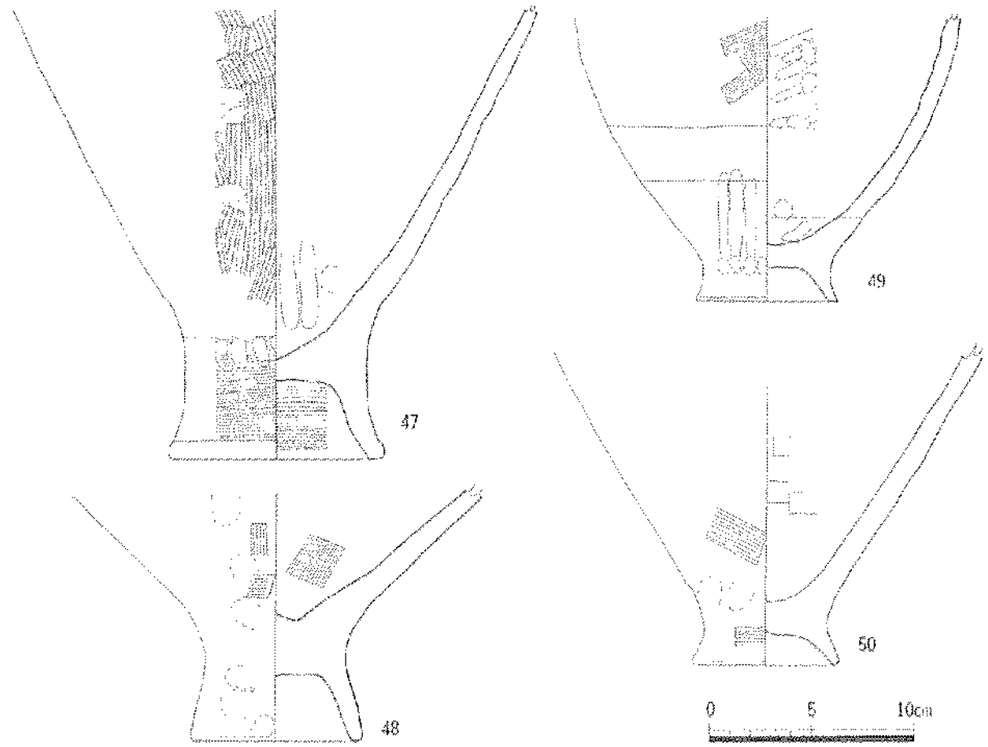


第58図　森田遺跡包含層出土遺物実測図８（甕口Ｅ３ａ類～甕口Ｅ４ａ類）

れている。沈線の中には繊維圧痕が観察できる。胴部下位から底部へ向けてすぼまり，底部は平底である。器面調整は，表面が磨耗しており明確ではないが，外面にハケメ・ナデ等が観察できる。52は，肩部から胴部にかけての部位が残存しているものである。頸部に１条の断面三角形の突帯を有する。突帯には縦長の菱形の刻目が密に施されている。肩部がやや張る器形であるが，



第59図　森田遺跡包含層出土遺物実測図９（甕口Ｅ４ａ類～甕胴類）



第60図　森田遺跡包含層出土遺物実測図10（甕底A類～甕底B類）

51ほど強く張らない。胴部には１条の幅広突帯を有する。突帯には，１と同様の若干太目の沈線が，斜めに４条平行に施されており，その４条の並行斜線が鋸歯文を構成している。沈線の中には繊維圧痕が観察できる。器面調整は，外面にミガキ・ハケメ等が観察できる。内面は磨耗しているが，指押さえが観察できる。53は幅広突帯の破片である。３条の並行沈線が鋸歯文を構成し，鋸歯文の間に竹管文が施されている。器面調整は，表面が磨耗しており判然としない。

壺２ａ類（第62図54・55）

壺形土器のうち，１類ほど大型ではなく，幅広突帯ではない突帯を有するものを，壺２類とした。

54は，口縁部から肩部付近にかけて残存しているものである。口縁部は直線的に外反する。頸部と胴部の境目に１条の断面三角形の突帯を有する。突帯には，工具によると思われる細い刻目が，斜方向に密に施されている。胴部付近は残存していないが，肩部はあまり張らない器形であると思われる。器面調整は，外面にハケメ等が，内面に，ハケメ・指押さえが観察できる。55は，頸部より下位の部分が残存している。頸部に１条の断面台形の突帯を有する。突帯には，工具によると思われる細い刻目が，斜方向に密に施されている。肩部はあまり張らない。胴部最大径よりやや上位に，若干幅広の突帯を１条有する。突帯には，細い刻目が，斜方向に平行に施されて

おり，その上から交差して，更に別方向の刻目が平行に施されており，「X」字状の文様が突帯を廻るような文様帯を構成する。胴部下位から底部へ向けてすぼまり，底部は平底である。器面調整は，表面に精緻な研磨が器全体に施されている。内面は，ハケメ・指ナデ・ミガキ等が観察できる。

壺２ｂ類（第62図56）

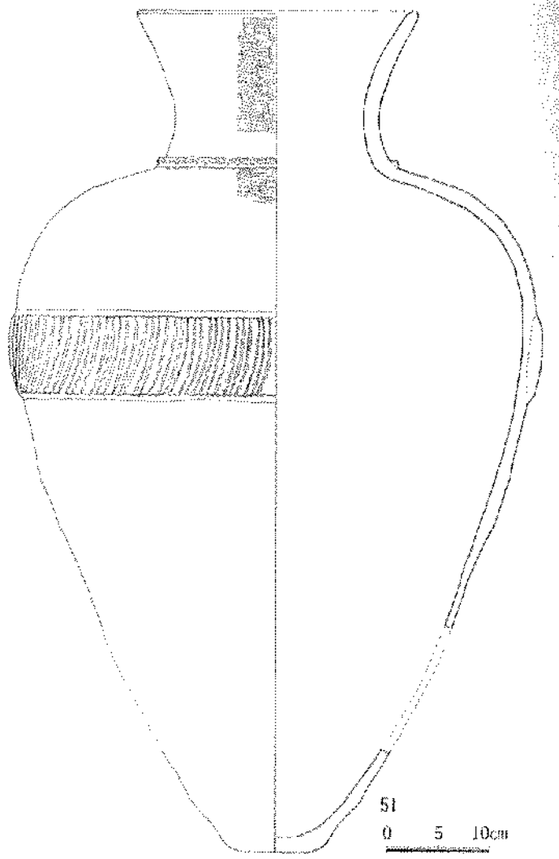
壺２類のうち，残存部位が少なく，明確な特徴に欠けるものを壺２ｂ類とした。

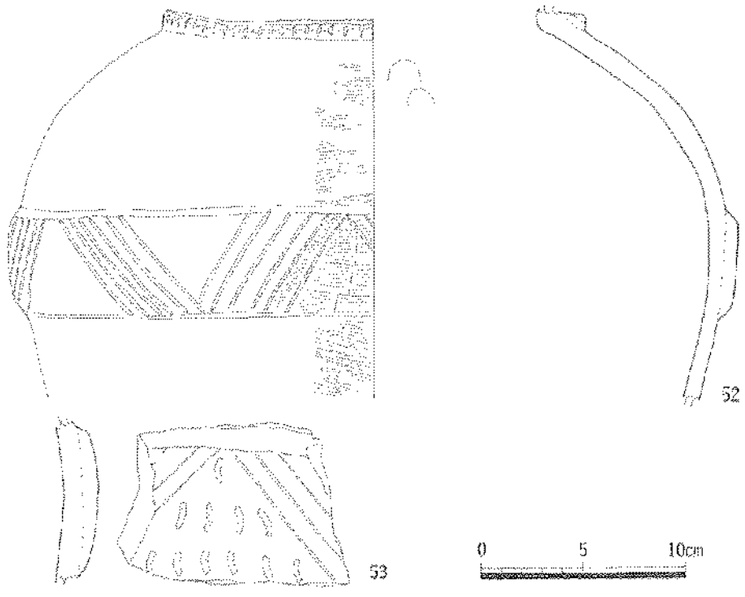
56は胴部片である。胴部最大径に１条の断面台形の突帯を有する。突帯には縦長の楕円形の刻目が密に施されている。刻目内には繊維圧痕が観察できる。器面調整は，表面が磨耗しているものの，精緻な研磨が器全体に施されているのが観察できる。内面は，ハケメ・指押さえ等が観察できる。

壺３ａ類（第62図57）

壺形土器のうち，無文のものを壺３類とした。そのうち，壺３ａ類は，なで肩状の器形を有するものである。

57は，完形の壺形土器である。口縁部は若干湾曲しながら外へ開く。単口縁である。肩部はあまり張らない。やや長胴気味の胴部を有し，底部は平底である。器面調整は，表面が磨耗しており明確ではないが，内外面ともに指ナデ・ハケメ状工具による打ち込み痕等が観察できる。





第61図　森田遺跡包含層出土遺物実測図11（壺１類）

壺３ｂ類（第63図58）

壺３類のうち，やや肩部が張る器形を有するものを壺３ｂ類とした。

58は，口縁部から胴部付近にかけて残存している。口縁部は直立ぎみに立ち上がり，若干湾曲しながら外へ開く。単口縁である。肩部はやや張り，やや長胴気味の胴部を有すると思われる。器面調整は，外面にハケメ・ナデ等が，内面に指押さえ等が観察できる。

壺３ｃ類（第63図59・60）

壺３類のうち，その他のものを一括して壺３ｃ類とした。いずれも残存部位が少なく，明確な特徴に欠ける。

59は，口縁部付近が残存しているものである。口縁部は直立気味に立ち上がり，湾曲しながら外へ開く。単口縁である。器面調整は，外面にハケメ・ミガキ等が，内面にハケメ等が観察できる。60は胴部から底部付近にかけて残存しているものである。肩部はあまり張らず，若干長胴気味の胴部を有する。器面調整は，外面に明確なハケメが観察でき，精緻な作りである。内面にはハケメ・指押さえ等が観察できる。

壺４類（第63図61）

壺形土器のうち，比較的小型で，無文のものを壺４類とした。

61は，頸部付近から底部にかけて残存しているものである。肩部はあまり張らず，なで肩である。底部は若干の平坦を有するも，丸底としたほうが望ましいと考えられる。器面調整は，外面にハケメ・指押さえ等が観察できる。仕上げは雑多である。内面は，ハケメ・指押さえ等が観察できる。

壺５類（第63図62）

壺形土器のうち，底部付近が残存しているものを壺５類とした。

62は，壺形土器の底部である。若干尖り気味の丸底である。器面調整は，内外面ともにハケメが観察できる。

壺６類（第63図63）

壺形土器のうち，その他のものを壺６類とした。

63は，胴部から底部付近にかけて残存しているものである。胴部上方がすぼまっていることから壺形土器と分類したが，胴部上位が残存していないので詳細は不明であるが，なで肩ではなくやや肩が張る器形であったと思われる。底部は平底で，肥厚している。器面調整は，内外面ともにハケメ・指押さえ等が観察できる。全体的に粗雑な作りで，雑多な印象を受ける。

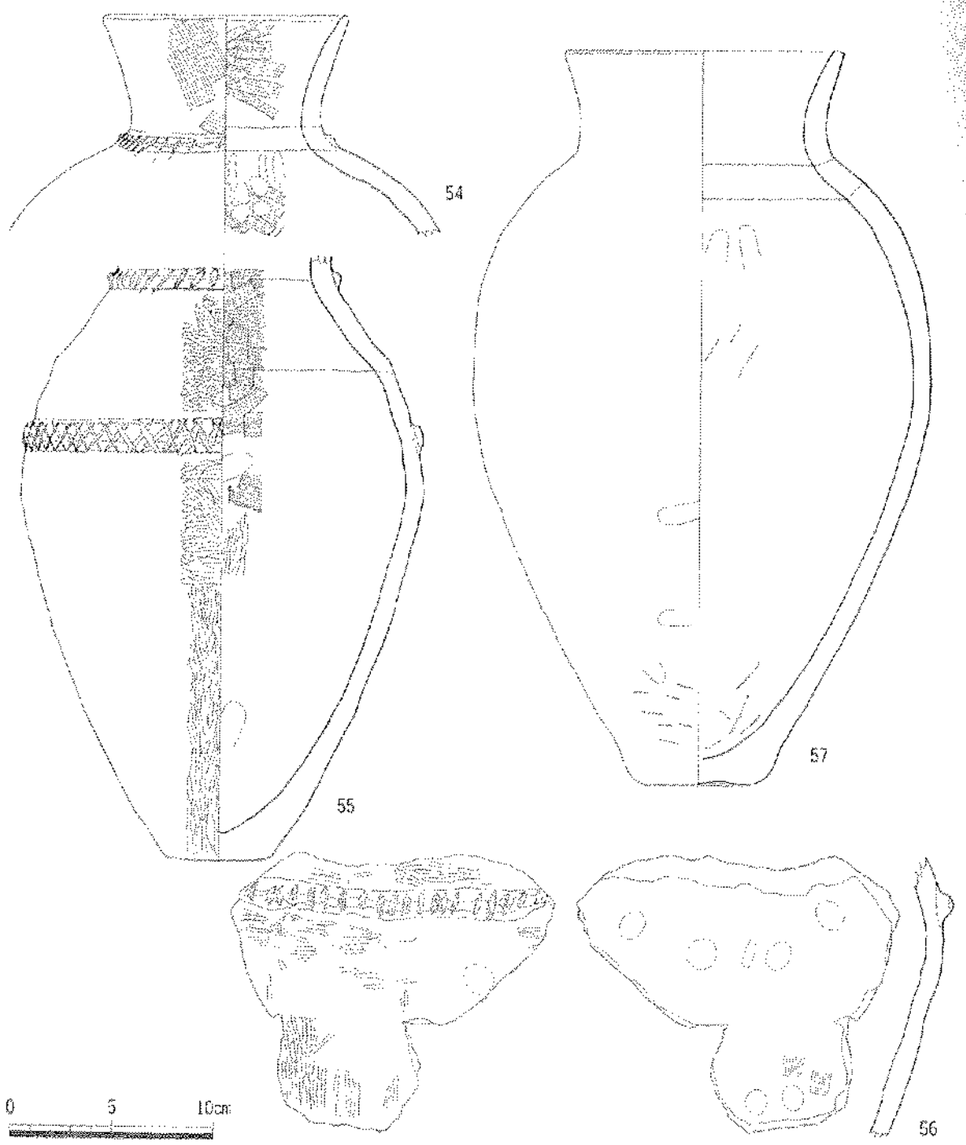
高杯形土器（第64図64～70）

高杯形土器については，それぞれ形態や属性といった特徴ごとに細別を行った。

高杯１ａ類（第64図64）

高杯形土器のうち，椀状の杯部を有し，杯部に段を有するものを高杯１類とした。そのうち，杯部が浅いものを高杯１ａ類とした。

64は，杯部が残存している。杯部下方に１条の沈線が廻り，段になっている。口縁部は段の屈曲部より直線的に開くが，先端が僅かに外反する。器面調整は，外面は丁寧に研磨されており，



第62図　森田遺跡包含層出土遺物実測図12（壺２a類～壺３a類）

丹塗りである。内面は，ハケメ・指押さえ等が観察できる。

高杯１b類（第64図65・66）

高杯１類のうち，杯部が若干深いものを高杯１b類とした。

65は，完形の高杯形土器である。杯部下位に１条の沈線が廻り，段になっている。口縁部は段の屈曲部より直線的に外へ開く。杯部は鉢状を呈し，高杯１a類と比して深い。脚台の軸部は長くなく，先端は湾曲して開く。器面調整は，外面は磨耗しているものの，研磨痕が観察できる。丹塗りである。内面は，大きく磨耗しており判然としない。66も，完形の高杯形土器である。杯部

下位に１条の沈線が廻り，段になっている。口縁部は段の屈曲部より若干内湾ぎみに立ち上がる。杯部は鉢状でやや深い。脚台の軸部は長くなく，先端はスカート状に湾曲して開く。器面調整は，外面は研磨痕が観察でき，丹塗りである。内面にはミガキが観察できる。

高杯２類（第64図67）

高杯形土器のうち，杯部に段を有さないものを高杯２類とした。

67は，杯部が残存している。杯部は鉢状で，あまり深くない。口縁部は胴部より屈曲し，直線的に開くが，屈曲部には段を有さず，明確な稜線が廻る。器面調整は，表面が磨耗しており明確ではないが，外面は研磨されており，丹塗りである。内面はミガキ等が観察できる。

高杯３類（第64図68・69）

高杯形土器のうち，脚部周辺が残存しているものを，一括して高杯３類とした。いずれも小型で，精緻な仕上げである。

68は，杯部下位から脚部にかけて残存しているものである。杯部下位に屈曲部を有するが，屈曲部には明確な稜線が廻る。脚部は軸部が短く，先端は湾曲して大きく開く。底径は広い。器面調整は，表面が磨耗しており明確ではないが，外面は研磨されており，丹塗りである。軸部内面にはハケメ等が観察できる。69は小型の脚部である。形状は68と類似しており，あまり長くない軸部より，先端へ向けて湾曲して大きく開く。器面調整は，外面は丁寧なミガキが施されており，丹塗りである。内面は磨耗しており，判然としない。

高杯４類（第64図70）

高杯形土器のうち，脚部（軸部）周辺が残存しているものを高杯４類とした。

70は，脚台の軸部が残存しているものである。中空である。器面調整は，表面が磨耗しており明確ではないが，表面にミガキ等が観察できる。

鉢形土器（第64図71～第65図86）

鉢土器については，それぞれ形態や属性といった特徴ごとに細別を行った。

鉢１類（第64図71）

鉢形土器のうち，低い脚台と１条の突帯を有し，口縁部が直線的に外へ開くものを鉢１類とした。

71は完形の鉢で，口縁部が外傾し，直線的に外へ開く。胴部上位に１条の断面台形の突帯を有する。突帯には工具によると思われる細い刻目が，斜方向に密に施されている。低い脚台を有する。脚台は先端へ向けて外反気味に開き，内面天井部に平坦面を有する。器面調整は，外面にハケメ・指ナデが，内面にハケメ等が観察できる。

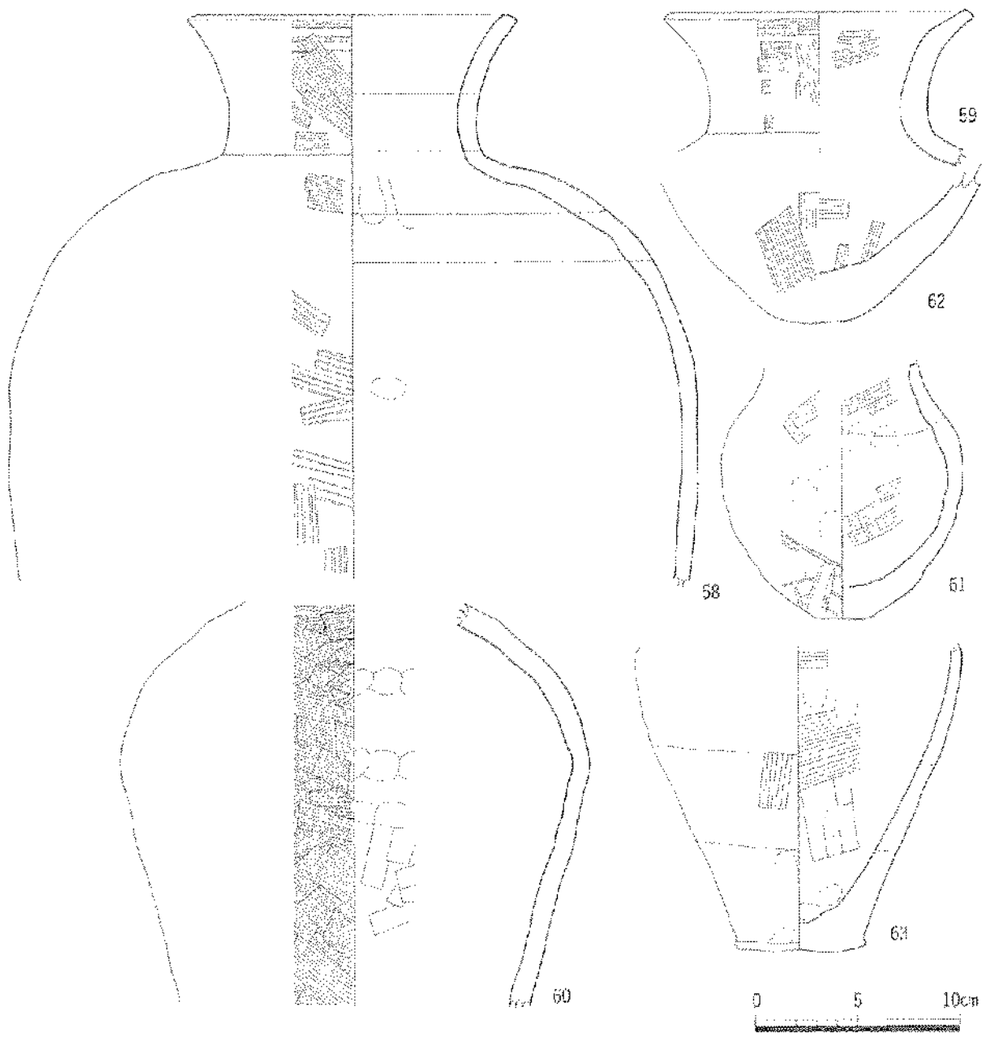
鉢２類（第64図72）

鉢形土器のうち，低い脚台を有し，口縁部が内湾ぎみに立ち上がるものを鉢２類とした。

72は完形の鉢で，口縁部が内湾ぎみに立ち上がる器形である。杯部は鉢状で，低い脚台を有する。脚部は若干外反ぎみに開き，内面天井部は放物線を描く。器面調整は，内外面ともにハケメ等が観察できる。

鉢３類（第64図73）

脚台を有さず，外面に１条の突帯を有するものを鉢３類とした。



第63図　森田遺跡包含層出土遺物実測図13（壺３b類～壺６類）

73は，完形の鉢形土器である。口縁部は外反して開く。脚部に１条の断面三角形の突帯を有する。突帯にはやや大きめで格子形の刻目が施されている。刻目と刻目の間隔は広めである。底部は平底である。口径と比して器高が低く，やや浅めである。器面調整は，内外面ともにハケメ等が観察できる。

鉢４類（第64図74）

鉢形土器のうち，脚部を有さず，直線的に開く口縁部を有するものを鉢４類とした。

74は完形の鉢で，口縁部が直線的に開く。やや深めの器形で，底部は平底である。器面調整は，口縁部内外面にともに横方向のナデ等が観察できる。

鉢５ａ類（第64図75）

鉢形土器のうち，脚台を有さず，口縁部が内湾ぎみに立ち上がるものを鉢５類とした。そのうち，口径が20cmを超えるものを鉢５ａ類とした。

75は完形の鉢で，口縁部が内湾ぎみに立ち上がる。口径と比して器高が低く，やや浅めの器形である。底部は平底である。器面調整は，表面が磨耗しており明確ではないが，外面にミガキが，内湾にハケメ等が観察できる。

鉢５ｂ類（第64図76，第65図77）

鉢５類のうち，口径が15～20cm前後のものを鉢５ｂ類とした。

76は完形の鉢で，口縁部が内湾ぎみに立ち上がる。底部は平底で，若干上げ底気味である。器面調整は，内外面ともにハケメ等が観察できる。77は，口縁部から底部付近にかけて残存しているものである。口縁部は内湾ぎみに立ち上がる。器面調整は，内外面ともにハケメ等が観察できる。

鉢５ｃ類（第65図78・79）

鉢５類のうち，口径が10cm前後のものを鉢５ｃ類とした。

78は完形の鉢で，口縁部が直線的に外へ開き，先端で若干内湾する。底部は平底である。器面調整は，内外面ともにハケメ等が観察できる。79も完形の鉢で，口縁部は内湾気味に立ち上がる。器面調整は，外面が丁寧に研磨されており，内面にはハケメ等が観察できる。

鉢６類（第65図80）

鉢形土器のうち，口縁部が肥厚するものを鉢６類とした。

80は，口縁部が直線的に開き，先端が若干直立気味に立ち上がる器形である。口縁部に粘土帯を貼り付け，肥厚させている。肥厚部分には段を有する。器面調整は，表面が磨耗しており明確ではないが，外面にハケメが，内面にハケメ・指押さえ等が観察できる。

鉢７ａ類（第65図81）

鉢形土器のうち，底部付近が残存しているものを鉢７類とした。そのうち，直線的に開いていく口縁部へと移行すると思われるものを鉢７ａ類とした。

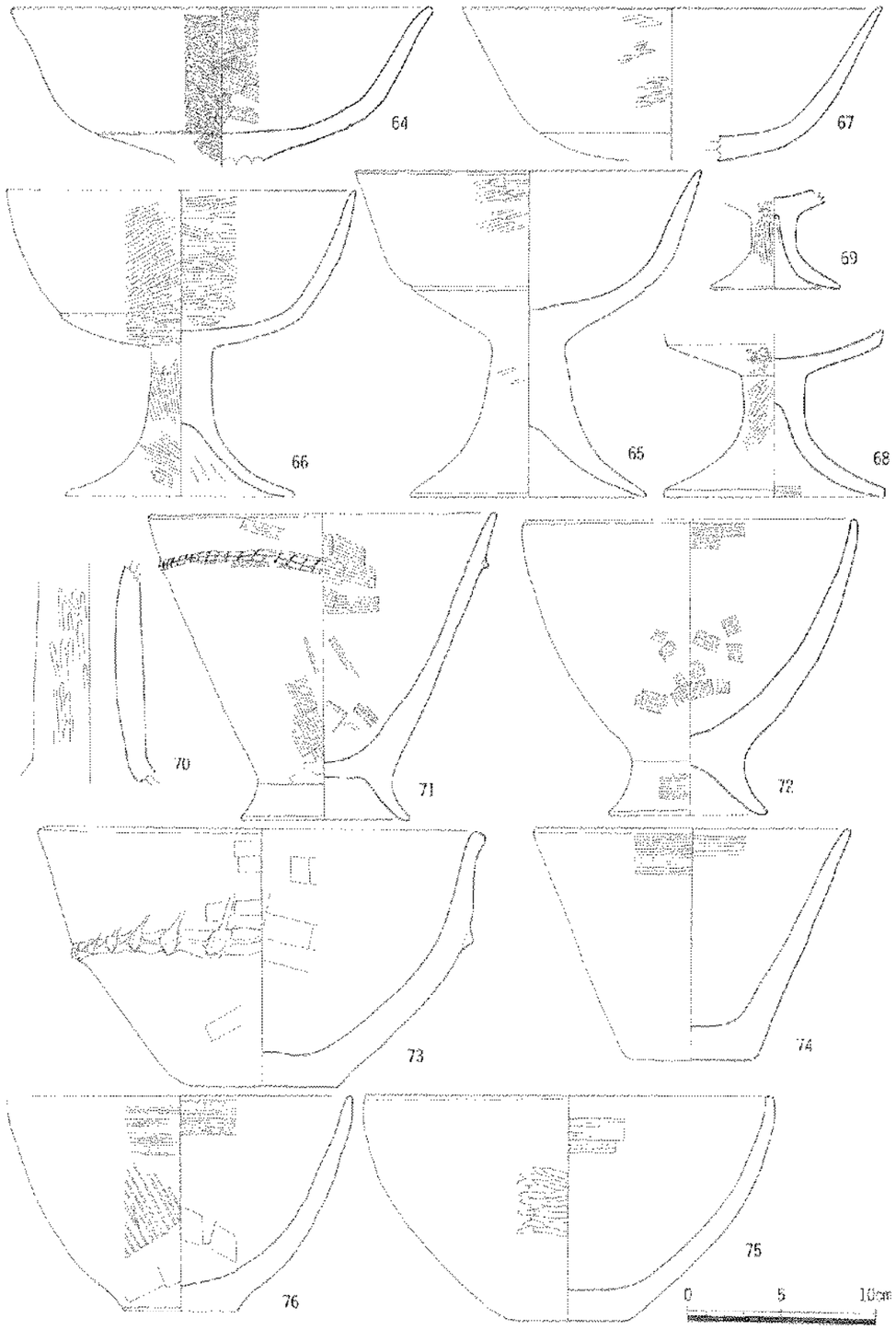
81は，若干上げ底になっている。直線的に開いていく口縁部へと移行すると思われる。器面調整は，外面にハケメ・指ナデ等が，内面にハケメ等が観察できる。

鉢７ｂ類（第65図82～86）

鉢７類のうち，口縁部が内湾するもの，もしくは内湾ぎみに立ち上がる口縁部へと移行すると思われるものを鉢７ｂ類とした。

82は，上げ底になっている。器面調整は，胴部内外面にミガキが観察できる他に，底部上げ底の外面には指押さえが観察できる。83は底径がやや的広く，椀状を呈する。平底である。器面調整は，外面は磨耗して判然としないが，内面にハケメ等が観察できる。84は平底である。83と比して底径が狭く，口縁部の立ち上がる角度も鋭角的である。器面調整は内外面ともにハケメが観察できる。85はやや底径の広い平底である。器面調整は，内外面ともに指押さえが観察できる。86は丸底である。器面調整は，外面にハケメ・指押さえ等が，内面に指押さえ等が観察できる。

坩土器（第65図87～92）



第64図　森田遺跡包含層出土遺物実測図14（高杯１a類～鉢５b類）

坩形土器については，それぞれ形態や属性といった特徴ごとに細別を行った。

坩１a類（第65図87）

坩形土器のうち，胴部が最大径で鋭角的に張り出し，ソロバン玉状の外観を呈するものを坩１類とした。そのうち，胴部が有孔で，特異な形状を有するものを坩１a類とした。

87は，完形の坩形土器である。口縁部は，頸部より外側へ屈曲して開く。屈曲部には明確な稜線が廻る。頸部は胴部より屈曲して直立する。屈曲部には明確な稜線が廻る。頸部には１条の断面台形の突帯が廻る。胴部は最大径で鋭角的に張り出し，ソロバン玉状の外観を呈する。胴部屈曲部に明確な稜線が廻る。胴部の張り出しの上位に，孔が１つ穿たれている。[illegible]的な使用法が想定される。底部は平底である。器面調整は，外面に丁寧なミガキが観察できる。丹塗りである。内面には口縁部付近にミガキが観察できる他，指押さえ等が観察できる。

坩１b類（第65図88）

坩１類のうち，胴部付近が残存しているもので，大きめなものを坩１b類とした。

88は，胴部が強く張り出し，屈曲部に明確な稜線が廻るものである。器高は残存部位で13.2cm，胴部最大径が19.6cmである。器面調整は，表面が磨耗しており明確ではないが，外面に全体的にミガキが観察でき，精緻な仕上げであったことを想像させる。丹塗りである。内面は磨耗しており判然としない。

坩１c類（第65図89）

坩１類のうち，胴部付近が残存しているもので，小さめなものを坩１c類とした。

89は，肩部が強く反り，胴部屈曲部に明確な稜線が廻るものである。器高は残存部位で5.2cm，胴部最大径が8.2cmである。器面調整は，表面が磨耗しており明確ではないが，外面に全体的にミガキが観察でき，精緻な仕上げであったことを想像させる。丹塗りである。内面は磨耗しており判然としないが，指押さえ等が観察できる。

坩２類（第65図90・91）

坩形土器のうち，胴部が球胴状のもの坩２類とした。

90は胴部が残存しているものである。胴部は91と比して，やや扁平な外観を呈し，断面は楕円形である。底部は平底である。器面調整は，表面が磨耗しており明確ではないが，外面にミガキが観察できる。91も球胴状の胴部である。90が扁平で断面は楕円形状であるのに対して，こちらは球状の胴部を有する。器面調整は，表面が磨耗しており明確ではないが，外面にハケメが観察できる他，図化できるほど明瞭ではないが全体的にミガキが観察できる。丹塗りである。

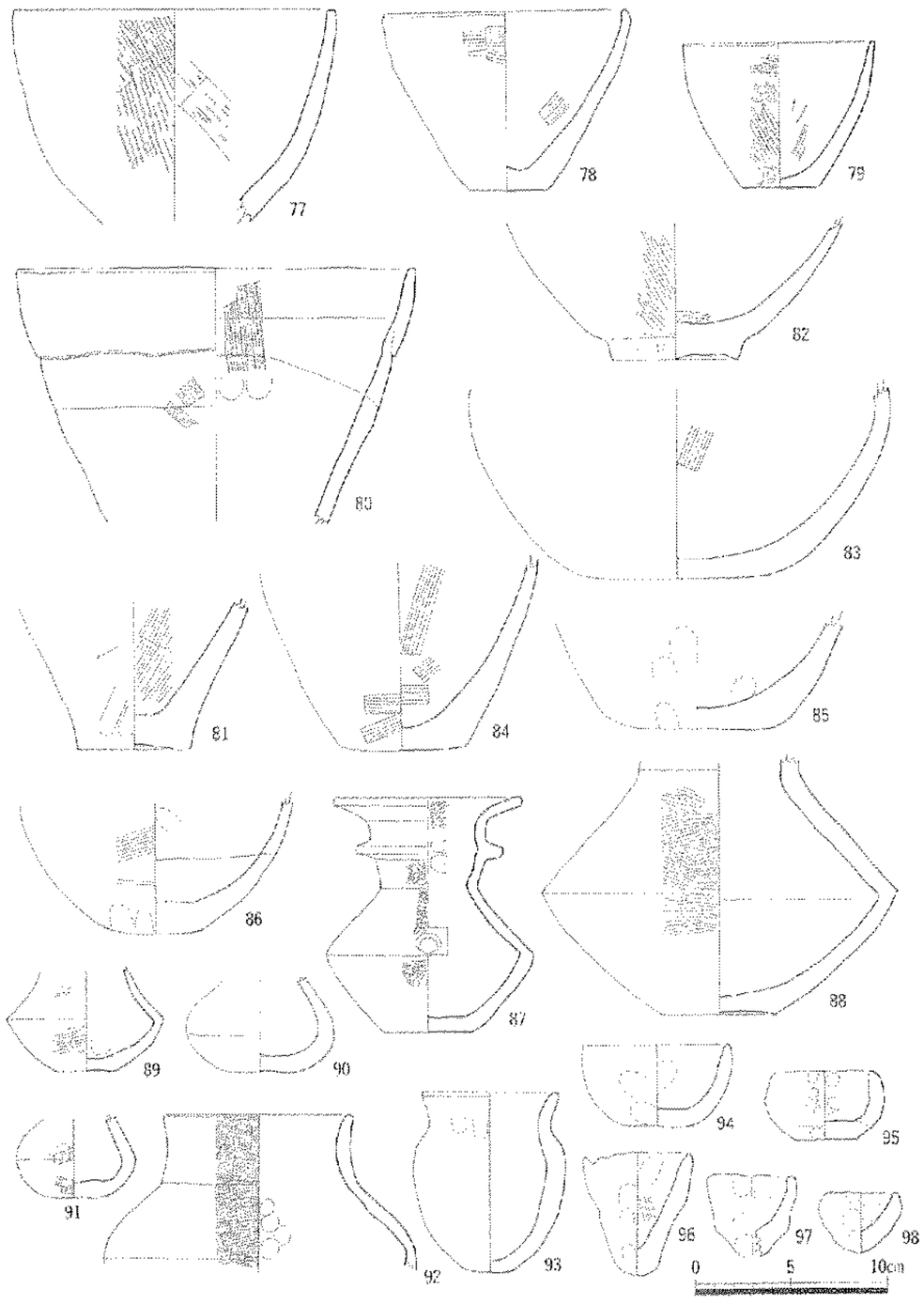
坩３類（第65図92）

坩形土器で，その他のものを坩３類としたが，あるいは小型丸底壺に分類される可能性もある。

92は，口縁部から胴部付近にかけて残存しているものである。口縁部は短く，胴部よりほぼ直立する。肩部は丸く，球形の胴部を想像させる。器面調整は，表面が磨耗しているため判然としないが，外面にハケメ・ミガキ等が観察できる。丹塗りである。内面には指押さえ等が観察できる。

ミニチュア土器（第65図93～98）

93は，完形のものである。口縁部は頸部で屈曲し，外側へ開く。肩部がやや張り，胴部最大径



第65図　森田遺跡包含層出土遺物実測図15（鉢５b類～ミニチュア類）

は口径を上回る。底部は平底である。全体的に仕上げが荒く，粗雑である。器面調整は，外面に指押さえが観察できる。94～98は，指により仕上げられているもので，いわゆる手捏である。器面調整は，いずれも内外面ともに指押さえが観察できる。94はボール状の外観を呈するものである。口縁部は内湾ぎみに立ち上がる。底部は平底である。口径が器高を上回る。95は内湾する口縁部を有し，底部は平底である。口径が器高を上回る。96は，コップ状の外観を呈するものである。口縁部は直線的に外へ開く。底部は尖底ぎみの丸底である。器高が口径を上回る。97は，小型の猪口状を呈するものである。口縁部は直線的に外へ開き，先端で内湾する。底部は欠損しているが，残存部位より，尖底ぎみの丸底であると想像される。98は，小型のボール状を呈するものである。口縁部は直線的に外へ開き，先端で内湾する。底部は丸底である。

②石器（第66図99）

森田遺跡からは，石器はほとんど発見されていない。図化しうるものは，A－8区より検出された石錘が１点である。

99は，楕円形の石錘で，中央が溝状に磨り減っている。残存部位の長さは3.8cmで，幅・厚さはともに2.2cmである。重量は21ｇである。

③軽石製品（第66図100）

森田遺跡からは，軽石製品についてもほとんど発見されていない。図化しうるものは，A－1区より検出された舟形の軽石製品が１点である。

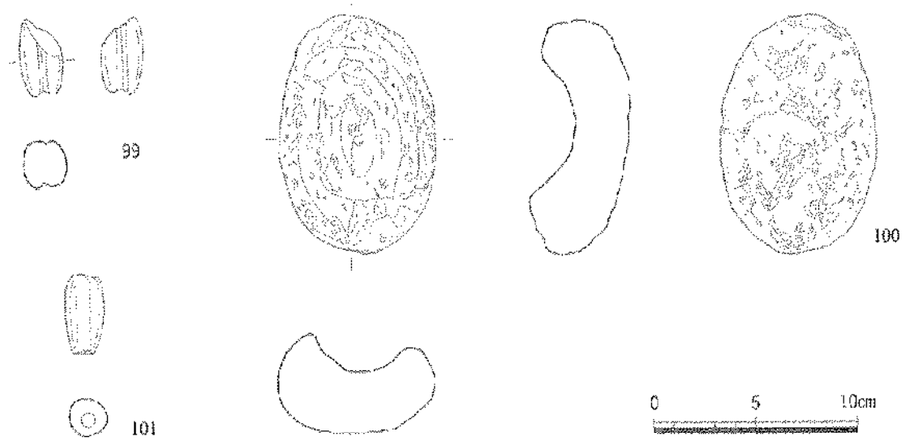
100は軽石製品である。楕円形に整形した後，中央部を凹ませており，舟形を呈する。長さ11.8cm，幅7.6cm，厚さ4.9cmである。重量は103ｇである。

２　その他の遺物（第66図101）

その他，時代が特定できない遺物として，土錘が１点出土した。

土錘（第66図101）

101は，土錘である。一括出土遺物であり，時期の特定は不可能である。形状は管状を呈する。最大径1.9cm，長さ４cmである。重量は16ｇで，明褐色を呈する。



第66図　森田遺跡包含層出土遺物実測図16（石器，軽石製品，土錘）

第13表　森田遺跡包含層出土遺物観察表（1）

※胎土のS・C・K・R・U・Sはそれぞれ S＝石英，C＝長石，K＝角閃石，R＝小石，U＝雲母を指す。
※表中の値については，破片のものについては推定値である。

挿図番号	遺物番号	出土区	層	器種	部位	胎土	色調 外	色調 内	器面調整 外	器面調整 内	焼成	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考
51	1	B－9	Ⅳ	甕		S・C・U	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR5/6明褐	ハケメ・指押さえ	ハケメ・指押さえ	良	31	10	36.1	縄状突帯
51	2	B－9	Ⅳ	甕		S・C・K	7.5YR5/8明褐	7.5YR5/6明褐	ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ	良	37.7	10	35.7	刻目突帯
51	3	B－9	Ⅳ	甕		S・C・K	7.5YR6/6橙	7.5YR6/6橙	ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ	良	33.7	11.4	40.8	刻目突帯
51	4	B－9	Ⅳ	甕		S・C・U	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR5/6明褐	ハケメ・ナデ	ハケメ	良	29	9.2	36.2	縄状突帯
51	5	B－9	Ⅳ	甕		S・C・K	7.5YR5/6明褐	7.5YR5/6明褐	ハケメ	ハケメ	良	29.6	10	35.7	刻目突帯
51	6	B－9	Ⅳ	甕		S・C・U	10YR6/4にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙	ハケメ・ナデ	ハケメ・指押さえ	良	37	11.4	42.5	縄状突帯（断面楕円形）
51	7	B－9	Ⅳ	甕		S・C・U	5YR6/6橙	10YR7/1黒	ハケメ・指押さえ	ハケメ・指押さえ	良	18.4	7.6	25.1	縄状突帯
51	8	B－9	Ⅳ	甕		S・C・U	10YR6/4にぶい黄橙	7.5YR5/6明褐	ハケメ・ミガキ	ハケメ	良	12	10	32	突帯
52	9	A－9	Ⅳ	壺	口縁部	S・C・K	7.5YR5/6明褐	7.5YR4/6褐	ハケメ・ナデ	ハケメ	良	28.6			頸部・肩部
52	10	B－9	Ⅳ	壺	頸部～肩部	S・C・U	2.5YR4/6赤褐	2.5YR5/6明赤褐	ハケメ・ナデ・指押さえ	ハケメ	良	37.6			頸部・肩部
52	11	B－9	Ⅳ	壺	頸部～肩部	S・C・K	7.5YR5/4にぶい褐	5YR6/6橙	ハケメ	ハケメ・指押さえ	良	30.9			刻目突帯
52	12	B－9	Ⅳ	壺	頸部～肩部	S・K・U	7.5YR5/6明褐	7.5YR7/4にぶい橙	ハケメ	ハケメ	良	26			刻目突帯
52	13	B－9	Ⅳ	壺	頸部～肩部	S・C・U	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR5/6橙	ハケメ	ハケメ・指押さえ	良	27			刻目突帯
53	14	B－9	Ⅳ	壺	頸部～肩部	S・C・U	5YR6/6橙	5YR6/4にぶい赤褐	ハケメ・ナデ	ハケメ・指押さえ	良	30.8			刻目突帯
53	15	B－9	Ⅳ	壺	頸部～肩部	S・C・K	7.5YR5/6橙	5YR6/6橙	ハケメ・ナデ・指押さえ	ナデ・指押さえ	良	30			刻目突帯
53	16	B－9	Ⅳ	壺	口縁部	S・C・U	5YR5/4にぶい褐	5YR6/2灰褐	ハケメ・ミガキ	ハケメ	良	33.8			縄状突帯
53	17	B－9	Ⅳ	壺	頸部～肩部	S・C・K	10YR7/4にぶい黄橙	7.5YR7/4にぶい橙	ハケメ・指押さえ	ハケメ・指押さえ	良	26.5			突帯
53	18	B－9	Ⅳ	壺	頸部～肩部	S・C・K	5YR6/6橙	5YR6/6橙	ハケメ	ハケメ・指押さえ	良	34			縄状突帯
53	19	B－9	Ⅳ	壺	頸部～肩部	S・K・U	7.5YR5/6明褐	10YR6/4にぶい黄橙	ハケメ	ハケメ・指押さえ	良	29			突帯
53	20	B－9	Ⅳ	壺	頸部～肩部	S・C・U	7.5YR7/3橙	7.5YR5/3明褐	ナデ	ハケメ・指押さえ	良	32.8			刻目突帯
54	21	B－9	Ⅳ	壺	頸部～肩部	S・C・K	7.5YR5/6明褐	2.5YR5/6橙	ハケメ・ナデ	ハケメ・指押さえ	良	31.1			刻目突帯
54	22	B－9	Ⅳ	壺	口縁部	S・C・K	7.5YR6/6橙	7.5YR5/6明褐	ハケメ	ハケメ・指押さえ	良	29.3			刻目突帯
54	23	B－9	Ⅳ	壺	口縁部	S・C・K	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR5/2灰褐	ハケメ・ナデ	ハケメ・指押さえ	良	34.6			刻目突帯
54	24	B－9	Ⅳ	壺	頸部～肩部	S・C・K	7.5YR6/6橙	7.5YR5/6明褐	ハケメ・ナデ	指押さえ	良	28.3			刻目突帯
55	25	B－9	Ⅳ	壺	頸部～肩部	S・C・K	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR5/6明褐	ハケメ	指押さえ	良	29.4			縄状突帯
55	26	B－9	Ⅳ	壺	頸部～肩部	S・C・K	5YR5/4明赤褐	5YR5/6明赤褐	ハケメ	ハケメ・指押さえ	良	31.6			突帯
55	27	B－9	Ⅳ	壺	頸部～肩部	S・C・U	5YR6/6橙	5YR6/4にぶい橙	ハケメ	ハケメ・指押さえ	良	28.6			突帯
55	28	B－9	Ⅳ	壺	頸部～肩部	S・C・K	5YR5/6明赤褐	5YR5/6明赤褐	ハケメ・ナデ	ハケメ・指押さえ	良	29.2			縄状突帯
55	29	B－9	Ⅳ	壺	頸部～肩部	S・C・K	5YR6/6橙	5YR6/6橙	ハケメ	ハケメ・指押さえ	良	22.5			縄状突帯
56	30	B－9	Ⅳ	壺	頸部～肩部	S・C・K	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR5/6明褐	ハケメ		良	26.4		26.1	刻目突帯
56	31	B－9	Ⅳ	壺	頸部～肩部	S・C・U	7.5YR6/6橙	7.5YR5/6明褐	ハケメ・ナデ	ハケメ	良	28.3			刻目突帯
56	32	B－9	Ⅳ	壺	口縁部	S・C・K	7.5YR5/6明褐	7.5YR5/6明褐	ハケメ	ハケメ・指押さえ	良	35			刻目突帯
57	33	B－9	Ⅳ	壺	口縁部	S・C・K	7.5YR4/4にぶい褐	10YR6/4にぶい黄橙	ハケメ	ハケメ	良	28.8			刻目突帯
57	34	B－9	Ⅳ	壺	口縁部	S・C・U	5YR5/6明赤褐	5YR6/6橙	ハケメ・指押さえ	ハケメ	良	22			刻目突帯
57	35	B－9	Ⅳ	壺	口縁部	S・C・U	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/6橙	ハケメ	指押さえ	良	28.2			刻目突帯
57	36	B－9	Ⅳ	壺	頸部～肩部	S・C・U	7.5YR7/6橙	5YR5/6明赤褐	ハケメ・指押さえ	ハケメ・指押さえ	良	30			縄状突帯
57	37	B－9	Ⅳ	壺	頸部～肩部	S・C・K	10YR6/4にぶい黄橙	7.5YR5/6明褐	ハケメ	ハケメ・指押さえ	良	30.5			縄状突帯
58	38	B－9	Ⅳ	壺	頸部～肩部	S・C・K	7.5YR6/4にぶい橙	10YR5/4にぶい黄橙	ハケメ・ミガキ・指押さえ	ハケメ・指押さえ	良	25.8			縄状突帯
58	39	B－9	Ⅳ	壺	頸部～肩部	S・C・U	7.5YR6/6橙	7.5YR5/6橙	ハケメ・指押さえ	ハケメ・指押さえ	良	30.6			縄状突帯
58	40	B－9	Ⅳ	壺	頸部～肩部	S・C・U	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR5/6橙	ハケメ・指押さえ	ハケメ・指押さえ	良	31.3			縄状突帯
58	41	B－9	Ⅳ	壺	頸部～肩部	S・K・U	7.5YR6/6橙	7.5YR5/6橙	指押さえ	ハケメ	良	29			突帯
59	42	B－9	Ⅳ	壺	頸部～肩部	S・C・K	5YR7/4にぶい橙	5YR6/6橙	ハケメ・指押さえ	ハケメ・指押さえ	良	29			突帯
59	43	B－9	Ⅳ	壺	頸部～肩部	S・C・K	7.5YR7/6橙	5YR6/4橙	ハケメ・ナデ	指押さえ	良	27.5			突帯
59	44	B－9	Ⅳ	壺	頸部～肩部	S・C・K	7.5YR5/6橙	10YR5/6黄褐	ハケメ	ハケメ	良	8.1			突帯
59	45	A－9	Ⅳ	壺	頸部	S・C・U	10YR6/4にぶい黄橙	10YR5/4にぶい黄褐	ハケメ・ナデ	ハケメ	良				
59	46	A－9	Ⅳ	壺	頸部	S・C・K	7.5YR5/6橙	7.5YR6/4にぶい橙	ミガキ・ナデ	ハケメ	良				
60	47	B－9	Ⅳ	壺	底部	S・C・K	7.5YR6/8橙	7.5YR5/8橙	ハケメ・指押さえ	ハケメ・指ナデ	良		10.6		
60	48	B－9	Ⅳ	壺	底部	S・K・U	7.5YR6/6橙	7.5YR5/6明褐	ハケメ・指押さえ	ハケメ	良		8.6		
60	49	B－9	Ⅳ	壺	底部	S・C・K	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	ハケメ・指押さえ・ナデ	指押さえ・指ナデ	良		8		
60	50	B－9	Ⅳ	壺	底部	S・K・U	10YR6/4にぶい黄橙	10YR5/4にぶい黄褐	ハケメ・指押さえ	ハケメ	良		7.4		
61	51	B－8	Ⅳ	壺		S・C・U	7.5YR7/4にぶい橙	7.5YR7/4にぶい橙	ハケメ・ナデ		良	28	8	(30)	縄状突帯
61	52	B－5	Ⅳ	壺	頸部	S・C・K	7.5YR5/6明褐	10YR6/4にぶい黄橙	ハケメ・ハケ・ナデ	指押さえ	良				縄状突帯
61	53	A－5	Ⅳ	壺	頸部	S・C・K	10YR6/4にぶい黄橙	7.5YR6/6橙			良				縄状突帯
62	54	B－9	Ⅳ	壺	口縁部	S・C・K	5YR6/6橙	5YR6/4にぶい橙	ハケメ	ハケメ・指押さえ	良	11.5			刻目突帯
62	55	B－9	Ⅳ	壺		S・C・U	2.5YR4/8赤褐	5YR4/8赤褐	ミガキ	ハケメ・ミガキ・ナデ	良		5		刻目突帯

第14表　森田遺跡包含層出土遺物観察表（2）

※胎土のS・C・K・R・U・Sはそれぞれ S＝石英，C＝長石，K＝角閃石，R＝小石，U＝雲母を指す。
※表中の値については，破片のものについては推定値である。

挿図番号	遺物番号	出土区	層	器種	部位	胎土	色調 外	色調 内	器面調整 外	器面調整 内	焼成	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考
62	61	B－8	Ⅳ	壺	頸部～底部	S・C・K	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR5/4にぶい褐	ハケメ・指押さえ	ハケメ・指押さえ	良				
63	62	B－9	Ⅳ	壺	底部	S・C・U	5YR5/4にぶい赤褐	5YR5/6明赤褐	ハケメ	ハケメ	良		9.8		
63	63	B－9	Ⅳ	壺	頸部～底部	S・C・K	10YR6/4にぶい黄橙	7.5YR6/6橙	ハケメ・指押さえ	ハケメ・指押さえ	良		16.4		
63	64	B－9	Ⅳ	壺	肩部	S・C・U	2.5YR4/8赤褐	5.5YR6/4にぶい橙	ミガキ	ハケメ・指押さえ	良	22.6			丹塗り
63	65	B－9	Ⅳ	壺		S・K	5YR5/6明赤褐	10YR7/4にぶい黄橙	ミガキ	ミガキ	良	18.8	16.4		丹塗り
63	66	B－9	Ⅳ	壺		S・C・K	2.5YR4/8赤褐	5YR6/6橙	ミガキ	ミガキ	良	18.8	16.3		丹塗り
63	67	B－9	Ⅳ	壺	肩部	S・C・K	5YR4/6赤褐	5YR4/6赤褐	ミガキ	ミガキ	良	[illegible]			丹塗り
63	68	B－5	Ⅳ	壺	頸部～肩部	S・C・K	2.5YR5/6明赤褐	7.5YR5/4にぶい橙	ミガキ	ハケメ	良		11.5		丹塗り
64	69	B－1	Ⅳ	鉢	胴部	S・C・K	5YR6/6橙	7.5YR7/4にぶい橙	ミガキ・ナデ	ハケメ・指押さえ	良		8		丹塗り
64	70	B－1	Ⅳ	鉢	胴部	S・C・K	10YR5/4にぶい黄褐	7.5YR6/4にぶい橙	ミガキ	ミガキ	良				
64	71	A－9	Ⅳ	鉢		S・C・K	5YR5/6明赤褐	10YR7/4にぶい黄橙	ハケメ・指ナデ	ハケメ	良	16.5	9.2	16.3	炭目突帯
64	72	B－9	Ⅳ	鉢		S・C・K	5YR5/6橙	7.5YR7/6橙	ハケメ	ハケメ	良	17.5	8.4	15.7	
64	73	B－1	Ⅳ	鉢		S・C・K	7.5YR5/6明褐	7.5YR5/6明褐	ハケメ	ハケメ	良	24	8	13.3	炭目突帯
64	74	B－9	Ⅳ	鉢		S・C・U	10YR7/6明黄褐	10YR6/4にぶい黄橙	ナデ	ナデ	良	16.8	6.8	12.3	
64	75	B－9	Ⅳ	鉢		S・C・K	7.5YR6/6橙	7.5YR6/4にぶい橙	ミガキ	ハケメ	良	21.8	8.4	12	
64	76	B－9	Ⅳ	鉢		C・K	7.5YR5/6明褐	7.5YR5/6明褐	ハケメ	ハケメ・ナデ	良	16.1	6	11.2	
64	77	B－9	Ⅳ	鉢	胴部～底部	S・C・K	10YR7/3にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙	ハケメ	ハケメ	良	17		11.2	
64	78	A－9	Ⅳ	鉢		S・C・U	10YR6/4にぶい黄橙	10YR5/4にぶい黄褐	ハケメ	ハケメ	良	12.5	4.2	9.3	
65	79	A－9	Ⅳ	鉢		S・C・U	5YR5/6橙	2.5YR6/6橙	ミガキ	ハケメ・ハケメ後工具の押込み	良	14	4	7.6	
65	80	A－9	Ⅳ	鉢	胴部～底部	S・C・U	10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/4にぶい黄橙	ハケメ・ナデ	ハケメ・指押さえ	良	15.4		13.2	
65	81	B－9	Ⅳ	鉢	底部	S・C・K	10YR5/4にぶい黄褐	7.5YR6/6橙	ハケメ・指ナデ	ハケメ	良		6		
65	82	A－9	Ⅳ	鉢	底部	S・C・K	7.5YR6/4にぶい橙	5YR6/6橙	ミガキ・指押さえ	ミガキ	良		6.6		
65	83	B－9	Ⅳ	鉢	底部	S・C・U	7.5YR7/4にぶい橙	10YR7/4にぶい黄橙		ハケメ	良		9		
65	84	B－9	Ⅳ	鉢	底部	S・K	5YR6/6橙	7.5YR6/6橙	ハケメ	ハケメ	良		7		
65	85	B－9	Ⅳ	鉢	底部	S・C・U	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	指押さえ	指押さえ	良		7.4		
65	86	B－9	Ⅳ	鉢	底部	S・K・U	7.5YR5/8明褐	7.5YR5/6明褐	ハケメ・指押さえ	指押さえ	良		4		
65	87	B－9	Ⅳ	甕		S・C・U	2.5YR5/6明赤褐	5YR5/6明赤褐	ミガキ	ミガキ・指押さえ	良	9.3	1.6	12.2	丹塗り・穿孔
65	88	B－6	Ⅳ	甕	頸部	S・C・K	7.5YR5/6明褐	7.5YR5/4にぶい褐	ミガキ		良		5.6		丹塗り
65	89	B－9	Ⅳ	甕	頸部	S・C・U	2.5YR5/6明赤褐	10YR7/3にぶい黄橙	ミガキ	指押さえ	良		8		丹塗り
65	90	B－4	Ⅳ	甕	頸部	S・C・K	7.5YR6/6橙	7.5YR6/4にぶい橙	ミガキ		良		3.8		
65	91	B－9	Ⅳ	甕	頸部	S・C・K	5YR6/4にぶい橙	5YR5/3にぶい赤褐	ハケメ・指押さえ		良		3		丹塗り
65	92	B－9	Ⅳ	甕	頸部	S・C・U	5YR6/4にぶい橙	10YR6/4にぶい黄橙	ハケメ・ミガキ	ナデ・指押さえ	良	9.9			丹塗り
65	93	B－9	Ⅳ	[illegible]		S・C・U	7.5YR5/6明褐	7.5YR6/6橙	指押さえ		良	8	1.6	9	
65	94	A－7	Ⅳ	[illegible]		S・K	7.5YR5/3褐	7.5YR4/4褐	指押さえ	指押さえ	良	8	6.4	4.2	
65	95	A－9	Ⅳ	[illegible]		S・C・K	5YR5/6明赤褐	5YR5/6明赤褐	指押さえ・ハケメ	指押さえ	良	5.2	3.2	3.6	
65	96	A－9	Ⅳ	[illegible]		S・C・K	7.5YR6/6橙	7.5YR6/6橙	指押さえ・ハケメ	ハケメ・指押さえ	良	5.8	1	6.4	
65	97	B－9	Ⅳ	[illegible]		S・C・K	5YR6/4にぶい橙	5YR6/6橙	指押さえ	指押さえ	良	4.6		4.2	
65	98	B－9	Ⅳ	[illegible]		S・C・K	7.5YR6/4にぶい橙	10YR6/4にぶい黄橙	指押さえ	指押さえ	良	3.5	0.4	3.1	

第15表　森田遺跡出土石器観察表

挿図番号	遺物番号	取上番号	出土区	層	器種	石質	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考
66	99	385	A－9	Ⅳ	石錘	砂岩	3.8	2.2	2.2	21.6	

第16表　森田遺跡出土軽石製品観察表

挿図番号	遺物番号	取上番号	出土区	層	器種	石質	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考
66	100	6,123	A－1	Ⅳ	身舟?	軽石	11.8	7.6	4.9	103.6	

第17表　森田遺跡包含層出土遺物観察表（土製品）

挿図番号	遺物番号	区	層	器種	部位	胎土	色調 外	焼成	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
66	101	A－6	Ⅳ	土錘		S・C・K	Hue7.5YR5/6明褐	良	1.9	1.9	16	

第Ⅵ章　ま　と　め

第１節　迫田遺跡

①遺構

迫田遺跡からは，４～６区より５つの土坑が検出されたのみで，他には，確とした遺構は検出されていない。５つの土坑については，いずれも埋土としてⅣ層が充填しているが，遺物は検出されず，時期や用途については判然としない。また，形状・配列等から何らかの意味を見出すのは困難で，詳細は不明である。

②遺物

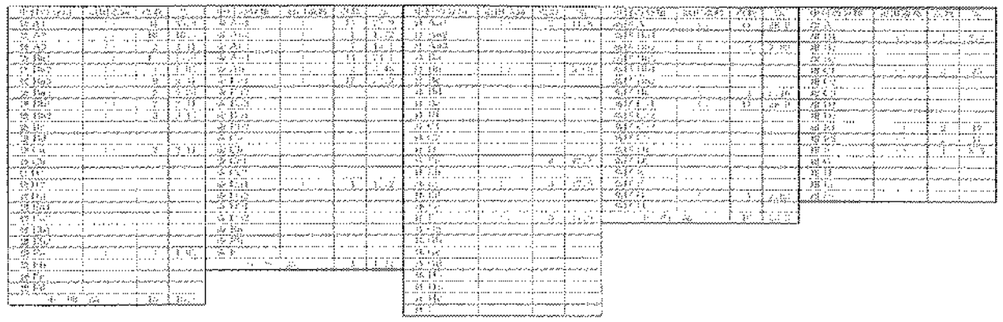
本遺跡から出土した遺物の大半を占めるものは，弥生時代後半から古墳時代にかけて使用されたと考えられているいわゆる成川式土器である。出土量は極めて多いが，その大半は，４・５区から土器溜り状に検出されたものである。

成川式土器は，「古墳時代にいたっても弥生式土器の伝統を色濃く残し，土師器への転換を拒み続けた排他的な土器様式」として知られている土器である。一方，成川式土器の時間的様式界の問題や，各研究者による編年観や分類の仕方等に様々な問題があるのも事実である。このように諸問題を含んだ成川式土器の研究について，画期的なものと認識されているのが，各器種の形式分類から６つの分類に様式設定した（中村，1987）中村直子の研究であろう。中村はその後も成川式土器に関する研究・発表を続けており，今回報告書を作成するに際しても参考とするところが大きかったのだが，今回はその中でも2002年に中村が発表した研究を特に参考とした。以下，成川式土器の形式分類に関する用語等は，中村の研究・用語を参考・引用した。

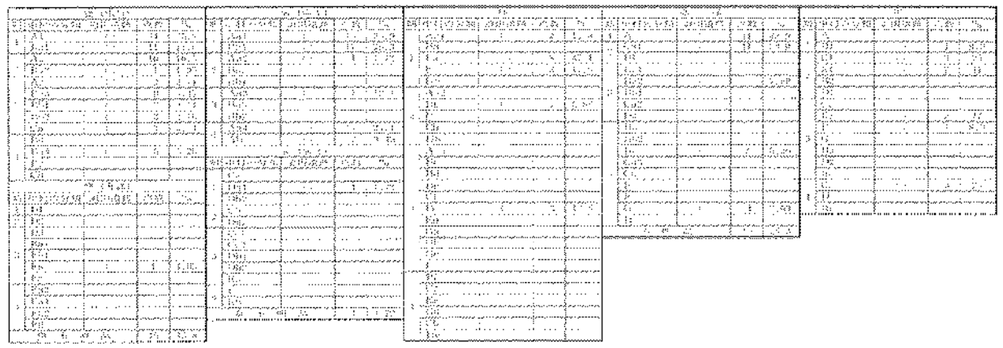
中村は，成川式土器について，４つの時期を設定し，器種ごとに編年を試みている（中村，2002）。器種については，甕を６系統24種類に，壺を６系統21種類に，高杯を８系統16種類に，鉢を９系統26種類に，坩を９系統16種類に細別している。また，成川式土器の分布域に着目し，A．北薩地域，B．肝属平野，C．薩摩半島・鹿児島湾岸の３地域を設定し，各地域ごとに土器の器形や器種組成において特徴が見られることも指摘している。紙面の都合上それぞれについての説明は割愛するが，この編年を活用して迫田遺跡出土の成川式土器について分類を試みる。迫田遺跡出土の成川式土器を，中村の編年に対応させると，第18表のようになる。この表を時期別に整理しなおすと，第19表のようになる。以下，この２表より導き出せることを述べる。

まず，器種ごとの特徴を述べる。甕については，①丸底甕の出土がほとんど見られない②広口甕の形状は，胴部が逆三角形を呈するものが多い，といった特徴が上げられる。これらの特徴は，薩摩半島・鹿児島湾岸に分布する成川式土器の甕に見られる特徴である。壺については，①中村の分類では完全に分類しきれない，折衷タイプが存在する②壺形土器に限っては，４期のもの（大型で幅広突帯を有する壺）も多く出土しており，その文様構成が多用である③小型のものの中には特徴的なものがある，といったことが上げられる。②については，a．鋸歯文（ハの字文）b．鋸歯文（ハの字文）＋竹管文 c．格子状（X 字状）文，d．格子状（X 字状）文－短沈線，e．竹管文のみ f．複数の平行斜線による文様等の豊富なバリエーションが見られる。これら①～③の特徴

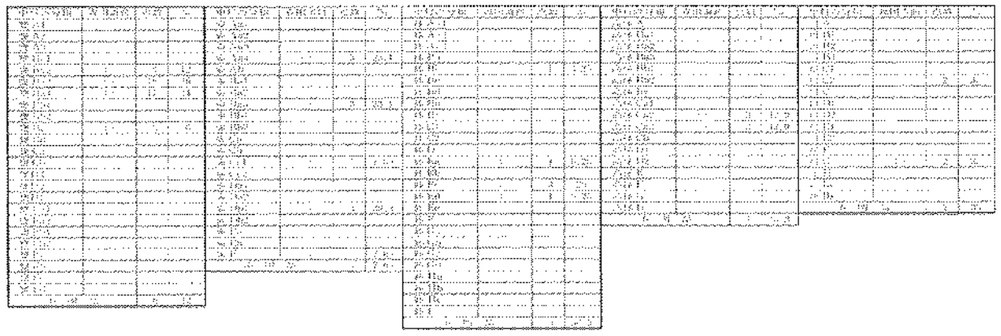
第18表　迫田遺跡出土の成川式土器と，中村の提示する成川式土器分類との対応表（器種別）



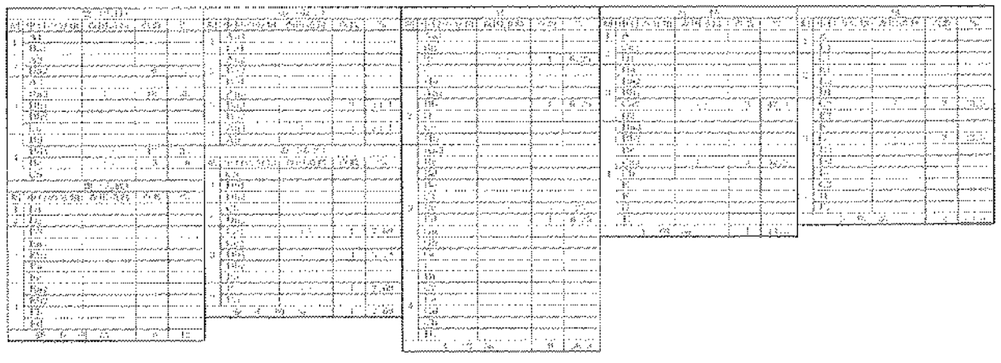
第19表　迫田遺跡出土の成川式土器と，中村の提示する成川式土器分類との対応表（時期別）



第20表　森田遺跡出土の成川式土器と，中村の提示する成川式土器分類との対応表（器種別）



第21表　森田遺跡出土の成川式土器と，中村の提示する成川式土器分類との対応表（時期別）



は，迫田遺跡の地域性を表す１要素と言えるだろう。高杯については，迫田遺跡出土遺物の中でも，もっとも特徴的なものであると言える。特徴の一つとして，まずその大きさが上げられる。図化したものついては，口径の平均は約30cmで，口径が35cmを超すものも５点ある。また，出土遺物の中に，ヘラ状の工具によると思われる研磨痕を鋸歯状に廻らせており，文様を表現していると思われるものがあるが，このようなものは，他にはあまり類例のないもので，極めて地域性の高いものと言えよう。また，小型で精製のもの（遺物179）も出土している。鉢・坩については，数もあまり多くなく，詳細は不明である。

次に，迫田遺跡出土の成川式土器全体を通じて言える特徴について述べる。まず，全ての器種において，１期から４期までのものが認められる。中村は成川式土器の編年に際して４つの時期を設定していることは前述したとおりである。その時期に関して，上限については明記していないが，下限については「７世紀末」としている。（上限について中村は，これまでに「中葉時式の成立に大きな画期を求められる」（中村，1987）とし，その後，「弥生時代終末期」（中村，1999）としているので，弥生時代終末期と設定して差し支えないと思われる。）つまり，迫田遺跡出土の成川式土器は，弥生時代終末期から７世紀にかけての長い時間に渡るものが出土しているということである（前述したように，迫田遺跡出土遺物の大半は，４・５区から土器溜り状に検出されたもので，ほぼ単一土層からの出土であったが，レベルが下位のものは，レベルが上位のものより古い段階のものとされているものであったことを指摘しておく）。ただ，出土遺物の点数に注目すると，中村が１期と想定した時期，つまり成川式土器の古い段階のものが多く出土している，という結果が得られた。もっとも，これはあくまである程度復元が可能であった図化したもの（第４章第４節で取り上げたもの）についての結果であり，土器片については未検討であるのだが，坩以外の全器種を通じて同じ結果が出ていることは注目すべき点であると思われる。また，壺・高杯・鉢については，１期のものが，数が多いだけでなく多様でバリエーションに富む。

この他に，注目すべき遺物として，鉄剣の存在が上げられるが，出土状況は他の遺物と混在して土器溜りからの出土であり，詳細については不明である。

③小結

このように，迫田遺跡からは長い期間を通じて土器が出土している。このことは，迫田遺跡を残した人々の営みの長さを物語る１要素と言えるだろう。ただ，迫田遺跡には明確な遺構が検出されておらず，集落の規模や形態が不明であり，詳細については今後の研究を待たねばならない。垂水市においては，過去横道遺跡，後ヶ迫Ａ遺跡等において良好な成川式資料が検出されているが，明確な遺構を伴った遺跡は発掘されておらず，垂水市における古墳時代の集落の様相を探るためには，今後の発掘における成果が期待される。

また，迫田遺跡の出土遺物の中では，古い時期のものが多いという結果が得られた。単純に出土量のみをもって断定することはできないが，古い段階の土器が多様であることも相まって，迫田遺跡を残した人々がもっとも繁栄したのは，成川期の古い段階（弥生時代末期から古墳時代前半器にかけて）であったと想像され，その後の時期（古墳時代後半期から７世紀にかけて）の遺物量の減少は，遺跡の衰退～終焉を感じさせる（もっとも，検証できるだけのデータはなく，あくまでも感じを受ける，という程度のことである。）。遺跡の後半期については，時期決定に有力

な要素となる須恵器が少量でしかも小片しか出土しておらず，明確な時期を決定し得なかったことが遺憾である。

また，鉄剣が出土していること，遺物98（完形の大壺。出土状況より，廃棄時にほぼ垂直に設置されたと考えられる。）等完形の土器が出土していることなどから，迫田遺跡の土器溜りが単純に土器廃棄場としての側面以外に，別の側面（祭祀的？）も有していた可能性についても，将来的には検討されるべきではないかと思われる。前述した後ヶ迫Ａ遺跡においても，明確な遺構は検出されなかったが，４基の土器溜りより膨大な成川式土器が出土し，その中には完形品のもの，特徴的なものも含まれていた。垂水市の成川期の遺跡における土器溜りの位置付けについて，今後の研究が期待される。

第２節　森田遺跡

①遺構

森田遺跡からは，用途不明の集石が１基検出されたのみで，明確な遺構は検出されていない。集石は，Ａ－１・２区（Ⅳ層）より検出された。10cm大の石数約500個からなる。個々の石には熱を受けた跡がみられず，調理等の用途には使用されなかったと考えられるが，詳細は不明である。

②遺物

森田遺跡も，出土した遺物の大半を占めるものは，いわゆる成川式土器であった。出土量は極めて多く，特にＢ－９区からは土器溜り状に大量に検出された。

森田遺跡の成川式土器についても，迫田遺跡と同様中村の研究を参考に検討を試みる。森田遺跡出土の成川式土器を，中村の編年に対応させると，第20及び第21ようになる。以下，この２表より導き出せることを述べる。

まず，器種ごとに見られる特徴を述べる。甕は，迫田遺跡と同様丸底のものが出土していない。また，１期のものが見られなかった。壺は１・２期のものが見られない。また，迫田遺跡で見られた折衷タイプ，小型精製器台が見られない。中型壺は無文のみ見られた。大型で幅広突帯を有するものの，文様帯のパターンは迫田遺跡のものと類似する。高杯は，杯部の形状が椀状を呈し，段を有するものが多く，小型のものも見られる。壺と同様１・２期のものが見られない。鉢・坩・ミニチュア土器については，出土数が少なく，詳細は不明である。ただ，遺物87（坩）は，あまり類例のない特徴的な器形である。

次に，全体的な特徴をあげると，迫田遺跡と比して比較的新しい時期のものが多いことが上げられる。この傾向は，特に壺・高杯に言えることである。もっとも，森田遺跡出土の成川式土器は，遺物の出土量こそ多かったものの，胴部片が多く，データとして活用しうる個体が少なかったため，明確に断言できるものではない。

③小結

森田遺跡については，迫田遺跡と同様明確な遺構が検出していない。また，遺物の出土数こそ多かったが，胴部片が多く，データとして活用しうる個体が少なかった。結果，遺跡の詳細については不明であるが，個々の遺物については特徴的なものがある。また，遺物の中には隣接する

迫田遺跡と類似するものも出土しており，周囲一帯の地域における古墳時代の様相を探る上で，一応の成果は得られたのではないだろうか。

［参考・引用文献］

中村直子　1987「成川式土器再考」『鹿大考古』6：57－56

中村直子　1999「古墳地帯と古墳地帯のコミュニケーション
—南九州の土器をメディアとして—」鹿児島大学教育研究学内特別経費
全学プロジェクト『新しい関係をもとめて—コミュニケーションの諸相—』

中村直子　2002「薩摩・大隅」『古墳時代中・後期の土師器—その編年と地域性—』
第５回九州前方後円墳研究会発表要旨資料

河口貞徳　1981「新南九州弥生式土器集成」『鹿児島考古』第15号

中園　聡　1997「九州南部地域弥生土器編年」『人類史研究』第９号

本田道輝　1997「南部九州における脚台付甕の底部形成について」『人類史研究』第９号

垂水市教育委員会　1997「垂水市埋蔵文化財発掘調査報告書（２）横道遺跡」

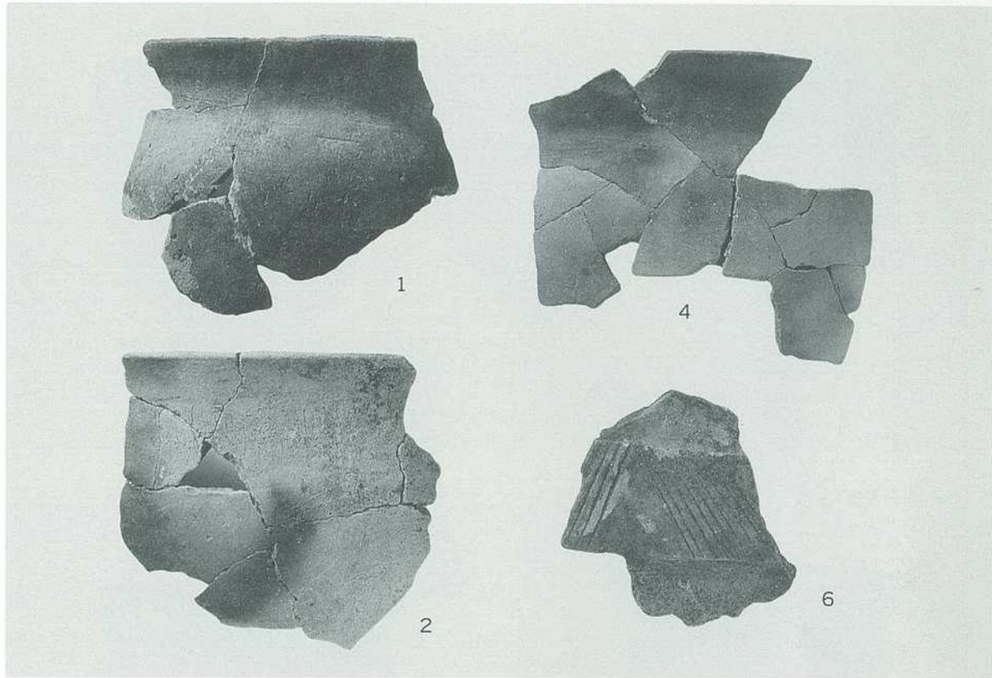
垂水市教育委員会　1999「垂水市埋蔵文化財発掘調査報告書（３）後ヶ迫Ａ遺跡」

垂水市教育委員会　2001「垂水市埋蔵文化財発掘調査報告書（５）宮下遺跡・小房迫前遺跡」

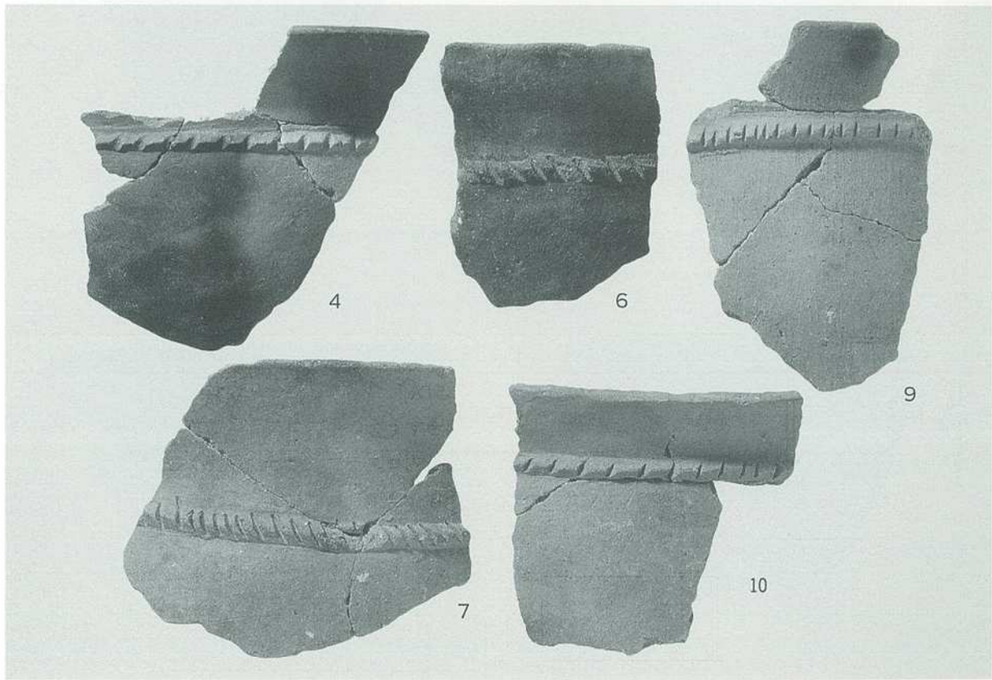
垂水市教育委員会　2002「垂水市埋蔵文化財発掘調査報告書（６）宮ノ前遺跡・重田遺跡」

垂水市教育委員会　1974「垂水市史　上巻」

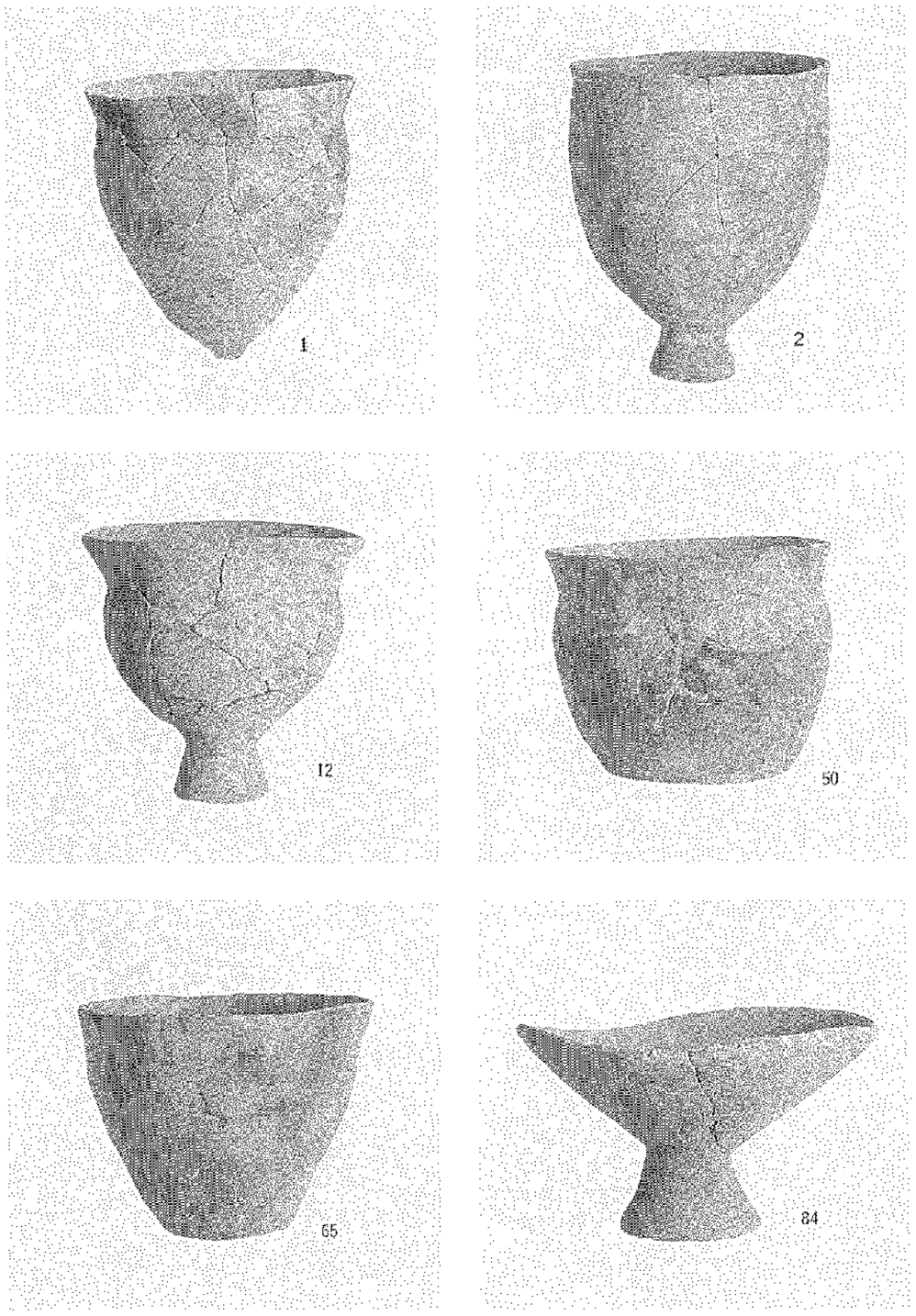
図　　版



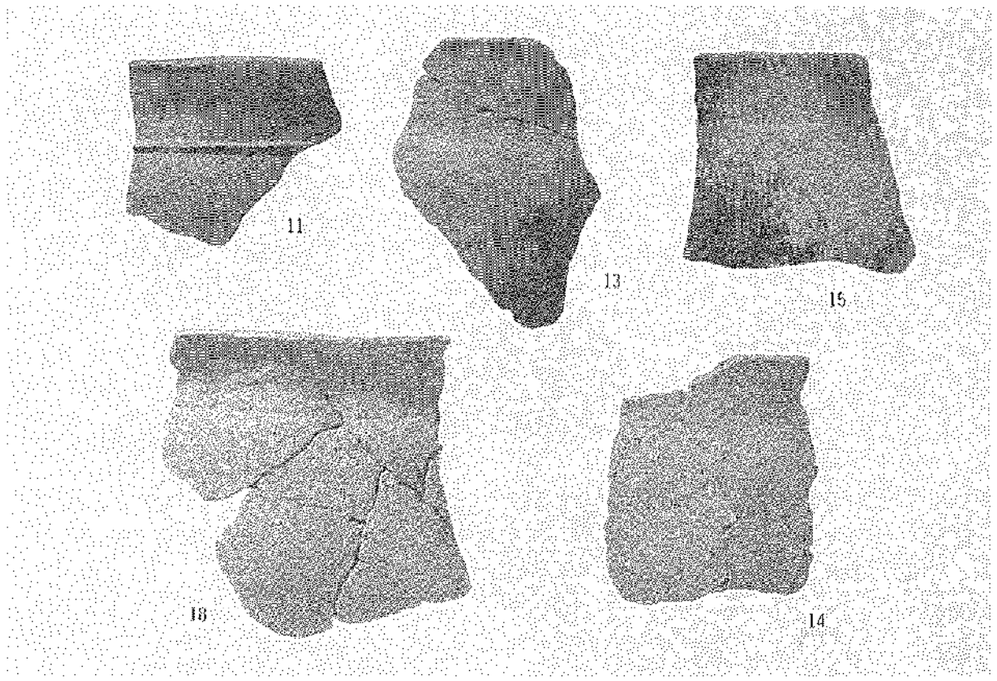
確認調査出土遺物



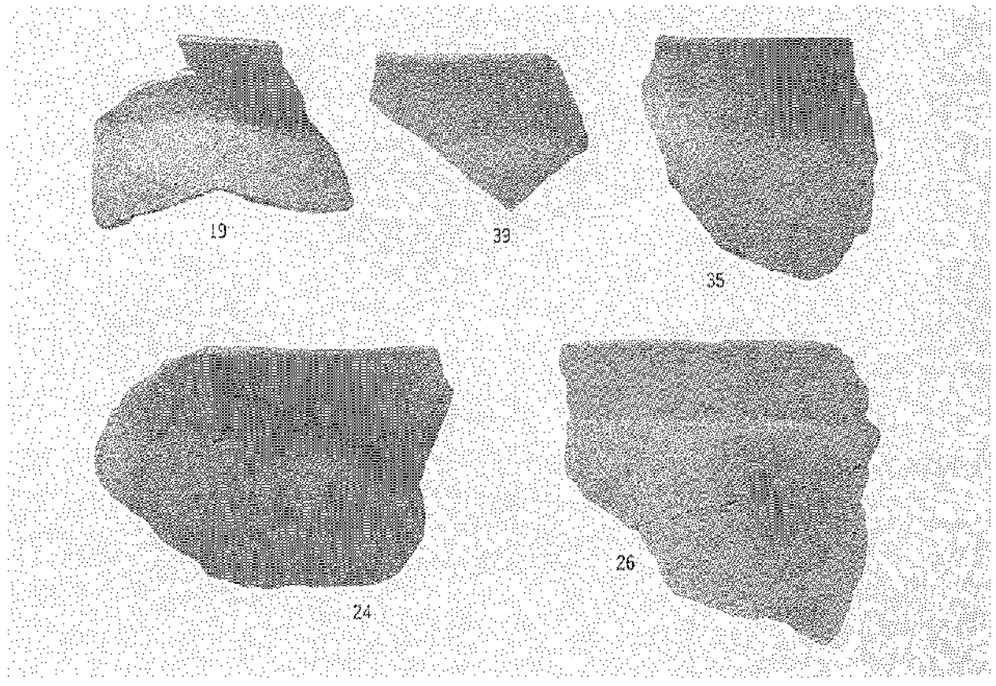
迫田遺跡包含層出土遺物（１）甕口Ａ１～４類



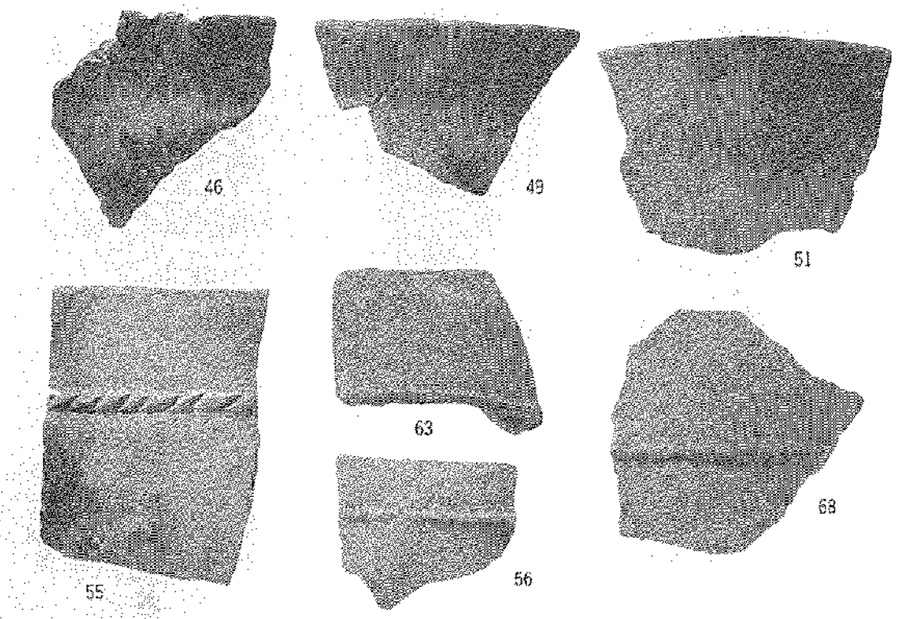
迫田遺跡包含層出土遺物（２）甕形土器（立面）



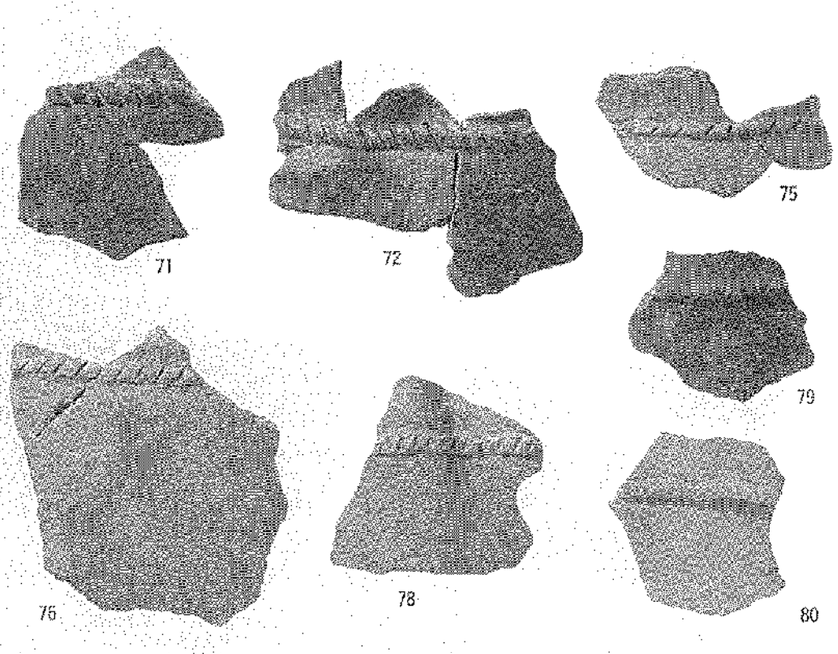
迫田遺跡包含層出土遺物（３）甕口Ａ５・６類



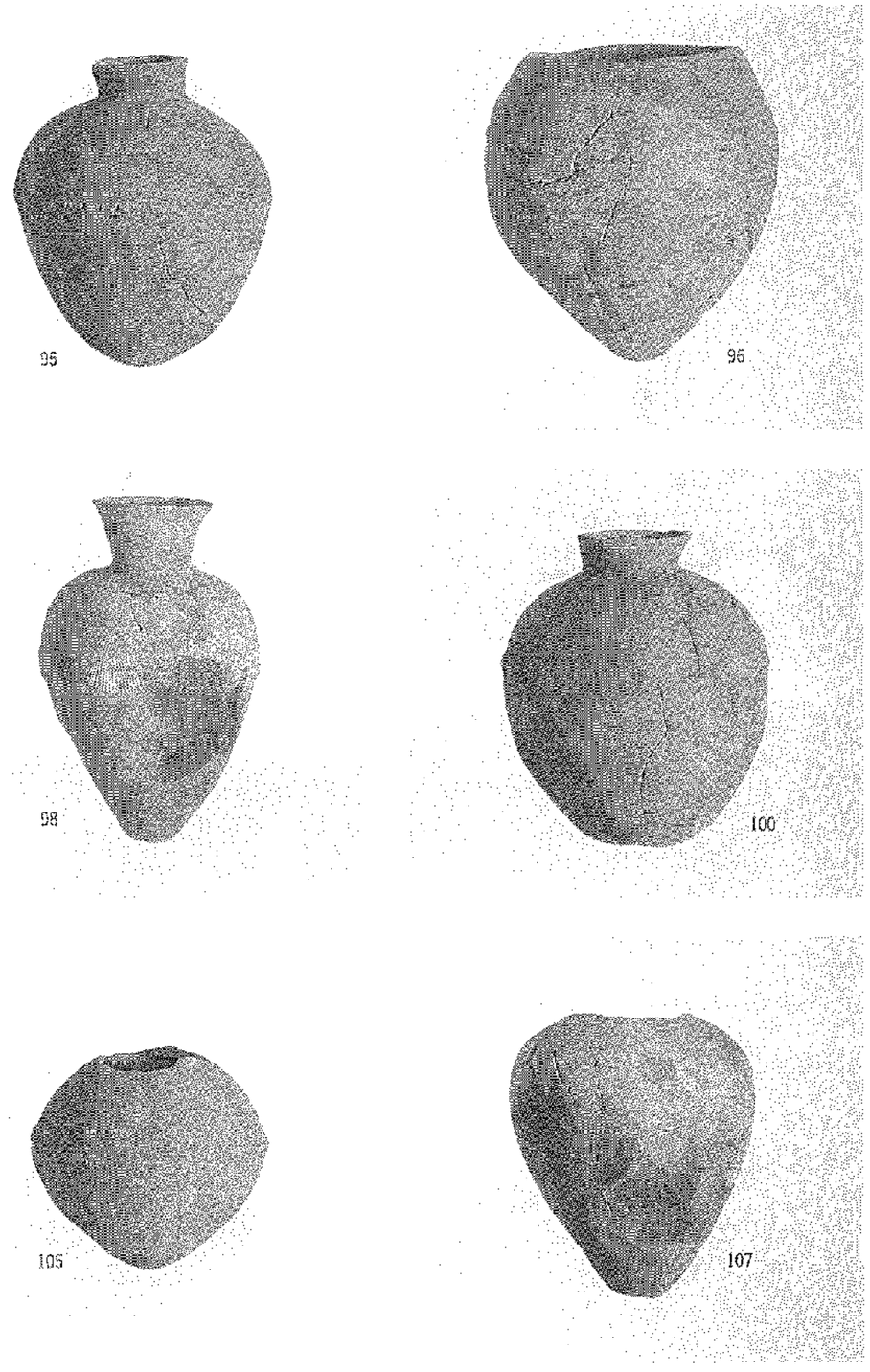
迫田遺跡包含層出土遺物（４）甕口Ａ７類



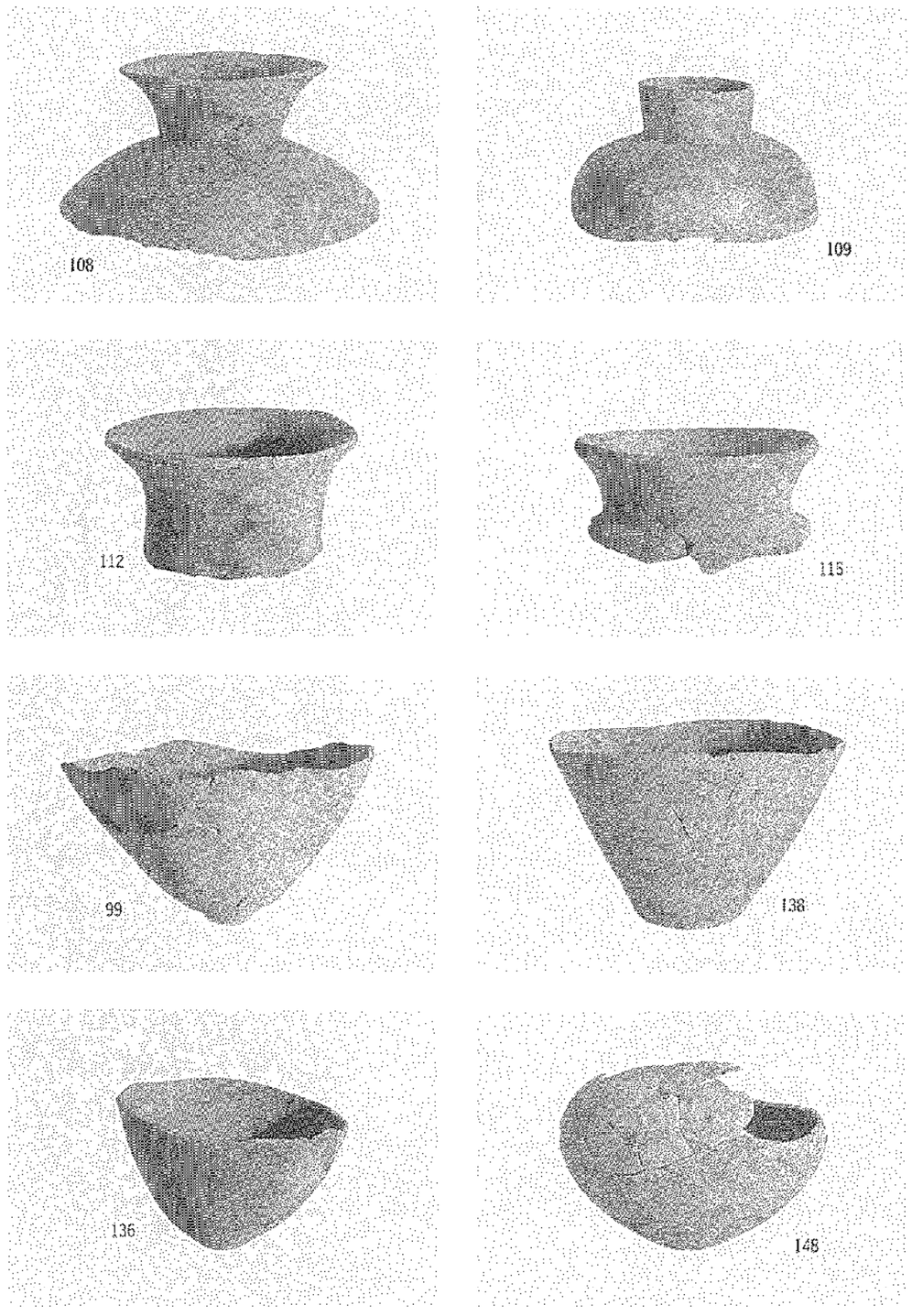
迫田遺跡包含層出土遺物（５）鍋口Ａ８～Ｃ類



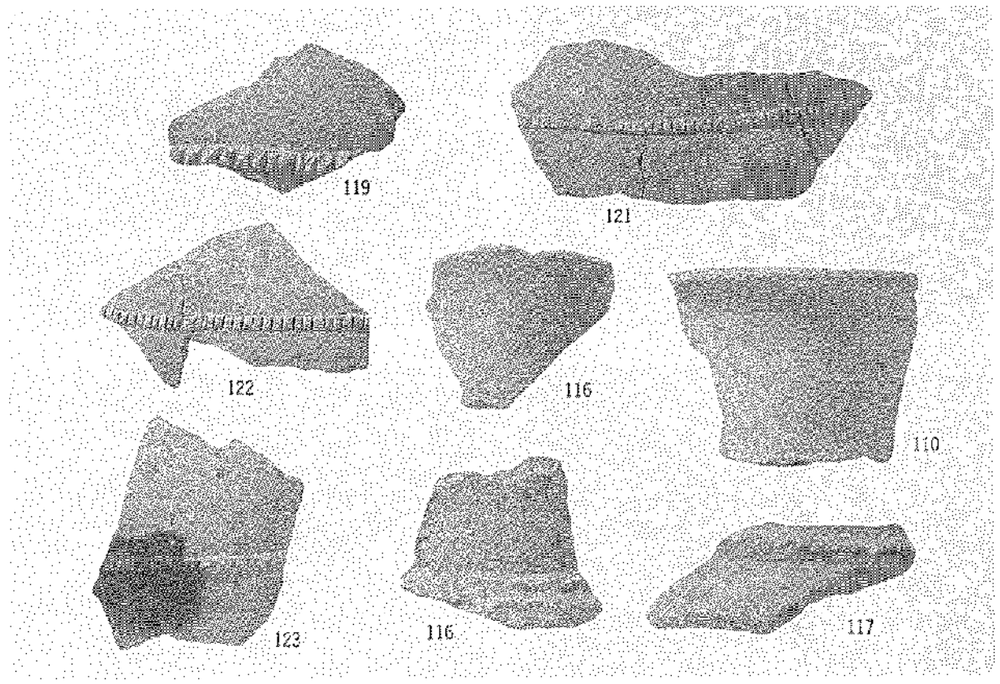
迫田遺跡包含層出土遺物（６）甕胴類



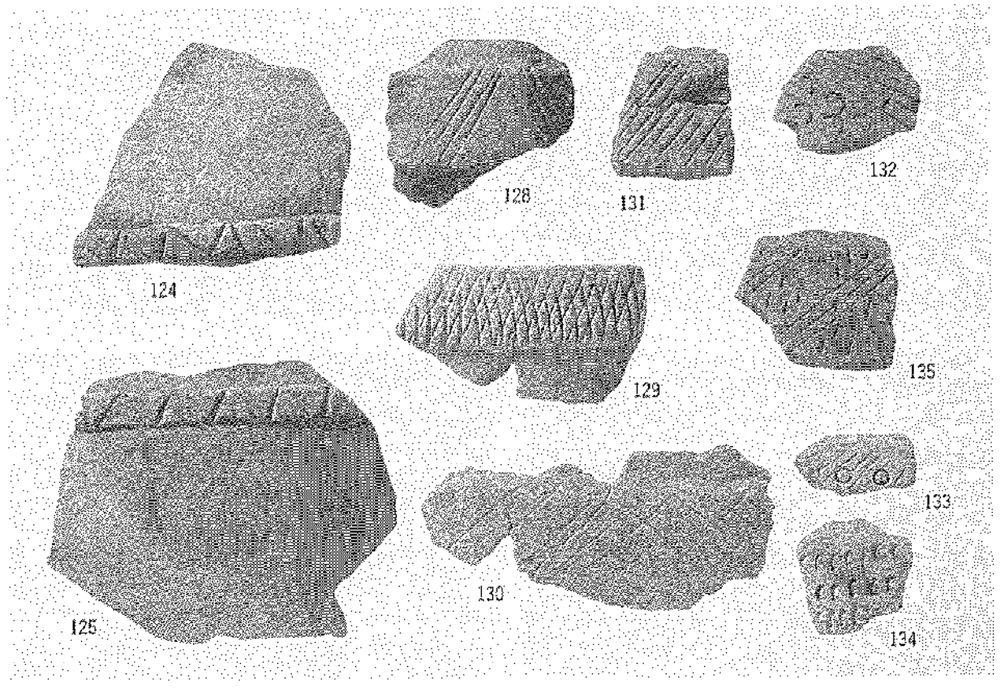
迫田遺跡包含層出土遺物（７）壺形土器（立面）



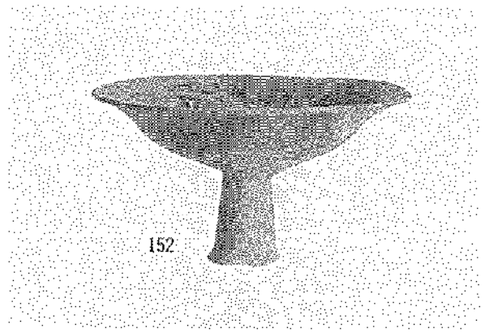
追田遺跡包含層出土遺物（8）壺形土器（立面）

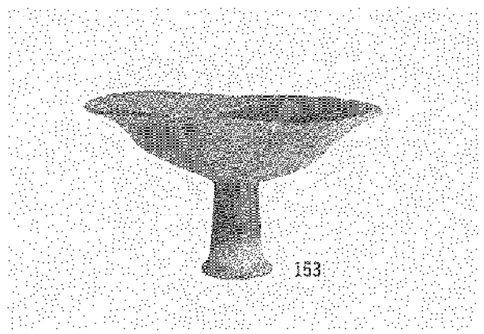


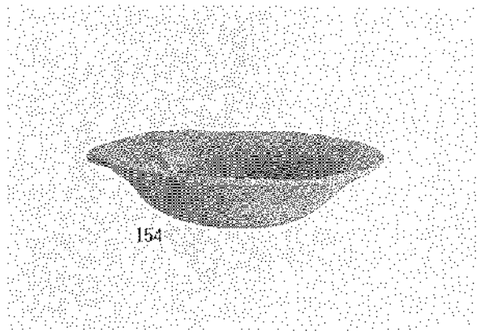
追田遺跡包含層出土遺物（9）壺5・7・8類

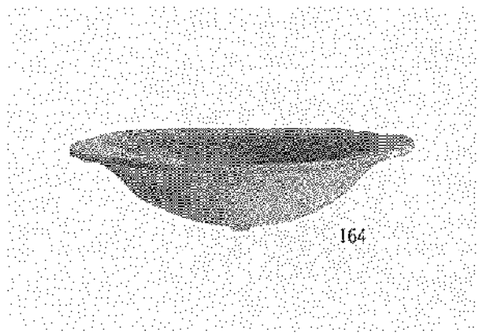


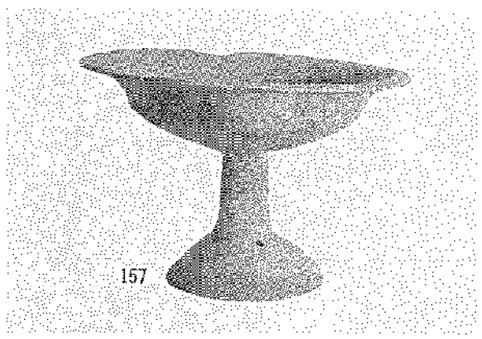
追田遺跡包含層出土遺物（10）壺9類

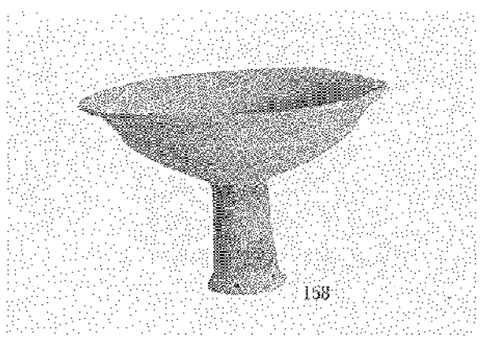

152

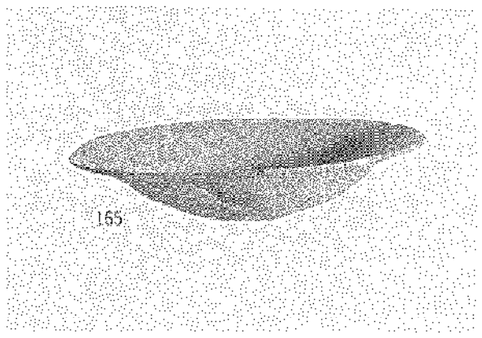

153

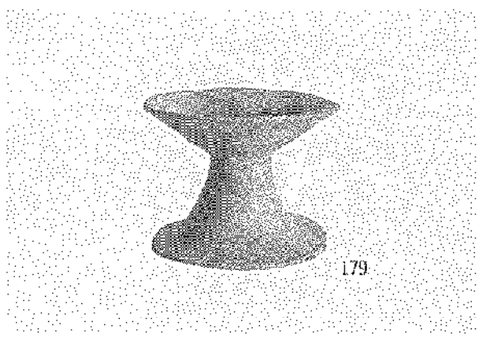

154


164

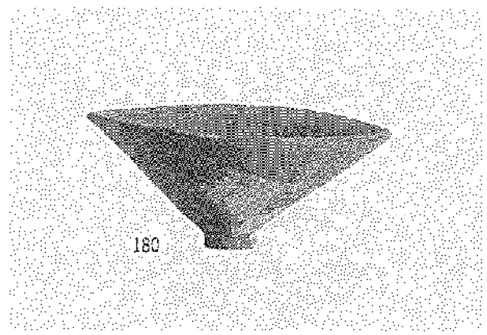

157

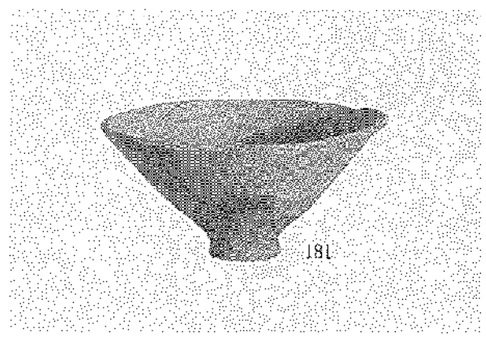

158

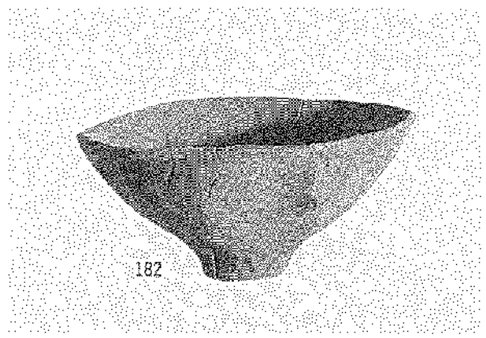

165

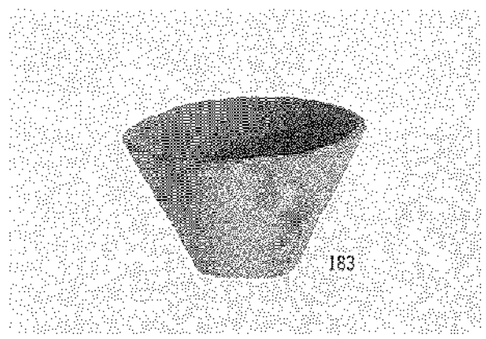

179

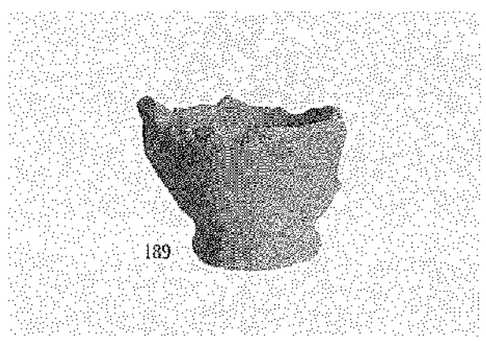
追田遺跡包含層出土遺物（11）高杯形土器（立面）

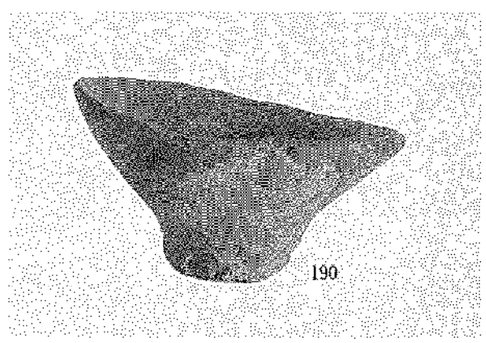

180

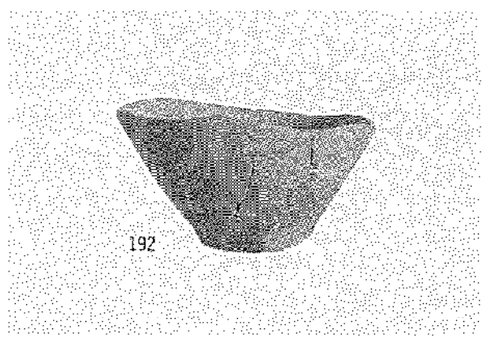

181

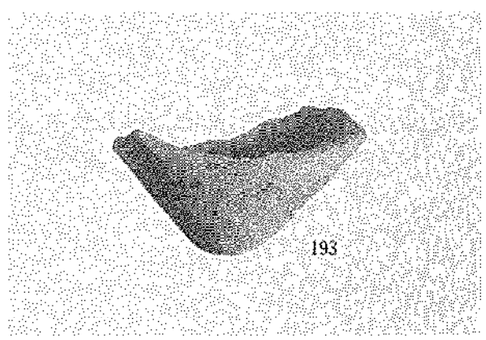

182


183

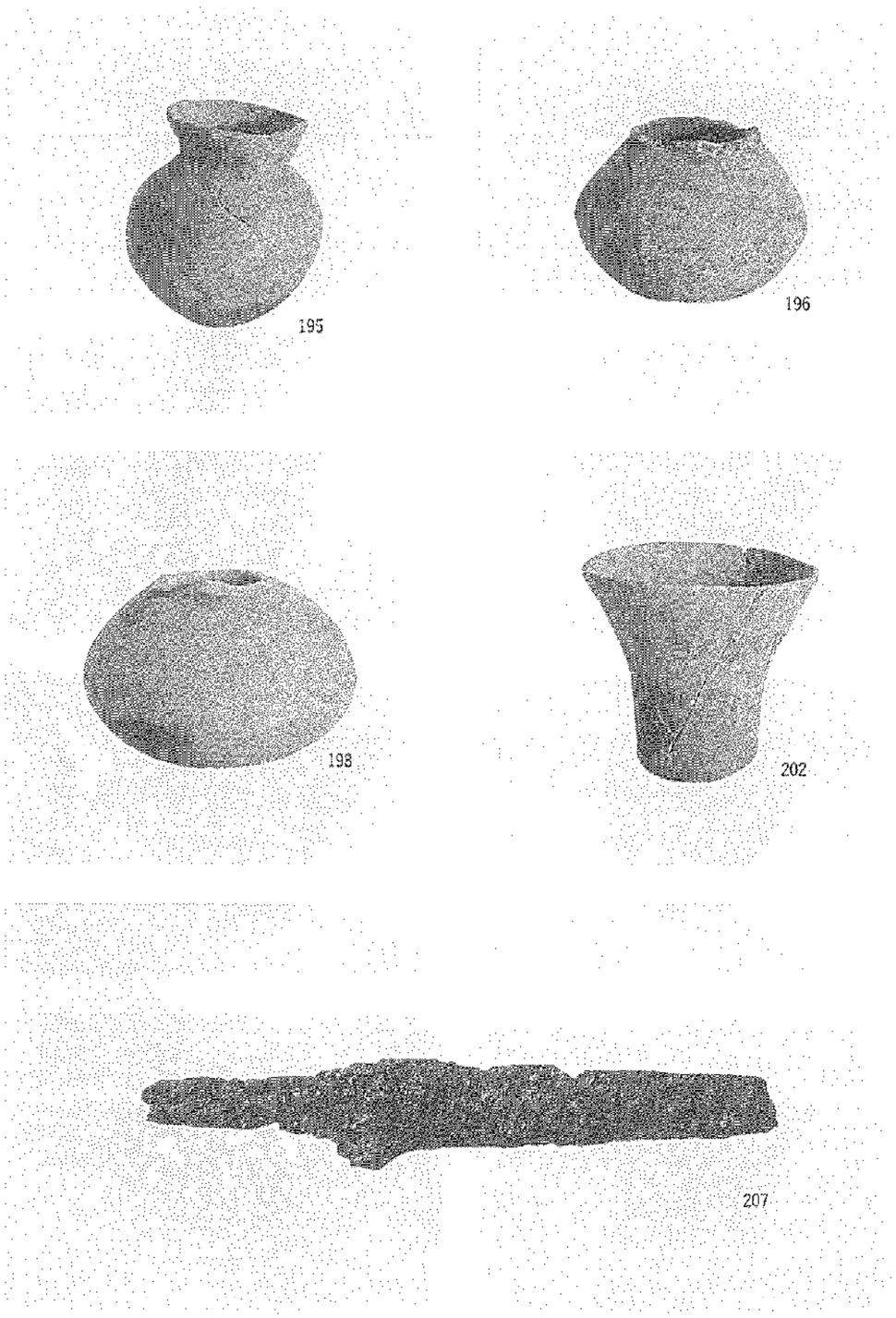

189


190

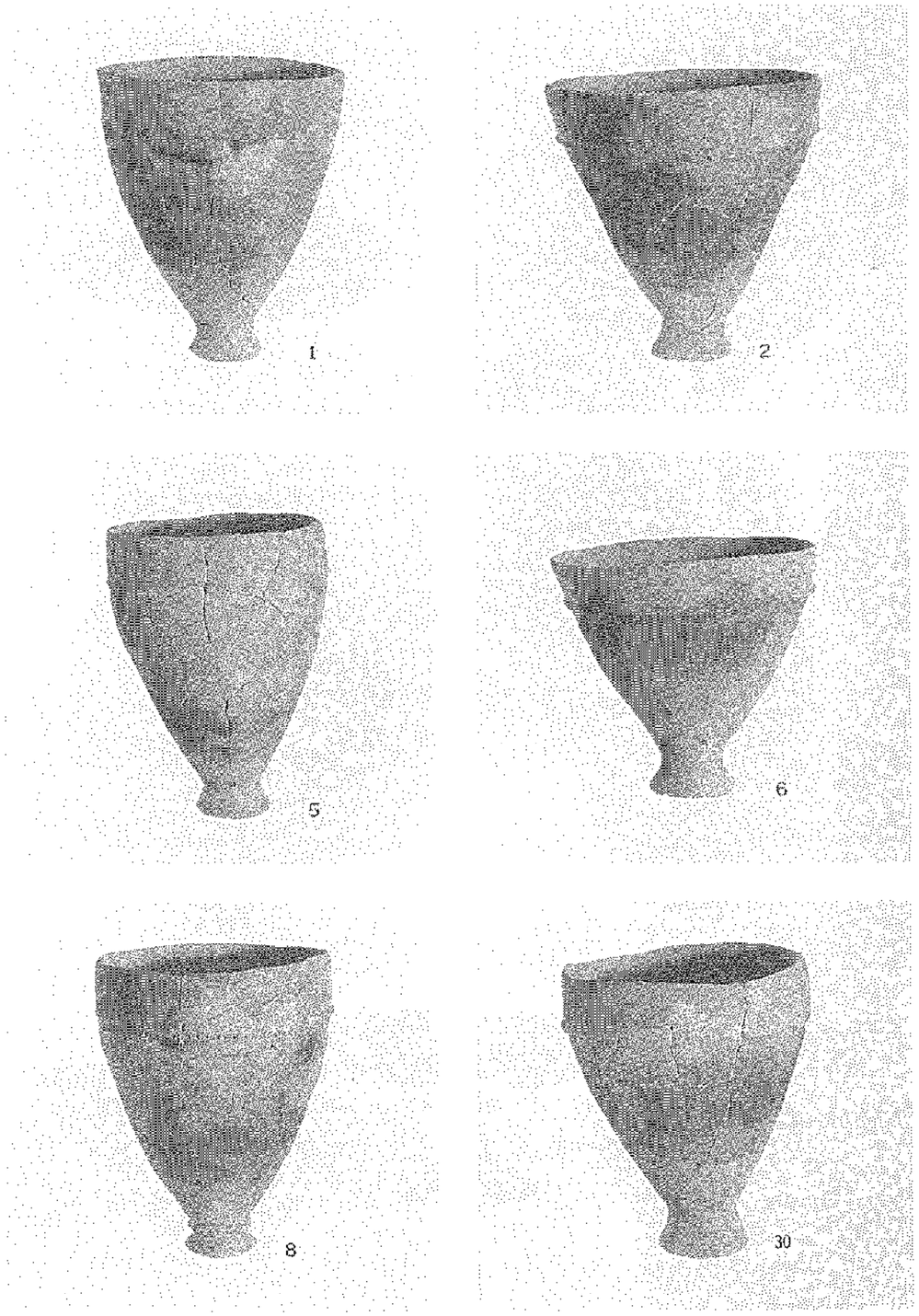

192


193

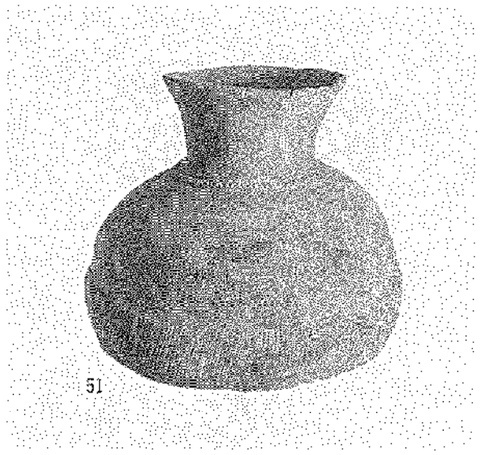
追田遺跡包含層出土遺物（12）鉢形土器（立面）

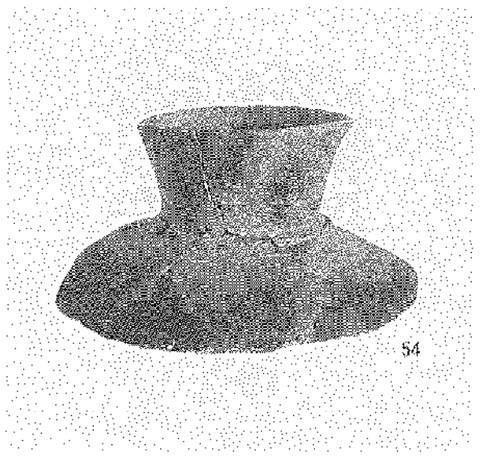


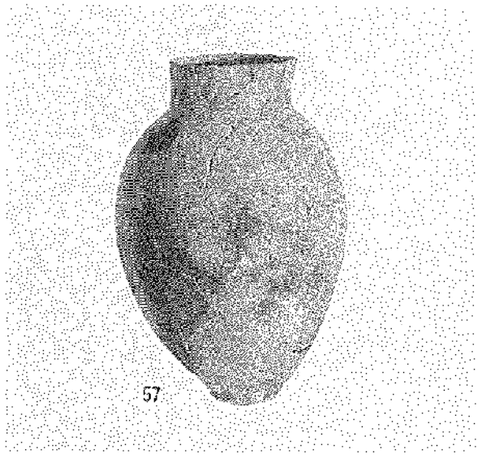
道田遺跡包含層出土遺物（13）坩形土器（立面），鉄剣

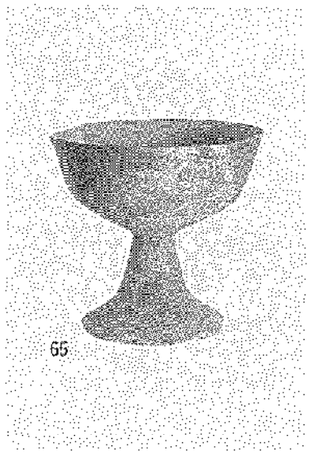


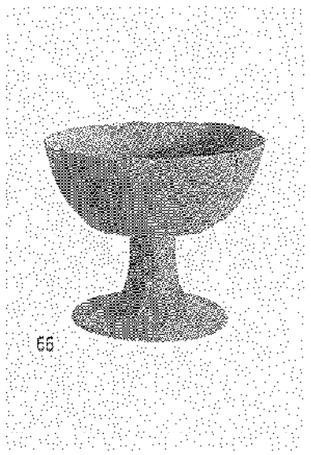
森田遺跡包含層出土遺物（1）壺形土器（立面）

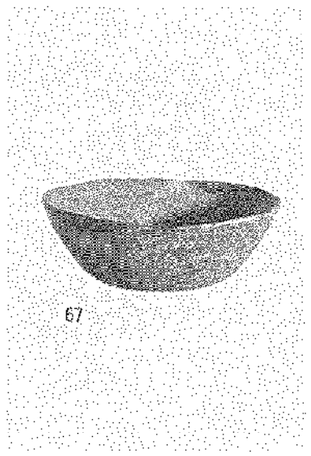




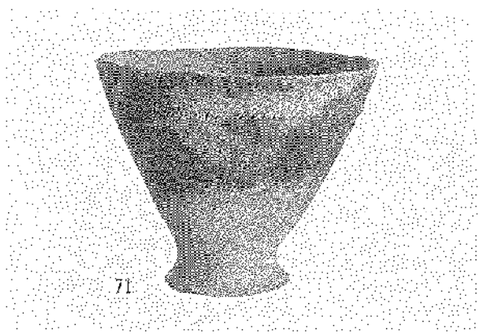


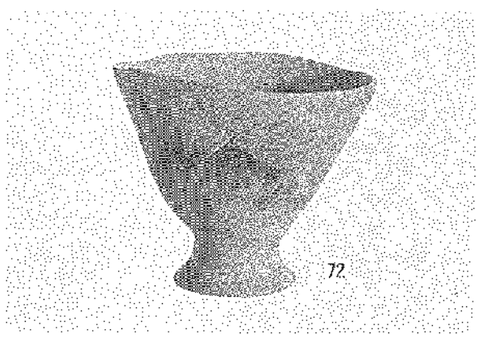


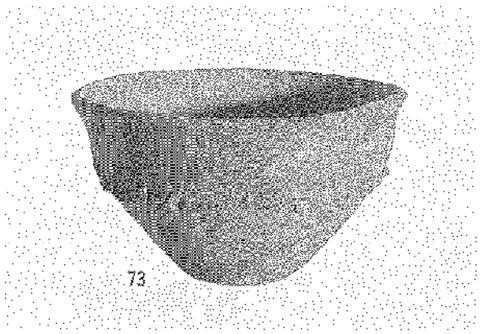


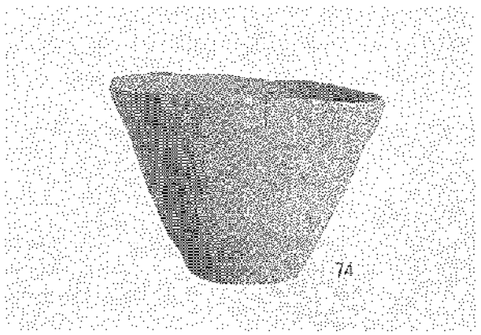


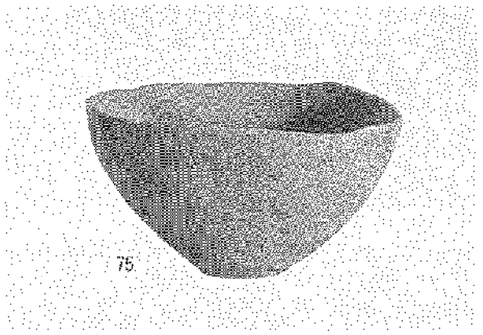
森田遺跡包含層出土遺物（2）壺形土器，高杯形土器（立面）

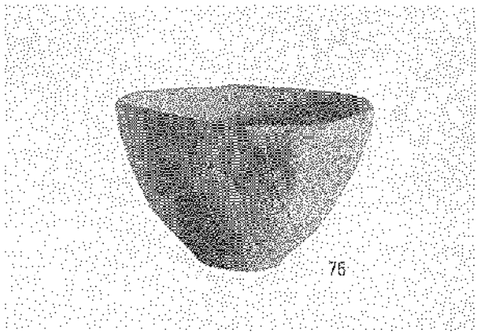


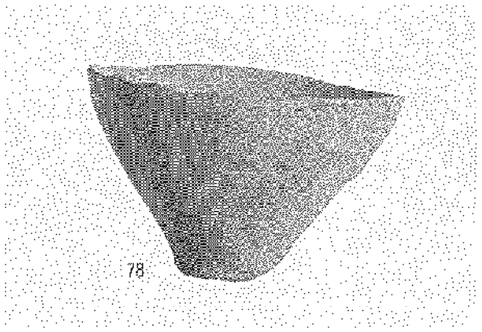


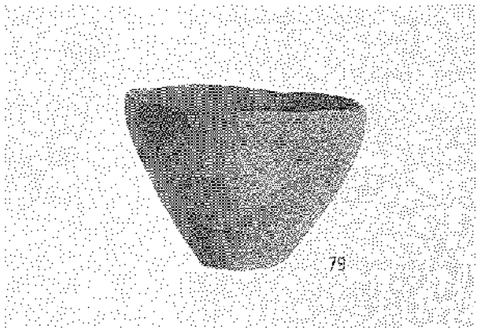




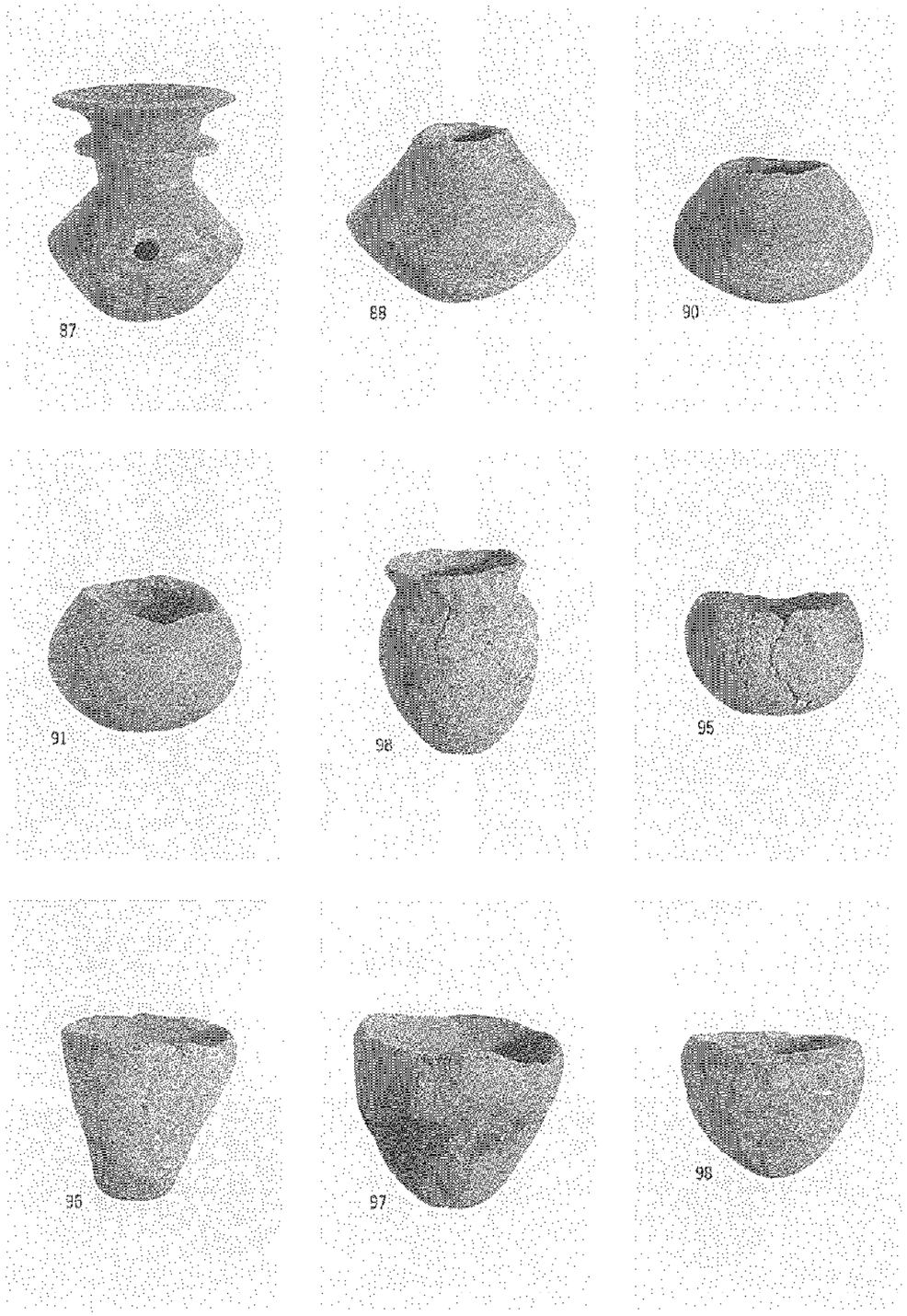








森田遺跡包含層出土遺物（3）鉢形土器（立面）



森田遺跡包含層出土遺物（4）坩杯形土器，ミニチュア土器（立面）

あとがき

本遺跡からは，弥生時代後半から古墳時代にかけて使用されたと考えられているいわゆる成川式土器が多数発見された。垂水市においては，過去横道遺跡，後ヶ迫A遺跡等において良好な成川式資料が検出されているが，明確な遺構を伴った遺跡は発掘されていない。そのため，本遺跡において，明確な遺構の発見が期待されたのだが，残念ながら明確な遺構は発見し得なかった。ただ，個々の出土遺物は資料性が非常に高く，今後の研究が大いに期待される遺跡である。

整理期間の不足や筆者の力量不足から，報告書が十分な内容のものには至らなかったのが遺憾であるが，どうにかこのように報告書としての体裁を保つに至ったのは，ひとえ鹿児島県立埋蔵文化財センター・鹿児島県教育庁文化財課・鹿児島大学をはじめとする各研究機関・各関係機関，発掘調査及び整理作業協力者をはじめとする各関係各位のご教示・ご協力によるものである。特に，鹿児島大学法文学部助手中村直子氏には貴重な指導を賜った。これらの皆様方に感謝の意を表して，結びの言葉とかえさせていただきます。

垂水市埋蔵文化財発掘調査報告書（7）
農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業（中俣地区）に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書
迫田遺跡
森田遺跡
発行　2004年3月
編集　垂水市教育委員会
鹿児島県垂水市牟礼町761
☎（0994）32-0224
印刷　株式会社　トライ社
鹿児島市南林寺町126
☎（099）226-0815
12　518